

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び器形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
132-6002 134-6002	132-13	土師器	杯	口縁1/3 体部4/5 底部9/10	13	4.1		5.6	ロクロ整形。体部は底部から内彎しながら立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は外側を向き丸味を持つ。体部外面中に弱いが2条の凹線がめぐり、下端を手持ちヘラズリで整える。底部は回転系切り(ロクロ右回転)後、約2/3を不定方向のヘラズリで整形する。内面はなめらかに内彎し、底部との境目には明瞭な段が見られる。見込み部分高まる。体部外面の中心に縦書きの手慣れた筆運びによる「井」の墨書が見られる。	砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡褐色	良好	覆土中	ロクロ整形 墨書「井」※底部片の注記は134-6002
132-1007	132-14	土師器	杯	口縁4/5 体部1/1 底部1/1	13	4.5		5.4	ロクロ整形。歪みのあるやや雑な作り。体部は底部から内彎しながら立ち上がり、口縁部付近でやや外反して終わる。底部は口径に比して1/2以下。内面はロクロ整形による横ナデ痕、および底部との境目に屈曲が明瞭に見られる。底部見込み部分は突状に高まる。体部外面下半には削りのしっかりとした斜位(右上左下)の手持ちヘラズリで底部方向に向かって一周する。底部は静止系切り(ロクロ右回転)。	砂粒、長石粒を含むきめ細かい胎土	こげ茶褐色(淡褐色の斑点が多く見られる)	良好	中央床面(+6)	ロクロ整形
132-1008	132-15	土師器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部1/1	14.7	4.7		4.7	ロクロ整形。歪みの著しい雑な作り。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。体部下端は底部方向に向かう斜位(左上右下)の手持ちヘラズリで一周する。底部は口径に比して1/3以下で不明瞭だが静止系切り?後、ヘラズリ。内面は横方向の急なヘラミガキを施した後、黒色処理。	砂粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色 黒茶褐色色	やや甘い	中央床面(+7)	ロクロ整形 黒色処理
132-6002	132-16	須恵器	杯	口縁1/5 体部1/5 底部1/8	13.2	4.4		7.5	やや雑な作り。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反して終わる。体部外面にはロクロ整形による凹凸が残る。体部外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。	長石粒を多く含む雑な粗い胎土	こげ茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
132-6002	132-17	土師器	杯?	底部1/1	不明	2.2+		6.8	底部片。ロクロ整形。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。下端に削り幅が狭い手持ちヘラズリで一周する。底部は不定方向のヘラズリ。	長石粒、雲母粒を含むきめ細かい胎土	こげ茶色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
132-6002	132-18	土師器	杯	口縁1/3 体部2/5 底部1/1	14	6.3		8.6	非ロクロ。器高の深い杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、内面はなめらかに内彎。口唇は鋭角的に尖る。体部外面は口縁部付近を残して全面にわたり斜位(左上右下)の削りの細かい手持ちヘラズリ。底部は不定方向のヘラズリ。内面は縦方向のヘラナデを行った後、ヘラナデを消すように横ナデを施す。	きめ細かい胎土	褐色	堅緻	覆土中	非ロクロ
132-6001	132-19	須恵器	高台付碗	口縁1/6 体部1/6	14	5.8+		不明	体部は内彎しながら口縁端部付近で、屈曲、わずかに外反して外側に面を作って終わる。口唇は鋭角的に直立し、内側に内傾する面と稜を作る。体部外面にはロクロ整形によるカキ目状の横ナデ痕がよく残る。	白色針状物質を含む	灰色	堅緻	覆土中	この住居跡には伴わない
132-6002	132-20	土師器	甕	口縁1/17 胴部1/7	23.1	5.5+	(18.8)	不明	口縁部は頸部から屈曲外傾し、端部でやや内側に屈曲して終わる。端部外面に凹線がめぐり、輪積みによる接合痕が残る。胴部はほとんど張らずに底部に向かって内彎。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリ。内面ナデ。	砂粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	
132-6002	132-21	土師器	甕	口縁1/6 胴部1/14	20.6	4.6+	(17.9)	不明	やや雑な作り。口縁部は頸部から浅く外傾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。胴部はほとんど張らずに内彎。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリ。内面ナデ?	きめ細かい胎土	こげ茶褐色	良好	覆土中	
132-6002	132-22	土師器	甕	胴部4/5 底部1/1	不明	9.5+	14.6	7.2	胴部下半～底部片。内面は器面が荒れ剥離している。胴部は底部から内彎気味に立ち上がる。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリ。斜位(右上左下)のヘラズリを施す。底部は縦・横の一定方向のヘラズリ。内面は指による押圧およびヘラナデ痕が残る。	砂粒、長石粒を含む	茶褐色	良好	覆土中	
132-6022	132-23	土師器	甕	胴部2/5 底部2/5	不明	3.1+	不明	不明	底部片。胴部下位に横方向(左右)のヘラズリ。内面ヘラナデ。底部は単一方向のヘラズリ。	長石粒、砂粒を含む	褐色	良好	カマド内	
132-1009	132-24	須恵器	甕	口縁1/6 胴部1/6	29.5	6.1+	(26.8)	不明	口縁部は頸部から屈曲外反し、端部で肥厚して外面に稜、面を持つ折り返し口縁を作って終わる。口唇は鋭角的で直立する。胴部は肩部でやや張るが底部に向かって内彎していく。把手は張り付けて、ややねじめるようにして押しつける。胴部外面は目の粗い平行タタキ目で叩き、部分的にすり消す。内面は指による押圧、内面頸部付近に弱い稜を持つ。	石英粒、小石を含む	淡茶褐色	堅緻	カマド右脇の床面(+2)	千葉地域産
132-1002・6002	132-25	須恵器	甕	胴部1/4 底部1/2	不明	7+	不明	16	胴部～底部片。底のない胴部を作り、その後板状の底部をはめ込んで成形。底部には中央に円孔、外縁に4個の半月状の孔を穿つ。器厚はほぼ一定。胴部は底部からほぼ直線的に外傾し立ち上がる。外面には平行タタキ目で叩いた後ナデ消し、下位部分を横・斜方向(左上右下)のヘラズリで整える。内面は指によるナデおよび押圧。底部外面は不定方向のヘラズリ、内面ナデ。	白色粒をわずかに含むきめ細かい胎土	こげ茶色	堅緻	南東側隅の床面(床直)	千葉地域産
132-6002	132-26	須恵器	甕	胴部2/5	不明	4.7+	不明	不明	頸部～胴部片。外面には目の粗い平行タタキ目で叩く。内面は器面が荒れているため不明瞭。	きめ細かい胎土	淡茶色	堅緻	覆土中	千葉地域産
132-6002	132-27	須恵器	甕	胴部1/6	不明	16.4+	29.6+以上	20.2復元	胴部片。胴部はほぼ直線的に外傾して立ち上がる。外面には平行タタキ目で叩いた後、大方をすり消す。螺旋状凹線をめぐらす。下位部分は横方向(左右)のヘラズリを施し整える。内面は指による押圧。	白色粒を含む胎土	灰色	堅緻	覆土中	
131-1001	132-28	土師器	甕	胴部2/5	不明	14.3+	27.4	不明	胴部片。胴部は内彎しながら立ち上がる。把手は先端部欠損、貼り付け。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリ。把手周辺は指ナデ。内面は横方向のヘラナデ。	小石、石英粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	131号 住居跡出土	131号 弥生住居跡出土
132-6002	132-29	須恵器	甕(大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。外面は目のはっきりとした平行タタキ目で叩く。内面ナデ?	きめ細かい胎土	褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
132-6001	132-30	須恵器	小瓶	口縁1/2 胴部1/2 底部1/1	5	11.9	9.6	6.4	小振りだが器内が厚い重量のある小瓶。口縁部は頸部から浅く外反し、端部で丸味のある幅4.5mmの面を作って終わる。口唇は鋭角的で直立する。胴部は肩部で張るが、底部に向かって直線的に内傾する。胴部外面下位に斜位(右上左下)のヘラズリ(ヘラナデ?)。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。胴部内面の中位から下位・底部にかけて水引きによる凹凸が顕著に残る。	きめ細かい胎土	灰色	堅緻	カマド覆土(132号住)の両方から出土(134号住)	132号住、134号住の両方から出土
132-1004	132-31	須恵器	甕 (大型)	口縁4/5 頸部1/1 胴部1/5	23.7	29.2+	36.8	不明	口縁部は頸部から外反し、端部で断面三角形の折り返し突帯を持って終わる。口唇はつまみ上げ。胴部外面は平行タタキ目で叩く。内面ナデ。端部で丸味を帯びる幅14mmの折り返し口縁を作って終わる。口唇は鋭角的で直立する。頸部外面にはロクロ整形による凹凸が明瞭に残る。胴部外面は平行タタキ目で叩く。口縁～胴部内面にはロクロ整形によるカキ目状の横ナデ痕。胴部内面は指の押圧痕およびナデ。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	濃緑色 灰色	堅緻	南東側壁際の床面(+26)	
133-6001	133-1	土師器	杯	口縁1/7 体部1/7	15.6	4.8+		不明	ロクロ整形。体部内外面には弱いがロクロ整形による凹凸が見られる。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁端部でやや外反して終わる。口唇は丸味を帯びる。	きめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
133-6001	133-2	土師器	杯	口縁1/8 体部1/8	15.6	4.2+		不明	ロクロ整形。体部内外面には弱いがロクロ整形による凹凸が見られる。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁端部でやや外反して終わる。口唇は丸味を帯びる。内面はロクロ整形による凹凸を消すように横方向のヘラミガキを施す。	きめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
133-6001	133-3	土師器	杯	底部1/3	不明	1.7+		8.6	底部片。ロクロ整形。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面は体部と底部との境目に明瞭な凹線状の屈曲が見られる。入念なヘラミガキの上黒色処理されている破片とヘラミガキされているが黒色処理されていない破片とが接合(黒色処理された後、割れて破片となり一方の部分に化学変化が起き、淡褐色となったと推定)。	きめ細かい胎土	淡褐色 黒色／淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形 黒色処理
133-6001	133-4	土師器	甕	胴部1/4	不明	3.4+	不明	不明	胴部下端片。底部欠損。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリおよび斜位(左上右下)のヘラズリ。内面ナデ。	砂粒を含む白っぽいきめ細かい胎土	乳白色	やや甘い	覆土中	搬入土器
134-6021	134-1	土師器	杯	口縁1/3 体部1/3 底部1/2	13.2	4.3		5.6	ロクロ整形による凹凸、カキ目状の横ナデ痕が明瞭に残る。体部は底部から内湾気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は厚く丸味を帯びる。体部外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)後、再調整なし?	砂粒、赤色スコリアを含む	淡褐色	やや甘い	カマド内	ロクロ整形
134-6021	134-2	土師器	杯	口縁1/7 体部1/7 底部1/15	13.3	3.8		6.4	ロクロ整形。体部は底部から内湾気味に立ち上がる。外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面はロクロ整形による横ナデ。	きめ細かい胎土	こげ茶色 淡褐色	良好	カマド内	ロクロ整形
134-6021	134-3	土師器	杯	口縁1/10 体部1/4 底部1/20	13	3.7		6.7	ロクロ整形。体部は底部から内湾気味に立ち上がる。外面に4条の凹線がめぐる。底部回転ヘラズリ?	砂粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色 褐色	良好	カマド内	ロクロ整形
134-6021	134-4	土師器	杯	口縁1/2 体部1/2 底部4/5	12.1	3.8		6.9	ロクロ整形。壺みのある雑な作り。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。底部付近には切り離しの際の粘土のめくれが見られる。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)後、切り離しの手前を残して外周をヘラズリ。内面はロクロ整形による横ナデがカキ目状に残る。底部内面の見込み部分が高まる。	砂粒を含む雑な胎土	淡褐色	良好	カマド内	ロクロ整形
134-6021	134-5	土師器	杯	口縁1/3 体部1/3 底部1/2	13.5	4.8		5.5	ロクロ整形。器高が深く、口径に比して底径が1/2以下の逆台形。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に残る。	砂粒を含むきめ細かい胎土	褐色	やや甘い	カマド内	ロクロ整形
134-6021	134-6	土師器	皿	口縁1/4 体部1/4 底部1/1	14.2	3.4		6.5	ロクロ整形。体部は底部から緩やかに外傾し、口縁端部で外反して終わる。口唇は外側に丸味を帯びる。体部下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転ヘラズリ?	砂粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色 暗褐色	良好	カマド内	ロクロ整形
134-6021	134-7	土師器	皿	口縁1/2 体部2/2 底部3/5	13.8	3.9		6	ロクロ整形。体部は底部から緩やかに外傾して立ち上がる。外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転ヘラ切り(ロクロ右回転)? 中心部分出ぼぞ状に残る。	砂粒を含むざらざらとした胎土	褐色	良好	カマド内	ロクロ整形
134-6021	134-8	土師器	杯	体部1/4 底部1/4	不明	1.1		5	底部片。ロクロ整形。体部外面下端に手持ちヘラズリ。底部ヘラズリ。内面はロクロ整形による横ナデ。	長石粒、砂粒を含む	淡褐色	良好	カマド内	ロクロ整形
134-6001	134-9	須恵器	杯	口縁1/8 体部1/8	12	3.1		8.1	体部は底部から内湾気味に立ち上がる。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。	白色粒を含む	灰色	堅緻	覆土中	
134-6021	134-10	土師器	甕	口縁1/5 胴部1/10	21.7	5.8+	不明	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に内湾しながら立ち上がる。端部外面に1条の凹線をめぐらす。口唇は丸味を帯びる。口縁部中位付近に輪積みによる接合痕残る。口縁部横ナデ。胴部外面は弱い縦位(上下)のヘラズリ。内面ナデ?	白っぽいきめ細かい胎土	乳白色	良好	カマド内	搬入品
134-6022	134-11	土師器	甕	口縁1/6 胴部3/10	20.1	7.3+	(17.6)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。胴部は肩部でやや張るが底部に向かって内湾。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリ。内面は横方向のヘラナデ。部分的にスズ付着。	長石粒を含む	淡褐色	良好	カマド内	
134-6021	134-12	土師器	甕	口縁1/18 胴部上半1/11	20	3.5+	(7.3+)	不明	口縁部は「く」の字状に外反する。端部外面に凹線をめぐらす。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリ。内面ナデ?	きめ細かい胎土	褐色	良好	カマド内	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
134-6022	134-13	土師器	甕	胴部1/4 底部1/4	不明	2.9+		5.6	底部片。胴部外面には斜方向(左上右下)のヘラケズリ。底部ヘラケズリ。内面ナデ。	きめ細かい 胎土	黒褐色	良好	カマド内	
135-1002	135-1	土師器	杯	ほぼ完形	12.7	3.6		6	口クロ整形。丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾し端部でやや外反して終わる。体部内外面には口クロ整形による凹凸が顕著に見られる。下端に削り幅の広い回転ヘラケズリ(口クロ右回転)。底部回転糸切り?後回転ヘラケズリ(口クロ右回転)。	石英粒をわずかに含む きめ細かい 胎土	褐色	堅緻	カマド右脇の床面(床直)	口クロ整形
135-6001	135-2	土師器	杯	口縁1/2 体部1/2 底部1/10以下	13	3.9		7.6	口クロ整形。灯明用杯。口縁部内外面に油煙が付着。底部を切り離す際に粘土が体部下端周辺に被っている。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部でやや外反して終わる。口唇は外側に丸くおさめる。体部外面には口クロ整形による凹凸が明瞭に見られる。底部は一方方向のヘラケズリ。	小石、赤色スコリアを含む きめ細かい 胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	口クロ整形 灯明用杯
135-1003	135-3	土師器	杯	口縁2/3 体部2/3 底部1/1	13.2	4		6.9	口クロ整形。墨書土器。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面の中心付近に3条の凹線がめぐり、下端を幅広く回転ヘラケズリ(口クロ右回転)で整える。底部は回転ヘラケズリ(口クロ右回転)で整形する。体部外面の中心に縦線で「山?」の墨書。	砂粒、長石粒を多く含む 胎土	淡褐色 暗赤褐色	良好	カマド右脇壁際の床面(床直)	口クロ整形 墨書「山?」
135-1001	135-4	土師器	杯	ほぼ完形	13.1	4.1		6.1	口クロ整形。墨書土器。端正で丁寧な作り。体部は底部から外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面は口クロ整形による横ナデ痕が顕著に見られ、下端を幅広い回転ヘラケズリ(口クロ右回転)で整える。底部は上げ底で、回転ヘラケズリ(口クロ右回転)で整形する。内面は横ナデ痕が明瞭に残り、なめらかに内彎する。見込み部分やや高まる。体部外面の口縁部近く、および底部の中央部分よりやや外縁付近の2か所に墨痕の鮮やかな、手慣れた筆運びによる「清」の文字を書く。	微砂粒を含む きめ細かい 良質の胎土	淡褐色	堅緻	南西隅の床面(床直)	口クロ整形 墨書「清」
135-1005	135-5	土師器	皿	口縁9/10 体部9/10 底部1/1	14.5	2.3		8.8	口クロ整形。やや雑な作り。体部は底部から緩やかに外傾して立ち上がる。体部外面には弱い凹凸が見られる。底部は単一方方向のヘラケズリ。内面は口クロ整形による横ナデが明瞭。	小石、砂粒を含む ざらした胎土	淡褐色	良好	東側隔壁際の床面(床面)	口クロ整形
135-1004	135-6	土師器	甕	胴部4/5 底部1/1	不明	9+	14.4	6.3	口クロ整形。礎下半部分。雑な作りで胴部は底部から内彎しながら立ち上がる。中位で弱い段を形成し、段より下部は底部まで横方向(左右)・斜方向(左上右下)の乱雑な手持ちヘラケズリを施す。底部は回転糸切り(口クロ右回転)後、逆L字状の直交する2方向のヘラケズリを行う。内面は口クロ整形による横ナデ。	砂粒を含む きめ細かい 胎土	黒褐色 淡褐色	良好	カマド右脇壁際の床面(床直)	口クロ整形
136-1004	136-1	土師器	杯	口縁1/3 体部1/3 底部1/2	13	4.8		6.1	非口クロ。体部と底部との境目が不明瞭な丸底風の杯。体部は底部から内彎しながら立ち上がる。口唇は丸味を持つ。口縁部横ナデ。体部～底部外面は削り幅の広い不定方向の手持ちヘラケズリ。内面横ナデ。	きめ細かい 胎土	暗褐色 明褐色	堅緻	南東側壁際の床面(+28)	非口クロ
136-6011	136-2	須恵器	杯	口縁1/7 体部1/7 底部1/20	13	3.4		9.2	厚味があり、器高の低い杯。体部外面には口クロ整形による凹凸が見られる。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。底部は回転ヘラケズリ(口クロ右回転)。	白色粒、白色針状物質をわずかに含む きめ細かい 胎土	灰色	堅緻	カマド内	
136-1002	136-3	須恵器	杯	口縁1/3 体部1/3 底部1/1	11.2	3.8		8.2	小振りの杯。体部は底部から直線的に外傾し、端部でやや外反して終わる。口唇は外側に鋭角的に尖り、内側に傾斜する凹線状の面と稜を持つ。体部内面と底部との境目に明瞭な段が見られる。底部はやや丸味を持ち、回転ヘラケズリ(口クロ右回転)で整形。口縁部内外面に火だすき。	白色粒をわずかに含む きめ細かい 胎土	灰色	堅緻	カマド右脇の床面(床直)	
136-1006	136-4	須恵器	杯	口縁1/8 体部1/8 底部1/1	15.2	3.8		11.3	墨書土器。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。底部は回転ヘラケズリ(口クロ右回転)で整形する。内面は口クロ整形による横ナデ痕が明瞭に見られ、底部に同心円状の口クロ痕が残る。底部外面の外縁から中心にかけて、やや判読しにくい「法花」の連筆な墨書が確認される。	白色針状物質をわずかに含む きめ細かい 胎土	灰色	堅緻	南東側床面(床直)	墨書「法花」
136-6001	136-5	須恵器	杯	口縁1/86 体部1/8 底部1/2	13.8	3.3		10	器高の低い杯。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は鋭角的に直立する。底部は回転ヘラケズリ(口クロ右回転)。	黒色粒を含む 白っぽい 胎土	灰白色	堅緻	覆土中	
136-6001	136-6	須恵器	杯	口縁1/5 体部1/5	14	3.6+		8.5 推定	やや薄手の作り。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。底部は欠損のため整形調整は不明。	白っぽい きめ細かい 胎土	灰白色	堅緻	覆土中	
136-1005	136-7	須恵器	杯	口縁1/3 体部1/3 底部1/10	12	4.5		6.2	口クロ整形。体部は底部から内彎しながら立ち上がり、口縁部付近で屈曲、外反して終わる。口唇は外側に丸味を持つ。体部内面には口クロ整形による凹凸が明瞭。体部外面下端に手持ちヘラケズリ。底部単一方方向のヘラケズリ。	白色粒を含む きめ細かい 胎土	黒褐色	堅緻	南側床面(+9)	千葉地域産
136-1007	136-8	須恵器	椀	底部2/5	不明	3+		12	底部片。胴部欠損。体部は底部から直線的に外傾。底部は回転ヘラケズリ後、ナデ。	きめ細かい 胎土	黒灰色 褐色	堅緻	南西側の床面(+17)	千葉地域産
136-1008・6002	136-9	土師器	甕	口縁1/37 胴部1/6	23.6	17.3+	(21.6)	不明	外面の器面が剥離、荒れている。口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、端部で屈曲、面を作って終わる。端部外面に凹線がめぐり、口唇は丸味を持ち、ややつまみ上げ気味。胴部は中位で最大径となり、底部に向かって内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は幅広い縦位のヘラケズリ(口クロ右回転)。内面は斜方向のヘラナデおよびナデ。	きめ細かい 胎土	褐色	堅緻	カマド正面の床面(+5)	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値 (cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
136-6011	136-10	土師器	甕	口縁1/6 胴部1/6	17.2	12.1+	(17)	不明	器内の薄い作り。口縁部は頸部から浅い「く」の字状に外反し、口縁部付近で外側に丸味を持って終わる。胴部は中位付近で最大径となり、内彎して底部に向かう。口縁部横ナデ。胴部外面は肩部付近に横方向(左右)のヘラケズリ、中位あたりで縦位(上下)のヘラケズリ。内面はナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	暗褐色	堅緻	カマド内	武蔵型甕
136-1003	136-11	灰釉陶器	長頸壺	口縁3/10 頸部1/1	9	7.3+	不明	不明	口縁～頸部片。口縁部は頸部よりやや強く外反し、端部外面で折り返しにより肥厚して凹面を作り終わる。口唇は鋭角的で、頸部外面にロクロ整形による凹凸、内面は顕著に見られる。頸部は胴部の上に乘せて接合する。頸部外面、口縁部に光沢を持つくすんだ濃緑色の自然釉が付着。	きめ細かい胎土	明 灰 褐 色 (濃緑色)	堅緻	中央南側の床面(+2)	
136-1009	136-12	須恵器	短頸壺	頸部1/20 胴部1/4	13.2	11.9+	24.8	不明	口縁部、胴部下位～底部欠。頸部は肩部から垂直に立ち上がる。肩部は大きく張り、底部に向かって内彎する。胴部外面は肩部から中位までロクロ整形による筋状の沈線がめぐる。外面の肩部から中段にかけて黄褐色で発泡した自然釉が大部分を覆っている。内面はロクロ整形による明瞭な横ナデ痕。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	黒灰色 灰色	堅緻	南西側の床面(+3)	40号 住 - 34と類似
136-1001	136-13	須恵器	甕	遺物行方不明のため不明	不明	25+	23.8	13	口縁部欠。口縁部は頸部から屈曲、長く外反する。胴部は肩部で最大径となり、内彎を続けて底部に至る。胴部外面の上半部分は叩き締め、ヘラによる螺旋状の凹線をめぐる。下半は幅広い斜位(右上左下)のヘラケズリを全面に施す。			堅緻	カマド正面の床面(床直)	千葉地域産 遺物行方不明
136-6002	136-14	須恵器	甕	胴部1/4 底部1/10	不明	3.6+	不明	16.9	胴部は平底の底部から直線的に外傾する。外面は、下端部分を横方向(左右)のヘラケズリで整える。底部ヘラケズリ。内面ナデ。	きめ細かい胎土	こげ茶色 淡褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
136-6002	136-15	須恵器	甕	胴部1/5 底部1/10	不明	7+	不明	14	胴部は平底の底部から直線的に外傾する。外面は平行タタキ目で叩き、下端部分を横方向(左右)のヘラケズリで整える。底部ヘラケズリ。内面ナデ。	長石粒を含むやや雑な胎土	こげ茶色 淡褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
142-6001	142-1	土師器	杯	口縁1/5 体部1/3 底部1/3	12.4	3.6		8.1	非ロクロ。焼成がやや甘く摩滅している。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。体部内面と底部との境目に明瞭な凹面状の屈曲が見られる。口縁部横ナデ。体部外面は斜位(削り方向不明)の手持ちヘラケズリ。底部は手持ちヘラケズリ。	きめ細かい胎土	褐色 明褐色	やや甘い	覆土中	非ロクロ
142-6001	142-2	土師器	杯	口縁1/7 胴部1/12 底部1/2	13.2	3.2 復元		8	非ロクロ。体部内外面とも焼成が甘いため、著しく摩滅している。やや厚手で体部内面と底部との境目に明瞭な段が見られる。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。体部外面は手持ちヘラケズリ。	砂粒を含むきめ細かい胎土	褐色	甘い	覆土中	非ロクロ
142-1001	142-3	須恵器	杯	口縁1/3 体部1/3 底部1/5	14	3.4		9.7	体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。体部外面には火だすきがかり、中央部付近に横字で、筆運びの流暢な「隆」の墨書。	白色粒をわずかに含むきめ細かい胎土	灰色 淡茶灰色	堅緻	南西床面(+5)	墨書「隆」
142-6001	142-4	土師器	台付甕	底部1/1	不明	2+		4.7	底部片。胴部欠損。底部内面はヘラナデ痕残り。胴部外面はヘラケズリ？内面ナデ。	きめ細かい胎土	明褐色	良好	覆土中	
143-6010・6002	143-1	土師器	碗 (大型)	口縁1/3 体部1/3 底部1/20	21	7.2		8.8	ロクロ整形。体部は底部からわずかに内彎しながら立ち上がり、口縁端部付近で屈曲、外反して終わる。体部外面にロクロ整形による凹凸が見られる。下端に幅の広い回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。底部は欠損が多いため不明瞭(回転ヘラケズリか？)。内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭。	砂粒、長石粒を含むざらついた胎土	淡明褐色	良好	カマド内	ロクロ整形
143-6010・6002	143-2	土師器	杯	口縁1/8 体部1/8 底部1/4	12.4	4.5		6.7	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。下端に横方向(左右)の手持ちヘラケズリ。底部は単一方向のヘラケズリ。	きめ細かい胎土	淡褐色	良好	カマド内	ロクロ整形
143-1001	143-3	土師器	杯	完形	12.8	4.1		6.2	ロクロ整形。比較的軽く丁寧な作り。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。外面に螺旋条の凹線がめぐる。下端部分に回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。底部回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。内面は見込み部分高まり、ロクロ整形による横ナデ痕が明瞭。外面に不明瞭ながら体部に向かって横字で「至」？の墨書。	砂粒を含むばさばさした胎土	褐色	堅緻	南側中央の床面(+8)	ロクロ整形 墨書「至」?
143-6002	143-4	土師器	杯	口縁1/12 体部1/12	14.8	3.4+		不明	ロクロ整形。体部はやや内彎しながら口縁端部で外反して終わる。外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端を回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は欠失のため不明。内面はロクロ整形による凹凸が見られ、下位で屈曲して底部に向かう。破片のため不明瞭だが、体部外面中位に墨書らしき断片が認められる。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形 墨書
143-6002	143-5	土師器	皿	口縁1/4 体部3/10 底部1/1	14	2.1		8	ロクロ整形。口縁部、体部にやや歪みのある皿。体部は底部から外反し、厚味があるが外側に鋭角的に尖る口唇に至って終わる。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整など。内面はなめらかに内彎し、ロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に残る。破片のため不明瞭だが、体部中位付近に横書きで張りのある筆運びによる墨書「至？」が見られる。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	ロクロ整形 墨書「至」?
143-6001	143-6	須恵器	高台付壺	底部1/6	不明	2.8+		9.7 脚部10.3	底部～脚部片。大型の壺底部。高台部は貼り付けて、底部から短いがしっかりとした踏ん張りを出す。胴部はかなり肥厚。	きめ細かい胎土	暗灰色 茶灰色	堅緻	覆土中	
143-6012	143-7	土師器	甕	口縁3/5 胴部3/5	21.9	20.6	(21)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反して立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。胴部は肩部で最大径となり、底部に向かって内彎を続ける。口縁部横ナデ。胴部外面は頸部から幅広い縦位(上下)のヘラケズリを行った後、下位に斜位(左上右下)のヘラケズリを行い整える。内面はヘラナデ。	赤色スコリア、長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド煙道部分の煙突(倒立)	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値 (cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
143-6010・ 6012・6013	143-8	土師器	甕	口縁9/10 胴部3/5	21.4	11.1+	(20.8)	不明	口縁部は頸部から浅く外反し、端部で弱く 屈曲して面を作り垂直気味に立ち上がる。 口唇は丸味を帯びる。胴部は肩部でわずかに 張るが内彎する。口縁部横ナデ。胴部外 面は幅広い削りの弱い縦位(上下)のヘラケ ズリ。内面はヘラナデ。	きめ細かい 胎土	淡褐色	堅緻	カマド煙 道部分の 煙突 (横倒し)	
143-6010・ 6012・6013	143-9	土師器	甕	口縁3/4 胴部3/5	21.2	17.6	(20.4)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反して 立ち上がる。口唇は丸味を持ち内側にやや つまみ上げ気味。頸部外面には、胴部のヘ ラケズリを行った後、ヘラ状工具による凹 線が頸部をめぐる。胴部は肩部でやや張る。 口縁部横ナデ。胴部外面は幅広い縦位(上下) のヘラケズリを行った後、中・下位に斜位 (左上右下)のヘラケズリを行い整える。内 面は頸部付近にヘラナデ。胴部はヘラナデ かナデ。	小石、長石 粒を含むき め細かい胎 土	褐色	堅緻	カマド煙 道部分の 煙突 (横倒し)	
143-6010	143-10	土師器	甕	口縁1/6 胴部1/6	20.4	7.9+	(9.4+)	不明	口縁部は頸部から強く屈曲し、端部で丸味 を持って立ち上がる。口唇はつまみ上げ気 味に丸く直立する。胴部は中位あたりで最 大径となるもよう。口縁部横ナデ。胴部外 面は幅広い縦位(上下)のヘラケズリ。内面 はヘラナデ。	砂粒を含む きめ細かい 胎土	淡茶褐色 淡褐色	堅緻	カマド内	
143-6002	143-11	土師器	甕 (小型)	口縁4/5 胴部3/4 底部5/6	13	14.3	13	5	小型甕。やや雑な作り。口縁部は頸部から 浅い「く」の字状に屈曲、外反し中位あた りでやや膨らみ立ち上がる。口唇は丸くお さめる。胴部は上位付近で最大径で内彎を 続け底部に向かう。口縁部横ナデ。胴部外 面は頸部から縦位(上下)のヘラケズリを施 した後、下位部分に斜方向(左上右下)のヘ ラケズリを行い整える。内面ヘラナデ。	やや砂粒を 含むきめ細 かい胎土	暗褐色	良好	覆土中	
143-1002・ 6010	143-13	須恵器	甕 (大型)	口縁1/10 頸部1/4 胴部7/10	30.5	38+	43.8	不明	口縁部は頸部から屈曲した後、緩やかに長 く外反し、端部で折り返して肥厚し、断面 三角形状の複雑な面を持って終わる。口唇 はやや鋭角気味で上方に尖る。頸部内・外 面にはロクロ整形による凹凸が見られる。胴 部は肩部で最大径となり、内彎しながら底 部に向かう。胴部外面は粗く目の長い平行 タタキ目で全面を叩く。中位あたりに螺旋 状凹線が胴部をめぐる。内面は指による押 圧およびナデ。	長石粒、小 石を含む	茶灰色	堅緻	カマド右 正面の床 面(+9) カマド内	千葉地域 産
145-1003	145-1	土師器	杯	口縁3/4 体部9/10 底部4/5	12.9	3.5		9	非ロクロ。器高の低い平底の杯。体部は底 部からやや内彎気味に立ち上がる。口唇は 丸く、内側にかえり風の丸味を持つ。体部 内面と底部との境目に不明瞭ながら屈曲が 見られる。口縁部横ナデ。体部外面は削り の細かい手持ちヘラケズリ。内面横ナデ。	砂粒、小石 を含むきめ 細かい胎土	褐色	良好	南西隅の 床面 (+32)	非ロクロ
145-6002	145-2	土師器	杯	口縁1/5 体部3/10 底部2/5	13	4		9	非ロクロ。全体的に摩耗している。体部は 底部から内彎気味に立ち上がり、口唇は鋭 角的に尖る。体部内面と底部との境目に明 瞭な段が見られる。体部内面にはロクロ整 形風の凹凸が見られる。口縁部横ナデ。体 部外面は削りの広い長い手持ちヘラケズリ を施し、底部は単一方向の手持ちヘラケズ リ。内面横ナデ。	きめ細かい 胎土	明褐色	良好	覆土中	非ロクロ
145-6002	145-3	土師器	杯	口縁1/7 体部1/2 底部9/10	13.4	4.2		9.5	非ロクロ。体部は底部から直線的に外傾し て立ち上がる。口唇はやや鋭角的。体部内 面と底部との境目に明瞭な屈曲が見られる。 口縁部横ナデ。体部外面は摩耗して不明瞭 だが、削り幅の広い手持ちヘラケズリで一 周するもよう。底部は不定方向の手持ちヘ ラケズリ。内面横ナデ。	砂粒を含む きめ細かい 胎土	明褐色	良好	覆土中	非ロクロ
145-1001	145-4	土師器	杯	口縁4/5 体部9/10 底部1/1	14.6	5.5		9.3	非ロクロ。やや大型で分厚く重量のある杯。 器面の摩耗が著しい。体部は底部から内彎 気味に立ち上がる。口唇は鋭角的に尖る。 体部内面と底部との境目には明瞭な段が見 られる。口縁部横ナデ。体部外面は摩耗の ため不明瞭だが、横方向の幅のある長い手 持ちヘラケズリ。底部はやや丸味があり、 手持ちヘラケズリ。内面横ナデ。	砂粒を含む きめ細かい 胎土	褐色	良好	南西隅床 面(+36)	非ロクロ
145-1004	145-5	須恵器	杯	口縁1/3 体部1/3 底部1/3	14.2	3.3		11.4	軽い感じの杯。体部は底部から直線的に外 傾して立ち上がる。底部に回転ヘラケズリ (ロクロ右回転)。内面は底部から体部中位 にかけて暗灰色で火だすきが見られる。	きめ細かい 胎土	灰白色 淡暗灰色	堅緻	南西隅の 床面 (+19)	
145-6001	145-6	須恵器	高台付 杯	口縁1/12 体部1/12	13.4	4.9+		不明	口縁部片。底部欠。体部は底部から内彎気 味に立ち上がり、口縁部付近でやや屈曲、 外反して外側に丸味を持つ口唇を持って終 わる。内側には稜が見られる。	白色粒、黒 色粒を含む きめ細かい 胎土	灰色 淡茶灰色	堅緻	覆土中	
145-6002	145-7	土師器	甕	口縁19/20 胴部2/5	20.5	14.7+	(20)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、 端部付近でやや屈曲して立ち上がる。口唇 は外側に丸味を帯びる。胴部は肩部でやや 張るが、底部に向かって内彎する。口縁部 横ナデ。胴部外面は、斜位(左上右下)のヘ ラケズリを施した後、肩部付近を横方向(右 左)のヘラケズリを行う。内面はナデ。	きめ細かい 胎土	褐色	堅緻	覆土中	
145-6002	145-8	土師器	甕	口縁1/8 胴部1/3	20.4	7.2+	不明	不明	武蔵型甕。器内が薄く丁寧な作り。口縁部 は頸部から「く」の字状に長く外反する。 口縁部端部外面に沈線がめぐる。口縁部外 面と胴部との境目に明瞭な段が見られる。 胴部は肩部で張るもよう。口縁部横ナデ。 胴部外面は肩部付近横方向(右左)のヘラケ ズリ。内面ナデ。	きめ細かい 胎土	褐色	堅緻	覆土中	武蔵型甕
145-6002	145-9	土師器	甕	口縁1/6 胴部上半 1/6	21	5.9+	不明	不明	武蔵型甕。器内の薄い丁寧な作り。口縁部 は頸部から「く」の字状に長く外反する。 口縁部横ナデ。胴部外面は肩部に横方向(右 左)のヘラケズリ。内面はナデ？	長石粒を含 むきめ細か い胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	武蔵型甕
148-1002	148-1	土師器	杯 (大型)	口縁1/7 体部1/8	17	5.4+		不明	ロクロ整形。丁寧な作り。体部は直線的に 外傾して立ち上がる。外面にはロクロ整形 による凹凸、凹線が見られ、下端を回転ヘ ラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面 は凹凸が見られるもののためなめらかに内彎 する。	石英粒、黒 色粒、白色 針状物質を 含むきめ細 かい良質の 胎土	淡茶褐色	堅緻	カマド正 面の床面 (+3)	ロクロ整 形

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
148-6002	148-2	土師器	杯	口縁1/8 体部1/8	14.6	3+		不明	ロクロ整形。体部外面にはロクロ整形による凹凸が明瞭に見られる。体部はやや内彎気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を帯びる。内面にはロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に残る。	きめ細かい 胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
148-6002	148-3	土師器	杯	口縁3/4 体部3/4 底部1/1	13	5		6.4	非ロクロ。器高が深くやや雑な作り。体部は底部から内彎しながら、口縁端部で屈曲、垂直に立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。口縁部横ナデ。体部外面は口縁部付近まで削りの細かい斜方向の手持ちヘラズリで整える。底部は不定方向のヘラズリで整形する。内面は横ナデで、なめらかに内彎する。	微砂粒、長石粒、石英粒を含む胎土	こげ茶褐色	良好	覆土中	非ロクロ
148-1002・ 6002	148-4	土師器	甕	口縁1/3 胴部上半 1/2	21.2	16+	(20.8)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、端部で屈曲、内側に立ち上がる面を作って終わる。口唇は鋭角的に尖る。胴部はやや張るが底部に向かって内彎する。口縁部は横ナデ。特に外面にはヘラ状工具による強い横ナデ。胴部外面はシンプルな縦位(上下)のヘラズリ。内面はヘラナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	カマド正面の床面(+3)	
148-6002	148-5	土師器	甕	口縁1/6 胴部上半 1/6	19.7	9.2+	(19.4)	不明	口縁部は頸部から浅く屈曲して立ち上がる。口唇は外側に面を持つ。胴部はやや張るが内彎する。口縁部は横ナデ、特に外面はヘラ状工具による強い横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリ。内面ナデ。	長石粒を含む雑な胎土	淡暗褐色	堅緻	覆土中	
148-1004	148-6	灰釉陶器	蓋 (小型)	完形	5.2	2.1			小壺の蓋部分。外面は丸みを持った天井部から裾部に至る。裾部分はやや内傾し、口唇部は鋭角的に尖る。つまみ部分は宝珠形で、宝珠先端は突出する。内面にはロクロ整形による横ナデがよく残る。外面および裾部内面にはぶい深緑色の釉が全面に付着。宝珠部分は釉が剥離している。	黒色粒を含むきめ細かい良質の胎土	淡緑灰色 灰色	堅緻	南側壁際の床面(+7)	小壺の蓋
148-6011・ 6002	148-7	土師器	甕	胴部下半 2/5 底部1/4	不明	15.7+	(18.3)	4.9	胴部～底部片。胴部は底部から内彎しながら立ち上がる。外面には縦位(上下)のヘラズリを施した後、下位部分を斜位(右上左下)のヘラズリを行う。底部は単一方向のヘラズリ。内面はナデ。	小石、赤色スコリアを含む	暗褐色 淡暗褐色	良好	カマド内	
148-1003	148-8	土師器	甕	胴部下半 1/12 底部1/1	不明	7+	不明	7.2	底部片。胴部は底部から内彎気味に立ち上がる。底部は分厚く重い。胴部外面に縦位(上下)のヘラズリを施した後、底部付近を横方向(左右)のヘラズリで整える。底部は単一方向のヘラズリ。内面はヘラナデ。	小石を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	南側床面(+17)	
148-6002	148-9	土師器	甕	胴部1/9 底部1/2	不明	5.4+	不明	4.8	底部片。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリ後、底部付近を横・斜位(左右)のヘラズリを施す。底部は不定方向のヘラズリ。内面ナデ?	きめ細かい胎土	褐色	堅緻	覆土中	
148-1005	148-10	須恵器	甕	底部1/8	不明	6.8+		16	器内の厚い大型甕の底部破片。胴部は底部から内彎気味に立ち上がる。外面には平行タタキ目で叩き、下端を指による押圧、指ナデを行い、底部付近を横方向(左右)のヘラズリで整形する。底部はやや上げ底で未調整。内面はヘラナデおよび指による押圧、指ナデを行っている。	きめ細かい胎土	灰色 淡茶灰色	堅緻	南側壁際の床面(床直)	
148-1002	148-11	須恵器	甕	口縁部1/5	17.8	7.5+	不明	不明	口縁～頸部片。口縁部は胴部から長く外反し、扁平な三角形の断面を持つ口縁端部を作って終わる。口唇は鋭角的に尖る。口縁部外面および内面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。胴部外面の肩部に平行タタキ目が見られる。内面は横ナデ。	長石粒を多く含むきめ細かい胎土	黄褐色	堅緻	カマド正面の床面(+3)	千葉地域産
148-6002	148-12	須恵器	甕	胴部下半 1/6 底部1/20	不明	6.9+	不明	11	胴部下位～底部片。胴部は底部から直線的に外傾。外面には目の粗い平行タタキ目で叩いた後大方すり消し、底部付近を横方向(左右)のヘラズリで整える。底部はヘラズリ?内面は指による押圧およびナデ。	白色粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
148-6002	148-13	須恵器	壺	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。外面は平行タタキ目で叩き締め、螺旋状凹線をめぐらす。内面は指によるナデ。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
149-1003	149-1	須恵器	杯	口縁4/5 体部1/1 底部1/1	12.6	4.5		7.5	やや歪みのある杯。体部内・外面、底部内面にロクロ整形による凹凸が明瞭に見られる。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は外側に丸味を持つ。体部外面下端に削りの狭く長い手持ちヘラズリを施し、底部は不定方向の手持ちヘラズリ。	長石粒を多く含む	黒褐色	堅緻	南東隅の周溝内(+1)	千葉地域産
149-6002	149-2	須恵器	杯	口縁1/10 体部1/2 底部4/5	12.9	4.8		7	体部は底部からやや内彎気味に立ち上がり、口縁部あたりで外反して丸味を持つ口唇で終わる。体部内・外面、底部内面にはロクロ整形による凹凸が明瞭に見られる。体部外面下端に削りの狭い手持ちヘラズリで一週する。底部は不定方向の手持ちヘラズリ。	白色粒を多く含む	黒褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
149-1002	149-3	須恵器	杯	口縁1/4 体部1/2 底部1/1	13.6	4.1		9	器形の整った丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持つがやや鋭角的。体部外面はロクロ整形による弱い凹凸、横ナデが見られる。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)で切り離した後、中央部分を残して回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はなめらかに内彎し、底部との境目に明瞭な屈曲が見られる。底部見込み部分ややへこむ。底部外面の中央付近に縦書きの漢筆な筆運びによる文字で「海上厨」の墨書あり。	長石粒、白色針状物質を含むきめ細かい胎土。	灰色 淡茶灰色	堅緻	北東隅の周溝(+2)	墨書「海上厨」
149-1001	149-4	土師器	皿	口縁1/13 体部1/5 底部1/2	14.6	2.6		6.7	ロクロ整形。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、中位でやや外反して終わる。体部内外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。体部外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転ヘラズリ?(ロクロ右回転)。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド正面の床面(床直)	ロクロ整形
149-1001	149-5	土師器	杯	体部1/6 底部3/5	不明	1.3+		7	ロクロ整形。底部片。体部外面下端には回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面は底部見込み部分やや高まり、ロクロ整形による横ナデ痕が明瞭。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド正面の床面(床直)	ロクロ整形

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器 種	遺存度	計測値 (cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
149-1201・6011	149-6	土師器	甕	口縁1/5 胴部2/5 底部1/2	19.9	26.6	(19.2)	5.3	口縁部は頸部から強く屈曲外反し、端部で垂直な面を作って立ち上がる。端部外面には凹線状の沈線がめぐり、胴部は肩部で張り、底部に向かって内彎する。口縁部横ナデ、特に外面はへら状工具による強い横ナデ。胴部外面は幅広い縦位の縦位(右上左下)のヘラケズリを施した後、下位部分を斜位(右上左下)のヘラケズリで整える。底部は単一方向のヘラケズリ。内面はヘラナデで肩部付近に凹線状の沈線が横方向に見られる。	赤色スコリア、長石粒を含むきめ細かい胎土	淡黒褐色 淡褐色	堅緻	カマド内	
149-1001・6102	149-7	土師器	甕	口縁1/3 胴部1/2 底部1/1	15.6	18	16.6	6.4	口縁部は頸部から浅く外反し、端部で屈曲して面を作り垂直に立ち上がつて終わる。端部外面には凹線状の沈線が巡る。口唇は丸味を帯び直立気味。胴部は球形状に張り、底部に向かって内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリを施した後、中下位を斜方向(右上左下)のヘラケズリで整える。内面はヘラナデおよびナデ。	長石粒、石英粒を含む雑な胎土	暗褐色 褐色	堅緻	カマド正面 (+1) カマド内	
149-1001	149-8	土師器	甕	口縁1/5 胴部上半 1/10	20.2	4.3+	不明	不明	口縁部片。口縁部は頸部から強く屈曲外反し、端部で面を作り垂直に立ち上がる。口唇は丸味を持って直立する。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリ。内面はナデ。	きめ細かい胎土	明褐色	堅緻	カマド正面 の床面 (床直)	
149-1001	149-9	土師器	甕 (小型)	口縁1/15 胴部上半 1/4	11.8	3.2+	不明	不明	極小の甕。やや雑な作り。口縁部は頸部から短く強く屈曲、外傾して立ち上がる。口縁部内側の頸部は鋭く突き出た稜が作られている。口縁部横ナデ。胴部外面は不明瞭だが、縦位(上下)のヘラケズリ?内面ヘラナデ。	雲母粒、長石粒を含む	暗褐色	堅緻	カマド正面 の床面 (床直)	
149-6002	149-10	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。外面は平行タタキ目で叩いた後、螺旋状凹線をめぐらす。内面は指によるナデ。	白色粒を含むやや雑な胎土	褐色	堅緻	覆土中	千葉地域 産
150-6001	150-1	須恵器	杯	口縁1/12 体部1/12	12.2	3.1		8.2	口縁部片。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。体部内面にはクロコ整形による凹凸が見られる。底部の整形調整不明。	白色粒、白色針状物質を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
150-6002	150-2	須恵器	杯	底部1/5	不明	0.9+		8.2	底部片。底部内面にはクロコ整形による凹凸が見られる。体部外面下端に回転ヘラケズリ(クロコ右回転)。底部回転ヘラケズリ(クロコ右回転)。	白色粒、白色針状物質を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	覆土中	
150-6001	150-3	須恵器	杯	体部1/4 底部1/4	不明	2.4+		8.6	やや摩耗している。体部はやや内彎して立ち上がる。底部は回転ヘラケズリ(クロコ右回転)。底部内面の中央部に「×」の線刻。	白色粒、白色針状物質を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	線刻「×」
150-6001	150-4	須恵器	杯	底部1/5	不明	1.4+		8.6	底部片。底部内面にはクロコ整形による凹凸が明瞭に見られる。体部外面下端に回転ヘラケズリ(クロコ右回転)。底部回転ヘラケズリ(クロコ右回転)。	白色粒を含むきめ細かい胎土	灰色 黒褐色	堅緻	覆土中	千葉地域 産
151-1003	151-1	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5 底部1/5	12.1	4.2		6.8	クロコ整形。体部外面はクロコ整形による凹凸が見られる。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁部付近でやや外反して終わる。口唇はやや丸味を帯びる。体部外面下端に回転ヘラケズリ(クロコ右回転)。底部回転ヘラケズリ(クロコ右回転)。内面はクロコ整形による横ナデ痕が明瞭。	砂粒を含むきめ細かい胎土	明褐色	良好	カマド正面 (+3)	クロコ整形
151-6002	151-2	土師器	杯	体部1/4 底部1/1	不明	2.3+		6.2	底部片。体部は底部から内彎気味に立ち上がるもよう。体部外面下端に幅広い回転ヘラケズリ(クロコ右回転)。底部回転ヘラケズリ(クロコ右回転)。内面は底部の見込み部分高まり、クロコ整形による横ナデ痕が明瞭。	砂粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	やや甘い	覆土中	クロコ整形
151-1007	151-3	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5 底部1/5	13	3.7		6.6	クロコ整形。丁寧な作り。体部外面にはクロコ整形による凹凸が見られる。体部は底部から内彎しながら立ち上がり、内面はなめらかに内彎する。口唇は外側に鋭角的に尖り、内側に傾斜する面を持つ。体部外面下端は幅広い回転ヘラケズリ(クロコ右回転)。底部は回転ヘラケズリ(クロコ右回転)。内面はクロコ整形による横ナデ痕が明瞭。	きめ細かい胎土	褐色	堅緻	南西側の 床面 (+8)	クロコ整形
151-1008	151-4	土師器	碗	口縁1/8 体部1/8	20.1	6.6 復元		10.6 復元	クロコ整形。丁寧で端正な作り。体部は底部から内彎しながら立ち上がり、口縁部付近でやや外反し、外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面下端には回転ヘラケズリ(クロコ右回転?)。内面はなめらかに内彎し、口縁部付近から始まる斜方向やや乱雑なヘラミガキを底部付近まで施す。	きめ細かい胎土	明褐色	堅緻	中央床面 (+6)	クロコ整形
151-1001	151-5	土師器	杯	口縁13/14 体部12/14 底部12/14	13.1	4.3		6.7	クロコ整形。やや歪みのある雑な作り。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、中位あたりでやや外反して口縁部に至る。底部は回転ヘラケズリ(クロコ右回転)。	砂粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	カマド左 脇の床面 (+18) 覆土中	クロコ整形
151-6002	151-6	土師器	杯	体部1/6 底部1/1	不明	2.1+		7	クロコ整形。底部片。底部は回転糸切り(クロコ右回転)後、再調整なし。内面は体部下端と底部との境目に明瞭な屈曲線が見られ、クロコ整形による横ナデ痕が明瞭。	きめ細かい胎土	褐色	堅緻	覆土中	クロコ整形
151-6002	151-7	土師器	皿	遺物行方 不明のため 不明	14	2.5		6.8	クロコ整形。体部は底部から緩やかに直線的に外傾し、口縁部でやや外反して外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面下端に回転ヘラケズリ(クロコ右回転)。底部回転ヘラケズリ(クロコ右回転)。			良好	覆土中	クロコ整形 遺物行方 不明
151-1004	151-8	土師器	皿	口縁1/3 体部1/3 底部1/3	14.6	2.7		7.9	クロコ整形。丁寧な仕上げ。体部外面にはクロコ整形による凹凸が見られる。体部は底部から緩やかに内彎しながら口縁部でわずかに外反し、外側に丸味を持つ口唇に終わる。体部外面下端及び底部は井桁状の一体化した手持ちヘラケズリ。内面は底部部分を一方のヘラミガキ、体部を井桁状の丁寧なヘラミガキを施す。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	中央床面 (+6)	クロコ整形

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
151-1003	151-9	土師器	杯	口縁1/7 体部1/4 底部1/7	13.8	5.6		9.6	非ロクロ?器高の深い杯。体部内面と底部との境目には明瞭な段が見られる。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇はやや尖り気味。体部外面はやや摩耗しているため不明瞭だが、手持ちヘラズリ?底部手持ちヘラズリ。	砂粒を含む きめ細かい 胎土	明褐色	やや甘い	カマド正面 (+3)	非 ロ ク ロ?
151-1009	151-10	土師器	甕	口縁1/2 胴部1/2	19.5	20+	20.5	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反して立ち上がる。胴部は中位付近で最大径となり、底部に向かって内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は幅の広い縦位(上下)のヘラズリを施した後、下位部分を横方向(左右)のヘラズリで整える。内面は器壁が剥離して荒れており不明瞭だが、頸部、肩部付近に横方向のヘラナデを施す。	石英粒、赤色スコリア、長石粒を含む きめ細かい 胎土	暗褐色	堅緻	中央床面 (+2)	
151-1002	151-11	土師器	甕	口縁4/5 胴部3/4	21.2	20.2+	22	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、端部で屈曲して直立気味に立ち上がる。端部外面には1条の凹縁が全周する。口唇は小さく丸味をもって外側に被るように外反する。胴部は肩部から中位あたりで張り、底部に向かって内彎する。口縁部は横ナデ。胴部外面は幅広の縦位(上下)のヘラズリを施し、下端部を斜位(左上右下)のヘラズリで整える。内面はヘラナデ。	長石粒、石英粒を含む きめ細かい 胎土	淡褐色	堅緻	カマド正面 の床面 (床直)	
151-1021・ 6002	151-12	土師器	甕	口縁1/30 胴部2/5	19.3	21.5+	23.6	不明	武蔵型甕。器内の薄い作り。口縁部は頸部から浅く長く外反して立ち上がる。口唇はやや角張る。胴部は肩部で最大径となり、底部に向かって緩やかに内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は肩部でやや横方向(左右)のヘラズリを施した後、肩部から斜位(左上右下)の削りの長いヘラズリを施す。下位部分に縦位(上下)のヘラズリを部分的に施す。内面は摩耗しているため不明瞭だが、ヘラナデを施しているもよう。	きめ細かい 胎土	褐色	堅緻	カマド内 覆土中	武蔵型甕
151-1006	151-13	土師器	甕	口縁1/3 胴部1/3	22	16+	22	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、端部で屈曲して直立気味に立ち上がる。端部外面には1条の凹縁が全周する。口唇は小さく丸味をもって外側に被るように外反する。胴部は肩部から中位あたりで張り、底部に向かって内彎する。口縁部は横ナデ。胴部外面は幅広の縦位(上下)のヘラズリを施す。内面はヘラナデ。口縁部内側にヘラナデの痕跡。	長石粒を含む きめ細かい 胎土	暗 褐 色(ス ス付着) 淡褐色	堅緻	南西床面 (+8)	
151-6002	151-14	須恵器	壺	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	頸部～胴部破片。胴部外面は目の細かい平行タタキ目で叩く。自然釉付着。内面は同心円文叩き目で叩き、すり消す。	白色粒を含む きめ細かい 胎土	灰白色 茶灰色	堅緻	覆土中	
151-1005・ 6002	151-15	須恵器	甕	口縁1/5 胴部1/5	32	16.2+	(28.4)	不明	口縁部は頸部からやや外反しながらも直立気味に立ち上がり、折り返して低い三角形状の断面を持つ凸帯を持って終わる。口唇は丸味を持ち内側に凹面状の傾斜する面を持つ。胴部は肩部でわずかに張るも、底部に向かって内彎を続ける。把手はボタン状の扁平な円錐形で胴部に貼り付ける。胴部外面は平行タタキ目で叩いた後、縦方向のヘラナデを施し、ほとんどすり消す。口縁部内面には強いヘラナデによる横ナデ痕が明瞭に残る。胴部内面は指による押圧およびヘラナデ。	白色粒を含む きめ細かい 胎土	暗茶色	堅緻	中央床面 (+10)	千葉地域 産
151-6002	151-16	須恵器	壺	頸部1/6 胴部1/6	不明	6+	不明	不明	頸部～胴部破片。胴部外面は目の粗い平行タタキ目で叩く。内面はナデ?	白色粒を含む きめ細かい 胎土	茶灰色	堅緻	覆土中	千葉地域 産
151-6002	151-17	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。外面は目の粗い平行タタキ目で叩く。内面はナデおよび指によるナデ。	白色粒をわずかに含む きめ細かい 胎土	茶灰色 暗茶色	堅緻	覆土中	千葉地域 産
152-6001	152-1	土師器	杯	体部1/6 底部1/3	不明	2+		8.6	ロクロ整形。体部は底部からやや外反気味に立ち上がる。体部下端には底部の切り離しの際のアナ痕が見られる。底部は単一方向のヘラズリ。内面はロクロ整形による凹凸が見られる。	長石粒を多く含む きめ細かい 胎土	褐色	良好	覆土中	
152-6001	152-2	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。外面は目の粗い平行タタキ目で叩く。内面ナデ。	白色粒を含む きめ細かい 胎土	淡茶褐色 淡茶色	堅緻	覆土中	千葉地域 産
152-6001	152-3	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。外面は目の粗い平行タタキ目で叩く。内面ナデおよび指によるナデ。	白色粒を含む きめ細かい 胎土	淡茶褐色 淡茶色	堅緻	覆土中	千葉地域 産
153-1001・ 6002	153-1	土師器	杯	口縁1/2 体部1/2 底部1/1	14.9	5.4		7.6	ロクロ整形。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して丸味を帯びる口唇で終わる。体部外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られ、下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)後、中央部を残して外周を手持ちヘラズリで調整する。内面は底部見込み部分高まる。	砂粒を含む きめ細かい 胎土	褐色	良好	南側隅周 溝内 (+19)	ロクロ整 形
153-1002	153-2	土師器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部1/2	16	5.2		8.2	ロクロ整形。やや厚手だが丁寧な作り。体部は底部から直線気味に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。体部外面はロクロ整形による凹凸が顕著に見られ、凹縁が体部をめぐる。下端を回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面は凹凸が見られるもののなめらかに内彎する。見込み部分やや高まる。	長石粒、石英粒を含む きめ細かい 胎土	淡褐色	堅緻	南側床面 (+8)	ロクロ整 形
153-6002	153-3	土師器	杯	遺物行方不明のため 不明	12.2	4.2		6.1	ロクロ整形。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は外側にやや丸味を持つ。体部外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られ、下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。				覆土中	ロクロ整 形 遺物行方 不明

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
153-1005	153-4	土師器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部1/1	13.6	3.9		6.8	ロクロ整形。丁寧な作りで軽い感じの杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁部付近でやや外反して外側に丸味を帯びる口唇で終わる。体部外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭。	砂粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	中央床面(+2)	ロクロ整形
153-1008	153-5	土師器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部1/1	12.8	4.1		6	ロクロ整形。器形が整っており丁寧な作り。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部でやや外反して終わる。口唇は外側に尖り気味で、内側に傾斜する面と稜を持つ。体部外面下端は幅広い回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はなめらかに内彎し、底部との境目に屈曲線が見られる。底部内面を中心として内側にススと思われる付着物が広がる。	白色針状物質、長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	カマド右脇の床面(+5)	ロクロ整形
153-1012・6003	153-6	土師器	杯	口縁1/6 体部1/6 底部3/10	12.4	3.6		6.6	ロクロ整形。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。体部外面下端には1条の沈線がめぐる。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面は横ナデ痕が残る、なめらかに内彎する。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド左脇の床面(+1)	ロクロ整形
153-1003・1001・6002	153-7	土師器	杯	口縁1/2 体部1/2 底部3/10	13.3	4.2			ロクロ整形。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。口唇は鋭角的に尖る。体部外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面はなめらかに内彎する。	白色針状物質、長石粒、黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	良好	南側床面(床直)覆土中	ロクロ整形
153-6002	153-8	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5 底部1/5	12.6	3.9		6.4	ロクロ整形。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。外面はロクロ整形による凹凸が見られ、下端を回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
153-6011	153-9	土師器	杯	口縁1/4 体部1/5 底部1/20	13.2	4.1		7.4	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による凹凸が見られ、下端を幅広く回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が見られる。	微砂粒、赤色スコリアを多く含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	カマド内	ロクロ整形
153-1006	153-10	土師器	杯	体部1/5 底部9/10	不明	3.2+		6.6	ロクロ整形。墨書土器。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。外面には3条の凹線がめぐる、下端を回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)後、全面にわたり回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による凹凸が見られ、底部との境目に明瞭な凹線状の屈曲が見られる。底部外面中央部分に細い筆運びによる「天」の則天文字の墨書が見られる。	白色針状物質を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	中央床面(床直)	ロクロ整形 墨書・則天文字
153-6011	153-11	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5	12	4.4		5	ロクロ整形。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部でやや外反して終わる。口唇はやや丸味を帯びる。体部外面はロクロ整形による凹凸が見られ、下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。	砂粒を含むきめ細かい胎土	こげ茶色	良好	カマド内	ロクロ整形
153-6011・6003	153-12	土師器	杯	口縁3/10 体部3/10 底部1/5	13.8	4.9		6.4	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸く外側を向く。体部外面はロクロ整形による凹凸が見られ、下端を削り幅の広い手持ちヘラズリで整える。底部は手持ちヘラズリで整形する。内面は器面の剝離が著しいが、ロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が見られる。	長石粒を多く含む胎土	茶褐色	良好	カマド内	ロクロ整形
153-6003	153-13	土師器	杯	口縁4/5 体部4/5 底部1/1	12.7	4.3		6.4	ロクロ整形。やや厚手で重い杯。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でやや外反して終わる。口唇は厚く丸味を持つ。体部外面下端には削り幅のせまい手持ちヘラズリ。底部は単一方向の手持ちヘラズリ。内面は底部見込み部分やや高まり、ロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に見られる。	きめ細かい胎土	淡暗褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
153-1004・6002	153-14	土師器	杯	口縁1/10 体部1/10 底部1/2	14	4.6		7.6	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面下端には手持ちヘラズリ(左右)で整形する。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)後、手持ちヘラズリ。内面はロクロ整形による横ナデ痕が見られる。	長石粒を多く含む胎土	淡灰褐色 褐色	良好	南東床面(床直)覆土中	ロクロ整形
153-6011	153-15	土師器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部1/2	12.5	4.3		7	やや歪みのある杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。体部外面は摩耗しているため不明瞭であるが、下端に手持ちヘラズリで一周する。底部は不明瞭。内面はロクロ整形による凹凸が見られ、横ナデ痕が明瞭。	砂粒を含むきめ細かい胎土	明褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
153-6002	153-16	須恵器	杯	口縁1/5 体部1/5 底部1/5	13	4.6		6.8	体部は底部からやや外反気味に立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。体部外面はロクロ整形による凹凸が見られ、下端を手持ちヘラズリ(左右)で整形する。底部は上げ底で、単一方向のヘラズリで整える内面は器面が荒れているが、ロクロ整形による凹凸が見られる。	長石粒を多く含む胎土	黒褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
153-1009・1013・1014	153-17	土師器	皿	口縁5/6 体部5/6 底部1/1	14.6	3.3		6.7	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して外側に丸味を帯びる口唇に至って終わる。体部外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ左回転)。底部回転ヘラズリ(ロクロ左回転)。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	中央床面(+7)	ロクロ整形
153-1010	153-18	土師器	皿	完形	15	2.9		6.3	ロクロ整形。丁寧な作り。体部は底部から緩やかに内彎し、口縁端部で屈曲、外反して終わる。口唇は外側に丸味を帯びる。体部外面下端には回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。	石英粒、白色針状物質を含むきめ細かい胎土	明褐色	良好	中央床面(+2)	ロクロ整形

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
153-6011	153-19	土師器	皿	口縁1/4 体部1/4 底部9/10	14.8	2.5		7.1	ロクロ整形。やや厚手の皿。体部は底部から緩やかに外傾する。口唇は丸味を持つ。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端を回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整える。底部はやや上げ底で、回転糸切り(ロクロ方向不明)後、中央部分に痕跡を残して全面回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面は横ナデ痕が残る、なめらかに内湾する。	長石粒を多く含む胎土	淡茶褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形
153-6002	153-20	土師器	皿	口縁1/10 体部1/10 底部1/10	13.8	2.1		6.6	ロクロ整形。器面が荒れ剥離している。体部は底部から緩やかに外傾し、口縁端部で外反して終わる。口唇は丸味を帯び外側に向く。体部外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。	きめ細かい胎土	明褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
153-6011	153-21	土師器	皿	口縁1/2 体部1/2 底部1/2	13.6	1.6		7.2	ロクロ整形。器高が低い平べったい皿。やや歪みあり。体部は底部から緩やかに外傾し、口縁端部で外反して終わる。口唇は外側に丸味を帯びる。体部外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡茶褐色 淡褐色	良好	カマド内	ロクロ整形
153-1013	153-22	土師器	甕	口縁3/4 胴部上半3/4	20	15+	21.5	不明	器面が剥離、荒れている。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。口唇は内側にやや鋭角的に尖る。胴部は中位付近で最大径となり、底部に向かって内湾する。口縁部横ナデ。胴部外面は幅の広い縦位(上下)のヘラズリを施す。内面はヘラナデ。	小石を含むきめ細かい胎土	暗褐色	良好	カマド正面の床面(+5)	
153-1103	153-23	土師器	甕	口縁1/10 胴部上半1/7	20.9	7.8+	21.6+	不明	底を抜いた状態でカマド煙道部に使用。口縁部は頸部から「く」の字状に外反して立ち上がる。胴部は中位付近で最大径となり、底部に向かって内湾する。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリ。内面はヘラナデおよびナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	暗褐色 こげ茶色	良好	カマド煙道部分	カマド煙道に使用
153-1103	153-24	土師器	甕	口縁1/1 胴部2/5	19.8	10.5+	20.5	不明	口縁部にやや歪みのある薄手の作り。口縁部は頸部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は外側に丸味を持つ。口縁部横ナデ。胴部外面は削りの弱い縦位(上下)のヘラズリで整形する。内面は横方向のヘラナデを施す。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡黒褐色	良好	カマド内	
153-6011	153-25	土師器	甕	口縁部1/7	18.2	5.3+	不明	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、端部でやや屈曲して終わる。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリ。内面はヘラナデおよびナデ。	長石粒を含むやや雑な胎土	淡こげ茶色	良好	カマド内	
153-1014	153-26	土師器	甕	口縁2/5 胴部1/2	20.4	21.2	21.1	不明	口縁部は頸部から屈曲、短く外傾して立ち上がる。口唇は丸味を帯びやや外側に向く。胴部は中位あたりで最大径となり、底部に向かって内湾する。口縁部横ナデ。胴部外面は幅の広い削りのはっきりとした縦位(上下)のヘラズリを施した後、下位部分を横方向(左右)のヘラズリを行う。内面は横・斜方向のヘラナデ。胴部下位部分で、下半部と上半部を接合した痕跡が見られる。	長石粒を含むきめ細かい胎土	こげ茶褐色	堅緻	中央床面(+5)	
153-1101	153-27	土師器	甕	口縁1/7 胴部上半1/6	21.1	20+	(19.9)	不明	底を抜いた状態で、カマドの煙道に使用。口縁部は頸部から強く短く外反し、口縁端部で屈曲して面を作って立ち上がる。端部外面には複雑な稜が見られ、口唇は丸味を帯びやや外側に向く。胴部は中位あたりで最大径となり、底部に向かって内湾する。口縁部横ナデ。胴部外面は幅のかなり広い削りのはっきりとした縦位(上下)のヘラズリを施した後、下位部分を斜方向(左上右下)のヘラズリで整える。内面はヘラナデ、ナデ。	長石粒を含むやや雑な胎土	すすけた褐色 褐色	良好	カマド煙道部分	カマド煙道に使用
153-6003	153-28	土師器	甕	胴部1/4 底部1/10	不明	4.5+	不明	9	胴部下位へ底部片。器面が剥離して荒れている。胴部は底部から直線的に外傾。外面には横方向(右左)のヘラズリ。底部ヘラズリで整える。内面は剥離しているため不明。	長石粒を含む雑な胎土	淡茶色	やや甘い	覆土中	
153-1101・1102・1103	153-29	土師器	甕	口縁1/4 胴部1/2	20.8	20.4+	(20.3)	不明	底を抜いた状態で、カマドの煙道に使用。口縁部は頸部から「く」の字状に外傾し、端部で屈曲して外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。端部外面には凹線がめぐる。胴部は中位あたりで最大径となり、底部に向かって内湾する。口縁部横ナデ。胴部外面は頸部から幅広い縦位(上下)のヘラズリを施した後、中下位部分を斜方向(左上右下)のヘラズリを行う。内面はヘラナデ。	きめ細かい胎土	淡褐色(部分的に黒斑) 暗褐色	良好	カマド煙道部分	カマド煙道に使用
153-6011・6003	153-30	土師器	甕	口縁部1/2	21.3	7.1+	(20.2+)	不明	口縁部はかなり歪んでおり雑な作り。内面の剥離が著しい。口縁部は頸部から短く、強く外反し、端部で屈曲して面を作って立ち上がる。端部外面には複雑な稜が見られる。口唇は丸味を帯び外側に向く。胴部は中位あたりで最大径となる。口縁部横ナデ。胴部外面は幅のかなり広いはっきりとした縦位(上下)のヘラズリを施す。内面はヘラナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	褐色	良好	カマド内 覆土中	
153-1102・6003	153-31	土師器	甕	口縁部1/3	21.1	4.4+	不明	不明	口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、端部でやや屈曲して終わる。端部外面に1条の凹線状の沈線が見られる。口唇は小さく丸味を帯び、やや外反する。口縁部横ナデ。胴部内外面は破片のため不詳。	きめ細かい胎土	淡褐色	良好	カマド内 覆土中	
153-1104・6011	153-32	土師器	甕	口縁1/2 胴部上半1/2	13.6	11.7+	13.6	不明	ロクロ整形甕。底部付近が厚く、口縁に行くに従って薄くなる。口縁部は頸部から短く外反し、外側に丸味を帯びる口唇に至って終わる。胴部は中位あたりで最大径となり、底部に向かって内湾する。口縁部横ナデ。胴部外面はロクロ整形によると思われる凹凸が見られ、中位から下位にかけて所々に斜方向(左上右下)のヘラズリを施す。内面はヘラナデ。	きめ細かい胎土	淡褐色 暗褐色(部分的に黒色) 明褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形甕
153-6003	153-33	須恵器	甕(大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	頸部へ胴部破片。胴部外面は目の粗い平行タタキ目で叩く。内面ナデ。	きめ細かい胎土	茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
153-1015	153-34	須恵器	短頸壺	口縁1/3 胴部1/7	16	8.4+	25.6+	不明	口縁部～胴部破片。口縁部は頸部から直立気味に短く立ち上がる。口唇部はへら状工具のナデにより、平坦で角張っている。胴部は肩部で張る。外面は平行タタキ目で丁寧に叩く。肩部に指の押圧痕が所々に残る。内面は器面が剥離しており不明瞭だがナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡茶色	堅緻	カマド正面の床面(床直)	千葉地域産
153-6002	153-35	土師器	甗	破片のため不明	不明	5.3+	不明	不明	胴部片。外面は目の細かい平行タタキ目で叩いた後、ボタン状の扁平な把手を胴部に押しつけ、貼り付けている。内面はナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡茶褐色	良好	覆土中	
153-6001	153-36	須恵器	甗 (大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。外面は目の粗い平行タタキ目で叩く。内面はタタキ板で叩いた痕跡がよく残る。	きめ細かい胎土	灰色 淡灰色	堅緻	覆土中	
153-6001	153-37	須恵器	甗 (大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。外面は透明な自然釉が付着し、平行タタキ目で叩く。内面へらナデ。	黒色粒、白色粒を含むきめ細かい胎土	黒灰色 灰色	堅緻	覆土中	
153-6001	153-38	須恵器	甗 (大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部下半部分破片。外面は縦方向の平行タタキ目、その下を横方向のやや目の細かい平行タタキ目で叩く。内面はへらナデ。	白色粒を含むきめ細かい胎土	灰色 淡茶灰色	堅緻	覆土中	
154-6001	154-1	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5	13.6	4.2 復元		6 復元	ロクロ整形。丁寧な作り。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。体部外面には弱い凹凸が見られる。	きめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
154-1002・ 1003	154-2	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5 底部1/1	12.8	4.6		6.8	ロクロ整形。空みのあるやや雑な作り。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でやや反して終わる。口唇は丸味を帯びる。体部外面にはロクロ整形による凹凸が明瞭。下端に底部から体部に向かう削り幅の大きい手持ちへらナデを施す。底部は縦方向、横方向に削る手持ちへらナデ。内面は底部の見込み部分高まる。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色 褐色	堅緻	東側床面(+3)	ロクロ整形
154-1001	154-3	土師器	皿	口縁1/10 体部1/10 底部1/20	14.4	2.4		6.8	ロクロ整形。体部は底部から緩やかに内彎しながら口縁端部で外反して終わる。口唇は丸味を帯び、外側に向く。底部は切り離す際に指のナデ痕が高台状に残る。整形調整不明。	きめ細かい胎土	明褐色	良好	東側床面(+1)	ロクロ整形
154-1006	154-4	土師器	杯	体部1/2 底部1/1	不明	2+		6.6	底部片。ロクロ整形。体部外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転糸切りで切り離した後、中央部分を残して外周を回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に見られる。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色 淡黒褐色	良好	北側壁の 周溝内(+5)	ロクロ整形
154-6001	154-5	土師器	杯	体部1/5 底部3/5	不明	1.6+		6.2	底部片。ロクロ整形。体部下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭。	赤色スコリア、長石粒を含むきめ細かい胎土	淡こげ茶褐色 淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
154-6001	154-6	土師器	杯	体部1/3 底部1/2	不明	2.8+		6.6	ロクロ整形。須恵器のように緻密で非常に焼きがよく、丁寧な作り。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面はロクロ整形による横ナデ痕がよく残る。	緻密できめ細かい胎土	褐色 淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
154-1004	154-7	土師器	杯	体部1/3 底部1/1	不明	1.7+		5.2	底部片。ロクロ整形。底部下端にはロクロ切り離しの際の指のナデ痕が見られる。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面は見込み部分やや高まり、ロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に残る。	きめ細かい胎土	淡褐色	良好	南西隅の 床面(床直)	ロクロ整形
154-6001	154-8	土師器	杯	底部1/4	不明	1.3+		6.4	底部片。ロクロ整形。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。	きめ細かい胎土	淡褐色 淡黒褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
154-6001	154-9	土師器	杯	体部1/4 底部1/4	不明	2.2+		6.8	底部片。ロクロ整形。体部下端に削りの長い手持ちへらナデ。底部は不定方向の手持ちへらナデ。内面はロクロ整形による横ナデ痕がよく残る。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡黒褐色 淡茶色	良好	覆土中	ロクロ整形
154-1005・ 6001	154-10	土師器	甗	口縁部1/4	15	2.6+	不明	不明	ロクロ整形。口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、端部で丸味を帯びる口唇に至って終わる。頸部外面にロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が見られる。内面ロクロ整形による横ナデ痕。	きめ細かい胎土	淡黒褐色 明褐色	堅緻	北西隅床面 (床直)	ロクロ整形
154-6002	154-11	土師器	台付甗	胴部1/2 底部1/1 脚部1/2	不明	3.4+	不明	3.4 脚部 7.6	底部～脚部片。脚部は低いがしっかりとした踏ん張りを示す。胴部、脚部外面には縦位(上下)のへらナデを施す。胴部内面、脚部内面へらナデ。	砂粒を含む雑な胎土	褐色	やや甘い	覆土中	
155-6002	155-1	土師器	杯	口縁1/7 体部1/8 底部1/2	18.5	6.6		8.2	ロクロ整形。やや生焼け状態でもろい。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は外側にやや向き、内側に傾斜する面と稜を持つ。体部外面にはロクロ整形による弱い凹凸が見られる。外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は摩耗しているため不明瞭だが回転ヘラズリか？内面はロクロ整形による横ナデ痕が見られる。	きめ細かい胎土	淡黄褐色	甘い	覆土中	ロクロ整形
155-6002	155-2	土師器	杯 (大型)	口縁1/4 体部3/10	16.3	5.2		7.4	ロクロ整形。やや器面が荒れている。体部は底部から内彎して立ち上がる。口唇はやや丸味を帯びる。体部内外面にロクロ整形による凹凸が見られる。外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭。	きめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
155-6002	155-3	土師器	杯	口縁1/6 体部1/7 底部1/3	14.8	4.3+		7.5	ロクロ整形。墨書土器。体部は底部から直線的に外傾し、丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端を回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が明瞭に残る。底部外面の中央部分に文字不明の墨書(左の部首が人偏で右が不明)が見られる。	微砂粒、小石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形 墨書

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
155-6002	155-4	土師器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部1/5	13.4	4.1		7	ロクロ整形。器面の摩耗が著しい。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。体部内外面にはロクロ整形による弱い凹凸が見られる。外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部回転ヘラズリ？	きめ細かい 胎土	淡褐色 褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
155-6002	155-5	土師器	杯	口縁1/5 体部1/4 底部4/5	14.6	4.7		7.7	ロクロ整形。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。体部外面の中へ上位にかけて彫りの深い凹線状の沈線が3条全周する。下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面は弱い凹凸が見られる。	砂粒、長石 粒を含むざ らざらとし た胎土	淡明褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
155-6002	155-6	土師器	杯	口縁1/20 体部1/15 底部1/15	13.2	4.6		7.2	ロクロ整形。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。体部外面中位付近に彫りの深い凹線が4条全周する。外面下端には回転ヘラズリ(ロクロ方向不明)。底部回転ヘラズリ？	砂粒を含む きめ細かい 胎土	淡褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
155-1002	155-7	土師器	杯	口縁1/9 体部1/2 底部1/1	13	4.1		6.5	ロクロ整形。丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。体部外面の中位付近に彫りの深い凹線状の沈線が2条全周する。下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面は弱い凹凸が見られ、ロクロ整形による横ナデ痕がよく残る。	長石粒、白 色針状物質 を含むきめ 細かい胎土	明褐色	良好	北西床面 (床直)	ロクロ整形
155-6002	155-8	土師器	杯	口縁1/5 体部1/10	14	2.8+		不明	ロクロ整形。体部はやや内彎気味に立ち上がる。口唇は内側にやや傾斜する面を持つ。外面には彫りの深い凹線が4条以上めぐる。内面には浅い凹面がめぐる。	きめ細かい 胎土	こげ茶色 暗褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
155-6002	155-9	土師器	杯	底部1/1	不明	1.2+		5.9	底部片。体部下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面の見込み部分へこむ。	きめ細かい 胎土	明褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
155-6002	155-10	土師器	杯 (大型)	口縁1/3 体部1/3	15	5.2 復元		7.4 復元	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は外側に鋭角的に尖る。体部外面にはロクロ整形による凹凸が顕著。内面弱い凹凸が見られ、ロクロ整形による横ナデ痕が明瞭。	きめ細かい 胎土	褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
155-1003・ 6002	155-11	土師器	皿	口縁7/10 体部7/10 底部9/10	14.6	2.6		7.2	ロクロ整形。やや雑だがしっかりとした作り。体部は底部から直線的に外傾する。口唇は厚目で丸味を帯び外側を向く。体部外面はロクロ整形による凹凸が明瞭。底部は明瞭な回転系切り(ロクロ右回転)、再調整はない。切り離の際に粘土が体部下端に被る。内面はロクロ整形による弱い凹凸、底部に2条ほどの同心円文条の沈線が見られる。見込み部分やや高まる。	きめ細かい 胎土	淡褐色	堅緻	カマド右 正面の床 面(床直)	ロクロ整形
155-6002	155-12	土師器	皿	口縁1/6 体部1/5 底部1/10	15	2.3		7.8	ロクロ整形。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。外面に弱い凹凸が見られる。底部は摩耗が著しいため、不明瞭。	きめ細かい 胎土	褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
155-6002	155-13	土師器	甕	口縁1/10 胴部1/4	20	10.2+	(16.5)	不明	口縁部は頸部から強く外傾し、端部で屈曲、面を作って垂直に立ち上がる。端部外面には凹線状の沈線がめぐる。口唇は鋭角的に直立する。胴部は肩部でやや張るも内彎して底部に向かう。口縁部横ナデ。胴部外面は頸部から縦位(上下)のヘラズリを2段にわたって施す。内面はヘラナデ。	雲母粒をわ ずかを含む きめ細かい 胎土	暗褐色	良好	覆土中	下総系か
155-6001・ 6002	155-14	土師器	甕 (小型)	口縁1/6 胴部1/3	12.2	9+	(10.8)	不明	小振りやや雑な作り。口縁部は頸部から浅く内彎しながら立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。胴部は肩部でわずかに張るが底部に向かって内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は下から上への縦位ヘラズリ。内面は明瞭なヘラナデを全面にわたって施す。	長石粒を含 むきめ細か い胎土	暗褐色	良好	覆土中	
155-6001	155-15	須恵器	甕	口縁1/10 胴部1/10	25.4	5+	(23.3)	不明	口縁部片と胴部把手片を合成して実測。口縁部は頸部から外反し、端部で屈曲、垂直な面を持って立ち上がり、丸味のある直立する口唇に至って終わる。端部外面は複雑な面を作っている。胴部はほとんど張らず、わずかに内彎する。把手は四角錐状の突起を胴部に貼り付けている。胴部外面は目の粗い平行タタキ目で叩き、頸部付近を指による横ナデでタタキを消す。内面はヘラナデ？	白色粒を含 むきめ細か い胎土	灰色	堅緻	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器 種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
155-1001	155-16	施釉陶器	壺 (小型)	口縁4/5 体部1/1 底部1/1	3.9	4.4	6.9	4.4	奈良三彩小壺。口縁部の1/5、体部の上部をわずかに欠損しているもののほぼ完形に近い。体部は肩部が強く張りやや扁平な形態を呈している。内・外面ともクロコによる整形で、外面の肩部付近には弱い凹凸、下位に沈線が螺旋状に2周する。内面は肩部付近に弱い凹凸、体部と底部との境目には、凹線状のナデが見られる。口縁部は口唇部分の釉薬がほとんど剝離しているため状態は良くないが、短い立ち上がりでやや内傾する。底部は回転ヘラズリ(方向不明)で整形した後、低いがしっかりとした踏ん張りを示す高台を貼り付けている。外面の釉薬は、基本的に白、緑、褐色で器表面は風化のため、部分的に剝落している。現状では、緑釉は濃緑、褐色釉は淡い茶褐色である。緑釉は淡い緑色と濃緑がまだら状に施され、あまり発色がよくなく光沢も失われている。褐色釉、白色釉はよく光沢が残る。施釉は白色、緑色、褐色の順に行われ、白釉と褐色釉は口縁部付近から肩部にかけて、千鳥格子状に交互に施釉する。体部下半部分は上半部分と同様に褐色釉、白色釉を千鳥格子状に配しているが、上半部分ほど明瞭ではない。部分的に褐色釉は流れるように細長く施釉されている。底部外面は基本的に白色釉を施している。高台部分は釉が剝落しているものの、緑釉を施している。口縁部内面および体部内面の過半から底部にかけては白色釉を施している。底部の白色釉部分には口縁部に緑釉を施釉した際の滴が淡い斑点状に溶け込んでいる。	粒子のきめ細かい良質の白色の胎土	濃緑色 茶褐色	堅緻	北西側壁 際の周溝 内 (+6)	奈良三彩 小壺
155-6002	155-18	須恵器	壺?	破片のため 不明	不明		不明	不明	頸部～胴部片。口縁部は欠損しているが、頸部から強く短く外反して立ち上がる。胴部外面は目の粗く長い平行タタキ目で叩く。内面はヘラナデ。	きめ細かい 胎土	黄灰色	堅緻	覆土中	千葉地域 産
155-6001	155-19	須恵器	甕?	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部肩部～中位部分。肩部には明瞭な屈曲が見られる。外面は斜方向の長い平行タタキ目で叩く。肩部と中位部分の屈曲をすり消す。内面は指によるナデ。	きめ細かい 胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
158-1001	158-1	土師器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部1/1	15	5.4		6	クロコ整形。口径に比して底径が1/2以下。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部で、やや外反して丸味を持つ口唇に至って終わる。体部内外面にはクロコ整形による弱い凹凸が見られる。外面下端に回転ヘラズリ(クロコ右回転)。底部は回転糸切り後、全面回転ヘラズリ。内面は器面が荒れているため不明瞭だが、ヘラミガキを施した後、黒色処理。	長石粒を含む やや雑な 胎土	暗褐色 黒褐色	良好	中央床面 (+8)	クロコ整 形 黒色処理
158-6010	158-2	土師器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部1/2	12.8	5		6.4	クロコ整形。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。体部外面にはクロコ整形による凹凸が明瞭。底部は回転糸切り(クロコ右回転)、再調整なし。切り離しの際のアテ痕が残る。内面の見込み部分は同心円文状の凹凸が残る。	赤色スコ リア、砂粒 を含む きめ細かい 胎土	淡褐色 淡茶褐色	良好	カマド内	クロコ整 形
158-1002	158-3	土師器	椀	口縁1/2 体部1/2 底部1/1	18.5	6.5		7.8	クロコ整形。体部は底部から内彎しながら立ち上がる。口唇は外側に鋭角的に尖り、内側には傾斜する面と稜を持つ。体部内外面にはクロコ整形による弱い凹凸が見られる。外面の下端に幅の広い回転ヘラズリ(クロコ右回転)を施す。底部は回転ヘラズリ(クロコ右回転)。	きめ細かい 胎土	暗褐色	堅緻	カマド正 面の床面 (床直)	クロコ整 形
158-6010	158-4	土師器	甕	口縁1/14 胴部1/5	23	10.1+	(22.2)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状直線的に外傾し、端部で面を作って立ち上がる。口唇は丸味を帯び直立する。内側にはかえり状の屈曲が見られる。胴部は肩部で張るか底部に向かって内彎する。口縁部横ナデ。特に頸部には強い横ナデによる凹凸が見られる。胴部外面は幅広の縦位(上下)のヘラズリ。内面ヘラナデ。	長石粒、石 英粒を含む きめ細かい 胎土	暗褐色	堅緻	カマド内	
158-6010	158-5	土師器	甕	口縁1/3 胴部1/4	22.5	15.7+	22.6	不明	口縁部は頸部から「く」の字状、直線的に外傾し、丸味を帯びる口唇に至って終わる。口唇の内側にはかえりを持つ。胴部は肩部で張り、底部に向かって内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は幅の広い縦位(上下)のヘラズリを施し、中位付近から斜位(左上右下)のヘラズリを行う。内面にはヘラナデ痕が認められる。	きめ細かい 胎土	暗褐色(部 分的に黒 色) 淡褐色	堅緻	カマド内	
158-1004・ 6010	158-6	土師器	甕 (小型)	口縁6/7 胴部1/2 底部9/10	15.7	15.7	15.7	7.4	丁寧な作り。口縁部は受け口状で、頸部から外反し、中位あたりで屈曲して垂直気味に立ち上がる。口唇は鋭角的に尖り、内側には凹線状の面を持つ。胴部は肩部で張り、底部に向かって内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は頸部からやや斜めの縦位(右上左下)ヘラズリを施した後、中位あたりから右下から左上への斜方向、右上から左下への斜方向のヘラズリを交互に施す。底部は単一方向のヘラズリ。内面はヘラナデ。外面肩部に赤彩?	長石粒を多 く含むやや 雑な胎土	暗褐色	堅緻	カマド右 正面の床 面 (床直) およびカ マド内	
158-1003・ 6010	158-7	土師器	甕 (小型)	口縁1/2 胴部1/2 底部1/1	14.1	13.8	14.3	5.8	口縁部は受け口状で、頸部から「く」の字状に外傾し、端部で屈曲、やや内側に垂直気味に立ち上がる。口唇は丸味を持って直立し、内側にかえりを持つ。口縁内側に幅広の凹線がめぐる。胴部は球形状。口縁部横ナデ。胴部外面はやや斜めの縦位(右上左下)のヘラズリを施した後、中位付近から幅広の斜方向(右上左下)のヘラズリを行う。内面はヘラナデ。	長石粒、赤 色スコリア を含む きめ細かい 胎土	褐色(部 分的に黒 色)	堅緻	カマド正 面の床面 (床直)	
159-6002	159-1	土師器	杯	口縁1/6 体部1/6 底部1/1	13.4	4.4		6.3	クロコ整形。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇はやや鋭角的で、内側に傾斜する面と稜を持つ。体部外面下端に回転ヘラズリ(クロコ右回転)。底部回転ヘラズリ(クロコ右回転)。内面はなめらかに内彎する。	長石粒、小 石を含む 雑な胎土	淡褐色	良好	覆土中	クロコ整 形

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
159-6010	159 2	土師器	杯	口縁1/13 体部1/5 底部1/15	12.4	3.9		6.2	体部は底部から内縁気味に立ち上がり、口縁端部でやや外反して終わる。底部は欠損のため不明瞭だが回転ヘラケズリか？内面はなめらかに内埴する。体部下半は黒色気味。	きめ細かい胎土	淡褐色 淡褐色(下半黒色)	良好	カマド内	ロクロ整形
159-6002	159 3	土師器	杯	口縁1/11 体部1/11	14.4	5.2		8.1	ロクロ整形。体部は底部から内埴しながら立ち上がる。口唇はやや鋭角的。底部は回転糸切り？切り離しの際のアテのような痕跡が残る。内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭。	きめ細かい胎土	明褐色 暗褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
159-1004・ 6002	159-4	土師器	杯	口縁1/10 体部1/5 底部4/5	12.4	4.7		6.4	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部で外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。底部は不定方向のヘラケズリ。内面はなめらかに内埴し、見込み部分高まる。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	南側壁際の床面(床直)	ロクロ整形
159-1001	159 5	土師器	杯	口縁1/4 体部1/4 底部1/1	12.4	4.3		6	ロクロ整形。墨書土器。丁寧な作り。体部下端には底部の切り離しの際の指のアテが残る。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口唇は厚味があり、丸味を持つ。体部外面は弱いロクロ整形による凹凸が見られる。底部は不定方向のヘラケズリで整形する。内面はなめらかに内埴し、ロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に残る。底部内面および外面には細い筆運びによる「今？」の墨書が方向を90度異にして書かれている。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	西側壁際の床面(床直)	ロクロ整形 墨書「今？」
159-6010	159 6	土師器	杯	口縁1/20 体部1/7 底部1/8	12.8	4.8		7.5	ロクロ整形。体部は底部から内縁気味に立ち上がる。口唇はやや鋭角的。底部は部分的に残っているが、回転糸切り(ロクロ方向不明)、再調整なし。外面下端には切り離しの際のアテが残る。粘土が被さっている。内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭。	きめ細かい胎土	明褐色 淡黒褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
159-1003	159 7	土師器	杯	口縁7/10 体部7/10 底部1/1	14	4.7		6.3	ロクロ整形。内面黒色処理。口径に比して底径は1/2以下。体部は底部から直線的に外傾して丸味を帯びる口唇に至って終わる。体部内外面にはロクロ整形による凹凸、体部内面と底部との境目には凹線状の屈曲が見られる。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面は体部を横・斜方向の底部を一方の入念なヘミガキを施した後、黒色処理。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色 黒色	堅緻	カマド左脇の床面(+4)	ロクロ整形 黒色処理
159-1008	159 8	土師器	甕	口縁部1/6	18.3	7.4+	(16.7)	不明	やや雑な作り。口縁部は頸部から浅く外反し、端部で外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。胴部は肩部でわずかに張る。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリ。内面ナデ。	砂粒、長石粒を含むざらとした胎土	暗褐色	良好	カマド右脇の床面(床直)	
159-1008	159 9	土師器	甕	口縁部1/5	20.3	7.5+	(19.1)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に直線的に外傾し、丸味を持つ口唇に至って終わる。口縁外面にヘラ状工具のナデによる沈線が見られる。胴部は肩部付近でややくぼむが、中位あたりで最大径となる。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリ。内面ナデ。	きめ細かい胎土	暗褐色	堅緻	カマド右脇の床面(床直)	
159-6002	159 10	土師器	甕	口縁1/5 胴部1/5	24.4	10.1+	(24.1)	不明	口縁部は頸部から浅く外反し、端部で外側に丸味を持つ口唇で終わる。胴部は肩部でわずかに張るも、内埴していくもよう。口縁部横ナデ。胴部外面は幅広い縦位(上下)のヘラケズリ。内面ヘラナデ。	きめ細かい胎土	暗褐色	良好	覆土中	
159-6010	159 11	土師器	甕 (小型)	口縁1/11 胴部1/3	14.2	18+	18.7	不明	長胴の小型甕。厚く歪みのある雑な作り。器面が摩耗している。口縁部は浅く直立気味に立ち上がる。口唇は分厚く丸味を持つ。胴部は中位あたりで最大径となり底部に向かって内埴する。口縁部横ナデ。胴部外面はケズリがはっきりしないが、頸部から縦位(上下)のヘラケズリを施した後、中位付近から斜位(左上右下)のヘラケズリを行う。内面は頸部付近ヘラナデ、胴部は不明瞭、ナデ？	長石粒を含む雑な胎土	淡茶灰色	良好	カマド内	
159-6002	159-12	土師器	甕 (小型)	口縁部1/5	13.8	5.4+	(13.6)	不明	端正で丁寧な作り。口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、端部で外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。胴部は中位で最大径となる。口縁部は強い横ナデ。胴部外面はケズリのはっきりとしたシャープな縦位(上下)のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	
159-1005	159-13	土師器	甕 (小型)	口縁部1/5	12	4.7+	(11.6)	不明	丁寧な作り。口縁部は頸部から浅く外反して丸味を持つ口唇に至って終わる。口縁～胴部は横ナデ。胴部外面は削りの弱い縦位(上下)のヘラケズリ。内面は不明瞭だがヘラナデ。	長石粒を含む雑な胎土	褐色	良好	南東角の床面(+13)	
159-6010	159-14	土師器	甕 (小型)	口縁部1/5	9	3+	不明	不明	極小の甕。口縁部は頸部から浅く外反し、丸味を帯びる口唇に至って終わる。胴部外面は削り幅の狭いシャープな縦位(上下)のヘラケズリ。内面ナデ。	砂粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	カマド内	
159-1002	159 15	土師器	甕	胴部1/5 底部1/5	不明	8.8+	21+	15.2	平底底部片。胴部は底部から直線的に外傾する。外面には斜方向(左上右下)のヘラケズリ、横方向(左右)のヘラケズリを施す。底部は上げ底で、不定方向のヘラケズリ。内面は器面が剥離、荒れているため不明瞭だが、指による押圧を繰り返す。	長石粒を含む雑な胎土	茶褐色	堅緻	西側床面(+8)	
159-1006	159-16	須恵器	甕 (大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。外面は乳白色の自然釉が付着、平行タタキ目で叩く。内面は指による押圧、ナデ。	きめ細かい胎土	鉄褐色	堅緻	東側床面(床直)	
159-1007	159 17	須恵器	甕 (大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。外面は平行タタキ目で叩く。内面はナデ。	白色粒を含むきめ細かい胎土	灰色 乳灰色	堅緻	東側床面(+2)	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器 種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
161-1009・6002	161-1	土師器	杯	口縁7/10 体部4/5 底部1/1	13.1	4.8		5.6	ロクロ整形。器高が深く、底部がやや萎縮した歪みのある杯。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による凹凸が見られ、下端を回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による凹凸・横ナデ痕が見られる。見込み部分やや高まる。	微砂粒、長石粒を含むややざらした胎土	淡暗褐色	良好	西側床面(床直)	ロクロ整形
161-1003	161-2	土師器	杯	ほぼ完形	13.2	4.4		6	ロクロ整形。整った器形で、丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。体部外面にはロクロ整形による横ナデ痕が残る。下端を回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が残る。	長石粒、黒色粒、微砂粒を含むややざらした胎土	淡暗褐色	良好	東側壁際の床面(+3)	ロクロ整形
161-1002	161-3	土師器	杯	口縁1/2 体部1/2 底部9/10	13.5	4.3		5.8	ロクロ整形。厚味があり、やや雑な作り。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部で外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端を回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面は器面がややでこぼこしているがなめらかに内彎する。	微砂粒を多く含むややざらとした胎土	こげ茶褐色	良好	南側壁際の床面(+10)	ロクロ整形
161-6010	161-4	土師器	杯	口縁1/10 体部1/5 底部1/15	12.8	4.5		6	ロクロ整形。器肉の厚味がある杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による凹凸が顕著に見られ、下端を回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右方向不明)で整形する。内面はなめらかに内彎し、横ナデ痕が残る。	黒色粒、微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	良好	カマド内	ロクロ整形
161-6002	161-5	土師器	杯	口縁1/8 体部1/8	13.2	3+		不明	ロクロ整形。体部は内彎気味に立ち上がる。内外面にはロクロ整形による横ナデ痕がよく残る。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
161-6010	161-6	土師器	杯	底部1/2	不明	2.6+		6.5	底部片。ロクロ整形。体部内外面・底部内面にはロクロ整形による凹凸が明瞭に見られる。体部外面下端には回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。	赤色スコリア、雲母粒、長石粒を含むやや雑な胎土	褐色	やや甘い	カマド内	ロクロ整形
161-1010	161-7	土師器	杯	口縁3/4 体部3/4 底部1/1	14.5	4.6		4.6	ロクロ整形。口縁部に歪みのある底部の萎縮した杯。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端には底部から口縁部方向に手持ちヘラズリを施す。内面はロクロ整形による凹凸が見られ、底部の見込み部分出ほそ状に高まる。	長石粒、赤色スコリア、微砂粒を含むやや雑な胎土	こげ茶褐色	良好	西側床面(床直)	ロクロ整形
161-6002	161-8	土師器	杯	口縁1/10 体部1/10	14	4+		不明	ロクロ整形。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇はやや鋭角的。体部内外面にはロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に見られる。外面下位に底部から口縁部方向に向かう手持ちヘラズリが見られる。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
161-1006	161-9	土師器	杯	口縁1/10 体部1/10	12.8	3.3+		不明	ロクロ整形。厚味のある杯。体部は内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端には底部から口縁部方向に手持ちヘラズリを施す。内面の中心付近にはススが帯状に付着。灯明用杯か？	きめ細かい胎土	淡褐色	良好	カマド右脇の床面(+4)	ロクロ整形 灯明用杯？
161-1008・6002	161-10	土師器	杯	口縁4/5 体部7/10 底部1/1	13	4.6		6	ロクロ整形。やや歪みのある杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による横ナデ痕が見られ、下端には底部切り離しの際の粘土のかぶりが見られる。底部は回転系切り(ロクロ右回転)。再調整なし。内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に残る。	黒色粒をわずかに含むきめ細かい胎土	暗褐色	堅緻	中央床面(床直)	ロクロ整形
161-6010	161-11	土師器	杯	口縁1/7 体部1/7	13	4.5 復元		5.2 復元	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を帯びる。体部外面下端に凹線がめぐる。	長石粒を含む雑な胎土	淡暗褐色	良好	カマド内	ロクロ整形
161-6002	161-12	土師器	杯	底部1/3	不明	2.4+		6	底部片。ロクロ整形。体部外面にはロクロ整形による凹凸が明瞭に見られる。内面はなめらかに内彎する。底部回転ヘラズリ(ロクロ右方向不明)。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
161-6002・6003	161-13	土師器	高台付 椀	口縁1/3 体部2/5 底部1/2	15.1	4.6		7.8 脚部 8.3	ロクロ整形。黒色処理。整った器形で、丁寧な作り。体部は底部から内彎気味になめらかに立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による横ナデ痕が残る。下端および高台部分を削り出しによって成・整形する。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面は丁寧な横方向のヘラミギキを行い、黒色処理を行う。	黒色粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡明褐色 黒色	堅緻	覆土中	ロクロ整形 黒色処理
161-1005	161-14	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5	13.6	4.3 復元		5.6 復元	ロクロ整形。黒色処理。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。体部外面にはロクロ整形による凹凸が明瞭に見られる。内面は急なヘラミギキ後、黒色処理。	きめ細かい胎土	淡褐色 黒色	堅緻	カマド右脇の床面(+5)	ロクロ整形 黒色処理
161-1011	161-15	土師器	皿	完形	13.4	2.1		6.4	ロクロ整形。かなりの歪みのある皿。体部は底部から緩やかに外傾して立ち上がる。口唇は外側を向き、鋭角的に尖る。体部外面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が見られる。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。	黒色粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	カマド正面の床面(+2)	ロクロ整形
161-6010	161-16	土師器	高台付 皿	体部3/5 底部2/5	不明	2.8+		6.1 高台 6.2	体部下半～底部片。体部内外面、底部内面にはロクロ整形による横ナデ。高台は貼り付け。	きめの細かい白っぽい胎土	淡橙色	良好	カマド内	ロクロ整形

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
161-1007・6002	161-17	土師器	甕 (小型)	口縁2/5 胴部2/5 底部1/2	14	15.8	(13.6)	5.6	長胴の小型甕。口縁部は頸部から短く「く」の字状に外傾する。口唇は丸味を持つ。胴部は肩部で張り、底部に向かって緩やかに内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は頸部付近から縦位(上下)のヘラケズリを施した後、中位から下位部分まで横方向(左右)のヘラケズリで整形する。底部ヘラケズリ。内面はヘラナデの痕跡が見られる。	長石粒、微砂粒を含む胎土	暗褐色	良好	カマド右脇の床面(+9)	
161-1004・6002	161-18	土師器	甕 (小型)	口縁部2/5	12.7	4.5	不明	不明	口縁部片。口縁部は頸部から外反気味に立ち上がり、口縁端部で丸味を持つ口唇に至って終わる。口縁部は強い横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリを施す。内面は横方向のヘラナデを行っている。	長石粒、微砂粒を含むややざらした胎土	淡褐色	やや甘い	カマド右脇の床面(+5)	
161-6002	161-19	土師器	甕	胴部下半1/5 底部1/10	不明	6.2+	不明	9.2	底部片。ロクロ整形。胴部は底部から直線的に外傾する。外面には横方向(左右)のヘラケズリを施す。底部は器面が荒れていて不明瞭だがヘラケズリか。内面はロクロ整形によるとと思われる凹凸が見られ、横ナデ痕が明瞭。	砂粒を含む雑な胎土	黒褐色 茶褐色	良好	覆土中	
161-1006	161-20	土師器	甕	底部9/10	不明	1.4+	不明	6.6	底部片。歪みのある雑な作り。器面の剝離が著しい。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。	長石粒を含む雑な胎土	暗褐色	良好	カマド右脇の床面(+8)	
161-6002	161-21	土師器	甕 (大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	頸部～胴部片。外面は平行タタキ目で叩く。内面は剝離して荒れているため不明瞭。	長石粒を含む雑な胎土	淡褐色	やや甘い	覆土中	
161-6001	161-22	灰釉陶器	長頸壺	底部1/5	不明	3+		8.6	底部片。胴部は底部から内彎気味に立ち上がる。外面には回転ヘラケズリ(ロクロ左回転)。部分的に釉が附着。底部回転ヘラケズリ(ロクロ方向不明)。高台は低いがしっかりとした踏ん張りを示す。胴部内面にはロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に見られる。	きめ細かい胎土	灰白色	堅緻	覆土中	東海地域搬入品
161-1007	161-23	土師器	鉢	口縁1/20 体部1/7	31.7	10.6+		不明	口縁～体部片。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部には外側に開く片口状の注ぎ口が作られる。口唇は外側に鋭角的に尖り、内側に傾斜する面を持ち、凹線が丸めぐる。内面はなめらかに内彎する。体部外面はヘラナデ。内面は丁寧なヘラナデまたはナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	暗褐色 黒褐色 (暗茶褐色)	良好	カマド右脇の床面(+9)	片口鉢
162-6010・6002	162-1	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5 底部1/2	12	3.9		7.8	非ロクロ。体部は底部から直線的に外傾し、口縁部付近で屈曲、垂直気味に立ち上がる。体部内面と底部との境目には明瞭な段が見られる。口縁部横ナデ。体部外面下端には削り幅の広い連続した手持ちヘラケズリで全周する。底部は不定方向の手持ちヘラケズリ。	砂粒を含むきめ細かい胎土	褐色 淡褐色	良好	カマド内覆土中	非ロクロ
162-1001	162-2	土師器	杯	口縁3/4 体部4/5 底部1/1	12.2	3.8		7.5	ロクロ整形。やや雑な作りで器肉が厚く、重畳のある杯。体部は底部から直線的に外傾し、外側に丸く帯状の端部に至って終わる。体部内外面および底部内面にはロクロ整形による凹凸が明瞭に見られる。体部外面下端には削り幅の狭い手持ちヘラケズリ(右回り)。底部は単一方向の手持ちヘラケズリ。	長石粒、赤色スコリアを多く含むやや雑な胎土	こげ茶褐色	堅緻	北西隅の周溝内(+9.5)	ロクロ整形
162-6001	162-3	須恵器	杯	口縁1/10 体部1/10	12.8	6.5+		不明	口縁部片。体部はやや内彎気味に立ち上がる。口唇は鋭角的で、内側に傾斜する面と稜を持つ。内面はなめらかに内彎する。	きめ細かい胎土	乳灰色	堅緻	覆土中	
162-6010・6011・6002	162-4	土師器	甕	口縁1/5 胴部上半1/5	20.5	11.1+	(20)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、端部で面を作って終わる。端部外面には1条の凹線がめぐる。口唇は丸味を持ち直立する。胴部は肩部で最大径となり底部に向かって内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリ。内面ヘラナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	暗褐色	堅緻	カマド内覆土中	
162-6010	162-5	土師器	甕	口縁1/5 胴部上半1/5	19.1	9.9	(17.4)	不明	口縁部の厚いやや雑な作り。口縁部は頸部から浅く外反して立ち上がる。口唇は外側に鋭角的に尖り気味で、外面は丸くおさまる。端部外面には口縁を継ぎ足した接合痕が見られる。胴部は肩部でやや張るが底部に向かって内彎を続ける。口縁部横ナデ。胴部外面は肩部で縦方向(上下)のヘラケズリを繰り返す。内面はヘラナデ。	きめ細かい胎土	暗褐色 淡褐色	堅緻	カマド内	
162-6010	162-6	土師器	甕	口縁部1/10	20.9	5.3+	(18)	不明	口縁部は頸部から強く外反する。口唇はぶ厚く丸味を帯びる。胴部はあまり張らない。口縁部横ナデ。胴部外面は幅の広い縦位(上下)のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	カマド内	
162-6010	162-7	土師器	甕	胴部1/3	不明	15.4+	19.7	不明	胴部片。胴部は内彎しながら立ち上がる。外面は縦方向(上下)のヘラケズリを数度にわたり繰り返して施し、下位部分に横(左右)、斜方向(左上右下)のヘラケズリを施す。内面は器面の剝離が著しいため不明瞭だが、ヘラナデ。	きめ細かい胎土	暗褐色 淡褐色	良好	カマド内	
162-6002	162-8	土師器	甕	胴部下半1/2 底部1/2	不明	4.1+	不明	5.3	底部片。胴部は底部から内彎気味に立ち上がる。外面には横方向(左右)、斜方向(左上右下)の乱雑なヘラケズリを施している。底部は不定方向のヘラケズリ。内面ナデ。	きめ細かい胎土	こげ茶褐色 淡褐色	堅緻	覆土中	
162-6002	162-9	土師器	甕 (小型)	口縁1/20 胴部上半1/6	12.4	5+	13.2	不明	やや雑な作り。口縁部は頸部から浅く直線的に外傾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。胴部は肩部で最大径となる。口縁部横ナデ。胴部外面は削り幅の広いシャープな縦位(上下)のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	長石粒を多く含むきめ細かい胎土	黒褐色 淡黒褐色	堅緻	覆土中	
162-1002	162-10	土師器	甕 (小型)	口縁部1/3	13.6	4.2+	不明	不明	全体に厚手で重畳感のある小型甕。口縁部は頸部から「く」の字状、直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。口縁部内面には頸部とをつなぎ合わせた接合痕が見られる。胴部は肩部で大きく張るようである。胴部外面は削りの広い縦位(上下)のヘラケズリ。頸部付近に何度か削ったような痕跡が残る。内面はヘラナデ。	きめ細かい胎土	黒褐色 暗茶褐色	堅緻	カマド右脇の床面(+2)	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器 種	遺 存 度	計測値 (cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
162-6001	162-11	須恵器	甗	口縁3/10 胴部3/10	30.8	13.6+	(28)	不明	口縁部は頸部で小さく強く外反して端部で断面三角形の凸帯を形成して終わる。口唇は鋭角的で直立する。胴部は頸部から全く張らずに内彎を続けて底部に至る。把手は小さく四角錐台で、胴部を四角に切り込み埋め込んでいる。胴部外面は平行タタキ目で叩き、タタキ目を消すように螺旋状凹線を胴部にめぐらす。内面はアテ具を消すようにヘラナデで消す。部分的に指による押圧痕が残る。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡茶灰色	堅緻	覆土中	千葉地域産
162-6010	162-12	須恵器	甗 (大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。かなりの厚味がある。外面は粗く目の詰まった平行タタキ目で叩いている。全面に朱が付着。内面は幅広いヘラナデを施している。	白色粒を含むきめ細かい胎土	青灰色 灰色	堅緻	カマド内	朱付着
167-6011	167-1	土師器	杯	口縁1/8 体部1/8 底部3/5	13.2	4.5		6.8	クロロ整形。端正で整った作り。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。内面はなめらかに内彎する。体部外面下端に回転ヘラズリ(クロロ右回転)。底部回転糸切り後、全面回転ヘラズリ(クロロ右回転)。	きめ細かい胎土	明褐色	堅緻	カマド内	クロロ整形
167-6013	167-2	土師器	杯	口縁1/5 体部3/10	14	4.3		6.4	クロロ整形。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は外側に尖る。体部外面にはクロロ整形による凹凸が明瞭に見られ、下端に回転ヘラズリ(クロロ右回転)。底部は欠損のため整形調整は不明。	きめ細かい胎土	淡茶色	堅緻	カマド内	クロロ整形
167-6012	167-3	土師器	杯	口縁1/2 体部1/2 底部2/3	12.6	4.2		7.2	クロロ整形。歪みのある雑な作り。体部は底部から外傾して立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。体部外面にはクロロ整形による凹凸が顕著に見られる。外面下端に回転ヘラズリ(クロロ方向不明)。底部は摩耗しているため不明。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	やや甘い	カマド内	クロロ整形
167-6013	167-4	土師器	杯	口縁1/6 体部1/6 底部1/20以下	18	4.4		8.7	クロロ整形。器高の低い外側に開く杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面下端に回転ヘラズリ(クロロ右回転)。底部はわずかの残存のため整形調整は不明。	長石粒を多く含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	カマド内	クロロ整形
167-6012	167-5	土師器	杯	口縁1/20 体部1/3 底部1/5	14.4	4.9		8.4	クロロ整形。体部は底部から直線的に外傾し、端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を帯びる。体部外面下半には4条の凹線が体部をめぐる。底部は回転糸切り(クロロ方向不明)後、回転ヘラズリ？	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド内	クロロ整形
167-6013	167-6	土師器	杯	口縁1/7 体部1/7	12.6	4.3 復元		6.3 復元	クロロ整形。薄手で丁寧な作り。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。体部内面にはクロロ整形による凹凸が明瞭に見られる。底部は欠損のため整形調整は不明。	砂粒を含むきめ細かい胎土	明褐色	堅緻	カマド内	クロロ整形
167-6013	167-7	土師器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部1/1	13.2	4.4		5.8	クロロ整形。口径に比して底径が1/2以下。体部は底部から外傾し、口縁端部で外反して外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面にはクロロ整形による凹凸が顕著に見られる。底部は回転糸切り(クロロ右回転)、再調整なし。切り離しの際に体部下端に指のアテが見られ、粘土が被っている。	長石粒、黒色粒をわずかに含むきめ細かい胎土	明褐色 淡褐色	堅緻	カマド内	クロロ整形
167-6012	167-8	土師器	杯	底部1/1	不明	1.7+		5.6	底部片。クロロ整形。体部外面下端には切り離しの際の粘土の被りが残る。底部は回転糸切り(クロロ右回転)、再調整なし。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	カマド内	
167-6013	167-9	土師器	杯	底部1/1	不明	0.7+		5.4	底部片。クロロ整形。体部外面下端には切り離しの際の粘土の被りが残る。底部は回転糸切り(クロロ右回転)、再調整なし。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド内	
167-6012	167-10	土師器	皿	口縁1/15 体部1/6 底部1/6	14	2.4		7.5	クロロ整形。厚手の皿。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。体部外面下端に回転ヘラズリ(クロロ右回転)。底部は回転糸切り後、回転ヘラズリ(クロロ方向不明)。	長石粒を含むきめ細かい胎土	橙色	良好	カマド内	クロロ整形
167-6013	167-11	土師器	皿	口縁1/16 体部1/8 底部1/20以下	14	2.3		6.8	クロロ整形。端正で整った作り。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部で外反して終わる。口唇は外側に鋭角的に尖る。体部外面下端に回転ヘラズリ(クロロ右回転)。底部回転ヘラズリ(クロロ右回転)。	長石粒をわずかに含む極めて良質の胎土	淡褐色	堅緻	カマド内	クロロ整形
167-6013	167-12	土師器	甗	口縁1/10 胴部上半1/5	20.1	15	(18.6)	不明	歪みのある雑な作り。口縁部は厚味があり、頸部から浅く内彎気味に立ち上がり、凹線を持つ端部に至って終わる。口唇は丸味を帯びる。胴部は肩部で張るが底部に向かって内彎する。口縁部は横ナデを行った後、外面に指による押圧を繰り返す。胴部外面は頸部から縦位(上下)のヘラズリを行った後、下位部分を斜方向(左上右下)のヘラズリを施す。内面はヘラナデ。	長石粒を多く含む雑な胎土	暗褐色	良好	カマド内	
167-6012・6013	167-13	土師器	甗	口縁部1/5	19.5	5.2+	不明	不明	丁寧な作り。口縁部は頸部から「く」の字状直線的に外傾し、丸味を持つ口唇に至って終わる。外面はヘラ状工具による強い横ナデ。胴部外面はケズリのはっきりとした縦位(上下)のヘラズリを施す。内面はヘラナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド内	
167-6013	167-14	土師器	甗	口縁部1/8	21	5.3+	(8.5+)	不明	口縁部は頸部から強く屈曲、やや内彎して立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。胴部は肩部でやや張る。口縁部横ナデ。胴部外面は幅広い縦位(上下)のヘラズリ。内面はヘラナデ。	きめ細かい胎土	こげ茶色	堅緻	カマド内	
167-6013	167-15	土師器	甗	口縁部1/10	26.1	5+	(23.9)	不明	須恵器風で端正で丁寧な作り。口縁部は頸部から強く外傾し、端部で屈曲、垂直気味に立ち上がる。端部外面には凹線がめぐる。口唇は外側に丸味を持つ。胴部は肩部でわずかに張るが内彎すると思われる。口縁部は丁寧な横ナデ。胴部外面は肩部付近から縦位(上下)のヘラズリを施す。内面はヘラナデ。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド内	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
167-6012・ 6013	167-16	土師器	甕	胴部下半 1/6 底部1/6	不明	4.4+	不明	16.8	平底の甕底部片。胴部は底部から直線的に外傾する外面には幅の広い横方向(左右)のヘラケズリを施す。外面にスス付着。底部は不定方向のヘラケズリ。内面は器面の刻 彫、荒れが著しいため不明瞭だが、底部との境目付近に指による押圧痕が認められる。	長石粒、石英粒を多く含むきめ細かい胎土	黒褐色 茶褐色	堅緻	カマド内	
167-6013	167-17	須恵器	甕 (大型)	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。外面は目の粗い平行タタキ目で叩く。内面は不明瞭だが、指の押圧痕が認められる。	きめ細かい胎土	暗赤褐色 淡茶褐色	堅緻	カマド内	千葉地域 産
167-6014	167-18	須恵器	長頸甕?	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部上半部分。外面には自然釉が付着。ロクロ整形による弱い凹凸が見られる。内面は横ナデ痕が明瞭。	白色粒を含むきめ細かい胎土	淡緑灰色 青灰色	堅緻	カマド内	
169-1006	169-1	土師器	杯 (大型)	口縁3/10 体部1/2 底部9/10	15.6	4.5		7.6	ロクロ整形。丁寧な作りの大型杯。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部で屈曲、大きく外反して終わる。口唇は丸味を帯びる。体部外面にはロクロ整形による凹凸が明瞭に見られる。下端に回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。底部は削りのはっきりとした回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。内面は見込み部分高まる。	長石粒を含むきめ細かい胎土	明褐色	堅緻	カマド右 袖の上	ロクロ整形
169-6010	169-2	土師器	杯	口縁1/8 体部1/8	14	4 復元		9.2 復元	ロクロ整形。丁寧な作り。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口縁部内側には凹みがめぐる。	きめ細かい胎土	淡暗褐色 淡褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形
169-6009	169-3	土師器	杯	口縁1/6 体部1/6	12.6	4.3 復元		8.5 復元	ロクロ整形。やや小振りな杯。体部は底部から垂直気味に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部内外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、体部外面下端に回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。底部は欠損のため整形調整は不明。	きめ細かい胎土	淡茶褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
169-1004・ 1006・6010・ 6002	169-4	土師器	椀	口縁1/2 体部1/2 底部1/1	16.6	6.2		8.2	ロクロ整形。底部はやや丸底気味。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は内側に傾斜する面と接する。体部外面には3本の凹線がめぐる。下端に削りの細かい手持ちヘラケズリ。底部は不定方向の手持ちヘラミガキ。内面は体部に横方向の入念なヘラミガキ。底部に市松模様状の丁寧なヘラミガキを施した後、黒色処理。	長石粒を含むきめ細かい胎土	明褐色 黒褐色	堅緻	カマド右 正面の床 面(+5)	ロクロ整形 黒色処理
169-6002	169-5	須恵器	杯	口縁1/7 体部1/7 底部1/2	13.5	4		7.2	ロクロ整形。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部で屈曲し、外反して終わる。口唇は丸味を帯びる。体部内・外面にはロクロ整形による凹凸が明瞭に見られる。体部外面下端には幅の狭い回転ヘラケズリ(ロクロ左回転)。底部は回転ヘラ切り後、底部中央を残して外周を一方方向のヘラケズリを行っている。	長石粒、石英粒を多く含むやや雑な胎土	黒茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域 産
169-1003	169-6	須恵器	杯	口縁3/10 体部3/10 底部1/5	13.6	4.7		7.6	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾する。口唇は丸味を帯び、やや外側を向く。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。下端に手持ちヘラケズリ。底部には単一方方向の手持ちヘラケズリ。内面は完全ではないが黒色処理をしている。	長石粒を多く含むきめ細かい胎土	黄褐色 黒茶褐色	堅緻	南側壁際 の床面 (床直)	千葉地域 産 ロクロ整形 黒色処理
169-6010	169-7	須恵器	杯	口縁1/6 体部1/6 底部1/1	14	4.6		7	ロクロ整形。やや歪みのある雑な作り。体部は底部から外反気味に立ち上がり、丸味を持つ口唇に至って終わる。体部内・外面、底部内面にはロクロ整形による凹凸が明瞭に見られる。体部外面下端に削り幅の狭く長い手持ちヘラケズリを施す。底部は単一方方向の手持ちヘラケズリを施す。	長石粒を多く含むやや雑な胎土	暗茶褐色	堅緻	カマド内	千葉地域 産 ロクロ整形
169-1005・ 6001	169-8	須恵器	杯	口縁1/2 体部1/2 底部1/1	13	4.3		6.8	やや歪みがあり、器面が摩耗している。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面には火だすきが認められる。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	明灰色	堅緻	カマド左 正面の床 面(+20)	
169-1002	169-9	須恵器	高台付 椀	体部1/4 底部1/1	不明	3+		12.5 高台 11.2	底部片。体部は直線的に外傾する。底部は回転糸切りの痕跡が残り、高台部を貼り付けた後、回転による横ナデを行っている。底部内面はロクロ整形による横ナデ痕が同心円状に残り、見込み部分へこむ。	きめ細かい胎土	乳灰色	堅緻	南側壁際 の床面 (+20)	
169-1001	169-10	土師器	甕	胴部1/3 底部1/1	不明	3+	不明	6	底部片。胴部は内彎しながら立ち上がる。外面にはやや斜方向(左上右下)のヘラケズリを施す。外面スス付着。底部は未調整のまま。内面ヘラナデ。	きめ細かい胎土	暗褐色 明褐色	堅緻	南側壁際	
169-6010	169-11	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。外面は平行タタキ目で叩く。内面は指によるナデおよび押圧。	きめ細かい胎土	茶褐色	堅緻	カマド内	千葉地域 産
169-6001	169-12	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部下半部破片。外面は平行タタキ目で叩いた後、部分的にすり消す。内面は指によるナデおよび押圧。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	黒茶褐色 黄褐色	堅緻	覆土中	千葉地域 産
169-6001	169-13	須恵器	甕	口縁部1/9	22.7	2.7+	不明	不明	口縁部片。口縁部は外反しながら端部で断面扁平な三角形の凸帯を作って終わる。口唇は鋭角的に直立する。	長石粒を多く含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
176A-1001	175-1	土師器	甕	口縁1/20 胴部上半 1/10	20.6	8.4+	(19.6)	不明	口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、端部で屈曲して立ち上がる。端部外面には1本の凹線が見られる。口唇は鋭角的に尖り気味で、内側に凹面を作る。胴部は肩部で張る。口縁部横ナデ。胴部外面は削りのはっきりとした縦位(上下)のヘラケズリ。内面はヘラナデ?	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	暗褐色	良好	西側壁際 の床面 (床直)	176A - 1001
175-6001	175-2	須恵器	広口短 頸甕?	胴部1/15	不明	6.8+	18.8	不明	胴部上半片。胴部は張らず、円柱状で肩の張った器形。外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。肩部付近には自然釉が付着。内面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕がよく残る。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
175-6001	175-3	土師器	台付鉢 (大型)	口縁部1/9	35.6 復元	5.2+		不明	口縁部片。口縁端部欠。ロクロ整形?口縁部は底部から大きく外反する。内外面にはロクロ整形によって形成された様な凹凸が見られ、横ナデ痕が認められる。内面は器面が荒れている。	長石粒、石英粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色 淡褐白色	堅緻	覆土中	ロクロ整形?

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
179-1010	179-1	土師器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部1/1	16.5	5.5		8.9	非ロクロ。丸底風の大型杯。体部は底部から内彎して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面は削りの細かい横方向の手持ちヘラケズリを口縁部付近まで行い、部分的に横方向のやや乱雑なヘラミガキを施す。部分的に赤彩の痕跡が残る。底部は木葉痕状、小枝状の圧痕が見られ、外縁を手持ちヘラケズリで整形する。内面は横ナデを行っている。	長石粒、赤色スコリア、黒色粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	カマド右側の床面(+3)	非ロクロ赤彩土器
179-1003	179-2	土師器	杯	口縁1/2 体部1/2 底部3/5	15.3	5.4		8	非ロクロ。丸底風の杯。体部は底部から内彎して立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。口縁部横ナデ。体部外面は削りの細かい斜方向の手持ちヘラケズリ。底面は不定方向の手持ちヘラケズリ。内面はなめらかに内彎し、丁寧な横ナデ。見込み部分やや高まる。	石英粒、長石粒を含むきめ細かい胎土	明褐色	堅緻	カマド左正面の床面(+23) 覆土中	非ロクロ
179-1009	179-3	土師器	杯 (大型)	口縁1/4 体部1/4 底部1/20	17	5.6		11.1	非ロクロ。大型で丁寧な作り。器面の摩耗が著しい。体部は底部から内彎して立ち上がる。口唇は鋭角的に尖る。口縁部横ナデ。体部外面は削り幅の広い斜方向の手持ちヘラケズリで整形する。底部は不定方向のヘラケズリで整形。内面は横ナデを行いなめらかに内彎する。	微砂粒、赤色スコリア、長石粒を含むざらした胎土	褐色 淡明褐色	良好	カマド右側の床面(+5)	非ロクロ
179-1002・6002	179-4	土師器	杯	口縁1/7 体部1/7 底部4/5	14.2	3.8		9	非ロクロ。器高の低い丸底風の杯。体部は底部から内彎し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。口縁部横ナデ。体部外面は削りの細かい横方向の手持ちヘラケズリで整形後、全面赤彩する。底部は小枝状の圧痕が見られ、一定方向のヘラケズリで整形。内面は横ナデ。	黒色粒、石英粒を含むきめ細かい胎土	淡赤褐色 暗赤褐色	堅緻	カマド左側の柱穴内(P1)	非ロクロ赤彩土器
179-1005・6002	179-5	土師器	杯	口縁1/7 体部3/5 底部1/1	12.9	4.2		6	非ロクロ。丸底風の杯。体部は底部から内彎して立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。口縁部横ナデ。体部外面は削りの細かい斜方向の手持ちヘラケズリで整形する。内面はなめらかに内彎し、中位付近を中心にして横方向を主体とするやや乱雑なヘラミガキを施す。	長石粒、黒色粒を多く含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	中央西側の床面(+13)	非ロクロ
179-6002	179-6	土師器	杯	口縁1/4 体部1/4 底部1/20	12.8	4.6		6	非ロクロ。器内の薄い丸底風の杯。体部は底部から内彎して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。口縁部横ナデ。体部外面は削りの細かい斜方向の手持ちヘラケズリで整える。底部は丸底気味で不定方向の手持ちヘラケズリで整形する。内面は横ナデ。	黒色粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	覆土中	非ロクロ
179-6002	179-7	土師器	杯	口縁1/2 体部1/2 底部9/10	12.6	4.7		7	非ロクロ。丸底風の杯。体部は底部から内彎して立ち上がり、口縁端部でさらに内彎を強めて終わる。口縁部は厚く丸味を持ち、口唇はやや鋭角的に尖る。口縁部横ナデ。体部外面は削りの細かい横方向の手持ちヘラケズリで器面をカットするように整形する。底部は平底で、不定方向のヘラケズリで整形する。内面は、口縁端部を丸く成形し、やや屈曲して底部に向かって内彎する。見込み部分やや高まる。器面は横ナデを行っているが、やや椎で凹凸やカキ傷が残る。	長石粒、黒色粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	覆土中	非ロクロ
179-1006	179-8	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5 底部1/20	14.4	4.4		7.6	非ロクロ。丸底風の杯。体部は底部から内彎しながら口縁端部でさらに内彎を強めて終わる。口唇は丸味を持つ。口縁部横ナデ。体部外面は削りの細かい斜方向の手持ちヘラケズリで整形する。底部は不定方向のヘラケズリを行い、体部との境目に明瞭な稜を作る。内面は口縁端部を丸く成形し、やや屈曲して底部に向かって内彎する。器面は横ナデの後、横方向の丁寧なヘラミガキを行う。	長石粒、黒色粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	カマド左正面の床面(+17)	非ロクロ
179-1007	179-9	土師器	杯	口縁1/6 体部1/6 底部1/20以下	13	4		8.8	非ロクロ。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部で屈曲して立ち上がる。口唇は鋭角的に尖る。内面はなめらかに内彎し、下端と底部との境目にはっきりとした屈曲が見られる。口縁部横ナデ。体部外面は削りの細かい手持ちヘラケズリ。底部手持ちヘラケズリ。	赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡褐色 明褐色	良好	中央東側の床面(+10)	非ロクロ
179-6010	179-10	土師器	杯	口縁1/8 体部1/8	13.4	3.5 復元		9.4 復元	非ロクロ。体部は底部から内彎しながら立ち上がる。口唇は鋭角的に尖る。口縁部横ナデ。体部外面は手持ちヘラケズリ。内面は弱いヘラミガキを施している。	きめ細かい胎土	明褐色	良好	カマド内	非ロクロ
179-6002	179-11	土師器	杯	口縁1/20 体部1/10 底部1/10	13.1	3.7		9.3	非ロクロ。体部は底部から内彎しながら立ち上がる。内面は内彎し下端と底部との境目に明瞭な屈曲が見られる。口縁部横ナデ。体部外面は削りの細かい手持ちヘラケズリ。底部は削りのはっきりとした不定方向の手持ちヘラケズリ。内面は横ナデ痕が明瞭に残る。	微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	非ロクロ
179-6002	179-12	土師器	杯	口縁1/10 体部1/10 底部1/20以下	12.8	3.8		8	非ロクロ。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。体部内面と底部との境目にははっきりとした屈曲が見られる。体部外面は摩耗しているため不明瞭だが、手持ちヘラケズリ。底部手持ちヘラケズリ。内面は横ナデ痕が明瞭に残る。	白色針状物質、長石粒をわずかに含む	褐色	良好	覆土中	非ロクロ
179-6002	179-13	土師器	杯	口縁1/9 体部1/9 底部1/20以下	12.6	3.9		9.8	非ロクロ。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。体部外面は削りの細かい手持ちヘラケズリ。底部手持ちヘラケズリ。内面は横ナデ痕が明瞭に残る。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡こげ茶色	堅緻	覆土中	非ロクロ
179-1007	179-14	土師器	杯	口縁1/8 体部1/8 底部1/15	12.8	3.8		7.8	非ロクロ。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。体部内面は中位あたりで厚味を増し、底部に向かってなめらかに内彎する。口縁部横ナデ。体部外面は削りの細かい手持ちヘラケズリ。底部手持ちヘラケズリ。	赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	明褐色 淡褐色	良好	中央東側の床面(+10)	非ロクロ

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値 (cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
179-6002	179-15	土師器	杯	口縁1/20 体部1/7 底部1/6	12.6	3.9		7.4	非ロクロ。体部は底部から内彎しながら立ち上がる。口唇は鋭角的に尖る。内面はなめらかに内彎し、下端と底部との境目にはっきりとした段が見られる。口縁部横ナデ。体部外面は削り幅の広い手持ちヘラズリで一周する。底部は不定方向のヘラズリ。	きめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	覆土中	非ロクロ
179-6002	179-16	土師器	杯	口縁3/5 体部3/5 底部3/5	12.8	4		8.2	非ロクロ。全体的に歪みのある軽い感じの杯。体部は底部から直線的に外傾し口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面はざっくりと幅広く削る手持ちヘラズリで一周する。底部は部分的に手持ちヘラズリで整形する。内面は横ナデ。底部との境目に明瞭な段が見られる。外面の地色は褐色だが、半分以上淡黒褐色に変色している。	微砂粒を多く含むざらざらした胎土	淡黒褐色 (褐色) 淡明褐色	良好	覆土中	非ロクロ
179-6002	179-17	土師器	杯	口縁1/8 体部1/8 底部1/15	12	3.5		7.8	非ロクロ。体部は底部から内彎しながら立ち上がる。口唇は鋭角的に尖る。内面はなめらかに内彎し、下端と底部との境目にはっきりとした屈曲が見られる。口縁部横ナデ。体部外面は削り幅の大きい連続した手持ちヘラズリで一周する。底部は手持ちヘラズリ。	きめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	非ロクロ
179-1008	179-18	須恵器	蓋	裾口縁部1/1 体部1/1	14.6	3.2+			つまみ部分欠失。体部外面は天井部分から丸味を持って緩やかに内彎し、水平の裾部に至る。裾端部は凹面状に屈曲し、やや外反気味に口唇に至る。口唇は外側を向き丸味を帯びる。天井部外面の2/3程度を削りの弱い回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形によるカキ目が目立って見られる。	白色針状物質、長石粒を含むきめ細かい胎土	淡茶灰褐色 淡青灰褐色	堅緻	カマド右脇の床面(床直)	
179-6011・6001	179-19	須恵器	長頸壺	胴部2/5	不明	10+	16	不明	胴部片。胴部は肩部で張り、底部に向かって内彎する。内面にはロクロ整形による凹凸がよに残る。外面には白黄褐色の自然釉が肩部を中心として多く付着。	白色粒、白色針状物質をわずかに含むきめ細かい胎土	淡茶灰色 青灰色	堅緻	カマド内覆土中	
179-6001	179-20	須恵器	高台付杯	底部1/2	不明	1.2+	不明	9 高台9.2	底部片。底部外面は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)後、低いがしっかりとした高台を貼り付ける。高台の底面は凹面状。底部内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に残る。	白色粒をわずかに含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
179-6001	179-21	須恵器	高台付杯	口縁1/20 体部1/12 底部1/6	16.7	6.4		13.2 高台11.5	体部は底部から直線的に外傾する。口唇は鋭角的に直立。体部内外面にロクロ整形による凹凸が明瞭に見られ、外面には自然釉が付着。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)後、高台部を貼り付けて横ナデを施す。	白色粒をわずかに含むきめ細かい胎土	青灰色 灰色	堅緻	覆土中	
179-6010	179-22	土師器	台付甕	胴部下半2/3 底部1/1	不明	3+	不明	4.6	底部片。器肉の非常に薄い作り。底部内外面の器面は剥離してかなり荒れている。外面には白っぽい付着物あり。胴部は底部から内彎しながら立ち上がる。胴部は底部に貼り付ける。胴部外面は斜方向(右下左上)の削りの細かいヘラズリを施し、脚部との接合部を指による押圧で整える。底部内面はナデ。胴部内面ナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	白褐色 褐色	良好	カマド内	
179-6002	179-23	土師器	台付甕	底部1/8 脚部1/8	不明	3.2+	不明	4.2 脚部8	底部～脚部片。脚部は厚味があり低いがしっかりとした踏ん張りを出す。外面は指によるナデ。内面についても指によるナデ。	きめ細かい胎土	暗褐色	良好	覆土中	
179-6002	179-24	土師器	甕	破片のため不明	不明	10.7	27+	不明	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。把手は三角形の粘土塊を胴部に押しつけて貼っている。外面は縦位(上下)の弱いヘラズリで整える。内面は把手の裏側部分については指による押圧、ナデで整え、横方向のヘラナデを施す。	長石粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	覆土中	
179-6002	179-25	土師器	甕	胴部1/4 底部1/3	不明	12.4+	不明	11.2	胴部～底部片。丁寧な作り。胴部は底部から直線的に外傾する。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリを行った後、下位部分を横方向(左右)の削りのはっきりとしたヘラズリで整える。内面は中位付近をハケメのはっきりとした横方向(左右)のヘラナデ、下位に部分的に縦方向(上下)の弱いヘラナデを施す。底部は不定方向のヘラズリ調整を行った後、孔をくりぬく。孔は欠損しているため不明確だが4孔と思われる。孔の部分の底部端部は横方向のヘラズリで整えているが、鋭角的に尖っている。	きめ細かい胎土	褐色	堅緻	覆土中	
179-6002	179-26	土師器	甕(小型)	口縁部1/9	12.2	4.3	不明	不明	小振りの小型甕。口縁部は頸部から直立気味に立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。胴部は肩部で張る。口縁部は強い横ナデ。胴部外面は横方向(左右)のヘラズリ。内面ヘラナデ。	長石粒を含むやや雑な胎土	淡こげ茶色	良好	覆土中	
179-1001	179-27	土師器	甕	胴部1/8 底部1/8	不明	4.2+	不明	8	底部片。比較的大径のある平底。胴部は底部から直線的に外傾する。外面は縦方向(上下)のヘラズリを行い、底部付近に横方向(左右)のヘラズリで整える。底部不定方向のヘラズリ。内面は斜方向(左下右上、左上右下)のヘラズリを交互に行う。	長石粒、小石を含むやや雑な胎土	褐色	堅緻	カマド左脇の柱穴内(P1)	
179-6002	179-28	土師器	甕	口縁1/6 胴部上半1/6	22.6	7.7+	不明	不明	武蔵型甕。器肉の比較的薄い作り。口縁部は頸部から「く」の字状に長く外反する。口唇は丸味を持つ。胴部は肩部で張る。口縁部は強い横ナデ。胴部外面の肩部はざっくりと深く削り取る横方向(左右)のヘラズリを施す。内面はヘラナデ。	長石粒、赤色スコリアを多く含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	武蔵型甕
179-1004	179-29	土師器	甕	口縁部2/5	26.4	6	(22.2)	不明	口縁部片。口縁部は頸部から強く屈曲、水平気味に外反する。口唇は丸味を持ち、上方につまみ上げるようにおさめる。胴部は肩部で張る。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のやや削りの弱いヘラズリで整形する。内面は頸部付近に横方向の明瞭なヘラナデを施す。	白色針状物質を含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	中央西側の床面(+20)	
179-6001	179-30	須恵器	甕	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。外面は平行タタキ目を斜方向に交互に叩く。内面は縦方向のヘラズリを行う。	きめ細かい胎土	灰色 灰茶色	堅緻	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器 種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	(色・調 外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
179-6011	179-31	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。外面はやや弱い平行タタキ目で叩く。内面ナデ。	雲母粒、白色粒、石英粒を多く含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	カマド内	
179-6001	179-32	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。外面は、タタキ板で叩いた後、大方ナデ消す。内面は指によるナデ。	雲母粒を多量に含み、長石粒、砂粒を含むきめ細かい胎土	灰茶色	堅緻	覆土中	
179-6001	179-33	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。外面は目の長い平行タタキ目で叩く。内面は同心円文状のアテ具で叩いた後大方ナデ消す。	やや白っぽいきめの細かい胎土	灰茶色	堅緻	覆土中	
179-6001	179-34	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。厚味のある破片。外面は目のはっきりとした平行タタキ目で格子状に叩く。内面は不定方向のヘラケズリを施す。	きめ細かい胎土	灰白色 灰色	堅緻	覆土中	
179-6001	179-35	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部上半部分。外面は平行タタキ目を密に叩き、螺旋状の凹線をめぐらす。内面は同心円状のアテ具で叩いた後、全体にナデ消す。	白色粒を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
179-6001	179-36	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。外面は目のはっきりとした平行タタキ目で叩く。内面はアテ具痕をナデ消す。	きめ細かい胎土	青灰色 灰茶色	堅緻	覆土中	
180-1004	180-1	土師器	杯	口縁1/7 体部1/7 底部1/15	12.5	3.4		9	非ロクロ。底部、体部が厚く、口縁部にいくに従い減ずる。全体的に摩耗が著しい。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。口唇は鋭角的に尖る。体部内面と底部との境目には明瞭な段が見られる。口縁部横ナデ。体部外面、底部は摩耗のため不明瞭だが手持ちヘラケズリ。内面横ナデ。	微砂粒を含むきめ細かい胎土	明褐色 こげ茶色	良好	北西隅の床面(+10)	非ロクロ
180-6002	180-2	土師器	杯	口縁1/10 体部1/7 底部1/10	12.3	3.5		8.5	非ロクロ。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。体部内面と底部との境目には明瞭な段が見られる。口縁部横ナデ。体部外面は摩耗が著しいため不明瞭だが、削りの広い手持ちヘラケズリ。底部手持ちヘラケズリ。内面は横ナデ痕が明瞭に残る。	微砂粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	非ロクロ
180-6002	180-3	土師器	杯	口縁1/7 体部1/7 底部1/20以下	12.5	3.6		9.2	非ロクロ。器肉の分厚い作り。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は鋭角的に尖る。内面はなめらかに内彎する。口縁部横ナデ。体部外面は摩耗して不明瞭だが手持ちヘラケズリ。底部手持ちヘラケズリ。内面横ナデ。	微砂粒を含むきめ細かい胎土	こげ茶色	良好	覆土中	非ロクロ
180-1001・6002	180-4	須恵器	杯	口縁1/4 体部2/5 底部2/5	14.4	4.3		8.5	体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部でやや外反して終わる。口唇は外側に外向く、底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。体部外面下端には切り離しの際の指のアテが見られる。	黒色粒を多く含むきめ細かい胎土	灰色 灰茶色	堅緻	中央床面(床直)	
180-6001	180-5	須恵器	杯	口縁1/6 体部1/6 底部1/20	12.4	3.6		8.5	体部は直線的に外傾し、口縁端部でやや外反して終わる。口唇は外側に鋭角的に尖る。体部内・外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。底部回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。内・外面に火だすき。	黒色粒を含む白っぽい胎土	灰白色 灰茶色	堅緻	覆土中	
180-6011・179-6001	180-6	須恵器	高台付杯	口縁1/4 体部1/4	17.6	5.6+		14	口縁部～体部片。体部は底部から直立気味に外傾して立ち上がる。口唇は外側に鋭角的に尖り、内側に傾斜する面と稜を持つ。体部内・外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られる(ロクロ左回転?)。	白色粒、黒色粒を含むきめ細かい胎土	黒茶灰色 淡青灰色	堅緻	カマド内 179号 住 覆土中	
180-6001	180-7	須恵器	杯	口縁1/4 体部1/4	12.2	3.5+		不明	小振りな杯で、体部は底部から内彎しながら立ち上がり、口縁端部でやや外反して終わる。口唇は非常に薄く、外側に鋭角的に尖る。内面はなめらかに内彎する。	黒色粒をわずかに含むきめ細かい胎土	灰茶色(内 外面の下部 は黒灰色)	堅緻	覆土中	
180-1002	180-8	須恵器	蓋	口縁5/6 天井部1/1	15.1	3.9	15.5		外面は丸味を持つ天井部から水平の裾部に至る。端部はやや内傾気味に下がる。つまみは宝珠形を呈する。天井部外面は中位あたりでわずかに回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。つまみ周辺、裾部はロクロ整形による横ナデ。内面は横ナデ痕が明瞭に残る。	白色粒をわずかに含むきめ細かい胎土	青灰色	堅緻	南側床面(+8)	
180-1003	180-9	須恵器	蓋	口縁1/3 天井部2/3	18.1	3.5+	18.2		やや大型の蓋。つまみ部分欠落。外面は水平の天井部から内彎しながら下り、やや屈曲して丸味を持つ裾部に至る。端部は垂直に下がる。天井部はロクロ整形による凹凸が明瞭に残り、上位部分は幅広い回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。内面は中心部から裾方向に左渦巻き状の凹凸が見られ(ロクロ右回転)、横ナデ痕が明瞭に残る。	白色針状物質、長石粒を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	南東隅の床面(床直)	
180-6011	180-10	須恵器	高盤	脚部1/5	不明	2.5+		脚径16	脚部片。脚部はなめらかに内彎し、水平の裾部に至る。端部はやや内傾気味に下がる。外面には2条の弱い凹線がめぐる。内・外面ともロクロ整形による横ナデ痕が残る。	きめ細かい白っぽい胎土	灰白色 灰色	堅緻	カマド内	
180-6002	180-11	土師器	甕	口縁1/10 胴部上半1/5	20.9	6.7+	(17.4)	不明	口縁部は頸部から強く外反し、端部で外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。胴部は肩部でやや張るが内彎して底部に向かう。口縁部横ナデ。胴部外面は幅広い縦位(上下)のヘラケズリ。内面は口縁部、頸部付近に幅の狭い明瞭なヘラナデ、胴部は幅の広い横方向のヘラナデを施す。	長石粒を多く含むきめ細かい胎土	淡明褐色 淡明褐色 (口縁部黒斑)	堅緻	覆土中	
180-6002	180-12	土師器	甕	口縁1/20以下 胴部上半1/10	24	9.9+	(20.6)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、端部でやや屈曲して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。胴部はほとんど張らずに底部に向かって内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面には削りの弱い縦位(上下)のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	暗褐色 淡褐色	堅緻	覆土中	
180-6010	180-13	土師器	甕	胴部1/5	不明	10+	21	不明	胴部下半部破片。外面は削りの弱い縦位(上下)のヘラケズリ。内面はヘラナデおよびナデ。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	カマド内	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
180-6002	180-14	土師器	甕	口縁部1/7	24	2.5+	不明	不明	口縁部片。口縁部は頸部から強く長く外反し、端部で屈曲、垂直気味に立ち上がる。口唇は丸味を帯び直立する。口縁部横ナデ。	きめ細かい胎土	明褐色	堅緻	覆土中	
180-6002	180-15	土師器	甕 (小型)	口縁1/10 胴部上半1/10	11.6	6.2+	(11.3)	不明	極小の甕。端正で丁寧な作り。口縁部は頸部から直立気味に外反する。口唇は外側にやや鋭角的に尖る。頸部外面には凹線がめぐる。胴部は肩部でやや張る。口縁部は頸部を含めて丁寧な横ナデを行い、胴部側に部粘土が被る。	きめ細かい良質の胎土	淡褐色 淡明褐色	堅緻	覆土中	
180-6002	180-16	土師器	甕 (小型)	口縁1/20 胴部上半1/7	13.8	5.6+	(12.6)	不明	口縁部は頸部から短く外反し、端部で屈曲して立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。胴部は肩部でやや張る。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(下上)のヘラケズリ。内面はヘラナデの痕跡。	長石粒、微砂粒を多く含む	暗褐色	堅緻	覆土中	
180-6002	180-17	土師器	甕 (小型)	口縁1/10 胴部上半1/10	12.6	3.5+	12.6	不明	小振りで器内の薄い甕。口縁部は頸部から短く直立気味に外傾し、端部で屈曲、内湾気味に立ち上がって終わる。口唇は丸味を帯び、直立気味。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリ。内面ヘラナデ。	長石粒を多く含むやや雑な胎土	暗褐色	良好	覆土中	
182-6011	182-1	須恵器	杯	ほぼ完形	13.8	4.5		7.3	歪みのある雑な作り。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部で外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。体部内・外面、底部内面にはロクロ整形による凹凸が顕著に残る。底部見込み部分は高まる。体部外面下端は5回で一周する削りの長い手持ちヘラケズリで整える。底部は単一方向の手持ちヘラケズリ。	長石粒、石英粒を多く含む雑な胎土	黒褐色 こげ茶色	堅緻	カマド煙道内	千葉地域産
182-6002	182-2	土師器	杯	口縁1/10 体部1/10	13.6	3.1+		不明	ロクロ整形。内面黒色処理。体部は直線的に外傾し、外側にやや丸味を持つ口唇に至って終わる。外面はロクロ整形による凹凸と横ナデ痕が見られる。内面はヘラミガキの後、黒色処理。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色 黒色	堅緻	覆土中	ロクロ整形 黒色処理
182-6002	182-3	土師器	皿	体部1/5 底部1/4	不明	2.4+		7.6	底部片。体部は底部から緩やかに外反する。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ左回転)。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	
182-6012	182-4	須恵器	杯	口縁5/6 体部1/1 底部1/1	12.9	4.4		8.2	体部は底部からやや内湾気味に立ち上がる。口唇は内側に傾斜する面と稜を持ち鋭角的に尖る。体部内・外面には、ロクロ整形による弱い凹凸が見られる。底部はやや上げ底で、回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。体部内面に火だすきが見られる。	白色粒、白色斜状物質をわずかに含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	カマド煙道内	
182-6010	182-5	土師器	甕	口縁2/5 胴部上半3/10	25.6	11.7+	(23.1)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外傾し、端部で屈曲して外側に小さく丸味を持つ口唇に至って終わる。端部外面には凹線がめぐる。胴部は肩部でわずかに張るが底部に向かって内湾する。口縁部の特に外面は強い横ナデ。胴部外面は削りのはっきりとしたやや幅広の縦位(上下)のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	長石粒、石英粒、黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド内	
182-6010	182-6	土師器	甕	口縁1/1 胴部上半1/2	20.3	10+	(19.3)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外傾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。胴部は肩部でやや張る。口縁部外面には輪積みによる接合痕が残る。口縁部横ナデ。胴部外面は削りの弱い縦位(上下)のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	長石粒、砂粒を含むやや雑な胎土	淡こげ茶色	良好	カマド内	
182-6010・6002	182-7	土師器	甕 (小型)	口縁1/5 体部1/4 底部3/5	11.8	9.6+	12.6	不明	小振りな甕。口縁部は短く「く」の字状に外傾する。口唇は丸味を持つ。胴部は丸く球胴で、斜方向(右上左下)のヘラケズリを施した後、胴部肩部から口縁部にかけて左回りの指による横ナデを施す。肩部には指による横ナデ痕が螺旋状に残る。内面は全面にわたり丁寧な横ナデ。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡明褐色 (口縁部付近に黒環)	堅緻	カマド内 覆土中	
182-6010	182-8	土師器	甕 (小型)	口縁部1/4	13.6	3+	不明	不明	口縁部は頸部から直立気味にやや内傾して立ち上がる。口唇は鋭角的に尖る。口縁部横ナデ。頸部外面はヘラ状工具の強い横ナデによる凹線がめぐる。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリ内面横ナデ?	赤色スコリア、長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド内	
182-6001	182-9	須恵器	甕	口縁1/6 胴部1/10	36.2	4.1+	(33.1)	不明	口縁部は頸部からやや外反し、端部で断面扁平な三角形の凸帯を作って立ち上がる。凸帯外面には複雑な稜と、中央部に凹線が見られる。胴部はほとんど張らずに直線的に底部に向かう。把手は四角錐台で、胴部に四角形の切り込めを入れ、埋め込むように貼り付ける。口縁部横ナデ。胴部外面は幅の広く目の粗い平行タタキ目で叩く。内面は頸部付近にヘラナデ、胴部は指によるナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	こげ茶色	堅緻	覆土中	千葉地域産
183-6002	183-1	土師器	杯	口縁1/13 体部1/4 底部1/1	13.2	4		5.5	ロクロ整形。やや歪みのある器高の低い杯。体部は底部から内湾気味に大きく開く。体部外面下端に削り幅の広い手持ちヘラケズリを施す。底部は回転糸切り(ロクロ方向不明)後、全面をざっくりと削る手持ちヘラケズリで整形する。内面はロクロ整形による同心円状の凹凸が見られる。	砂粒を含むざっくりとした胎土	淡褐色 淡黒褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
183-6002	183-2	土師器	杯	口縁1/20 体部1/10 底部1/10	13.4	4.2		5.6	ロクロ整形。体部は底部から内湾気味に立ち上がる。口唇は丸味を帯び、内側にかえり状の稜を持つ。体部内外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。体部外面下端には削りの広い手持ちヘラケズリを施す。底部は不定方向の手持ちヘラケズリ(回転糸切り?)	長石粒を含むきめ細かい胎土	明褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
183-6002	183-3	土師器	杯	口縁1/20 胴部1/10	14.5	4.5 復元		6.5 復元	ロクロ整形。黒色処理。器内の薄い作り。体部は底部から内湾気味に立ち上がり、丸味を持つ口唇に至って終わる。体部内外面にはロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に見られる。体部外面下半に幅の広い手持ちヘラケズリを施す。底部は欠損のため不明。内面はヘラミガキせず直接黒色処理する。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色 黒褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形 黒色処理
183-6002	183-4	土師器	椀	口縁3/10 体部3/10 底部1/20以下	17.1	5.3		7	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾する。口唇は丸味を帯びる。体部外面下端に削り幅の広い長い手持ちヘラケズリで一周する。底部は回転糸切り後、手持ちヘラケズリを施している。内面は横方向の丁寧なヘラミガキを施す。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色・調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
183-6002	183-5	土師器	杯	ほぼ完形	12.9	5.1		5.3	ロクロ整形。灯明用杯。縦長に歪んだ杯。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。外面下端は6回で一周する削りの大きい手持ちヘラクスリで整える。底部は、回転糸切り後、全面にわたり不定方向の手持ちヘラクスリを施す。内面は横ナデ痕がよく残り、口縁部内面の一部に油煙が付着。	赤色スコリア、黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形 灯明用杯
183-1010	183-6	土師器	杯	口縁7/10 体部1/1 底部1/1	13.7	4.8		5.5	ロクロ整形。底部の萎縮した杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。体部外面にはロクロ整形による細かい凹凸痕、横ナデ痕がよく残る。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)後、中央のわずかな部分を残して手持ちヘラクスリを行う。内面はヘラミガキの後、黒色処理(黒色が半分脱色されている)。	長石粒、雲母粒を含むきめ細かい胎土	暗赤褐色 黒褐色(半 分は 淡 褐 色)	堅緻	カマド右 袖の上	ロクロ整形 黒色処理
183-1001	183-7	土師器	杯	完形	12.4	3.9		6.8	ロクロ整形。歪みのある杯。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を帯びる。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。底部内面の見込み部分やや高まる。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。切り離しの際に粘土が体部外面下端に被っている。	石英粒、白色針状物質、長石粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	南側壁隙の床面 (床直)	ロクロ整形
183-1002	183-8	土師器	杯	口縁5/6 体部1/1 底部1/1	12.1	4.2		5.6	ロクロ整形。灯明用杯。縦長に歪みがある。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。口唇は鋭角的に尖る。体部内面にはロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が明瞭に見られる。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。体部外面下端には切り離しの際の指のナデが残る。外周には粘土が被っている。口縁部内外面の一部分に油煙が付着。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	暗褐色 淡黒褐色	堅緻	南側壁隙の床面 (床直)	ロクロ整形 灯明用杯
183-6002	183-9	土師器	杯	口縁7/8 体部7/8 底部1/1	12.8	4.9		5.6	ロクロ整形。灯明用杯。縦長に歪みのある杯。体部は底部から外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による顕著な凹凸が見られる。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。切り離しの際に粘土が外周に被さっている。内面は横ナデ痕が明瞭。口縁部内面の一部に油煙が付着。	赤色スコリア、黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形 灯明用杯
183-6002	183-10	土師器	杯	口縁3/10 体部3/10 底部1/10	13.8	4.5		6.4	ロクロ整形。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。体部内外面にロクロ整形による凹凸が顕著。底部は回転糸切り(ロクロ方向不明)、再調整なし。体部外面下端には切り離しの際の指のアテ痕が見られ、粘土が底部外周に被っている。胎土に大粒の粘土の塊が混入しているため、内外面所々に表面がめくりに上がっている。	きめ細かい胎土だが大粒の粘土塊が混入	褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
183-6010	183-11	土師器	甕	口縁1/2 胴部上半3/10	23.3	17+	(21.5)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状直線的に外傾して立ち上がる。口唇はやや外側に丸味を持つ。胴部は肩部で張り、内彎して底部に向かう。口縁部横ナデ。胴部外面は頸部から縦位(上下)のヘラクスリを施した後、中位付近から横方向(左上右下)のヘラクスリで整える。内面は頸部付近、横方向のヘラナデ。胴部ヘラナデおよびナデ。	長石粒、小石を含むやや雑な胎土	淡明褐色 淡褐色	堅緻	カマド内	
183-6002	183-12	土師器	甕	口縁1/2 胴部上半1/4	22.6	12+	(20.7)	不明	口縁部に歪みあり。口縁部は頸部からやや内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を持ち、外側に沈線をめぐらす。胴部は肩部でわずかに張るが内彎して底部に向かう。口縁部は内外面とも強い横ナデ。胴部外面はケズリの弱い縦位(上下)のヘラクスリ。内面は頸部付近から胴部にかけてはつきりとした横方向のヘラナデ。	長石粒、石英粒をわずかに含むきめ細かい胎土	暗褐色	堅緻	覆土中	
183-6002	183-13	土師器	甕	口縁1/7 胴部1/7	21	15.7+	(19)	不明	口縁部は頸部から内彎気味に立ち上がり、外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。頸部外面には凹線をめぐらす。胴部は長胴で中位付近が最大径となる。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラクスリ。内面は横方向のヘラナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	黒褐色	堅緻	覆土中	
183-6010	183-14	土師器	甕	口縁1/8 胴部1/9	22	6.8+	(20.6)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状直線的に外傾し、端部で外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。胴部は肩部でわずかに張る。口縁部は強い横ナデ。胴部外面はケズリの広い縦位(上下)のヘラクスリを施す。内面は頸部付近にヘラナデ。	長石粒、石英粒を含む	淡褐色	堅緻	カマド内	
183-6002	183-15	土師器	甕	口縁3/10 胴部上半1/5	21	10+	(18.7)	不明	やや厚手の甕。口縁部は頸部から浅く外反し、端部で弱く屈曲して垂直気味に立ち上がる。口唇は丸味を持ち、外側に沈線をめぐらす。胴部は肩部でわずかに張るも内彎する。口縁部は弱い横ナデ。胴部外面は削りのはっきりとした縦位(上下)のヘラクスリを施す。内面は横方向のヘラナデ。	長石粒、白色針状物質を含むきめ細かい胎土	こげ茶褐色 暗褐色	堅緻	覆土中	
183-6010	183-16	土師器	甕	口縁1/6 胴部1/5	16.5	14.9+	20.5	不明	器面の荒れ、摩耗が著しい。胴部に比して口縁部が小さい。口縁部は頸部から「く」の字状直線的に外傾し、端部で外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。胴部は中位あたりで最大径となる。口縁部はヘラ状工具による強い横ナデ。胴部外面は摩耗して不明瞭だが、縦位(上下)のヘラクスリを数度により繰り返す。内面はヘラナデの痕跡が認められる。	赤色スコリアを多く含むやや白っぽい胎土	淡明褐色	堅緻	カマド内	
183-6002	183-17	土師器	甕	口縁1/12 胴部上半1/14	22.1	7.7+	(17.9)	不明	分厚い器肉の甕。口縁部は頸部から強く屈曲、やや内彎気味に立ち上がる。口唇は外側に丸味を持つ。胴部は肩部でわずかに張るが内彎して底部に向かう。口縁部横ナデ。胴部外面は削りの弱い縦位(上下)のヘラクスリ。内面は不明瞭だがヘラナデ?	長石粒を含むやや雑な胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	
183-6002	183-18	土師器	甕 (小型)	口縁1/7 胴部上半1/7	15	4.1+	(13.4)	不明	丁寧な作り。口縁部は頸部から「く」の字状に外傾し、丸味を持つ口唇に至って終わる。胴部はほとんど張らずに下がる。口縁部はヘラ状工具による強い横ナデ。胴部外面は削りのやや弱い縦位(上下)のヘラクスリ。内面はヘラナデの痕跡が認められる。	長石粒を含むきめ細かい胎土	暗褐色	堅緻	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
183-6010・6002	183-19	土師器	甕	胴部1/3	不明	23.8+	23.3	6.8 復元	胴部片。長胴の甕。中位あたりで最大径となり緩やかに内彎して底部に向かう。外面は縦位(上下)のヘラケズリを数度にわたり施した後、底部付近の下位を横方向(左右)のヘラケズリで整える。底部は欠損のため不明。内面はヘラナデ。	長石粒、石英粒を含むきめ細かい胎土	こげ茶褐色 暗褐色	良好	カマド内	
183-6010	183-20	土師器	甕	胴部1/5 底部1/10	不明	9.9+	不明	5.6	胴部下半～底部片。胴部は底部から内彎気味に立ち上がる。外面には横方向(左右)のヘラケズリ。底部ヘラケズリ。内面は縦方向のヘラナデ。	長石粒を含むやや雑な胎土	暗褐色 淡暗褐色	良好	カマド内	
183-6010	183-21	土師器	甕	胴部下半1/2 底部1/3	不明	3.3+	不明	7	底部片。胴部は底部からやや外反気味に立ち上がる。胴部外面は横方向(左右)の削りの広いヘラ削りで整える。底部は不定方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	暗褐色	堅緻	カマド内	
183-6002	183-22	土師器	甕	胴部1/5 底部3/5	不明	3+	不明	5.7	底部片。胴部は底部から直線的に外傾する。外面には横方向(左右)のヘラケズリを施す。底部は不定方向のヘラケズリ、内面ヘラナデ。	赤色スコリア、長石粒を含むきめ細かい胎土	黒褐色 淡褐色	堅緻	覆土中	
190-6001	190-1	土師器	杯	底部1/8	不明	0.9+		7.5	底部片。体部外面下端には回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。底部回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。底部内面の見込み部分やや高まる。ロクロ整形による横ナデ痕が明瞭。	長石粒を含むきめ細かい胎土	くすんだ褐色 褐色	堅緻	覆土中	
190-6001	190-2	須恵器	蓋	天井部1/6	不明	1.9+			天井部片。つまみ部分、裾部欠。天井部は2段に内彎しながら裾部に向かう。外面はつまみ部分周辺に回転ヘラケズリ(ロクロ方向不明)。内面はロクロ整形による横ナデ。	白色粒を含むきめ細かい胎土	暗灰色 灰色	堅緻	覆土中	
202-1005・6001	202-1	土師器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部1/5	14.8	5		6.9	ロクロ整形。黒色処理。墨書。器内の薄い軽い感じの杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、中位でやや屈曲、外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。体部内外面にはロクロ整形による凹凸が残る。体部外面下端には削り幅の広い手持ちヘラケズリ。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)後、全面手持ちヘラケズリで整形調整する。内面は横方向のヘラミガキを入念に行った後、黒色処理。体部外面中央部に縦字で「本」の墨書。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色 黒色	堅緻	カマド右脇の周溝内(直上)	ロクロ整形 墨書 黒色処理
202-6010	202-2	土師器	杯	口縁1/9 体部1/9 底部1/20	14.8	4.4		6.8	ロクロ整形。比較的器内の薄い丁寧な作りの杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は平坦、体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。外面下端に削りの広い手持ちヘラケズリ。底部はざっくりと削る手持ちヘラケズリ。内面は丁寧な横方向のヘラミガキを施す。内面は赤褐色の付着物が全面に付着している(黒色生成物か)。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色 淡赤褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形
202-6001	202-3	土師器	杯	口縁3/5 体部3/5 底部1/1	13.2	4.1		6.6	ロクロ整形。器内の厚いぼったりとした作り。体部は底部から外反気味に立ち上がり、厚く丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面にはロクロ整形による弱い凹凸が見られ、下端を削り幅の狭い手持ちヘラケズリで整える。底部は静止糸切り、外縁を部分的に手持ちヘラケズリで整形する。内面はなめらかに内彎し、見込み部分やや高まる。内面底部中央部にヘラ描きによる文字が見られる。文字は不明。	砂粒を多く含むざらした胎土	褐色	やや甘い	覆土中	ロクロ整形 ヘラ描き 文字
202-1002・6001	202-4	土師器	杯	口縁1/10 体部1/10 底部1/3	13.4	3.6		7.1	ロクロ整形。器高の低い皿状の杯。体部は底部から外反して丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面下端には削り幅の狭く長い手持ちヘラケズリ。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面の底部にはロクロ整形による凹凸が見られる。	長石粒を多く含むやや雑な胎土	淡褐色	堅緻	西側床面(ピット内)	ロクロ整形
202-6010	202-5	土師器	皿	口縁1/7 体部1/7	14	2.8 復元		8 復元	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部で屈曲、外反して外側に丸味を帯びる口唇に至って終わる。体部内外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。体部外面下端には削り幅の広い手持ちヘラケズリ。底部は欠損のため整形調整不明。	長石粒を含むきめ細かい胎土	暗赤褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形
202-6010	202-6	土師器	甕	口縁1/6 胴部上半1/6	20.1	9.2+	(18.7)	不明	口縁部は頸部から強く屈曲外反し、外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。胴部は肩部でやや張るが内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリを数度にわたり行う。内面は横方向のヘラナデ。	長石粒、小石粒を含むきめ細かい胎土	暗褐色	堅緻	カマド内	
203-6002・1014	203-1	土師器	杯	口縁2/3 体部2/3 底部1/1	13	4.4		5.9	ロクロ整形。丁寧な作りだが、歪みのある杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られ、下端に削り幅の狭い回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)を明瞭に残す。内面は凹凸痕が残るが、なめらかに内彎し、見込み部分に同心円状の凹凸がよく残る。	良質のきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド右脇の床面(床直)	ロクロ整形
203-1003	203-2	土師器	杯	完形	13	4.5		5.7	ロクロ整形。全体的に縦長に歪んでいるが端正で丁寧な作り。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、中位あたりでやや外反して丸味を持つ口唇に至って終わる。体部内外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面は横ナデ痕がよく残る。	良質できめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	西側壁際の床面(床直)	ロクロ整形 7枚重なったうちの上から1枚目
203-1002	203-3	土師器	杯	完形	12.4	4.5		5.1	ロクロ整形。底部を切り離れた際に手で持ったため口縁部が歪んでいる。体部は底部から直線的に外傾して分厚く丸味を持つ口唇に至って終わる。体部内外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	西側壁際の床面(床直)	ロクロ整形 7枚重なったうちの上から2枚目
203-1014	203-4	土師器	杯	口縁1/5 体部1/4 底部1/1	15	5.4		6.3	ロクロ整形。大型だが軽い感じの杯。器面の剥離があり、やや荒れている。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部で外側に丸味を帯びる口唇に至って終わる。体部外面にはロクロ整形による凹凸、横ナデ痕がよく残る。底部は上げ底気味で回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面は底部との境目に明瞭な凹線状の屈曲が見られ、見込み部分やや高まる。	長石粒、砂粒を多く含むやや雑な胎土	褐色	堅緻	カマド右脇の床面(床直)	ロクロ整形

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
203-1001	203-5	土師器	杯	完形	13	4.4		5.9	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でやや外反して終わる。体部内外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。外面下端には切り離しの際の指のアテが見られ、粘土が一部被っている。内面の見込み部分がやや高まる。	長石粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	西側壁際の床面(床直)	ロクロ整形 7枚重なったうちの上から3枚目
203-6010	203-6	土師器	杯	口縁1/2 体部3/5 底部1/1	13.1	4.1		6	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による横ナデ痕が見られる。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面はなめらかに内埴し、底部との境目に凹線状の屈曲が見られる。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	良好	カマド内	ロクロ整形
203-1008	203-7	土師器	杯	口縁3/4 体部3/4 底部1/1	12.8	4.7		6	ロクロ整形。灯明用杯。体部は底部からやや内埴気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。切り離しの際の指のアテが残り、粘土が部分的に体部に被っている。内面はなめらかに内埴する。口縁部内側に油煙が付着。体部外面にも剝離が著しいが油煙の付着の痕跡が見られる。	きめ細かい胎土	淡褐色 淡暗褐色	堅緻	中央西側の床面(+10)	ロクロ整形 灯明用杯
203-1010	203-8	土師器	杯	口縁7/10 体部7/10 底部1/1	13	4.4		6.4	ロクロ整形。灯明用杯? 体部は底部から内埴気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇はやや鋭角的。体部内外面にはロクロ整形による横ナデ痕がよく残る。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面はなめらかに内埴し、見込み部分がやや高まる。体部外面にスス、油煙らしき付着物あり。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡黒褐色 淡こげ茶褐色	堅緻	南側壁際の床面(+2.5)	ロクロ整形 灯明用杯?
203-1009	203-9	土師器	杯	口縁1/9 体部1/8 底部1/15	13.8	4.4		7.4	ロクロ整形。体部は底部から内埴気味に立ち上がり、中位あたりで外反して口縁部に至って終わる。体部内面にはロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が残る。底部は回転糸切り(ロクロ方向不明)、再調整なし。	良質なきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	中央西側の床面(+9)	ロクロ整形
203-1018	203-10	土師器	椀	口縁1/6 体部1/5	14.7	5.5 復元		4.5 復元	ロクロ整形。体部は底部から内埴しながら立ち上がり、口縁端部で外反して丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。下端に削り幅の広い手持ちヘラズリ。外面ススカ油煙が付着。内面は凹凸痕、横ナデ痕が残るがなめらかに内埴する。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	黒褐色 淡黒褐色	良好	カマド右脇の床面(床直)	ロクロ整形
203-1006	203-11	土師器	杯	口縁1/12 体部3/5 底部1/1	15.4	5		6.9	ロクロ整形。黒色処理。体部は底部から直線的に外傾して丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面下端に削り幅の広い手持ちヘラズリ。底部には回転糸切り(ロクロ右回転)後、外周にわずかにヘラズリを施す。内面は器面の剝離が著しいがロクロ整形による凹凸が顕著に見られ、横方向のヘラミガキを丁寧に施した後、黒色処理する。	長石粒、石英粒を含むきめ細かい胎土	こげ茶褐色 黒色	堅緻	西側壁際の床面(床直)	ロクロ整形 黒色処理 7枚重なったうちの上から6枚目
203-1007	203-12	土師器	杯	完形	14	4.9		5.6	ロクロ整形。黒色処理。丁寧な作りで重い感じの杯。体部は底部から内埴しながら立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。下端には削り幅の広い手持ちヘラズリ、底部は回転糸切り(ロクロ方向不明)後、全面手持ちヘラズリを施す。内面は凹凸痕がよく残り、横方向の丁寧なヘラミガキを施した後、黒色処理する。	長石粒、石英粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色 黒色	堅緻	西側壁際の床面(床直)	ロクロ整形 黒色処理 7枚重なったうちの下最段
203-1004	203-13	土師器	杯	完形	14.6	5.1		6.7	ロクロ整形。黒色処理。大型の杯で、器面が剝離、荒れている。体部は底部から内埴気味に立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。体部外面には凹凸が見られる。体部外面下端には削り幅の広い手持ちヘラズリ。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)後、外周を手持ちヘラズリで調整。内面は横方向のヘラミガキを丁寧に行った後、黒色処理する。体部外面中央部に縦書きで「待?」の字を書き○で囲んでいる。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色 黒色	堅緻	西側壁際の床面(床直)	ロクロ整形 黒色処理 7枚重なったうちの上から4枚目
203-1013	203-14	土師器	高台付 椀	口縁1/10 体部1/8 底部1/1	15.9	5.7		7.2 高台 7.4	ロクロ整形。黒色処理。丁寧な作り。体部は底部から内埴しながら立ち上がり、口縁端部でやや外反して丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)を施す。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形した後、断面三角形の厚味のある高台を貼り付け、横ナデで整える。内面はロクロ整形による凹凸痕が残り、横方向の丁寧なヘラミガキを施した後、黒色処理する。	長石粒をわずかに含む良質のきめ細かい胎土	淡褐色 黒色	堅緻	カマド右脇の床面(床直)	ロクロ整形 黒色処理
203-1005	203-15	土師器	高台付 杯	完形	13.9	4.8		7.1 高台 7.2	ロクロ整形。黒色処理。内外面の器面が風化、荒れている。体部は底部から直線的に外傾して丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面は横ナデ痕が明瞭に残る。底部には断面三角形の器内の薄い高台を貼り付け、ナデる。内面は横方向のヘラミガキの後、黒色処理する。	きめ細かい胎土	淡明褐色 黒色	堅緻	西側壁際の床面(床直)	ロクロ整形 黒色処理 7枚重なったうちの上から5枚目
203-6002	203-16	土師器	高台付 椀(小型)	口縁1/5 体部1/5	11.1	4.2 復元		6.3	ロクロ整形。黒色処理。器内が厚くしっかりとした小型の椀。体部は底部から内埴して口縁部に至る。口唇は内側に傾斜する丸味を帯びる面を持つ。体部外面下端は高台部を貼り付ける際にヘラ状工具によりナデる。内面はなめらかに内埴し、横方向のやや雑なヘラミガキを施した後、黒色処理する。	赤色スコリア、長石粒をわずかに含む良質のきめ細かい胎土	淡褐色 黒色	堅緻	覆土中	ロクロ整形 黒色処理
203-1017	203-17	土師器	杯	底部1/1	不明	2+		6	底部片。ロクロ整形。体部は内埴気味に立ち上がる。底部は手持ちヘラズリ。内面はなめらかに内埴する。スス付着。	長石粒を含むやや雑な胎土	淡褐色 淡暗褐色	良好	カマド右脇の床面(床直)	ロクロ整形
203-1011	203-18	緑釉陶器	高台付 椀様	口縁1/40 体部1/40	15 復元	3.8+	不明	不明	体部は底部から外傾して下位付近で屈曲、外反して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。内面は下位部分に屈曲が見られる。全面にやや薄い緑釉がかかる。	良質なきめ細かい乳白色の胎土	淡緑色	堅緻	カマド正面の床面(+3.5)	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
203-1018	203-19	土師器	甕	口縁部1/6	20.9	5.2+	不明	不明	厚味のあるしっかりとした甕。口縁部は頸部から「く」の字状直線的に外傾し、外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。胴部は肩部で張る。口縁部は強い横ナデ。胴部外面は削りのはっきりとした幅広の縦位(上下)のヘラケズリ。内面は横方向のヘラナデ痕がよく残る。	長石粒を含むきめ細かい胎土	こげ茶褐色 淡暗褐色	堅緻	カマド右脇の床面(床直)	
203-6010	203-20	土師器	甕	口縁1/15 胴部1/15	21	10.4+	(19.3)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状直線的に外傾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。胴部はほとんど張らずに内湾気味に下がる。口縁部はヘラ状工具による横ナデ。胴部外面は削り幅の広い縦位(上下)のヘラケズリ。内面は横方向のヘラナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	カマド内	
203-6002	203-21	土師器	甕	口縁1/8 胴部上半1/8	26.5	8.3+	(26.2)	不明	口縁部は頸部から強く外反し、端部で垂直気味に立ち上がって終わる。端部外面には凹線がめぐり、口唇は丸味を持ち内側に屈曲が見られる。口縁部、胴部は横ナデ。胴部は肩部で張り、外面を削り弱い縦方向(上下)のヘラケズリで整形する。内面は横方向のヘラナデを行う。	小石粒、長石粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色	良好	覆土中	
203-6002	203-22	土師器	甕 (小型)	口縁部1/6	12.8	5.7+	(11.5)	不明	外面の器面はやや荒れている。口縁部は頸部から短く強く屈曲、やや内湾気味に立ち上がる。胴部は肩部でやや張るも内湾する。口縁部は強い横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリ。内面は横方向のヘラナデ。	赤色スコリア、小石粒を含む白っぽい胎土	褐白色	堅緻	覆土中	
203-1018・6002	203-23	土師器	甕 (小型)	口縁1/3 胴部1/3	12.8	5.4+	13.6	不明	口縁部は頸部から短く「く」の字状に外反し、分厚く丸味を持つ口唇に至って終わる。胴部は肩部で張る。口縁部横ナデ。胴部外面は削りのはっきりとした縦位(下上)のヘラケズリ。内面は横方向のヘラナデの痕跡。	きめ細かい胎土	こげ茶色 淡暗褐色	堅緻	カマド右脇の床面(床直)	
203-1012	203-24	須恵器	甕	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。外面は目の粗い平行タタキ目で叩いた後、ナデ消す。内面は剥離が著しいため不明瞭。	長石粒、砂粒を含むやや雑な胎土	こげ茶褐色	堅緻	カマド右脇の床面(床直)	千葉地域産
203-1015・6002	203-25	土師器	台付鉢	口縁1/20 底部1/2 脚部1/4	36.2	14.6 復元		15.8 脚 21.6	大型の台付鉢。口縁部片、底部～脚部片。鉢部分の体部は底部から外反しながら立ち上がり、口縁端部で屈曲してやや垂直気味に立ち上がる。端部外面には凹線がめぐり。口唇はやや鋭角的に尖る。口縁部内側はやや受け口状に屈曲し、外反しながら底部に向かう。鉢底部内面はヘラナデ、およびナデにより整形調整し、ややでこぼこしている。底部はヘラケズリで整形した後、やや高いが外側に外反するしっかりとした脚部を貼り付けている。脚部外面は底部から外反して開き、裾部で屈曲、やや内側に傾斜するようにおさめる。裾端部外面に凹線がめぐり。裾の口唇は丸味を持って終わる。脚部の内面は横ナデ、底部との接合部分はヘラナデで調整している。	長石粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	カマド右脇の床面(+5)	
203-1016	203-26	土師器	甕	胴部2/3 底部1/1	不明	3.6+	不明	11.6	底部径のある安定した平底。胴部は底部から直線的に外傾する。胴部外面は斜・横方向(左上右下)の削りのはっきりとしたヘラケズリ。内面は螺旋状のヘラナデを施す。見込み部分やや高まる。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色 淡黒褐色	堅緻	カマド右脇の床面(床直)	
205-6001	205-1	土師器	杯	口縁1/8 体部1/8	14	3.3+		不明	非ロクロ。器面が摩耗している。体部は内湾しながら立ち上がる。口縁部横ナデ。体部外面は削りの細かい手持ちヘラケズリ。内面横ナデ。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	覆土中	非ロクロ
205-6001	205-2	土師器	杯	口縁1/20 体部1/20	13	2.2+		不明	非ロクロ。口縁部片。体部はやや内湾気味に立ち上がる。口縁部横ナデ。体部外面は手持ちヘラケズリ。内面横ナデ。	長石粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡暗褐色 淡褐色	堅緻	覆土中	非ロクロ
205-6010・6001	205-3	土師器	甕	胴部1/3	不明	18+	23.2+	不明	胴部片。口縁部欠。胴部は肩部で張り、底部に向かって内湾する。頸部外面は横ナデ。胴部外面は頸部付近からやや幅の広い縦位(上下)のヘラケズリを行った後、中下位に部分的に斜方向(左上右下)のヘラケズリを施す。外面にスス付着。内面は横方向のヘラナデが明瞭に見られる。	長石粒を含むきめ細かい胎土	黒茶褐色 褐色	堅緻	カマド煙道部分	
205-6010	205-4	土師器	甕	胴部1/6	不明	21.7+	21.5	不明	胴部片。胴部は肩部で最大径となり底部に向かって内湾する。外面は削りの幅の広い縦位(上下)のヘラケズリを行った後、下位付近に部分的に斜方向(左上右下)のヘラケズリを施す。内面はヘラナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	暗褐色 淡暗褐色	堅緻	カマド煙道部分	
205-6010	205-5	土師器	甕 (小型)	口縁3/10 胴部上半3/10	15.2	6.5+	(14.2)	不明	小振り丁寧な作り。口縁部は頸部から強く屈曲、水平気味に外反して外側を向く口唇に至って終わる。口唇は丸味を持つ。口縁部は強い横ナデ。胴部外面は頸部から斜方向(左上右下)のヘラケズリで整形する。内面は横方向のヘラナデを行っている。	微砂粒、長石粒を含む胎土	淡暗褐色	良好	カマド煙道部分	
205-6001	205-6	土師器	甕	胴部1/3 底部1/3	不明	2.2+	不明	6.6	底部片。胴部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。外面は横・斜方向のヘラケズリ。内面はヘラナデ。底部には凹凸が見られる。	長石粒を含む胎土	暗褐色	良好	覆土中	
207-1002	207-1	土師器	椀	口縁4/5 体部4/5 底部1/1	15.3	4.7		6.9	ロクロ整形。やや歪みがあるが整っており丁寧な作り。体部は底部から内湾して立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持ち、内側に傾斜する面と稜を持つ。体部外面はロクロ整形による弱い凹凸が見られ、下位を削り幅のある手持ちヘラケズリで整える。底部は一定方向の手持ちヘラケズリで整形する。内面はなめらかに内湾し、見込み部分やや高まる。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	カマド右側の床面(+6)	ロクロ整形
207-6002	207-2	土師器	杯	体部2/5 底部3/5	不明	3.2+		7	ロクロ整形。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部でやや外反するようである。体部外面にはロクロ整形による弱い凹凸が見られる。底部内面には螺旋状の凹凸が明瞭に見られる。底部には縦・横方向のヘラケズリを施す。	長石粒、砂粒を多く含む胎土	淡褐色 暗褐色	良好	覆土中	ロクロ整形

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値 (cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
207-1001	207-3	土師器	高台付血	口縁1/3 体部3/5 底部1/1	14	3.4		6.5 高台 6.8	ロクロ整形。丁寧な作りだがやや重い皿。体部は底部から内彎して立ち上がり、口縁端部で外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が見られ、下端を回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)後、中央部分を残して回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形し、低いがしっかりと踏ん張りを出す高台を貼り付ける。高台内外面は横ナデで整形する。内面はなめらかに内彎する。体部内外面にスズが広範囲に付着しており、灯明用皿として使用。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡黒褐色	堅緻	南側壁際の床面(+7)	ロクロ整形 灯明用皿
207-6010	207-4	土師器	椀	口縁1/5 体部1/5	19.9	3.7+		不明	ロクロ整形。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁端部でやや外反して丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。内面についても横ナデ痕が明瞭に認められる。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形
207-6002	207-5	土師器	杯	底部1/10	不明	1.1+		7.4	ロクロ整形。底部片。体部下端部分には回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面はロクロ整形による横ナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	暗褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
207-6010	207-6	土師器	甕	胴部1/6	不明	13.3+	(20.4)	不明	胴部片。胴部は肩部で張り、底部に向かって内彎する。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリ。内面ヘラナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	こげ茶褐色 暗褐色	良好	カマド内	
207-6002	207-7	土師器	甕	胴部下半1/5 底部2/5	不明	4+		4.4	底部片。胴部は底部から内彎気味に立ち上がる。外面には斜方向(左上右下)のヘラズリ。底部は不定方向のヘラズリ。内面ヘラナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	こげ茶褐色 淡褐色	良好	覆土中	
207-6002	207-8	須恵器	甕	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。外面は目の粗い平行タタキ目で叩く。内面ナデ。	長石粒を含む胎土	茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
207-6001	207-9	須恵器	甕(大型)	胴部1/20以下 底部1/20以下	不明	4+	不明	14	底部片。胴部は底部から外反する。外面には平行タタキ目で叩いた後、底部付近に削り幅の広い横方向のヘラズリで整形調整する。底部ヘラズリ。内面ナデ。	長石粒、黒色粒を含む胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
207-6001	207-10	須恵器	甕(大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。胴部上半部分?外面は目の密な平行タタキ目で叩く。内面は無文のアテ具痕が見られる。	きめ細かい胎土	青灰色	堅緻	覆土中	
209-6002	209-1	土師器	杯	口縁2/5 体部1/2 底部1/1	12.5	3.3		8.2	非ロクロ。器高の低い杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。体部内面と底部との境目には沈線状の明瞭な屈曲が見られる。体部外面は削りの細かい手持ちヘラズリ。底部はやや丸味を持つ手持ちヘラズリ。体部内面はなめらかに内彎し、弱い斜格子状暗文を施している。底部内面に螺旋状風の暗文が部分的に見られる。	微砂粒を含むきめ細かい胎土	暗褐色 淡褐色	良好	覆土中	非ロクロ 斜格子状 暗文
209-6002	209-2	土師器	杯	口縁1/8 体部1/8	13.6	3.1+		不明	非ロクロ。やや雑な作り。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部で屈曲、直線的に外傾して終わる。口唇はやや鋭角的に尖る。口縁部横ナデ。体部外面は削り幅のある手持ちヘラズリ。内面は丁寧なヘラミガキを施す。	長石粒を含むきめ細かい胎土	こげ茶褐色	堅緻	覆土中	非ロクロ
209-6002	209-3	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5	12	2.9+		不明	非ロクロ。体部は内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。口縁部横ナデ。体部外面は削りのはっきりとした斜方向(右上左下)の手持ちヘラズリ。内面横ナデ。	微砂粒を含むきめ細かい胎土	暗褐色	良好	覆土中	非ロクロ
209-1001	209-4	須恵器	杯	口縁3/10 体部3/10 底部1/1	12.3	3.4		9.3	金属質な感じの箱形状杯。体部は底部から垂直気味に外傾して口縁端部でやや外反して終わる。口唇は尖っており内側に傾斜する面と稜を持つ。体部内・外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。底部は回転ヘラズリ(ロクロ左回転)。底部内面には同心円状の凹凸が見られる。	白色粒をわずかに含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	南側中央の床面(床直)	
209-6002	209-5	土師器	甕	口縁1/10 胴部上半1/15	16.5	4.7+	不明	不明	厚くしっかりとした作り。口縁部は頸部から一端垂直気味に立ち上がり、屈曲して内彎しながら口縁部に至る。口唇は外側に凹線めくらす。口縁部は筋状の強い横ナデ、頸部外面には横ナデによる凹凸が見られる。胴部外面は横方向の削りのはっきりとしたヘラズリ。内面は横方向のヘラナデを施す。	長石粒をわずかに含むきめ細かい良質の胎土	褐色 淡黒褐色	堅緻	覆土中	
209-6001	209-6	須恵器	長頸壺	口縁部7/10	8.2	10.8+	不明	不明	口縁～頸部片。口縁部は頸部から長く緩やかに外反する。外面および内面にはロクロ整形による凹凸が見られる。外面には部分的に自然釉が付着する。	きめ細かい胎土	灰白色	堅緻	覆土中	湖西窯
209-6001	209-7	須恵器	盤?	底部1/5	不明	不明	不明	18+	底部片。底部は上げ底。内面には同心円状の凹凸が顕著に見られる。外面はロクロ整形による横ナデ痕がよく残る。	粒状の長石を多く含む淡褐色の胎土	淡緑褐色	堅緻	覆土中	
209-6001	209-8	須恵器	甕	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部底部付近破片。かなり厚味のある大型の甕。外面は平行タタキ目で叩いた後、すり消す。内面はヘラズリで調整する。	長石粒を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
209-6001	209-9	須恵器	甕	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。外面は平行タタキ目で叩く。内面はナデ。	きめ細かい胎土	黒灰色	堅緻	覆土中	
210-6002	210-1	土師器	杯	口縁3/10 体部3/5 底部3/5	12.2	4.3		9.2	非ロクロ。体部内外面、底部の器面の摩耗が著しい。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部内面と底部との境目には沈線状の屈曲が見られる。口縁部横ナデ。体部外面は摩耗のため不明瞭だが削りの細かい手持ちヘラズリ。底部は丸味を持ち手持ちヘラズリ。内面横ナデ。	微砂粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	明褐色	良好	覆土中	非ロクロ
210-6002	210-2	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5	12	3.3+		8 復元	非ロクロ。体部は底部から内彎して立ち上がる。口縁部横ナデ。体部外面には削りの細かい斜方向の手持ちヘラズリ。内面はなめらかに内彎し、横ナデ。	微砂粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	明褐色	良好	覆土中	非ロクロ
210-6002	210-3	土師器	杯	口縁1/20以下 体部1/8 底部1/20以下	12.2	3.5 復元		8.2	非ロクロ。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。内面はなめらかに内彎し、底部との境目に明瞭な段が見られる。口縁部横ナデ。体部外面は削りの細かい手持ちヘラズリ。底部は手持ちヘラズリ。内面横ナデ。	微砂粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	非ロクロ

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
210-1001	210-4	須恵器	杯	口縁6/7 体部6/7 底部1/1	14	4.1		10	全体的に作りが甘い。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに丸く内彎して終わる。体部内面にはロクロ整形による凹凸が見られる。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で、中央部分は削り残しのためやや高まる。内面の見込み部分高まる。外面の器面は気泡状の穴が見られ、火だすきが残る。	白色鉾物をわずかに含む、赤色スコリア、小石粒を含むやや雑な胎土	灰茶色	良好	カマド右脇の床面(床直)	
210-6001	210-5	須恵器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部4/5	12.8	3.7		8.9	やや金属質な感じの杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は外側に尖り、内側には傾斜する面と明瞭な稜を持つ。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。外面には点状の気泡が多く見られる。内面には火だすきが残る。	白色鉾物をわずかに含むきめ細かい胎土	青灰色	堅緻	覆土中	
210-6010	210-6	土師器	甕	口縁1/3 胴部1/4	20	7.7+	不明	不明	武蔵型甕。器肉の極めて薄い軽い感じの作り。口縁部は「く」の字状やや浅く外反する。胴部は肩部で張る。口縁部横ナデ。胴部外面の肩部付近は削りの広いシャープな横方向(左右)のヘラズリを施す。内面はヘラナデ。	長石粒、石英粒を含むきめ細かい胎土	明褐色	堅緻	カマド内	武蔵型甕
210-6010	210-7	土師器	甕	口縁1/6 胴部上半1/8	18.5	6.4+	(15.6)	不明	口縁部は頸部から緩やかに外反し、中位でさらに屈曲、強く外反して外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。胴部はほとんど張らずに下がる。口縁部横ナデ。頸部外面、胴部上位に、わずかに縦方向(上下)の弱いヘラズリを行い、ヘラ状工具で持ってクロスさせたような鋭い線を描いている。内面はヘラナデを部分的に行っている。	きめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	カマド内	
210-6010	210-8	土師器	甕	口縁1/5 胴部上半1/10	21.1	4.2+	不明	不明	口縁部片。器肉の比較的厚い作り。口縁部は頸部から強く屈曲、外反し、端部でやや内彎気味に立ち上がって終わる。口唇は丸味を持つ。口縁部は強い横ナデ。胴部外面は不明瞭だが、縦方向?のヘラズリ。内面は頸部付近に横方向のヘラナデ。	赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	明褐色	堅緻	カマド内	
210-6010	210-9	土師器	甕 (小型)	口縁1/5 胴部上半1/5	12.2	5.9+	13.4	不明	比較的丁寧な作り。口縁部は頸部から短く直立気味に立ち上がる。外面には凹凸面が見られる。口唇は外側に鋭角的に尖る。胴部はやや張る。口縁部は強い横ナデ。胴部外面は削りのはっきりとした縦位(上下)のヘラズリ。内面ナデ。	石英粒、長石粒、赤色スコリアを含む胎土	こげ茶褐色	堅緻	カマド内	
210-6010	210-10	土師器	甕	胴部下半1/8 底部1/8	不明	2.4+	不明	10	平底の甕底部片。胴部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。胴部外面には横方向(左右)のヘラズリ。底部は不定方向のヘラズリ。内面はでこぼこしているが部分的にヘラズリを施している。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド内	
210-6002	210-11	須恵器	甕	口縁部1/8	23	7.1+	不明	不明	口縁部片。口縁部は頸部から大きく外反し、端部で扁平な三角形の断面を持つ凸帯に至って終わる。凸帯外面には複数の稜と凹面を持つ。口唇は上方に鋭角的に尖る。内・外面、特に内面にはロクロ整形による凹凸が見られる。内・外面とも横ナデ痕が明瞭。	長石粒を含むきめ細かい胎土	黒褐色 淡黒褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
210-6010	210-12	須恵器	甕	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。外面は目の細かい平行タタキ目で叩く。内面はでこぼこしているもののナデを施す。	長石粒を含むきめ細かい胎土	茶褐色	堅緻	カマド内	千葉地域産
211-1003・6003	211-1	土師器	椀	口縁2/5 体部2/5 底部1/8	16.4	5.7		8	非ロクロ。体部は底部から内彎し、口縁端部でやや屈曲、垂直気味に立ち上がって終わる。口縁部横ナデ。体部外面には削りの細かい斜方向の手持ちヘラズリを施す。外面にはススが全面に付着。底部手持ちヘラズリ。内面はなめらかに内彎し、中位付近に横方向のヘラミガキを施す。外面にススが付着。	きめ細かい胎土	黒褐色 淡暗褐色	堅緻	東側隅の壁際床面(+5)	非ロクロ
211-6003	211-2	土師器	杯	口縁1/4 体部1/5	14	4.2+		不明	非ロクロ。体部は内彎気味に立ち上がり、端部でやや外反して終わる。口縁部横ナデ。体部外面には横・斜方向の手持ちヘラズリを施す。内面横ナデ。外面にススが部分的に付着する。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	覆土中	非ロクロ
211-6003	211-3	土師器	椀	体部1/6 底部1/3	不明	4+		10	非ロクロ? 黒色処理。外面の器面は剥離しておりほとんど地肌が露出。体部は底部から内彎して立ち上がる。外面の整形調整は不明。内面は体部付近横に横方向のヘラミガキ、底部は一方のヘラミガキを施した後、黒色処理する。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色 黒色	堅緻	覆土中	非ロクロ? 黒色処理
211-1001	211-4	土師器	杯	体部1/10 底部1/1	不明	2.2+		9.3	ロクロ整形。底部片。丁寧で端正な作り。底部回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。体部外面下端は整形調整は認められない。底部内面は見込み部分が高まり、そこを中心としてロクロ整形による凹凸が左渦巻き状に巻く。横ナデ痕が明瞭に残る。	きめ細かい胎土	褐色	堅緻	522号建物C4柱穴によって壊された掘残内	ロクロ整形
211-1004	211-5	須恵器	杯	口縁3/5 体部3/5 底部1/1	13.5	4.1		8.8	全体的に摩耗している。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。体部外面はロクロ整形による弱い凹凸、横ナデが見られる。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面は底部付近にロクロ整形による弱い凹凸が見られる。底部外面の中央よりやや外縁部分に縦書きの角張った筆運びの文字で「法花」の墨書が見られる。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	灰白色 淡茶灰白色	良好	西側角隅の床面(+2)	墨書「法花」
211-1002	211-6	須恵器	高台付杯	口縁1/2 体部1/2 底部1/2	12.6	4.1		9.5 高台8.4	丁寧で、金属質な感じの作り。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。底部は回転ヘラズリ(ロクロ左回転)を行い、低いがしっかりとした高台を貼り付ける。高台部は面取りされている。内面の体部と底部との境目には屈曲がはっきりとしている。ロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に残る。	白色粒をわずかに含むきめ細かい胎土	青灰色	堅緻	南東壁際の床面(+3)	
211-6002	211-7	灰釉陶器	皿	体部1/6 底部1/5	不明	2.9+		8	底部片。体部は底部から緩やかに内彎する。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)後、低いがしっかりとした高台を貼り付ける。内面には淡緑灰色の釉が全面に付着。	白っぽいきめ細かい胎土	灰白色 淡緑灰色	堅緻	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器 種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
211-1005	211-8	土師器	甕	口縁1/30 胴部上半 1/5	22.8	13+	(20.9)	不明	比較的肉内の薄い作り。口縁部は頸部からやや垂直気味に外傾し、中位で屈曲、外反して終わる。口唇は丸味を持つ。胴部は肩部でやや張るが内湾する。口縁部横ナデ。胴部外面は削り幅の広い縦位(上下)のヘラケズリ。内面は横、斜方向のヘラナデを施す。	長石粒を含むきめ細かい胎土	明褐色 褐色	堅緻	北側隅の床面 (床直)	
211-6003	211-9	土師器	甕	口縁部1/10	18	6.4+	(16.5+)	不明	口縁部は頸部からやや外反して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。胴部は肩部でやや張る。口縁部横ナデ。胴部外面は削りのはっきりとした縦位(上下)のヘラケズリ。内面は横方向のヘラナデ。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	覆土中	
211-6003	211-10	土師器	甕	口縁1/6 胴部上半 1/7	19.1	7.3	(18.2+)	不明	口縁部は頸部から垂直気味に外傾し、中位で段を作り屈曲、さらに外反して終わる。口唇は外側にやや丸味を持って尖る。胴部は肩部で張る。口縁部は強い横ナデ。胴部外面は削り弱い縦位(上下)のヘラケズリ。内面は頸部付近に横方向のヘラナデを行う。	きめ細かい胎土	こげ茶色	堅緻	覆土中	
211-1005・ 6003	211-11	土師器	甕	口縁2/5 胴部3/10	16.3	16.3+	18	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。胴部は中位よりやや上側で最大径となり、底部に向かって内湾する。口縁部横ナデ。胴部外面は肩部付近から底部に向かって斜方向(右上左下)の削りのはっきりとしたヘラケズリを数度にわたり繰り返して調整する。内面は頸部付近に凹線状の乱雑な線が、めぐり、横方向のヘラナデを施す。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	北側隅の床面 (床直)	
211-6003	211-12	土師器	甕	胴部1/4	不明	7.7+	17.9	不明	口縁部欠損。胴部へ頸部片。口縁部は頸部から外反する。胴部は肩部で大きく張る。外面は頸部付近から縦位(上下)のヘラケズリを施す。部分的に斜方向(左上右下)のヘラケズリを加える。内面ヘラナデの痕跡が認められる。	長石粒を含むきめ細かい胎土	こげ茶褐色	堅緻	覆土中	
211-6003	211-13	須恵器	甕	口縁部1/10	20.4	2.5+	不明	不明	口縁部片。口縁部は頸部から外反し、端部で変形な三角形の断面を持つ凸帯を作って終わる。凸帯は複雑な稜と凹線を持つ。内・外面ともクロコ整形による横ナデが明瞭に見られる。	きめ細かい胎土	黒茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域 産
211-1006	211-14	須恵器	甕	胴部下半 1/5 底部3/10	不明	16.5		15.5	平底の甕。胴部は底部から外傾して立ち上がる。外面は斜方向の平行タタキ目で叩いた後、下位部分をすり消す。螺旋状の凹線を2条めぐらす。下位部分は横(左右)・斜方向のヘラケズリで整形調整する。底部はやや上げ底の平底で、不方向のヘラケズリを施す。内面は指頭の高痕で、器面はでこぼこしている。底部付近は指によるナデを施す。	長石粒、赤色スコリアを多く含む胎土	黒褐色 淡黄褐色	堅緻	北側角隅の床面 (床直)	千葉地域 産
211-6003	211-15	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。外面は目の粗い平行タタキ目で叩く。内面ナデ。	長石粒を多く含むきめ細かい胎土	こげ茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域 産
216-6010	216-1	土師器	杯	口縁3/4 体部4/5 底部1/1	12.6	4		5.7	クロコ整形。丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。外面にはクロコ整形による凹凸が見られ、下端に削りのはっきりとした手持ちヘラケズリで整形調整する。底部は回転糸切り(クロコ右回転)、再調整なし。内面はなめらかに内湾し、見込み部分やや高まる。	長石粒、微砂粒を多く含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	カマド内	クロコ整形
216-6002	216-2	土師器	杯	口縁2/5 体部1/2 底部1/2	13.8× 13	4.3		5	クロコ整形。縦長に歪みのあるやや雑な作り。体部は底部から内湾しながら立ち上がり、口縁端部で屈曲、外反して終わる。口唇は外側に丸味を持つ。体部内外面にはクロコ整形による凹凸が見られ、外面下端は削り幅の大きい手持ちヘラケズリで調整する。底部は回転糸切り(クロコ右回転)、再調整なし。底部内面の見込み部分へこむ。	長石粒、微砂粒を含むやや雑な胎土	淡暗褐色	良好	覆土中	クロコ整形
216-6002	216-3	土師器	杯	口縁1/8 体部1/8	15.2	5.2+		不明	クロコ整形。体部は内湾気味に立ち上がる。体部外面には凹線が3条以上めぐる。下位部分に手持ちヘラケズリ。内面はクロコ整形による凹凸が見られ、なめらかに内湾する。	赤色スコリアをわずかに含む良質のきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	クロコ整形
216-1001	216-4	土師器	杯	口縁1/2 体部1/2 底部3/6	12.4	4		6.2	クロコ整形。やや雑な作り。体部は底部から直線的に外傾する。体部外面にはクロコ整形による凹凸が見られる。底部は回転糸切り(クロコ右回転)、再調整はない。やや上げ底。内面は横ナデ痕がよく残り、見込み部分高まる。	小石粒、長石粒を含むやや雑な胎土	淡明褐色	堅緻	南東床面 (床直)	クロコ整形
216-6011	216-5	土師器	杯	口縁3/4 体部4/5 底部1/1	12	4.3		6.5	クロコ整形。体部は底部からやや内湾気味に立ち上がる。外面にはクロコ整形による凹凸が見られ、部分的にスス付着。底部は回転糸切り(クロコ右回転)、再調整なし。切り離しの際に粘土が体部下端に被っている。内面はなめらかに内湾する。	小石粒、微砂粒を含むやや雑な胎土	淡明褐色	堅緻	カマド内	クロコ整形
216-6011	216-6	土師器	杯	口縁1/2 体部1/2 底部9/10	12.2	4.2		6.6	クロコ整形。やや雑な作り。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でやや外反して終わる。外面にはクロコ整形による弱い凹凸が見られる。底部は回転糸切り(クロコ右回転)、再調整なし。底部に粘土塊が付着し、体部下端に粘土が被っている。内面はなめらかに内湾し、見込み部分高まる。	砂粒、長石粒を含むやや雑な胎土	淡暗褐色	良好	カマド内	クロコ整形
216-6011	216-7	土師器	杯	口縁1/3 体部1/3 底部3/5	13.4	4		5.7	クロコ整形。整っており丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾する。外面はクロコ整形による凹凸が明瞭に見られる。底部は回転糸切り(クロコ右回転)、再調整なし。内面は丁寧な横ナデを施す。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド内	クロコ整形
216-1004	216-8	土師器	杯	口縁2/5 体部1/2 底部1/1	13.6	4.6		6.5	クロコ整形。体部は底部から一旦直線的に外傾し、中位で内湾気味に立ち上がり、口縁端部でやや外反して終わる。外面にはクロコ整形による凹凸が見られる。底部は回転糸切り(クロコ右回転)、再調整なし。粘土が部分的に被る。内面はクロコ整形による凹凸および横ナデ痕が明瞭に見られ、見込み部分やや高まる。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	カマド正面の床面 (+3)	クロコ整形

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
216-1006	216-9	須恵器	杯	完形	12.8	4.3		6.4	ロクロ整形。歪みのあるやや雑な作り。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部で屈曲、外反して外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面にはロクロ整形による凹凸が明瞭に見られ、下端は削りのやや広い手持ちヘラズリで一周する。底部は回転系切り(ロクロ右回転)後、中央部分を残して外周を幅広く手持ちヘラズリで調整する。内面は凹凸および横ナデが明瞭に残る。	長石粒、微砂粒を含むやや雑な胎土	黒茶褐色 こげ茶褐色	堅緻	カマド左 脇の床面 (+15)	千葉地域 産 ロクロ整 形
216-1007	216-10	土師器	杯	口縁1/2 体部2/5	13.8	4.4 復元		7.2 復元	ロクロ整形。体部は底部から外傾する。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。内面は横ナデ痕が明瞭に見られる。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	カマド左 脇壁際の 床面 (床直)	ロクロ整 形
216-6002	216-11	土師器	高台付 碗	口縁1/3 体部1/3 底部1/2	16.4	6		8.4 高台 8.7	ロクロ整形。黒色処理。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。体部外面下端から底部にかけて、削りだしによる高台を成形する。高台底部は平滑でやや上げ底気味。内面はなめらかに内彎し、上位付近は横方向の丁寧なヘラミガキ、中・下位へ底部にかけて格子状のヘラミガキを施し、黒色処理を行う。	赤色スコリアを含む良質のきめ細かい胎土	淡褐色 黒色	堅緻	覆土中	ロクロ整 形 黒色処理
216-6002	216-12	土師器	甕	口縁1/8 胴部上半 1/8	19.7	7.3+	(16.3)	不明	厚味があり重量感のある作り。口縁部は頸部からやや浅く「く」の字状直線的に外傾する。口唇は丸味を持つ。胴部はほとんど張らずに底部に向かって内彎する。口縁部には強い横ナデ。胴部外面は弱い縦位(上下)のヘラズリ。内面は横方向のヘラナデ。	微砂粒を含むきめ細かい良質の胎土	淡褐色	良好	覆土中	
216-6002	216-13	土師器	甕	口縁1/7 胴部上半 1/6	18	9.4+	(16.4)	不明	器内の厚い鈍重な作り。口縁部は頸部から浅く外反して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。胴部はほとんど張らずに内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は削りの弱い縦位(上下)のヘラズリ。内面はヘラズリに近い横方向の痕跡が明瞭なヘラナデ。	微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	
216-6002	216-14	土師器	甕	口縁1/5 胴部上半 1/5	20	6.8+	(18.5)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状直線的に外傾し、端部で屈曲、やや垂直気味に立ち上がって終わる。口唇はやや鋭角的に尖る。口縁端部内側は受け口状となる。胴部は肩部でわずかに張る。口縁部は強い横ナデ。胴部外面は頸部から縦位(上下)のヘラズリ。内面は横方向のヘラナデ。外面に部分的にススが付着する。	長石粒を含むやや雑な胎土	淡こげ茶褐色 淡茶褐色	堅緻	覆土中	
216-6002	216-15	土師器	甕	胴部1/2	不明	9.5+	15.6	不明	胴部下部分。器内が厚く重量感のある作り。中位で最大径となり、底部に向かって内彎する。外面は削りの弱い縦位(上下)のヘラズリ。内面はヘラズリに近い横方向の明瞭な痕跡の残るヘラナデ。	微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	
216-1002・ 6002	216-16	土師器	甕	口縁4/5 胴部上半 4/5	23.4	17.4+	(20)	不明	口縁部は頸部から内彎気味に外傾する。口唇は丸味を帯びる。胴部はほとんど張らずに底部に向かって内彎を続ける。口縁部横ナデ。胴部外面は頸部から削りのはっきりとした縦位(上下)のヘラズリを行い、下位部分で横方向(左右)のヘラズリで整える。内面は横方向のヘラナデ。	長石粒をわずかに含む良質のきめ細かい胎土	淡暗褐色 淡明褐色	堅緻	カマド右 正面の床 面 (+15)	
216-1005・ 6011	216-17	土師器	甕 (小型)	口縁1/3 胴部3/5 底部1/1	12.7	11.4	13	5	小型の甕。口縁部は頸部から短く「く」の字状に外傾する。口唇は丸味を持つ。胴部はほぼ球形状に張る。口縁部横ナデ。胴部外面は削りの弱い縦位(上下)のヘラズリを行い、底部付近を横方向(左右)のヘラズリで整える。底部ヘラズリ。内面は横方向のヘラナデを行う。	小石粒、長石粒、微砂粒を含む胎土	暗褐色 淡黒褐色	堅緻	カマド内	
216-6002	216-18	須恵器	甕 (大型)	口縁部 1/30以下 胴部上半 1/6	31	8.6+	(28)	不明	口縁部片。口縁部は頸部から強く屈曲外反し、扁平な三角形の断面の凸帯を作って終わる。口唇は上方に鋭角的に尖る。凸帯の外面には複雑な稜と凹線を持つ。胴部は肩部でやや張るが内彎する。口縁部は強い横ナデ。胴部外面はやや斜方向の平行タタキ目で叩く。内面は指による押圧とナデ調整。	長石粒を含むきめ細かい胎土	黄灰褐色 こげ茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域 産
216-1009	216-19	須恵器	甕 (大型)	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	器内の厚い大型甕の胴部破片。外面は目の詰まった平行タタキ目で叩く。薄い自然釉が付着する。内面は同心円文状のタタキ目で密に叩く。		淡緑灰色 灰色	堅緻	覆土中	
216-6001	216-20	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	外面は目の詰まった平行タタキ目で叩く。内面ナデ。	長石粒を多く含むきめ細かい胎土	青灰色	堅緻	覆土中	
216-6011・ 6002	216-21	須恵器	甕 (大型)	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	大型甕の胴部上半片。外面はやや斜方向の目が大きく粗い平行タタキ目で叩く。内面は器面の刻離が著しいが、指による押圧およびナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	茶褐色 淡茶褐色	堅緻	カマド内 覆土中	千葉地域 産
216-6001	216-22	須恵器	長頸甕	底部1/1	不明	2.8+	不明	7.3 高台 7.8	底部片。胴部は底部から内彎して立ち上がる。底部は回転系切り(ロクロ方向不明)後、低いがしっかりとした高台を貼り付け、中央部分を残して外縁をナデる。胴部外面は横方向の回転ヘラズリで整形。内面は底部中央部分凹面状にくぼむ。	きめ細かい良質の胎土	青灰色 淡灰色	堅緻	覆土中	
219-6001	219-1	須恵器	杯	口縁1/14 体部1/4 底部1/2	13.2	4.4		8.7	全体的に風化、摩耗している。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は鋭角的に尖り、内側に傾斜する面と稜を持つ。体部内・外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。	白色粒をわずかに含む白っぽいきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
219-6011	219-2	須恵器	杯	口縁1/8 体部1/9	13.4	3.3 復元		10.2	器高の低い杯。体部は底部から直線的に外傾する。口唇はやや鋭角的に尖る。底部は欠損のため、整形調整は不明。内面は火だすきの痕跡。	白っぽいきめ細かい胎土	灰色	堅緻	カマド内	
219-6011	219-3	土師器	甕	胴部下半 1/8 底部1/1	不明	8.3+	不明	6.5	底部片。器内の非常に薄い作り。胴部は底部から大きく内彎する。底部はやや丸味を持っている。胴部外面は縦方向(上下)のヘラズリを施し、底部付近を横方向(左右)のヘラズリで整える。外面にはススが全面に付着。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡黒褐色	堅緻	カマド内	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値 (cm)				器形及び器形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
220-1005	220-1	土師器	杯	口縁7/10 体部3/4 底部1/1	13.1	4.1		6.4	ロクロ整形。端正で丁寧な作り。体部は底部から外反気味に立ち上がる。口唇は外側に鋭角的に尖る。体部外面にはロクロ整形による弱い凹凸が見られ、下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)を施す。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面は横ナデ痕が明瞭に残り、なめらかに内湾する。底部の見込み部分やや高まる。	赤色スコリアを多く含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド右脇の床面(+2)	ロクロ整形
220-6002	220-2	土師器	杯	口縁1/3 体部1/3 底部7/10	13.8	4.2		7.2	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾する。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)を施す。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面はなめらかに内湾する。底部見込み部分高まる。	赤色スコリア、長石粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
220-1013	220-3	土師器	杯	口縁1/16 体部2/3 底部1/1	15.2	5.7		8.1	ロクロ整形。大型の杯。体部は底部からやや内湾気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇はやや鋭角的に尖る。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)を施す。底部は回転糸切り(ロクロ方向不明)後、全面にわたり回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形調整する。内面はなめらかに内湾し、ロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に残る。体部外面にスス付着。	長石粒、砂粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色 明褐色	堅緻	カマド左脇の床面(+7)	ロクロ整形
220-6002	220-4	土師器	杯	口縁1/6 体部1/3 底部1/2	16.4	5.6		8.5	ロクロ整形。体部は底部からやや内湾気味に立ち上がる。外面下端は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転ヘラズリ(ロクロ左回転)。内面はなめらかに内湾する。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
220-6010	220-5	土師器	杯	口縁3/4 体部4/5 底部1/1	16.8	5.2		9	ロクロ整形。灯明用?丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部で外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部内外面、底部内面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下部に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)を施し、底部を回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形調整する。内面は横ナデ痕がよく残り、1/3程度に油煙、ススが付着する。	きめ細かい良質の胎土	淡褐色 淡黒褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形 灯明用杯?
220-6002	220-6	土師器	杯	口縁1/10 体部1/7 底部1/1	12.4	4.7		5.2	ロクロ整形。体部は底部から内湾気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面下端は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形調整する。内面はなめらかに内湾する。	きめ細かい胎土	暗褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
220-1012	220-7	土師器	杯	口縁3/10 体部2/5 底部1/2	14.8	4.3		7.8	ロクロ整形。軽い感じで丁寧な作り。体部は底部から内湾気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面にはロクロ整形による横ナデ痕が見られ、底部は回転糸切り(ロクロ方向不明)後、全面回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形調整する。内面は凹凸が見られるもののなめらかに内湾する。	赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	明褐色	堅緻	西側床面(+22)	ロクロ整形
220-1004	220-8	土師器	杯	口縁2/3 体部7/10 底部1/1	15.6	5		7.1	ロクロ整形。端正で丁寧な作り。体部は底部からやや内湾気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇はやや鋭角的で、内側に傾斜する面と稜を持つ。体部外面はロクロ整形による弱い凹凸が見られ、下部に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)を施す。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形調整する。内面はなめらかに内湾し、底部との境目にロクロ整形の横ナデによる凹線が見られる。	微砂粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	中央床面(+9)	ロクロ整形
220-1016	220-9	土師器	杯	口縁1/5 体部1/4 底部9/10	14	3.8		7.3	ロクロ整形。全体に摩耗しているが丁寧な作り。体部は底部から内湾気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇はやや外側に向き鋭角的。体部外面には凹線が条めぐり、下部に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は不明瞭だが、回転ヘラズリ(ロクロ方向不明)で整形調整する。内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭で、なめらかに内湾する。底部見込み部分やや高まる。	微砂粒、長石粒を含むきめ細かい良質の胎土	明褐色	堅緻	西側壁周溝内	ロクロ整形
220-6002	220-10	土師器	杯	口縁1/3 体部1/3 底部1/1	13.8	3.9		7.8	ロクロ整形。体部は底部から直線気味に外傾する。口唇はやや鋭角的に尖る。体部外面には5条の凹線がめぐり、底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形調整する。内面の底部見込み部分へこむ。	微砂粒を多く含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
220-6002	220-11	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5 底部1/2	12.4	4		6.9	ロクロ整形。端正で丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに内湾して終わる。口唇は鋭角的に尖る。体部外面にはロクロ整形による顕著な凹凸が5条めぐり、下部に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)を施す。底部は上げ底で、回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形調整する。内面はなめらかに内湾し、底部との境目にはっきりとした段が見られる。底部内面は全体に丸味を帯びている。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
220-6002	220-12	土師器	杯	口縁1/4 体部1/4 底部1/3	13.8	4.3		7.7	ロクロ整形。体部は底部から内湾して立ち上がる。口唇はやや尖る。体部外面下端は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面はロクロ整形による横ナデ痕がよく残り、なめらかに内湾する。底部見込み部分ややへこむ。	大粒の赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形
220-6002	220-13	土師器	杯	底部4/5	不明	2.2+		7.7	ロクロ整形。底部片。体部は底部から外傾し立ち上がる。外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下部に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)を施す。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形し、中央部分に弱い刻線で「×」を描く。内面は凹凸が見られる。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形 線刻土器「×」
220-1011	220-14	土師器	杯	完形	13.5	4		7.3	ロクロ整形。灯明用杯?端正で丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。内外面ともロクロ整形による弱い凹凸、横ナデ痕がみられる。体部外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ左回転)を施す。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)後、中央部分を残して回転ヘラズリ(ロクロ左回転)で整形調整する。口縁部内外面に油煙、ススが付着。	微砂粒を多く含む長石粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	中央床面(+5)	ロクロ整形 灯明用杯?

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色(調) (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
220-6002	220-15	土師器	杯	口縁1/3 体部1/3 底部1/1	12.2	4.4		6	ロクロ整形。焼成が甘く全体に摩耗している。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部でやや外反して終わる。口唇は外側にやや鋭角的に尖る。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)を施す。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)後、不定方向の手持ちヘラズリ?底部見込み部分へこむ。	赤色スコリア、微砂粒を多く含むきめ細かい胎土	淡褐色	やや甘い	覆土中	ロクロ整形
220-1014・6002	220-16	土師器	碗 (大型)	口縁1/5 体部1/5 底部1/30以下	21	7.7		9.3	ロクロ整形。端正で丁寧な作り。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は外側に向き、内側に傾斜する面と稜を持つ。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端に不明瞭ながら手持ちヘラズリが確認される。底部は手持ちヘラズリ?内面は凹凸が見られるものの横・斜方向の丁寧なヘラミガキを施す。	きめ細かい良質の胎土	淡褐色	堅緻	カマド左脇の柱穴内	ロクロ整形
220-1008	220-17	土師器	碗 (大型)	口縁1/5 体部1/5	20.5	6.4 復元		不明	ロクロ整形。丁寧な作り。体部は底部から緩やかに内彎して立ち上がる。口唇は鋭角的に尖り、内側に傾斜する面と稜を持つ。体部外面には6条の凹線がめぐり、下端に手持ちヘラズリで整形する。底部欠損。内面はややなめらかに内彎する。	赤色スコリア、長石粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	カマド右脇の床面(+23)	ロクロ整形
220-1015	220-18	土師器	杯	口縁1/2 体部3/5 底部1/2	11.9	4.2		5.2	ロクロ整形。丁寧な作りだが歪みのある杯。体部は底部から直線的に外傾する。口唇は丸味を持つ。体部外面下端は手持ちヘラズリを施し、底部を手持ちヘラズリで整形調整する。内面はロクロ整形による凹凸が見られ、なめらかに内彎する。	微砂粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	北西隅の床面(+16)	ロクロ整形
220-6002	220-19	土師器	杯	底部3/5	不明	2.1+		8 高台 6.2	ロクロ整形。底部片。体部は底部から外傾する。底部は厚味のある器肉を削りだして(ロクロ右回転)、高台状の脚部を作る。内面はやや荒れている。底部は再調整無し。	赤色スコリアをわずかに含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
220-6001	220-20	須恵器	杯	口縁1/15 体部1/7 底部1/8	12.4	4.2		7	体部は底部から内彎し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持ち外側を向く。体部内・外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、外面下端は削りの狭く長い手持ちヘラズリで整形する。底部ヘラズリ。内面はロクロ整形による横ナデ痕がよく残る。	長石粒を多く含む胎土	淡茶褐色 淡黒褐色	堅緻	覆土中	千葉地城産
220-6002	220-21	土師器	皿	口縁1/6 体部1/6 底部1/2	14.2	2.2		6.6	ロクロ整形。丁寧な作り。体部は底部から浅く外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は外側を向き、鋭角的に尖る。体部外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面はやや摩耗している。	きめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
220-1002・6002	220-22	土師器	皿	口縁3/4 体部3/4 底部1/1	14.2	2.4		6.6	ロクロ整形。やや歪みがあるが丁寧な作り。体部は底部から緩やかに外傾する。口唇は外側を向き丸味を持つ。体部外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は上げ底で回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。中心部分に削り残した突起が残る。内面はロクロ整形による横ナデ痕が残る。	赤色スコリア、石英粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	東側床面(+2)	ロクロ整形
220-6002	220-23	土師器	皿	口縁1/6 体部1/6 底部1/20	14.4	2.2		6.6	ロクロ整形。端正で丁寧な作り。体部は底部から浅く外傾する。口唇は外側を向き、やや鋭角的に尖る。体部外面には弱いがロクロ整形による凹凸が見られ、下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)を施す。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面は緩やかに内彎する。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形
220-6002	220-24	土師器	皿	口縁1/8 体部1/8 底部3/10	14.2	2.2		6.4	ロクロ整形。丁寧な作り。体部は底部から浅く外傾する。口唇は外側を向き、鋭角的に尖る。体部外面下端に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。内面はなめらかに内彎する。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
220-1001	220-25	土師器	皿	完形	13.5	2.3		6.2	ロクロ整形。丁寧な作りだが器形が傾斜し歪んでいる。体部は底部から緩やかに外傾し、丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面には底部外縁から中位に向かって螺旋状に凹線がめぐり、下端には回転ヘラズリ(ロクロ右回転)を施す。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形調整する。内面はなめらかに緩やかに内彎し、下位部分を横方向のやや乱雑なヘラミガキ、底部を一方方向のヘラミガキを施す。部分的にススが付着している。	微砂粒、長石粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	東側壁際の床面(床直)	ロクロ整形
220-6002	220-26	土師器	皿	口縁2/5 体部2/5 底部4/5	14.4	2.1		6.8	ロクロ整形。体部は底部から浅く外傾し、外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面には凹線が4条めぐり、下端には回転ヘラズリ(ロクロ右回転)。底部はやや上げ底で回転ヘラズリ(ロクロ右回転)を施す。内面はなめらかに内彎する。	きめ細かい良質の胎土	褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
220-6010	220-27	土師器	甕	口縁1/8 胴部上半1/8	21	6.7+	(19.6)	不明	器面がやや荒れている。口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。口唇はやや鋭角的。胴部はほとんど張らない。口縁部横ナデ。胴部外面は削りがはつきりしないが、縦位(上下)のヘラズリ。内面はヘラナデの痕跡が認められる。	赤色スコリア、長石粒を多く含む胎土	淡暗褐色 淡褐色	やや甘い	カマド内	
220-6002	220-28	土師器	甕	口縁1/15 胴部上半1/12	20	7+	16.7	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、端部で屈曲して立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。胴部はほとんど張らずに底部に向かって内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は削りのはつきりとしたシャープな縦位(上下)のヘラズリを行う。内面はナデを主体にヘラナデの痕跡が認められる。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	暗褐色	やや甘い	覆土中	
220-1003・6002	220-29	土師器	甕 (小型)	口縁1/5 胴部1/3 底部1/1	12	14.8	12.4	4	口縁部は頸部から短く外反し、端部で屈曲、やや内彎気味に立ち上がって終わる。口唇は外側を向き、鋭角的に尖る。胴部は中位で最大径となり、底部に向かって内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は頸部付近から削りのシャープな縦位(上下)のヘラズリを行った後、中下位を横・斜方向(左上右下)のヘラズリで整える。底部は上げ底気味で、不定方向のヘラズリで整形する。内面は頸部付近、底部にヘラナデの痕跡が残る。	長石粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	こげ茶褐色	堅緻	東側床面(+2)	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値 (cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
220-6002	220-30	土師器	甕 (小型)	口縁部1/7	12.7	4+	不明	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反する。端部外面には1条の凹線がめぐり、口唇は外側に丸く下がる。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリ。内面はヘラナデの痕跡が残る。	長石粒を含むきめ細かい胎土	褐色 淡こげ茶褐色	堅緻	覆土中	
220-1010・6002	220-31	土師器	甕	胴部下半1/3 底部1/1	不明	3.8+	不明	不明	底部片。器肉の非常に薄い作り。胴部は底部から外傾する。外面は摩耗しているため不明瞭だが、横方向のヘラケズリ。内面はナデおよびヘラナデの痕跡が認められる。底部ヘラケズリ。	微砂粒、長石粒を含む胎土	淡灰褐色 暗褐色	堅緻	中央床面 (床直)	
220-6002	220-32	須恵器	甕	口縁部1/15	30	4.2+	(26.8)	不明	口縁部は頸部から強く外反し、中位で屈曲、垂直気味に立ち上がって終わる。口唇は上向きで丸味を持ち、内側には受け口状の凹面を持つ。胴部は張らずに垂直に下がる。口縁部横ナデ。胴部外面は平行タタキ目で叩いた後すり消す。内面は横方向のヘラナデ。	きめ細かい胎土	淡茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
220-6002	220-33	須恵器	甕	口縁1/7 胴部上半1/10	25.2	8+	(22.5)	不明	口縁部は頸部から外反して中位で屈曲、内彎気味に立ち上がって終わる。口唇は外側に丸味を持ち、内側には受け口状の凹面を持つ。胴部はほとんど張らずに垂直に下がる。外面は平行タタキ目で叩く。内面ナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡黒茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
220-6002	220-34	須恵器	甕	口縁部1/9	23.2	3.4+	不明	不明	口縁部片。口縁部は頸部から強く屈曲し、扁平な三角形の断面を持つ凸帯を作って終わる。凸帯外面には複雑な稜が見られる。口唇は上向きに尖り、内側に受け口状の凹面を持つ。内外面とも横ナデ。	赤色スコリア、長石粒を含むきめ細かい胎土	淡茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
220-6010	220-35	須恵器	甕	胴部2/5	不明	10.2+	不明	不明	胴部下半部分。胴部は外傾して立ち上がる。外面には目の粗い平行タタキ目で叩いた後、底部付近に斜方向(右上左下)のヘラケズリで整える。内面はナデおよび指による押圧が見られる。	きめ細かい胎土	茶褐色 淡茶褐色	堅緻	カマド内	千葉地域産
220-6001	220-36	須恵器	甕	口縁部2/5	21.5	3.5+	不明	不明	口縁部片。口縁部は浅く外反し、扁平な三角形の断面を持つ凸帯を作って終わる。凸帯外面には凹線と複雑な稜を持つ。口唇は上向きに尖り、内側に受け口状の凹面を持つ。内・外面ともクロクロ整形による横ナデ。	きめ細かい胎土	茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
220-6002	220-37	須恵器	甕	口縁部1/2	21.4	4.6+	不明	不明	口縁部片。口縁部は長く外反し、三角形の断面を持つ凸帯を作って終わる。凸帯外面には3条の凹線がめぐり、口唇は丸味を帯び、内側に受け口状の凹面を持つ。内・外面とも横ナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
220-1017・6001	220-38	須恵器	甕 (大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部下半部分。外面は平行タタキ目で叩く。内面は横方向(左右)の削りの深いヘラケズリを乱雑に行っている。	長石粒を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	南西角の 周溝内	
220-6001	220-39	須恵器	甕 (大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	かなり大型甕の口縁部破片。外面には三角形の低い凸帯を作り、波状文を現状3段施文する。	長石粒を含む胎土	灰色	堅緻	覆土中	
220-6001	220-40	須恵器	甕 (大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	頸部片。外面は現状5段の波状文と凹線を交互にめぐらせている。内面には凹凸が見られ、横ナデおよび押圧が見られる。	長石粒、石英粒を多く含むきめ細かい胎土	黒青灰色 青灰色	堅緻	覆土中	
220-6001	220-41	土師器	置きカマド	破片のため不明	不明	5.2+	不明	不明	全体の形状は不明だが焼き口部分破片。体部外面はなでしており、現状高さ6mm程度の庇を貼付している。焼き口部分は右肩上部付近のアーチ状にかかる部分で、鋭利な工具により内側に向けて切り込み、開口部分を作る。内面はなでしており、スガが全面にわたり付着している。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡茶褐色 黒褐色	堅緻	覆土中	
227-6002	227-1	土師器	杯	口縁1/2 体部1/2 底部9/10	13.1	4.6		6.9	非クロクロ。丸底で重量のある杯。体部は底部から内彎しながら立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。口縁部横ナデ。体部外面は削りの細かい横方向のやや乱雑な手持ちヘラケズリで整形する。底部は不定方向のざっくりと削る手持ちヘラケズリで整形する。内面は内彎し、底部との境目に不明瞭ながら屈曲線が見られる。見込み部分ややへこむ。	赤色スコリア、黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	西側床面 (+28)	非クロクロ
227-6002	227-2	土師器	杯	口縁1/8 体部1/8	13.8	4.3+		不明	非クロクロ。厚味のある丸底風の杯。体部は内彎して立ち上がる。口唇は鋭角的に内側に傾斜する面と稜を持つ。口縁部横ナデ。体部外面は横方向の手持ちヘラケズリ。内面は丁寧な横ナデを施す。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	非クロクロ
227-6002	227-3	土師器	杯	口縁1/6 体部1/6	11.4	3.3+		不明	非クロクロ。体部は内彎しながら立ち上がり、端部で屈曲し外反気味に口唇に至って終わる。口唇はやや鋭角的に尖る。口縁部横ナデ。体部外面には削りの細かい斜方向の手持ちヘラケズリ。内面は丁寧な横ナデを施す。	きめ細かい良質の胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	非クロクロ
227-1012	227-4	土師器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部2/5	12.1	3.8		8.3	非クロクロ。端正で丁寧な作り。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。口縁部横ナデ。体部外面は削りの細かい手持ちヘラケズリで整形。底部は不定方向のヘラケズリ。内面は横ナデでなめらかに内彎し、底部との境目に明瞭な段が見られる。	赤色スコリア、長石粒を含むきめ細かい胎土	褐色	良好	カマド正面の床面 (+7)	非クロクロ
227-6002	227-5	土師器	杯	口縁1/2 体部3/5 底部1/1	12.7	3.9		8.3	非クロクロ。丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾する。口唇は鋭角的に尖る。体部外面には横・斜方向の削りのはっきりとした手持ちヘラケズリで整形する。底部は不定方向の手持ちヘラケズリで整形する。内面は直線的に内傾し、横ナデを施す。底部との境目には、はっきりとした段状の屈曲線が見られる。	黒色粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	非クロクロ
227-6010	227-6	土師器	杯	口縁4/5 体部4/5 底部1/1	12.1	3.2		8	クロクロ整形。墨書土器。器高の低く小振りだが、端正な作り。体部は底部からやや垂直気味、直線的に外傾する。口唇は鋭角的に尖り、内側に傾斜する面を持つ。体部外面下端には底部の切り離しの際の指のアテが見られ、底部は回転ヘラケズリ(クロクロ右回転)で整形する。内面はクロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が見られる。底部外面中央のやや外縁より縦書きによる小さくしつかりとした字体で「北口」の墨書が見られる。	長石粒、黒色粒、微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド内	クロクロ整形 墨書「北口」

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
227-1014	227-7	土師器	杯	完形	12.6	4.4		7.3	ロクロ整形。重量があり、どっしりとしているが、やや雑な作り。成・整形は千葉地域産の茶褐色系の須恵器の作りだが、焼成は土師器そのもの。体部は底部から直線的に外傾する。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による凹凸が顕著で、下端を削り幅の狭い手持ちヘラケズリで整える。底部は回転ヘラ切り(ロクロ方向不明)で切り離した後、全面にわたり一定方向の手持ちヘラケズリで整形する。内面はロクロ整形による横ナデ、凹凸が見られ、見込み部分へこむ。	赤色スコリア、微砂粒を多く含むやや雑な胎土	淡暗褐色	良好	カマド正面の床面(床直)	ロクロ整形
227-1007	227-8	土師器	杯 (大型)	口縁2/3 体部2/3 底部9/10	16.8	4.4		8.1	ロクロ整形。器形の整った丁寧な作り。体部は底部から直線的に大きく外傾する。口唇は丸味を持つ。体部外面中位付近まで大きく回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)を行い、上位部分を丁寧なヘラミガキで、中下位をやや雑な斜方向のヘラミガキを施し器面を平滑にする。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形し、部分的にヘラミガキを行う。内面は緩やかに内傾し、底部との境目に段状の沈線が見られる。器面はしごく丁寧なヘラミガキを行った後、黒色処理する。外面についても部分的に黒色部分が見られることから黒色処理した可能性がある。	黒色粒を含みき細かい胎土	明褐色 黒色	堅緻	カマド左正面の床(+22)	ロクロ整形 黒色処理
227-1003・ 1004・1008・ 1014	227-9	須恵器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部3/5	13.8	4.5		8.6	ロクロ整形。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がり、口縁端部で屈曲、外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による凹凸が見られ、下端を削り幅の狭い手持ちヘラケズリで整える。底部は不定方向の手持ちヘラケズリで整形する。内面はロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。	長石粒、微砂粒を含む胎土	淡茶灰色	良好	カマド正面床面(床直) 中央床面(+4)	千葉地域産 ロクロ整形
227-1006	227-10	須恵器	杯	口縁3/10 体部2/5 底部1/2	13	4.5		7.6	ロクロ整形。体部は底部から外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による凹凸が顕著に見られ、下端を削り幅の狭い手持ちヘラケズリで整える。底部は不定方向の手持ちヘラケズリで整形する。内面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が見られ、底部との境目にはっきりとした沈線状の段が見られる。	長石粒、微砂粒を多く含むやや雑な胎土	淡黄茶灰色	良好	中央床面(+19)	千葉地域産 ロクロ整形
227-6002	227-11	須恵器	杯	口縁1/3 体部1/3 底部1/3	13.4	4.2		6.9	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部で外反して終わる。口唇は外側に向き丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による弱い凹凸が見られ、下端を削り幅の狭い手持ちヘラケズリで整える。底部は不定方向の手持ちヘラケズリで整形する。内面はロクロ整形による凹凸が見られる。	長石粒、微砂粒を多く含むざらざらした胎土	淡黄褐色	良好	覆土中	千葉地域産 ロクロ整形
227-1004	227-12	須恵器	杯	口縁2/3 体部3/5 底部1/1	12.7	4.3		7.1	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾し端部でやや外反して終わる。口唇は厚く外側を向き丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による凹凸が見られ、下端を手持ちヘラケズリで整形調整する。底部は一定方向の手持ちヘラケズリを施す。内面はロクロ整形による凹凸、横ナデが見られる。底部には同心円状の凹凸が残る。	白色粒、微砂粒を多く含むき細かい胎土	淡黒褐色	堅緻	中央床面(+28)	千葉地域産
227-6001・ 6002	227-13	須恵器	杯	口縁3/10 体部2/5 底部1/2	13.1	3.7		7.6	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面下端は削り幅の狭い手持ちヘラケズリで整える。底部は不定方向の手持ちヘラケズリで整形する。内面はロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。	長石粒、微砂粒を多く含む胎土	淡茶褐色	良好	覆土中	千葉地域産 ロクロ整形
227-1006	227-14	須恵器	杯	口縁1/6 体部1/8	12.6	3.7+		不明	ロクロ整形。口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁端部で屈曲、外反して外側に向き丸味を持つ口唇に至って終わる。体部内・外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。	長石粒を多く含むき細かい胎土	暗黄褐色	堅緻	中央床面(+21)	千葉地域産
227-6011	227-15	須恵器	杯	体部1/3 底部1/2	不明	2.7+		6.5	ロクロ整形。底部片。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。底部は回転全切り(ロクロ右回転)、再調整なし。	長石粒を含むき細かい胎土	暗黄褐色 黒褐色	堅緻	カマド内	千葉地域産
227-1001	227-16	須恵器	杯	口縁3/5 体部3/5 底部9/10	14.1	3.7		10.2	体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による横ナデ痕が見られ、底部は回転全切り(ロクロ右回転)で切り離し、中央部分をわずかに残して大方を回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による凹凸が見られる。	白色針状物質、長石粒を含むき細かい良質の胎土	灰色	堅緻	西側床面(+28)	
227-6001	227-17	須恵器	高台付 碗	口縁3/10 体部3/10 底部1/30	18	7.5		12.8 高台 12.5	体部はやや内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。底部には低いがしっかりと高台を貼り付ける。底面の整形調整は破片のため不明。内面にはロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が明瞭に見られる。体部外面に火だすきが残る。	白色粒をわずかに含むき細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
227-6001	227-18	須恵器	高台付 碗	体部1/4 底部1/20	不明	3.5+		11.7 高台 12.1	底部片。体部はやや内彎気味に立ち上がる。底部には低いしっかりと高台を貼り付けている。底面の整形調整は破片のため不明。内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に残る。	きめ細かい胎土	灰色	堅緻	カマド正面の床面(+20)	
227-6002	227-19	土師器	甕	口縁1/7 胴部上半 1/7	19.5	6.3+	(14.7)	不明	口縁部は頸部から屈曲、長く外反し水平気味に終わる。口唇は外側を向き丸味を持つ。胴部は胃部でわずかに張るがそのまま下がる。口縁部横ナデ。胴部外面は削りの弱い縦位(上下)のヘラケズリ。内面は横方向のヘラナデ。	長石粒をわずかに含むき細かい胎土	暗褐色	堅緻	覆土中	
227-6002	227-20	土師器	甕	口縁1/10 胴部上半 1/10	19.6	6+	(16.3)	不明	口縁部は頸部から屈曲、長く外反し水平気味に終わる。口唇は外側を向き丸味を持つ。胴部は胃部でわずかに張るがそのまま下がる。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリ。内面は横方向のヘラナデ。	黒色粒を含むき細かい胎土	淡明褐色	堅緻	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器 種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
227-6002	227-21	土師器	甕	口縁部1/10	15	3.5+	不明	不明	口縁部片。口縁部は頸部から浅く外反し、端部で屈曲、外側に凹線をめぐらせて終わる。口唇は小さく、外側に丸味を持ちややつまみ上げ気味に外反する。内側には凹線状の屈曲が見られる。内外面とも丁寧な横ナデ。胴部はわずかに残るが、外面を縦方向のヘラズリで整えている。	長石粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	覆土中	
227-6002	227-22	土師器	甕 (小型)	口縁1/4 胴部上半1/4	14.1	7.5+	15.2	不明	口縁部は頸部から浅く外反し、外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。内外面とも弱い横ナデ。胴部は肩部で張り内湾しながら下がる。外面は削りの広い縦位(上下)のヘラズリ。内面はナデ。	きめ細かい胎土	淡こげ茶褐色	堅緻	覆土中	
227-6011	227-23	土師器	甕 (小型)	口縁1/20 胴部上半1/10	14	5.5+	12.9	不明	小振りの丁寧な作り。口縁部は頸部から短く屈曲、やや内湾気味に立ち上がる。胴部は肩部で張り、底部に向かって内湾する。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリ。内面ナデ。	長石粒、雲母粒を含む胎土	淡暗褐色	堅緻	カマド内	
227-1002	227-24	土師器	甕 (小型)	口縁1/2 胴部上半1/3	13.6	7.2	13.8	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に短く屈曲して立ち上がる。口唇は尖り気味で外反し、外目に凹線をめぐらせややつまみ上げ状態。口縁部横ナデ。胴部は肩部で張る。外面は削りの丁寧な縦位(上下)のヘラズリ。内面は頸部、肩部分を中心に横方向のヘラナデを施す。	赤色スコリア、長石粒を含むきめ細かい胎土	淡こげ茶褐色	堅緻	西側床面(+26)	
227-1006・6002	227-25	土師器	甕	胴部下半1/5 底部1/2	不明	4.7+	不明	5.6	底部片。胴部は底部からやや内湾気味に立ち上がる。外面は横・斜方向のヘラズリで整える。底部は不定方向のヘラズリ。内面はヘラナデの痕跡がよく残る。	きめ細かい良質の胎土	黒褐色 明褐色	堅緻	中央床面(+20)	
227-1002	227-26	土師器	台付甕	底部1/1 脚部9/10	不明	3.9+	不明	5.7 脚8.3	底部～脚部片。胴部は底部から内湾気味に立ち上がる。底部は低いがしっかりと踏ん張りを示す脚部を貼り付ける。外面は脚部の根本部分から胴部方向に削り上げる。脚部の裾は指による押圧で整える。胴部内面はヘラナデの痕跡が見られる。脚部内面は中心部分を一方のヘラズリで削り、端部を指の押圧で整える。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	こげ茶褐色 淡明褐色	堅緻	西側床面(+26)	
227-6002	227-27	須恵器	甕	口縁部1/14	30.6	3+	(28)	不明	口縁部片。口縁部は頸部から屈曲し扁平な三角形の断面を持つ凸帯を作って終わる。凸帯外面には稜と凹線状の面を持つ。口唇は丸味を持つ。胴部はほとんど張らずに下がり、外面には平行タタキ目で叩く。内面横ナデ。	長石粒を含む胎土	黄褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
227-1010	227-28	須恵器	甕	口縁部1/6	23.4	4.3+	不明	不明	口縁部片。口縁部は長く外反し、端部で扁平な三角形の断面を持つ凸帯に至って終わる。口唇はやや鋭角的。内・外面とも横ナデ。	長石粒、赤色スコリアをわずかに含むきめ細かい胎土	淡黄褐色	堅緻	カマド正面の床面(+13)	千葉地域産
227-6011・6001	227-29	須恵器	蓋	口縁1/18 体部1/9 つまみ1/1	17.7	4	18.1		体部は丸味を持った天井部から水平な裾部に至る。裾端部はやや内傾しながら下がる。端部口唇は鋭角的に尖る。天井部外面は水平部分に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形調整する。つまみ部分はやや扁平な宝珠形。	白色粒を含むきめ細かい胎土	青灰色	堅緻	カマド内	
227-1005	227-30	須恵器	長頸甕	胴部1/4	不明	10.5+	18.4	不明	胴部片。胴部は肩部分で張り、底部に向かって内湾する。外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下位部分に回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。部分的に黒緑色の釉が付着している。内面はロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。	黒色粒をわずかに含むきめ細かい胎土	灰色 淡灰色	堅緻	西側床面(+24)	
227-1013	227-31	須恵器	浄瓶	口縁9/10 頸部9/10	5.4 注ぎ口1.6	14.9+	不明	不明	ロクロ整形。口縁～頸部片。頸部は胴部からほぼ垂直に立ち上がり、外側に大きく外反して開く受け口状の口縁部を作り、その上に先がすぼまる筒状の注ぎ口を付加する。外面はロクロ整形による凹線が螺旋状にめぐる。内面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕がよく残り、筒状の注ぎ口の口唇は工具により鋭角的に削っている。外面の一部には焼成時、火前部分のため自然釉が縦状、多量に付着している。	長石粒を多く含むきめ細かい胎土	淡赤褐色 淡茶色	堅緻	カマド正面の床面(+18)	
227-1011	227-32	灰釉陶器	長頸甕	口縁部1/1	9	10.6	9.6	不明	口縁～頸部片。頸部は胴部から垂直に立ち上がり、中位で外反して口縁端部に至って終わる。口唇は鋭角的に尖る。内・外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。胴部は肩部で大きく張り、そのまま底部に向かって内湾する。			堅緻	カマド正面の床面(+14)	遺物行方不明
228-1004	228-1	土師器	杯 (小型)	ほぼ完形	10.1	3.6		5.3	非ロクロ。灯明用杯。厚手で重量のある小型杯。体部は底部から内湾して立ち上がる。口唇はふ厚く丸味を持つ。口縁部横ナデ。体部外面は削りの細かいやや乱雑な斜方向の手持ちヘラズリで整形する。底部はやや丸底で体部との境目は不明瞭。体部と一体的に乱雑な手持ちヘラズリで整形する。内面は横ナデを施し、底部との境目も不明瞭。内面の口縁部付近を中心にしてススが付着、灯明用として使用。	微砂粒、長石粒を含む胎土	淡明褐色 淡黒褐色	良好	北側壁際床面(+22)	非ロクロ灯明用杯
228-6002	228-2	土師器	杯	口縁3/10 体部3/10 底部3/10	12.4	4.3		8.8	非ロクロ。箱形で器高の深い小型杯。体部は底部から垂直気味、直線的に外傾して立ち上がる。口唇は鋭角的に尖る。口縁部横ナデ。体部外面は中位付近から下位にかけて削り幅の広い斜方向の手持ちヘラズリで整える。底部は不定方向のヘラズリで整形し、平坦な平底。内面は体部中位付近ややふくらみ、底部との境目は沈線状の屈曲線が明瞭に見られる。横ナデを施す。	黒色粒、微砂粒を含むややざらざらした胎土	淡明褐色	良好	覆土中	非ロクロ

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
228-6002	228-3	土師器	杯	口縁1/2 体部1/2 底部2/3	13.7	4		6.5	ロクロ整形。やや重い感じがするが丁寧な作り。体部は底部から内彎しながら立ち上がり、口縁端部で外側にわずかに丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面は削りのはっきりとした横方向の乱雑な手持ちヘラケズリで整形し、部分的にヘラ先を器面に縦方向にきざむアテ痕がみられる。下端についてもごまくりと削るように整形する。底部は静止糸切りで切り離れた後、中央付近を残して大部分を不定方向の手持ちヘラケズリで整形する。内面はロクロ整形による横ナデ痕が残り、底部との境目には凹線状の屈曲が見られる。体部内面には斜方向の弱いヘラ状のキザミが見られる。	黒色粒、小石粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
228-1002・6002	228-4	土師器	杯 (大型)	口縁1/2 体部3/5 底部1/1	15.7	4.4		6.6	ロクロ整形。黒色処理。体部は底部からやや内彎して立ち上がり、口唇で外反気味に終わる。体部外面下端は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)、底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形調整する。内面は体部を交互の斜方向のヘラミガキ、底部を一定方向の丁寧なヘラミガキを施した後、黒色処理する。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡褐色 黒色	堅緻	北西隅の床面(+7)	ロクロ整形 黒色処理
228-6002	228-5	土師器	杯	体部1/4 底部1/8	不明	3.1+		8	ロクロ整形。口縁部欠失。体部は底部から外傾する。体部内外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、外面下端を回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。	きめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
228-1005	228-6	須恵器	杯	口縁1/6 体部1/5 底部2/5	14.2	3.9		10	体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は鋭角的に尖り、内側に傾斜する面と稜を持つ。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)で切り離し、外縁部分のみ幅の狭い回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が見られ、見込み部分やや高まる。	白色針状物質を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	南西隅壁際の床面(床直)	
228-6001	228-7	須恵器	杯	口縁1/3 体部1/2 底部2/5	12.8	4.2		7.8	体部は底部から内彎しながら立ち上がる。口唇はやや丸味を持ち、内側に傾斜する面と稜を持つ。体部内面はロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。底部は削りの深い不定方向のヘラケズリで整形調整する。	きめ細かい胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
228-6002	228-8	須恵器	杯	口縁1/11 体部1/9	12.6	4+		不明	薄手の作り。体部は内彎気味に立ち上がる。外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られ、下端を手持ちヘラケズリで整える。底部は欠失のため整形調整は不明。	きめ細かい胎土	淡灰色 淡茶灰色	堅緻	覆土中	
228-6002	228-9	須恵器	杯	口縁1/7 体部1/7 底部3/10	14	4.3		7.7	ロクロ整形。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部内・外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、外面下端を回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。	長石粒を多く含むきめ細かい胎土	淡茶褐色 黒茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
228-6002	228-10	須恵器	杯	口縁2/5 体部1/2 底部1/1	12.9	4.4		7.2	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部内・外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端を手持ちヘラケズリで整形調整する。底部は不定方向のヘラケズリで整形する。底部内面にはロクロ整形による凹凸が同心円状に見られる。	長石粒を多く含むきめ細かい胎土	黒褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
228-6002	228-11	須恵器	杯	口縁1/20 体部1/5 底部1/4	13.4	3.9		7.3	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部内・外面には弱いロクロ整形による凹凸が見られ、外面下端を手持ちヘラケズリで整える。底部は一定方向のヘラケズリで整形調整する。底部内面にはロクロ整形による同心円状の凹凸が見られる。	白色粒を含むきめ細かい胎土	淡茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産 ロクロ整形
228-6001	228-12	須恵器	蓋	口縁2/3 体部4/5	13.3	2+			つまみ部分欠失。外面はやや丸味を持つ天井部から水平な裾部に至る。裾端部はやや内傾気味に下がり、口唇は鋭角的に尖る。外面の中心付近には回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による弱い凹凸、横ナデ痕が見られる。	長石粒を含むきめ細かい胎土	茶灰色 青灰色	堅緻	覆土中	
228-6001	228-13	須恵器	蓋	体部1/4	17.4	3.5+	18		つまみ部分欠失。体部は丸味を持つ天井部から内彎し、水平気味の裾部に至る。裾端部は内傾して下がる。外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られ、中心より丸味が始まる天井部外面まで、回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形調整する。内面はロクロ整形による横ナデが明瞭に見られる。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
228-6001	228-14	灰釉陶器	長頸壺	口縁部1/4	10.2	1.5+	不明	不明	口縁部片。口縁部は外反し、外面に凹面を持つ三角形の端部に至って終わる。口唇は上方に尖っている。内・外面ともロクロ整形。端部および内面には淡緑褐色の自然釉が付着する。	きめ細かい良質の胎土	淡灰褐色	堅緻	覆土中	
228-1001	228-15	灰釉陶器	長頸壺	脚部3/5	不明	1.5+	不明	脚 8.2	脚部片。脚部は底部の接合部分から剝離。低いがつかりとした作りで、端部の内面は内側に傾斜しながら上がっている。内・外面とも丁寧な横ナデ。	白くきめ細かい良質の胎土	灰白色	堅緻	北西隅の床面(+12)	
228-6002	228-16	土師器	甕	口縁3/10 胴部上半1/5	21.2	6.9+	(20.1)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、端部で屈曲して終わる。端部外面には1条の凹線がめぐり、口唇はつまみ上げ状で外側に丸く下がる。頸部付近の外面には凹線がめぐり、胴部は肩部で張る。口縁部横ナデ。胴部外面は削りの弱い縦位(上下)のヘラケズリ。内面は横方向のナデを施す。	長石粒を含むきめ細かい胎土	暗褐色	堅緻	覆土中	
228-6002	228-17	土師器	甕	口縁部1/5	20.2	4.3+	不明	不明	口縁部片。口縁部は頸部から浅く外反して終わる。口唇は丸味を持つ。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリ。内面はヘラナデ。	微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	覆土中	
228-6002	228-18	土師器	甕 (小型)	口縁1/8 胴部上半1/5	13.2	4.4+	不明	不明	口縁部は頸部から浅く外反し、端部で屈曲、外面に凹線がめぐらず口唇に至って終わる。口唇は丸味を持ち、上方につまみ上げ気味。口縁部横ナデ。胴部外面は削りのはっきりとした縦位(上下)のヘラケズリ。内面はナデを施す。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡こげ茶褐色	堅緻	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値 (cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
228-6002	228-19	土師器	甕 (小型)	口縁1/7 胴部上半 1/5	12.4	4+	(12.3)	不明	口縁部は外面に2条の凹線をめぐらせ、やや外反気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。胴部はほとんど張らずに下がる。口縁部横ナデ。胴部外面は削りのはっきりとした縦位(上下)のヘラケズリ。内面は横方向のヘラナデを施す。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡こげ茶褐色	堅緻	覆土中	
228-6002	228-20	土師器	甕 (小型)	口縁部1/4	13.2	4.2+	不明	不明	薄手の丁寧な作り。口縁部は頸部から外反し、丸味を持つ口唇に至って終わる。口縁部は丁寧な横ナデ。胴部外面は肩部分で横方向(左右)のヘラケズリを施す。内面ナデ。	きめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	覆土中	
228-6002	228-21	土師器	台付甕	脚部4/5	不明	2.3+	不明	底部 3.5 脚 7.8	脚部片。脚部は低いがりとした踏ん張りを出す。外面は指による押圧、ナデを施す。内面は裾部分に指による押圧、ナデを施し、内側をえぐるようにヘラケズリで整えている。	きめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	覆土中	
228-6002	228-22	須恵器	甕 (大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部上半部片。外面は目の粗い平行タタキ目で叩く。内面は指による押圧で整える。	きめ細かい胎土	淡こげ茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
228-6002	228-23	須恵器	甕 (大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	大型甕の頸部～胴部上半片。外面は平行タタキ目で叩く。内面は指による押さえ、およびナデ。	きめ細かい胎土	淡こげ茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
231-1007	231-1	土師器	杯	口縁4/5 体部4/5 底部1/1	13.1	4.1		6.6	ロクロ整形。軽い感じで丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は外側に丸味を持つ。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端を回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はなめらかに内埴し、底部見込み部分やや高まる。	微砂粒、長石粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	カマド左脇の床面(床直)	ロクロ整形
231-1009	231-2	土師器	杯	口縁3/4 体部3/4 底部1/1	12.8	4.2		6.2	ロクロ整形。軽い感じで丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端を回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による横ナデ痕が筋状に見られ、底部見込み部分やや高まる。	微砂粒、小石粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色 淡明褐色	堅緻	カマド右脇の床面(+3)	ロクロ整形
231-6012	231-3	土師器	杯	完形	12.6	3.4		6.6	ロクロ整形。縦長に歪んでいるが、軽い感じで丁寧な作り。体部は底部から外傾して口唇に至る。口唇は外側を向き内側に傾斜する面と稜を持つ。体部外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。下端は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による凹凸が見られるもののなめらかに内埴する。底部見込み部分高まる。内面にスス付着。	微砂粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形
231-6001	231-4	土師器	杯	口縁11/12 体部1/1 底部11/12	13.2	3.8		6.8	ロクロ整形。全体的に摩耗が著しいが、軽く丁寧な作り。体部は底部から内埴気味に立ち上がって終わる。体部外面には凹線が螺旋状に3周する。下端は幅広い回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による凹凸が見られるものの内埴する。底部内面は凹凸が同心円状に見られる。	微砂粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
231-1010・6002	231-5	土師器	杯	口縁1/2 体部1/2 底部1/1	13.2	4		7.2	ロクロ整形。体部は底部からやや内埴気味に立ち上がって終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面中位付近に3条の凹線がめぐり、下端を幅広い回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面は凹凸が見られるもののなめらかに内埴する。底部見込み部分やや高まる。	微砂粒、長石粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	カマド右脇床面(床直)	ロクロ整形
231-1013	231-6	土師器	杯 (大型)	完形	14.8	4.5		8.2	ロクロ整形。傾きの著しい杯。体部は底部から内埴気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られ、下端は回転ヘラケズリ(ロクロ左回転)で整える。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ左回転)で整形するが、面がややでこぼこしている。内面はロクロ整形による凹凸が見られるものなめらかに内埴する。底部見込み部分やや高まる。	砂粒、長石粒を多く含むざらざらした胎土	淡暗褐色	良好	カマド右脇の床面(床直)	ロクロ整形
231-1001	231-7	土師器	杯 (大型)	口縁2/3 体部2/3 底部1/1	15.2	4.6		7.5	ロクロ整形。大型で丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾して口唇に至って終わる。口唇はやや鋭角的に尖る。体部外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られ、下端は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はなめらかに内埴し、底部見込み部分高まる。	微砂粒、黒色粒を含むきめ細かい胎土	明褐色	堅緻	西側壁際の床面(+4)	ロクロ整形
231-1006・6002	231-8	土師器	碗	口縁7/10 体部7/10 底部9/10	16	5.1		9.6	ロクロ整形。歪みのあるやや雑な作り。全体に焼成が甘く摩耗が著しい。体部は底部から内埴して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面にはロクロ整形による弱い凹凸が見られ、下端は手持ちヘラケズリで整形する。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)後、中央部分を残して外縁を不定方向のヘラケズリで整形する。内面はなめらかに内埴し、底部見込み部分高まる。	微砂粒を多く含むきめ細かい胎土	褐色	やや甘い	カマド正面の床面(床直)	ロクロ整形
231-6002	231-9	土師器	杯?	底部2/3	不明	2+		7.4	底部片。ロクロ整形。体部は底部から外傾する。体部外面は削り幅の広い手持ちヘラケズリで整形する。底部はやや上げ底で、静止糸切り後、大方を残し外縁を手持ちヘラケズリで整形する。底部の中央部分にやや墨の薄い字で「山」の墨書、さらにその字体の下に右から左への横方向から、墨のはっきりとした手慣れた字体の「山邊郡立」の墨書が認められる。内面はなめらかに内埴し、底部見込み部分やや高まる。	きめ細かい胎土	暗褐色	堅緻	覆土中	墨書「山邊郡立」「山」

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	道存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
231-1011・6002	231-10	土師器	皿	口縁4/5 体部4/5 底部3/4	14.8	2		6.7	ロクロ整形。体部は底部から緩やかに直線的に外傾する。口唇は外側を向き、やや下がりが気味。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端をわずかに回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整える。底部はやや上げ底で、回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に残る。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド正面の床面(+2)	ロクロ整形
231-6001	231-11	須恵器	高台付碗	口縁1/6 体部1/7	15	5.8+		10.6	底部欠失。器高の深い碗。体部は底部から直立気味に直線的に外傾する。口唇は鋭角的に尖り、内側に傾斜する面と稜を持つ。体部内・外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。	きめ細かい胎土	青灰色	堅緻	覆土中	
231-1003・6002	231-12	須恵器	杯	口縁2/3 体部9/10 底部1/1	13.4	4.2		7.2	ロクロ整形。重量のある杯で、やや雑な作り。体部は底部から外傾し、口縁端部で屈曲、外反して終わる。口唇は丸味を持ち、外側を向く。体部外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られ、下端は削り幅の狭い手持ちヘラケズリで整える。底部は回転ヘラ切り後、一定方向のヘラケズリで整形する。内面はロクロ整形による凹凸が顕著に見られ、底部見込み部分高まる。	長石粒を多く含む胎土	こげ茶褐色	堅緻	西側壁際の床面(床直)	千葉地域産ロクロ整形
231-6010・6002	231-13	土師器	甕	口縁1/5 胴部1/5	24	25.5	21.8	不明	口縁部は頸部から強く屈曲、外傾して終わる。胴部は肩部で張り、底部に向かって内陥する。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリで整える。内面は器面が剥離、荒れているため不明瞭だが、ヘラナデの痕跡が認められる。	長石粒を含むきめ細かい胎土	暗褐色	堅緻	カマド内覆土中	
231-6010・6002	231-14	土師器	甕	口縁1/5 胴部1/2	22.5	21.3+	(21.5)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状直線的に外傾し口唇に至って終わる。口唇は丸味を持ち、外側にややつまみ上げ気味。胴部は肩部で張り底部に向かって内陥する。口縁部横ナデ。胴部は頸部付近から幅の広い縦位(上下)のヘラケズリを行った後、肩部付近から下位まで横方向(左右)のヘラケズリを施す。胴部内面はナデ。	長石粒を含む胎土	暗褐色	堅緻	カマド内覆土中	
231-6010・6002	231-15	土師器	甕	口縁3/5 胴部1/2	23.1	13.7	(21)	不明	器肉の薄い丁寧な作り。口縁部は頸部から「く」の字状に外傾し、口縁端部でやや丸味を持って立ち上がって終わる。端部外面には1条の凹線がめぐり、口唇はやや尖り気味で、内側には凹線状の面を持つ。胴部は肩部で張る。口縁部は強い横ナデ。胴部外面は幅広い縦位(上下)のヘラケズリで整形する。内面は横方向のヘラナデの痕跡が残る。	白っぽいきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	カマド内覆土中	
231-1004	231-16	須恵器	甕	口縁1/8 胴部上半1/8	21.5	20+	(19.2)	不明	口縁部は頸部から短く外反して中位で屈曲、直線的に外傾し、端部でさらに屈曲直立気味に立ち上がって終わる。口唇は上方に鋭角的に尖る。胴部は肩部で張り、内陥して底部に向かう。口縁部横ナデ。胴部外面は頸部付近から中位まで目の粗い平行タタキ目で叩いた後、中位以下をケズリのはっきりとした横方向(左右)のヘラケズリで整える。内面は指による押圧が見られ、下位部分に横方向のヘラナデを施す。	きめ細かい胎土	淡黄褐色	堅緻	中央床面(床直)	千葉地域産
231-1005	231-17	灰釉陶器	長頸壺	胴部1/5	不明	7.8+	14.8	不明	胴部片。器肉が薄く軽い感じで丁寧な作り。胴部は球形状に張る。内・外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、外面中位付近より下は回転ヘラケズリで整形する。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	中央床面(+3)	
231-6001	231-18	須恵器	甕(大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。外面は目の深いはっきりとした平行タタキ目で叩く。内面は幅2.3cm程度のヘラ状工具により、横方向にざっくりと削る。	きめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
231-6001	231-19	須恵器	甕(大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	大型甕の胴部肩部分片。外面は斜方向の平行タタキ目で叩く。肩部付近に厚く自然釉が付着する。内面は指による押圧、およびナデで整える。	きめ細かい胎土	淡茶灰色 灰色	堅緻	覆土中	
231-6011	231-20	須恵器	甕	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部上半部片。外面は目の細かい平行タタキ目で叩く。内面は指による押圧で整える。	長石粒、石英粒を含むきめ細かい胎土	灰色 青灰色	堅緻	カマド内	
231-1004・1005・1008・1012・6010・6002	231-26	須恵器	置きカマド	頂部4/5 体部4/5 底部1/2 焼き口部分1/3 底部分1/2	頂 径 25.9	35.5	胴部 32.8	37.4	体部の器形は、口径37.4cm、器高35.5cm、底径25.9cmを計る土師質須恵器の儼だが、製作途中から甕を逆さまにして、置きカマドに用途変更し作られた。甕としての器形は、口縁部は頸部から短く外反し、端部で扁平な三角形の断面を持つ凸帯を作って終わる。凸帯外面には複雑な稜が見られ、丸味を帯びる曲面と2条の横線が端部をめぐり、口唇は尖り、内側には丸味のある面と屈曲線が見られる。胴部はあまり張らず中位で最大径となり、底部に向かって緩やかに内陥する。口縁部は横ナデ。外面は口縁頸部付近を指による押圧を行い、胴部は目の大きく長い平行タタキ目で叩いた後、部分的にナデ消している。下位から底部周辺付近にかけては削り幅の広いヘラケズリで斜方向にざっくりと削り取り、整形調整する。内面は胴部上へ中位付近まで、はっきりとした幅広いヘラナデを全面に施し、凹線状の強いナデを2条めぐらす。下位は明瞭な指によるナデが見られる。底部内面についても同様に指によるナデで調整する。把手は粘土塊を貼り付け、ヘラケズリで四角錐台形状に整形する。焼き口部分は下部29cm(推定)、上部21.2cm(推定)、高さ29.3cmのU字形で、外側に向け切り込んで成形する。底は幅4cm、厚さ1cm程度の粘土帯を焼き口の切り口より2〜4cm程度離して、指による押圧、指ナデにより貼り付けている。頂部(甕としての底部)は平坦でナデであり、内径19.5cmのやや横長の孔をあける。全体に仕上げは丁寧な作られている。ススは焼き口の外面、底の内側および内面の一部分に付着する程度。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡茶褐色	堅緻	カマド正面の床面(床直) 中央床面(床直) カマド内	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器 種	遺存度	計測値 (cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
233-1003	233-1	土師器	杯	口縁19/20 体部19/20 底部1/1	13.1	4.7		5.8	ロクロ整形。ほぼ完形。やや底部の萎縮した杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がり口唇に至る。口唇は丸味を持つ。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。底部はやや上げ底で、回転系切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面はロクロ整形による弱い凹凸が見られる。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	カマド左脇の床面(直床)	ロクロ整形
233-1001・6002	233-2	土師器	杯	口縁6/7 体部1/1 底部1/1	12.2	4.6		6.3	ロクロ整形。やや歪みのある杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇はやや鋭角的に尖る。体部外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。底部はやや上げ底で回転系切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面はロクロ整形による凹凸が見られるもののなめらかに内彎する。底部との境目には凹線状の屈曲が見られ、見込み部分高まる。	黒色粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	北東隅周溝内	ロクロ整形
233-6012	233-3	土師器	杯	口縁1/6 体部1/3 底部1/1	13.7	4.4		7.7	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面には幅4mm程度のへう状工具による凹線が3条めぐる。底部は回転系切り(ロクロ方向不明)、再調整なし。内面はなめらかに内彎し底部との境目に凹線状の屈曲が見られる。見込み部分やや高まる。	黒色粒、石灰粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色 淡明褐色	堅緻	カマド燃焼部内	ロクロ整形
233-6010	233-4	土師器	杯	口縁1/4 体部2/5 底部4/5	13.2	4.8		6.6	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。底部は回転系切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面はなめらかに内彎し、底部との境目に凹線状の屈曲が見られる。見込み部分ややへこむ。	きめ細かい胎土	淡こげ茶色	堅緻	カマド内	ロクロ整形
233-6010	233-5	土師器	杯	口縁1/3 体部2/5 底部1/1	13.6	4.5		6.2	ロクロ整形。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。外面にはロクロ整形による弱い凹凸が見られ、下端を回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転系切り(ロクロ右回転)後、系切り痕が見える程度の弱い回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形調整する。内面は弱い凹凸が見られるもののなめらかに内彎する。	黒色粒、長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形
233-1006	233-6	土師器	杯	口縁4/5 体部4/5 底部1/2	12.4	4.1		6.5	ロクロ整形。軽い感じの杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。外面にはロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。底部は回転系切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面はなめらかに内彎し、底部との境目には凹線状の屈曲が見られ、見込み部分やや高まる。体部外面の口縁部に近い位置に縦字で一字分の文字不明の墨書。	黒色粒、長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	暗明褐色	堅緻	南西隅の壁際ビット内	ロクロ整形 墨書
233-6010	233-7	土師器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部1/1	13	4.8		7.3	ロクロ整形。比較的重量のある杯。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による凹凸が見られ、下端に底部切り離しの際の指によるアテが認められる。底部は上げ底で回転系切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面はロクロ整形による凹凸が見られ、底部見込み部分高まる。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形
233-1005	233-8	土師器	杯	口縁1/6 体部2/5 底部1/1	13.2	4		7	ロクロ整形。器形の整った杯。体部は底部から直線的に外傾する。口唇は丸味を持つ。体部外面にはロクロ整形による凹凸および横ナデ痕が見られる。底部は回転系切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面は横ナデ痕が残るがなめらかに内彎し、底部との境目に凹線状の屈曲が見られる。見込み部分やや高まる。底部内面、外面に「田」の墨書。体部外面中位付近に欠損部分が多いため不明瞭だが、縦字と思われる一字分の文字不明の墨書が見られる。	黒色粒を含むきめ細かい良質の胎土	淡褐色	堅緻	南西隅の壁際ビット内	ロクロ整形 墨書「田」ほか
233-6013	233-9	土師器	杯	口縁9/10 体部9/10 底部1/1	12.7	4.6		7.2	ロクロ整形。口縁部にやや歪みがあるが端正で丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾して口唇に至る。口唇は丸味を持つ。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端に底部の切り離しの際の指のアテが見られる。底部は回転系切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面はなめらかに内彎する。	黒色粒を多く含む帰依細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド燃焼部内	ロクロ整形
233-1002・6002	233-10	土師器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部1/1	13.1	4.5		7.6	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による凹凸が見られ、下端に底部切り離しの際の指によるアテが認められる。底部は回転系切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面はなめらかに内彎し、底部にはロクロ整形による同心円状の凹凸が見られる。体部外面の中位付近にやや斜めの縦字で「甘」の墨書が認められる。	きめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	北東隅周溝内	ロクロ整形 墨書「甘」
233-6010	233-11	土師器	杯	口縁3/4 体部4/5 底部1/1	12.6	4		7	ロクロ整形。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。底部は回転系切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面はなめらかに内彎する。	きめ細かい胎土	淡暗褐色 淡褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形
233-6002	233-12	土師器	杯	口縁1/2 体部1/2 底部9/10	12.9	4		7.2	ロクロ整形。体部は底部からやや内彎気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。底部は回転系切り(ロクロ右回転)、再調整なし。外面にはススが付着。内面はなめらかに内彎する。	きめ細かい胎土	黒褐色 淡暗褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
233-6010	233-13	土師器	杯	口縁1/2 体部3/5 底部1/1	13.2	4.2		7.1	ロクロ整形。縦長に歪みのある杯。体部は底部から外傾し、口縁端部で短く外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による凹凸が見られ、下端には底部切り離しの際の指のアテが見られる。底部は回転系切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面はなめらかに内彎する。内面1/3にスス付着。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口徑	器高	最大径	底径						
233-6011	233-14	土師器	杯	口縁6/7 体部1/1 底部4/5	13	5		7	ロクロ整形。縦長に歪みのある杯。体部は底部から直線的に外傾し、口唇に至って終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による凹凸が顕著に見られ、下端に底部切り離しの際の粘土が被る。底部は上げ底気味で回転系切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面はロクロ整形による弱い凹凸が見られ、底部見込み部分やや高まる。	黒色粒を含むき細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド燃焼部内	ロクロ整形
233-6002	233-15	土師器	杯	口縁1/10 体部2/5 底部1/1	14.7	4.8		6.6	ロクロ整形。黒色処理。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇はやや鋭角的で外側を向く。体部外面下端は削り幅の狭い手持ちヘラケズリで整える。底部は回転系切り(ロクロ右回転)後、外周を部分的にヘラケズリし整形する。内面は横方向のヘラミガキ後、黒色処理する。	長石粒をわずかに含むき細かい胎土	暗褐色 黒色	堅緻	覆土中	ロクロ整形 黒色処理
233-6010	233-16	土師器	杯	口縁4/5 体部4/5 底部1/20以下	13.2	4.3		7.1	ロクロ整形。縦長に歪みのある杯。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。外面にはロクロ整形による弱い凹凸が見られ、下端を手持ちヘラケズリで整える。底部はほとんど欠失しているがヘラケズリで整形しているもよう。内面はなめらかに内彎する。	微砂粒、長石粒を含むやや雑な胎土	淡黄褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形
233-6002	233-17	土師器	杯	口縁3/4 体部4/5 底部1/1	13.9	3.8		6.9	ロクロ整形。器高が低く、外側に開く皿風の杯。体部は底部から外反気味に開く。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による凹凸が見られ、下端には底部切り離しの際の指のテアが見られ、高台状を呈している。底部は回転系切り(ロクロ右回転)、再調整なし。内面はなめらかに内彎する。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
233-6010	233-18	土師器	皿	口縁1/6 体部1/6 底部1/6	13.4	2.4		6.2	ロクロ整形。体部は底部から緩やかに外傾して口唇に至る。口唇は外側を向き、やや鋭角的に尖る。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端を回転ヘラケズリ(ロクロ左回転)で整える。底部は回転ヘラケズリ？内面は凹凸が見られるものの緩やかに内彎する。	きめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形
233-6010・6002	233-19	土師器	甕	口縁1/2 胴部2/3	22	20.3+	(21.6)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状直線的に外傾して立ち上がる。胴部は肩部で張り、底部に向かって内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は削りの弱い縦位(上下)のヘラケズリで整え、下位に部分的に斜方向のヘラケズリを施す。内面は頸部から胴部肩部にかけ、明瞭な斜方向のヘラナデ、中位から下位にかけてナデを施す。	きめ細かい胎土	淡茶褐色	堅緻	カマド内	
233-6002	233-20	土師器	甕	口縁1/5 胴部上半1/5	21.2	7.3+	(19.7)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、口唇に至って終わる。口唇は外側を向き、丸味を持つ。胴部は肩部で張る。口縁部横ナデ。胴部外面は削りのはっきりとした縦位(上下)のヘラケズリを行う。内面は頸部付近に明瞭な痕跡を残す斜方向のヘラナデ、胴部ナデを施す。	長石粒をわずかに含むき細かい胎土	淡暗褐色 淡褐色	堅緻	覆土中	
233-6010・6002	233-21	土師器	甕	口縁1/7 胴部上半1/6	22	11+	(21.6)	不明	口縁部は頸部から強く外反し、丸味を持つ扁平な凸帯を作って終わる。凸帯外面には凹線がめぐる。口唇は上方に鋭角的に尖る。胴部は中位で最大径となる。口縁部横ナデ。胴部外面は削りの弱い縦位(上下)のヘラケズリで整える。内面は頸部に横方向のヘラナデ、胴部に幅の広いヘラナデを施す。	微砂粒、長石粒を含むざらした胎土	暗赤褐色	堅緻	カマド内	
233-6010	233-22	土師器	甕	口縁1/9 胴部上半1/6	22	10.3+	(19.9)	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に短く外傾して口唇に至る。口唇は丸味を持つ。胴部は肩部でわずかに張り、底部に向かって内彎する。口縁部は強い横ナデ。胴部外面は削りの弱い縦位(上下)のヘラケズリで整える。内面はわずかにヘラナデの跡が認められるほかナデを主体とする。	黒色粒をわずかに含むき細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド内	
233-6002	233-23	土師器	甕	口縁1/5 胴部上半1/6	22.4	5.2+	不明	不明	口縁部は頸部から「く」の字状に外傾する。口唇は鋭角的に尖る。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリ。内面は頸部付近に斜方向のヘラナデを施す。外面の口縁部～胴部にススが付着する。	長石粒をわずかに含むき細かい胎土	黒茶褐色 淡褐色	堅緻	覆土中	
233-6010	233-24	土師器	甕	胴部1/3 底部1/3	不明	5.4+	不明	7	底部片。胴部は底部から内彎気味に立ち上がる。外面には横方向(左右)のヘラケズリ。底部は不定方向のヘラケズリで整える。内面は底部付近にヘラナデの痕跡が残る。	黒色粒、赤色スコリアを含むき細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	カマド内	
233-6010	233-25	土師器	甕	胴部下半2/5 底部1/2	不明	2.8+	不明	5	底部片。胴部は底部から内彎気味に立ち上がる。外面には横方向(左右)のヘラケズリ。底部は不定方向のヘラケズリで整える。内面はヘラナデを施す。	長石粒を含むき細かい胎土	淡黒褐色 淡褐色	堅緻	カマド内	
233-6010	233-26	土師器	甕 (小型)	ほぼ完形	13.9	13.4	(13.6)	6.2	口縁部は頸部から短く外反して口唇に至る。口唇は丸味を持つ。胴部は肩部で張り、底部に向かって内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は削りのはっきりとした縦位(上下)のヘラケズリを行った後、中位付近から底部に向かって斜方向(左上右下)のヘラケズリを施す。底部ナデ。内面は斜方向(下から上へ)の痕跡のはっきりとしたヘラナデを全面に施す。底部の見込み部分高まる。	長石粒をわずかに含むき細かい胎土	こげ茶色	堅緻	カマド内	
233-6010	233-27	土師器	甕	胴部下半1/2 底部1/1	不明	4.3+	不明	14	底部片。胴部は底部から直線的に外傾する。外面は横方向(左右)のヘラケズリで整える。底部は平底で、一定方向のヘラケズリで平滑にする。内面はナデおよび指ナデにより帯面を整えている。外面にススが付着。	きめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	カマド内	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
233-1004	233-28	土師器	甗	口縁1/6 胴部1/8	30	9+	(27.3)	不明	口縁部は頸部から強く外反し、端部で屈曲、垂直気味に立ち上がって終わる。端部外面には凹縁がめぐる。口唇は上方に尖り、内側には受け口状の屈曲を持つ。胴部はわずかに張るが緩やかに内湾する。口縁部横ナデ。胴部外面は幅の広い平行タタキ目で叩く。頸部に近い位置に径18mm、高6mm程度の扁平なボタン状の把手を貼り付けている。内面は頸部付近に横方向のヘラナデ、胴部にはヘラナデの痕跡が認められる。	きめ細かい良質の胎土	明褐色	堅緻	西側壁際の床面(+10)	
233-6010	233-29	須恵器	甗	底部3/5	不明	1.1+	不明	13.5 復元	底部片。底部中央部に径3.2cm程度の正円形の孔、外縁に長楕円形の孔を4個を穿つ。いずれも内側から鋭利な工具により、くり抜かれている。内面はナデによる平滑な面となっている。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡黒茶褐色 黒褐色	堅緻	カマド内	千葉地域産
233-6002	233-30	土師器	甗	底部1/6	不明	3+	不明	14.6	底部片。胴部は底部から直線的に外傾する。外面には横方向のヘラズリで整える。底部は平底で、長楕円形の孔を穿つ。内面は横方向のナデを施す。	きめ細かい胎土	淡こげ茶色 淡明褐色	堅緻	覆土中	
338-6001	338-1	土師器	杯	口縁3/10 体部3/10 底部1/20	12.3	4.8		7.4	非ロクロ。器高の深い杯。よく焼きしまっている。体部は底部から内湾気味に立ち上がって口唇に至る。口唇は丸味を持つ。口縁部横ナデ。体部外面には削りの細かい手持ちヘラズリを乱雑に施す。底部手持ちヘラズリ。内面は横ナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	暗赤褐色	堅緻	土坑覆土中	非ロクロ
345-6001	345-1	須恵器	甗	口縁部1/11	21.5	3+	不明	不明	口縁部片。口縁部は外反し、端部で三角形の断面を持つ凸帯に至って終わる。口唇はやや鋭角的に尖る。内・外面横ナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	青灰色	堅緻	土坑覆土中	
373-6001	373-1	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5	13.7	3.5		8.9	非ロクロ。器高の低い壁状風の杯。体部は底部から内湾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。口縁部横ナデ。体部外面は横方向の手持ちヘラズリで整える。底部ヘラズリ。内面横ナデ。	赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡明褐色	良好	覆土中	非ロクロ
373-6001	373-2	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5	13.6	3.3+		不明	非ロクロ。丸底の杯。体部は内湾して立ち上がる。口唇は鋭角的に尖る。口縁部横ナデ。胴部外面には斜方向の手持ちヘラズリで整形する。内面は横ナデ。	きめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	非ロクロ
373-6002	373-3	須恵器	杯	破片のため不明	不明	不明		不明	底部片。底部は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による横ナデ。	白色粒を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
392-1001	392-1	土師器	台付甗	口縁1/3 胴部1/2 底部1/1 脚部1/1	12.4	13.9	13.4	4.7 脚部8.1	丁寧な作り。口縁部は頸部から直立気味に短く立ち上がって終わる。口唇は丸味を持つ。胴部は球形で中位で最大径となり、底部に向かって内湾する。胴部はしっかりとした踏ん張りを出す。口縁部横ナデ。胴部外面は頸部付近から丁寧な縦位(上下)のヘラズリを行う。胴部外面は指による押圧、ナデを行った後、縦方向(上下)のヘラズリを行う。胴部内面は斜方向のヘラナデの痕跡が認められる。脚内面は全体をなでた後、外縁をヘラズリで整える。	長石粒、石英粒を含む胎土	こげ茶褐色	堅緻	土坑覆土中	
400-6002	400-1	土師器	杯	口縁1/8 体部1/8	15.4	3.7+		7.2	非ロクロ。丸底の杯。体部は底部から内湾して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。口縁部横ナデ。体部外面は削りの細かい手持ちヘラズリで整形する。内面は横ナデを施し、なめらかに内湾する。	赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡明褐色	良好	覆土中	非ロクロ
400-6002	400-2	土師器	杯	口縁3/10 体部1/5	13.6	3+		不明	非ロクロ。体部は内湾しながら立ち上がり、中位付近で一旦屈曲やや外反して口唇に至り終わる。口唇はやや鋭角的に尖る。口縁部横ナデ。体部外面は横方向の手持ちヘラズリで整形する。内面は横ナデを施す。	微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	良好	覆土中	非ロクロ
400-6002	400-3	土師器	杯	口縁1/5 体部1/8	12.4	3.6+		不明	ロクロ整形。体部は底部から内湾気味に立ち上がる。体部内面はロクロ整形による横ナデ痕が残る。底部は欠失のため整形調整は不明。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
400-6001	400-4	土師器	甗	口縁部1/10	17.9	4.4+	(15.5)	不明	口縁部は頸部から外反し、端部で屈曲、内傾気味に立ち上がる平坦面を持つ口唇に至って終わる。口縁部外面にはロクロ整形による凹凸がめぐる。胴部は縦位(上下)のヘラズリで整形する。内面はナデ調整か。	長石粒を含むややざらした胎土	暗褐色	良好	覆土中	
400-6002	400-5	土師器	甗	口縁部1/8	15.6	3.3+	(13.9)	不明	丁寧な作り。口縁部は頸部から浅く外反し、中位で屈曲、内湾気味に立ち上がって、外側に外反する口唇に至って終わる。口唇は鋭角的に尖る。口縁部には強い横ナデ痕が残る。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリ。内面は頸部付近に明瞭な横方向のヘラナデを行っている。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	
400-6001	400-6	須恵器	長頸壺	底部1/6	不明	2.5+	不明	8 高台8.6	底部片。胴部は底部から内湾気味に立ち上がる。外面は回転ヘラズリ(ロクロ右回転)で整形する。底部は低いがしっかりとした高台を貼り付け、ナデ調整を行う。内面はロクロ整形による凹凸が底部を中心にして顕著に見られる。	きめ細かい良質の胎土	灰色	堅緻	覆土中	
400-6001	400-7	須恵器	甗	破片のため不明	不明	3.3+	不明	不明	頸部片。胴部外面は平行タタキ目で叩く。残存部は全面にわたり淡黄灰色の釉が斑点状に付着する。内面ナデ調整。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
400-6001	400-8	須恵器	甗	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部上半部分。外面は、目の粗い平行タタキ目で叩く。内面は指による押圧およびナデ調整を行っている。	長石粒を多く含むやや複雑な胎土	黄茶褐色 淡黒茶灰色	堅緻	覆土中	千葉地域産
400-6001	400-9	須恵器	甗	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部上半部分。外面は平行タタキ目で叩く。内面は同心円文状のタタキ目で叩いた後、部分的にすり消す。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	灰色 淡茶灰色	堅緻	覆土中	
400-6001	400-10	須恵器	甗	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部上半部分。外面は平行タタキ目で叩く。内面は指による押圧およびナデ調整を行う。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
400-6001	400-11	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部上半部分。外面は器面の剝離が著しいが、平行タタキ目で叩く。内面は同心円文状のタタキ目で叩く。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡茶灰白色 淡茶灰色	堅緻	覆土中	
400-6001	400-12	須恵器	甕 (大型)	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。外面は平行タタキ目で叩く。部分的に淡黄灰色の釉が斑点状に付着。内面は部分的にヘラズリを行い、ヘラナデ調整を行っている。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡黒灰色 淡灰色	堅緻	覆土中	
400-6001	400-13	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	6.5+	不明	不明	胴部上半部分。外面は平行タタキ目で叩く。部分的に淡黄灰色の釉が斑点状に付着する。内面は指によるナデ調整を行っている。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
400-6001	400-14	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部上半部分。外面は方向の異なる斜方向の平行タタキ目を組み合わせて叩く。内面はヘラナデ。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	灰色 淡茶灰色	堅緻	覆土中	
401-6001	401-1	土師器	杯	口縁1/7 体部1/7	13.2	3.2+		不明	非クロコ。体部は底部から内彎して立ち上がる。口唇はやや鋭角的。外面にはケズリの細かい手持ちヘラズリで整形する。内面は横方向の丁寧なヘラミガキを施す。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマドA (西側)内	非クロコ
401-6001	401-2	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5	13.1	4.2+		不明	非クロコ。口縁部片。全体的に摩耗している。体部は底部から内彎して立ち上がる。口縁部横ナデ。体部外面は、摩耗しているため不明瞭だが、斜方向の削りの細かい手持ちヘラズリで整形する。底部は欠失のため不明。内面はなめらかに内彎し横ナデを施す。	赤色スコリア、微砂粒を含む胎土	淡暗褐色	やや甘い	覆土中	非クロコ
401-1002?	401-3	土師器	杯	完形	13.6	3.7		8.3	非クロコ。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口唇に至る。口唇は鋭角的に尖る。体部内面と底部との境目に明瞭な段が見られる。体部外面は横方向の削り幅のやや広い手持ちヘラズリで整える。底部は手持ちヘラズリで整形する。内面は横ナデで、底部との境目に明瞭な段が見られる。	微砂粒、白色針状物質を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	良好	カマドB (東側)正面の床面(+1)	非クロコ
401?	401-4	土師器	杯	遺物行方不明のため不明	13.3	3.6		9	非クロコ。厚味があり器高の低い杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は鋭角的に尖る。体部外面は手持ちヘラズリで整える。底部はやや丸味があり、手持ちヘラズリで整形する。内面は体部との境目に明瞭な段が見られる。内面には斜格子状暗文を施す。	不明	不明	不明	不明	坊作編年I-a、No57に掲載されている(該当遺物不明)
401-1005	401-5	土師器	杯	口縁2/5 体部2/5 底部4/5	14	3.9		9.2	クロコ整形。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持つやや鋭角的。体部外面はクロコ整形による弱い凹凸が見られ、下端を手持ちヘラズリで整える。底部は平底で、不定方向のヘラズリで整形する。内面はクロコ整形による凹凸、横ナデが顕著に見られ、底部には同心円状の凹凸が見られる。内外面にわたり、濃赤褐色の丹をハケにより全面に塗っている。底部外面の中央のやや外縁寄りに縦書きによる繊細な筆運びの文字で「大里」の墨書が見られる。	長石粒、黒色粒を含むきめ細かい胎土	赤褐色	良好	西側隔壁 の床面(+2)	クロコ整形 赤彩 墨書 「大里」
401-6001	401-6	須恵器	杯	口縁7/10 体部4/5 底部1/1	13.4	3.5		9.8	良く焼きしまっている。体部は底部からやや外反気味に立ち上がって口唇に至る。体部外面にはクロコ整形による凹凸が見られる。底部はやや高さがあり、回転ヘラズリ(クロコ右回転)で整形する。内面はクロコ整形による凹凸が見られ、底部との境目に沈線状の明瞭な屈曲が見られる。体部内・外面には火だすきがよく残っている。	きめ細かい胎土	茶灰褐色	堅緻	カマドB (北東側)内	
401-1001	401-7	須恵器	杯	口縁7/10 体部9/10 底部1/1	12	3.8		7.8	良く焼けしまっており金属質な感じの杯。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部で屈曲、短く外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面にはクロコ整形による凹凸が見られる。底部は回転ヘラ切り(クロコ右回転)により器面がささくれ状態となっている。再調整はない。内面はクロコ整形による凹凸、底部には同心円状の凹凸が見られる。	長石粒を多く含むざらざらとした雑な胎土	灰色	堅緻	南東側壁 際の床面(+6.5)	常陸産
401-1004	401-8	土師器	甕	口縁1/3 胴部上半 2/3	16	5.3+	16.3	不明	器内の厚いやや雑な作り。口縁部は頸部から「く」の字状に外反し、端部でわずかに屈曲、垂直に立ち上がって終わる。口唇はやや鋭角的。口縁部横ナデ。胴部外面は削りの弱い縦位(上下)のヘラズリで整える。内面は頸部から胴部にかけて横方向の明瞭なヘラナデを施す。外面の胴部にススが付着する。	長石粒を多く含むざらざらした胎土	褐色	良好	西側隔壁 際の床面(床直)	
401-6002	401-9	土師器	甕	胴部下半 1/3 底部1/1	不明	8.2+	不明	7.4	胴部下半～底部。胴部は底部から内彎気味に立ち上がる。外面には斜・横方向のやや乱雑なヘラズリを施す。底部は丸味があり、不明瞭だが、ヘラズリで整形する。内面はヘラナデの痕跡が残る、大方なでている。	長石粒を含む胎土	淡褐色 淡明褐色	良好	カマドA (西側)内	
002-1206A-1003	402-1	土師器	杯	完形	12.2	3.8		5.2	クロコ整形。小振りで底部の萎縮した軽い感じの杯。体部は底部から外傾し、口縁端部で外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面にはクロコ整形による凹凸が見られる。底部はやや上げ底で、回転糸切り(クロコ右回転)で切り離し、再調整なし。内面はなめらかに内彎し、底部との境目には凹線状の屈曲が見られる。見込み部分ややへこむ。	長石粒、砂粒、小石粒を含むざらざらした胎土	淡暗褐色	良好	西側壁際 の床面(床直)	クロコ整形
002-1206A-1008	402-2	土師器	杯	完形	12	3.8		6.1	クロコ整形。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面はクロコ整形による凹凸が見られる。底部は回転糸切り(クロコ右回転)で切り離し、再調整なし。内面はクロコ整形による弱い凹凸、横ナデ痕が見られる。	長石粒、微砂粒を含むややざらした胎土	淡暗褐色	良好	西側壁際 の床面(床直)	クロコ整形
002-1206-6001	402-3	土師器	甕	口縁部1/5	23.3	5.8+	不明	不明	口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状直線的に外傾する。口唇はやや鋭角的に尖る。胴部外面は縦位(上下)のヘラズリで整形し、内面は斜方向のヘラナデを施す。	きめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器 種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
002-1206-6001	402-4	土師器	甕	口縁部1/11	23	3.7+	不明	不明	口縁部片。口縁部は頸部から外反し、端部で屈曲、凹線を持つ口唇に至って終わる。口縁部中位付近に接合痕が見られる。口縁部横ナデ。胴部は縦位(上下)のヘラケズリで整形する。	きめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	
002-1206-6001	402-5	土師器	甕	底部1/1	不明	4.5+	不明	5.8	底部片。胴部は底部から内彎気味に立ち上がる。外面は斜方向(左上右下)のヘラケズリ、底部は一定方向のヘラケズリで整形する。内面は器面が荒れているため不明。	長石粒を含むきめ細かい胎土	暗褐色	良好	覆土中	
002-1206-6001	402-6	須恵器	甕	底部1/12	不明	4.6+	不明	13	底部片。胴部は底部から直線的に外傾する。外面は横方向のヘラケズリで整形する。底部には鋭利な工具によりくり抜いた孔の断面が見られる。外面は未調整。内面は指によるナデ調整が見られる。	長石粒を含むややざらした胎土	灰色	堅緻	覆土中	
002-1206-6001	402-7	須恵器	甕	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。外面は平行タタキ目で叩く。内面は同心円文タタキで叩いた後、すり消す。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	青灰色 淡茶灰色	堅緻	覆土中	
002-1207-6001	403-1	土師器	杯	口縁1/10 体部1/10 底部1/20	13.4	3.1		9	非ロクロ。器高の低い平底、厚手の杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。口縁部横ナデ。体部外面は器面が摩耗しているため不明瞭だが、横・斜方向の手持ちヘラケズリで整形する。底部は不定方向のヘラケズリで整形。内面はなめらかに内彎し、底部との境目に沈線状の屈曲線が見られる。器面は横ナデを施し、弱くうっすらと斜格子状暗文が見られる。	白色針状物質を含むきめ細かい胎土	褐色	良好	覆土中	斜格子状暗文
002-1207-6001	403-2	須恵器	杯	口縁1/10 体部1/12	14	3.5		9.6	口縁部片。体部は底部から直線的に外傾する。口唇はやや鋭角的に尖る。器面はやや摩耗しており調整は不明瞭。底部は欠失のため整形調整は不明。	黒色粒を含むやや白っぽいきめ細かい胎土	淡茶灰色 淡灰褐色	堅緻	覆土中	
002-1207-6001	403-3	須恵器	蓋	口縁2/3 体部4/5	15	2.6+			つまみ部分欠失。外面は天井部から裾部まで屈曲を持ちながら内彎して下がる。裾端部はやや内傾し、口唇は鋭角的に尖る。外面の天井部は半分程度、回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による中心から左巻き状に螺旋状凹凸が見られる。口唇端部では明瞭な屈曲線が見られる。	大粒の長石粒、石英粒を含む胎土	青灰色	堅緻	覆土中	
002-1207-6001	403-4	土師器	甕	底部1/10	不明	2.9+	不明	9	底部片。胴部は底部から内彎気味に立ち上がる。外面はススが付着し、横・斜方向のヘラケズリで整形する。底部はヘラケズリで整形する。内面ナデ?	微砂粒を含むきめ細かい胎土	黒褐色 淡褐色	良好	覆土中	
002-1207-6001	403-5	須恵器	甕	底部9/10	不明	3.3+	不明	7.8	底部片。胴部は底部から直線的に外傾する。外面は器面が摩耗しているため不明瞭だが、横方向のヘラケズリで整形する。底部は整形せず、器面がでこぼこしている。内面は底部との境目に明瞭な屈曲線が見られ、見込み部分やや高まる。内面の胴部は細かいヘラナデを施している。胴部外面にススが付着。	白色針状物質、長石粒を含む胎土	黒褐色 淡黒茶褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
002-1207-6001	403-6	須恵器	甕	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。外面は目の粗い平行タタキ目で叩く。内面は同心円文タタキ目で叩いた後、大方すり消す。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
002-1207-6001	403-7	須恵器	甕	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部下位部分。外面は目の密な平行タタキ目で叩く。内面は同心円文状のタタキ目を強く叩いている。	黒色粒、長石粒を多く含むきめ細かい胎土	濃灰色	堅緻	覆土中	
002-1207-6001	403-8	須恵器	甕	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。外面は目の密な平行タタキ目で叩く。内面はナデ。	長石粒を多く含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
002-1207-6001	403-9	須恵器	甕	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	口縁～頸部片。口縁部は大きく外反する。外面には凹線をめぐらせ、その両端部に縦方向の細かいキザミを施す。内面は横ナデ痕が見られる。	黒色粒を多く含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
002-1210-6002	404-1	土師器	杯	口縁1/4 体部1/4 底部1/15	12.8	4		6.6	ロクロ整形。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面にはロクロ整形による凹凸が見られ、下端を回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面は弱い凹凸が見られるもの、なめらかに内彎する。	微砂粒、長石粒を含むざらした胎土	淡褐色 淡黒褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
002-1210-1025	404-2	土師器	杯	口縁7/10 体部4/5 底部1/1	13	4.5		6.4	ロクロ整形。比較的丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。体部外面はロクロ整形による凹凸および凹線が数条めぐる。下端には削り幅の広い手慣れた手持ちヘラケズリで整形する。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面は底部との境目が見られず、底部までなめらかに内彎する。ロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が残り、見込み部分へこむ。	黒色粒、白色針状物質を含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	カマド内	ロクロ整形
002-1210-6002	404-3	土師器	杯	口縁1/10 体部1/8	13.6	4.4+		5.6 復元	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による凹凸が見られ、下端を手持ちヘラケズリで整形する。底部は欠失のため整形調整は不明。内面はロクロ整形による凹凸が見られるもの、なめらかに内彎する。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
002-1210-6002	404-4	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5 底部1/1	12.8	3.9		6.5	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は鋭角的に尖る。体部外面はロクロ整形による凹凸が見られ、下位部分を削り幅の広い手持ちヘラケズリで整える。底部は回転未切り(ロクロ方向不明)で切り離した後、中央付近を残して外縁を削り取るように手持ちヘラケズリで整形する。内面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕がよく残り、見込み部分へこむ。	砂粒、長石粒を多く含むざらした胎土	褐色	良好	覆土中	ロクロ整形

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
002-1210-6002	404-5	土師器	杯	口縁1/6 体部1/8	14.2	3.1+		不明	ロクロ整形。器高の低い杯。体部は内彎気味に立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。体部外面はロクロ整形による凹凸が見られ、下端を手持ちヘラケズリで整形する。内面はロクロ整形による横ナデ。	きめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
002-1210-6002	404-6	土師器	杯	口縁1/5 体部1/5	14.2	3.7+		6.6 復元	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による凹凸が見られる。底部は欠失のため整形調整は不明。内面は横ナデ痕が明瞭に残り、なめらかに内彎する。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
002-1210-6005	404-7	土師器	杯	口縁1/10 体部1/10	12.2	3.8		5.5	ロクロ整形。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。体部外面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が見られる。底部は欠失のため整形調整は不明。内面は横ナデで、なめらかに内彎する。	黒色粒、長石粒、小石を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
002-1210-6002	404-8	土師器	杯	口縁1/12 体部1/10	12.2	3.8+		5.4 復元	ロクロ整形。体部は底部から外傾し、口縁端部で屈曲、外反して終わる。口唇はやや鋭角的に尖る。体部外面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が見られる。底部は欠失のため整形調整は不明。内面は横ナデで、なめらかに内彎する。	黒色粒、長石粒、小石を含むやや雑な胎土	淡明褐色 淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
002-1210-6102	404-9	土師器	杯	体部1/8 底部4/5	不明	2.4+		7.2	ロクロ整形。底部片。体部は底部から外傾する。体部の底部付近には底部切り離しの際の指のアデが見られる。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)で切り離し、再調整はない。内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に見られ、底部との境目に凹線状の屈曲が見られる。	微砂粒、長石粒を含むざらざらした胎土	淡明褐色 褐色	良好	カマド内	ロクロ整形
002-1210-6002	404-10	土師器	杯	底部1/1	不明	1.5+		6.4	ロクロ整形。底部片。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。外面下位にはロクロ整形による凹凸が見られる。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)で切り離し、再調整なし。内面はなめらかに内彎する。内面底部の中央よりやや外縁に「×」の刻線が見られる。	白色針状物質、赤色スクリアを含むきめ細かい胎土	淡明褐色	良好	覆土中	ロクロ整形 線刻「×」
002-1210-6002	404-11	土師器	杯	底部1/1	不明	1.3+		6.2	ロクロ整形。体部下端は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形。内面はロクロ整形による横ナデ痕がよく残る。	赤色スクリアを含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
002-1210-6002	404-12	土師器	杯	底部1/3	不明	1.2+		7.1	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形。内面はロクロ整形による凹凸が螺旋状に巻き、横ナデ痕がよく残る。	きめ細かい胎土	明褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
002-1210-6002	404-13	土師器	皿	口縁1/12 体部1/10	13.2	2.3+		不明	ロクロ整形。体部は底部から緩やかに外傾して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面下端を回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。底部は欠失のため整形調整は不明。内面はロクロ整形による横ナデ痕が残り、なめらかに内彎する。	黒色粒をわずかに含むきめ細かい良質の胎土	淡明褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
002-1210-6002	404-14	土師器	皿	口縁1/5 体部1/6	14.2	2.5+		不明	ロクロ整形。体部は底部から緩やかに外傾し、口縁端部でわずかに屈曲、外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に見られる。底部は欠失のため整形調整は不明。内面はなめらかに内彎する。	黒色粒、小石粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
002-1210-1003	404-15	土師器	皿	体部1/4 底部1/2	不明	2.7+		6.3	ロクロ整形。体部は底部から緩やかに外傾する。外面はロクロ整形による横ナデ痕が見られ、下端を回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転糸切り(ロクロ方向不明)で切り離した後、痕跡の残る程度に回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による横ナデ痕が見られ、なめらかに内彎する。	長石粒、赤色スクリアを含むきめ細かい良質の胎土	淡明褐色	堅緻	カマド正面の床面(床直)	ロクロ整形
002-1210-6005	404-16	土師器	碗 (大型)	体部1/8 底部1/2	不明	6.6+		8.5	ロクロ整形。器高の深い大型の碗で丁寧な作り。体部は底部から直線的に外傾し、中位付近で屈曲、内彎気味に立ち上がる。外面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が見られ、下位部分に凹線状の凹凸がめぐり、削り幅の広い手持ちヘラケズリで整形する。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)で切り離した後、大方残して外縁を手持ちヘラケズリで整形する。内面はロクロ整形による凹凸が見られるが、なめらかに内彎し、底部との境目に凹線状屈曲が見られる。見込み部分ややへこむ。	長石粒、小石粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
002-1210-6002	404-17	土師器	杯	口縁1/10 体部1/10	12.4	4+		不明	ロクロ整形。黒色処理。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部でやや外反して終わる。口唇はやや鋭角的に内側に傾斜する面と稜を持つ。体部外面はロクロ整形による横ナデが見られる。内面は横方向の丁寧なヘラミガキを行った後、黒色処理する。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色 黒色	堅緻	覆土中	ロクロ整形 黒色処理
002-1210-6001	404-18	須恵器	高台付碗	口縁3/10 体部1/4	18.3	6.4		9.6	全体的に器面の摩耗が著しい。体部は底部から内彎しながら立ち上がる。口唇は丸味を持ち、内側に傾斜する面と明瞭な稜を持つ。体部外面は摩耗が著しいため不明瞭だが、ロクロ整形による凹凸が見られる。底部はほとんど欠失のため整形調整は不明。三角形の高台を底部面に貼り付けている。内面についても摩耗が著しいがロクロ整形による横ナデ痕が見られ、なめらかに内彎する。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	灰白色	良好	覆土中	
002-1210-1002	404-19	灰釉陶器	高台付皿	口縁1/6 体部1/8	16	2.5+		不明	金属質な感じで丁寧な作り。体部は緩やかに外反し、口唇に至って終わる。口唇はやや鋭角的に尖り外側に外反する。体部外面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が見られる。内面についてもロクロ整形による凹凸が見られ、釉が斑点状に付着する。	黒色粒を含むきめ細かい良質の胎土	灰白色	堅緻	カマド正面の床面(床直)	
002-1210-6001	404-20	灰釉陶器	高台付碗	底部1/4	不明	2.9+		7.5	底部片。体部は底部から内彎して立ち上がる。外面はロクロ整形による弱い凹凸、横ナデ痕が見られる。底部は回転糸切り(ロクロ方向不明)で切り離した後、回転ヘラケズリ(ロクロ方向不明)で整形し、低いがしっかりとした三角形の高台を貼り付け、横ナデ整形する。内面はなめらかに内彎する。内面は底部との境目付近まで釉が付着する。	黒色粒、長石粒を含むきめ細かい良質の胎土	灰白色 淡茶灰白色	堅緻	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
002-1210-6002	404-21	土師器	蓋	体部1/5	不明	2.4+			ロクロ整形。焼成は土師器だが成・整形は須恵器の作り。外面は丸味を持った天井部から内彎して裾部に至る。裾部およびつまみ部分は欠失。外面天井部分は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が見られる。	長石粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	明褐色 淡茶灰色	良好	覆土中	ロクロ整形
002-1210-6001	404-22	須恵器	蓋	つまみ部 9/10	不明	1.5+			つまみ部分のみ残存。つまみ部分は頂部が突出しない扁平で角張った宝珠形。ナデ整形する。	きめ細かい胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
002-1210-6002	404-23	土師器	甕	口縁部1/20	24.6	4.6+	不明	不明	よく焼けしまっており厚味のあるしっかりとした作り。口縁部は頸部から大きく外傾し、端部で屈曲、やや垂直気味に立ち上がって終わる。口唇はやや丸味を持つ。胴部はほとんど張らずに内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリで整形する。内面は頸部付近から横方向のヘラナデを行う。	赤色スコリア、小石粒を含むきめ細かい胎土	淡黄褐色	堅緻	覆土中	
002-1210-6002	404-24	土師器	鉢 (大型)	口縁1/11 体部1/11	24.5	13.3		不明	器高の深い大型の鉢。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は平坦で外側に傾斜する。体部外面は中下位部分に横方向(左上右下)の削りの広いヘラケズリで整形した後、外面全体を横方向のやや乱雑なヘラミガキを行う。内面は口縁端部にかえりが見られ、底部に向かってなめらかに内彎する。器面は横方向の丁寧なヘラミガキを行った後、縦方向、斜格子状のヘラミガキを行い、内面全面にわたり赤彩する。	長石粒を含むきめ細かい胎土	褐色 赤褐色	堅緻	覆土中	内面赤彩
002-1210-6002	404-25	土師器	甕	口縁1/4 胴部上半 1/8	20.7	9.4+	(16.9)	不明	口縁部は頸部から大きく外反して丸味を持つ口唇に至って終わる。胴部は肩部でわずかに張るものの内彎して底部に向かう。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリで整形する。内面はヘラナデを施す。	黒色粒、赤色スコリアを含む胎土	淡暗褐色	良好	覆土中	
002-1210-6002	404-26	須恵器	甕 (大型)	口縁部1/10	41	5.4+	不明	不明	かなり大型甕の口縁部片。口縁部は大きく外反し、幅の広い粘土帯の貼り付けた凸帯を作って終わる。口唇は上方に鋭角的に尖る。外面はロクロ整形による横ナデ。内面はロクロ整形による凹凸が顕著に見られる。	長石粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	黒褐色	堅緻	覆土中	千葉地域産
002-1210-1004	404-27	須恵器	甕 (大型)	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	器面の摩耗が著しい。外面は平行タクキ目で叩く。内面は剥離が著しいため不明。	長石粒、赤色スコリアを含む胎土	黒茶灰色 明茶灰色	堅緻	カマド正面の床面(床直)	千葉地域産
002-1210-1001	404-28	須恵器	甕 (大型)	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部下部分。外面はナデ調整。内面は指によるナデ。	長石粒を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	カマド正面の床面(床直)	
002-1211-6003	405-1	土師器	杯	口縁2/3 体部4/5 底部3/4	13.2	4.2		6.4	ロクロ整形。全体的に歪みの著しいやや雑な作り。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による弱い凹凸、横ナデ痕が見られ、下端を回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形。内面はロクロ整形による横ナデ痕が残り、なめらかに内彎する。	黒色粒、小石粒を含むざらした胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
002-1211-6001	405-2	土師器	杯	口縁3/4 体部4/5 底部1/1	12.4	4.1		6	ロクロ整形。やや縦長の歪みのある杯。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による弱い凹凸が見られ、下端をざっくり削る手持ちヘラケズリで整形する。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)で切り離した後、全面にわたり不定方向の手持ちヘラケズリで整形する。内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に見られ、なめらかに内彎する。見込み部分やや高まる。	微砂粒、長石粒、小石粒を含むややざらした胎土	淡褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
002-1211-6004	405-3	土師器	杯	完形	12.4	3.9		6.9	ロクロ整形。成形のままのやや雑な作り。体部は底部から直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による横ナデ痕が残る。底部は回転糸切り(ロクロ右回転)で切り離したまま再調整はなし。内面はロクロ整形による弱い凹凸が見られ、底部との境目には凹線状の屈曲が見られる。見込み部分ややへこむ。	微砂粒、長石粒、赤色スコリアを含むやや雑な胎土	淡暗褐色 淡黒褐色	良好	覆土中	ロクロ整形
002-1211-6001	405-4	土師器	杯	口縁1/6 体部1/5 底部1/1	12.8	3.9		5.3	ロクロ整形。口縁部に比して底部がやや萎縮した杯。体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇は厚く丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による弱い凹凸が見られ、底部は回転糸切り(ロクロ右回転)で切り離したまま、再調整はない。やや上げ底気味。内面はロクロ整形による凹凸が見られ、底部との境目に明瞭な屈曲が見られる。	微砂粒、長石粒を含むやや雑な胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
002-1211-6001	405-5	土師器	杯	口縁1/10 体部1/7 底部9/10	12.2	5.2		5.6	小型で器高の深い整った作り。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による横ナデが残り、下端には底部の切り離しの際の指のアテが見られる。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。内面はロクロ整形による横ナデ痕が残り、沈線がめぐる。底部見込み部分ややへこむ。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	覆土中	ロクロ整形
002-1211-6004	405-6	土師器	高台付 碗	口縁1/6 体部1/6	18	6.2+		10.2	ロクロ整形。体部は底部から内彎気味に立ち上がり、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味を持ち、外側を向く。底部、高台部は欠失のため成整形は不明。内面はロクロ整形による凹凸が見られるものの、器面を横・斜方向にわたりやや雑なヘラミガキを行った後、黒色処理する。	長石粒、小石粒を含む胎土	淡暗褐色 黒色	堅緻	覆土中	ロクロ整形 黒色処理

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
002-1211-6001	405-7	土師器	甕	口縁1/10 胴部上半1/20	19.6	8+	(16.8)	不明	口縁部は頸部から一旦内側に凹線状の屈曲を作り、そこから外側に向け外反して立ち上がる。口唇は外側に丸味を持って外反する。胴部はほとんど張らずに内彎する。口縁部は弱い横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリで整形する。内面は頸部付近に明瞭な横方向のヘラナデが見られる。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	覆土中	
002-1211-6002	405-8	土師器	甕	口縁1/5 胴部上半1/10	17.6	9.9+	(15.8)	不明	口縁部は頸部から外傾して立ち上がる。口唇は厚く丸味を持つ。胴部は肩部で張り、内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は削り幅の広い縦位(上下)のヘラケズリで整形する。内面はナデ調整。	黒色粒、長石粒を含む胎土	淡暗褐色	良好	覆土中	
002-1211-6004	405-9	土師器	甕	口縁部1/4	22.4	6+	(20.7)	不明	口縁部片。厚味がありしっかりとした作り。口縁部は頸部から「く」の字状に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持ち外側にわずかに外反する。口縁部は弱い横ナデ。胴部は摩耗しているため不明瞭だが、縦位(上下)のヘラケズリで整形する。内面は頸部付近に斜方向のヘラナデを行っている。	赤色スコリア、微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	覆土中	
002-1211-6002	405-10	土師器	甕	底部1/20	不明	6+	不明	不明	底部片。胴部は底部から直線的に外傾する。外面は削りのはっきりとした横方向(左右)のヘラケズリで整形する。底部はヘラケズリ。内面は指によるナデおよび横ナデを施す。底部の孔は破片のため形状不明。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	淡黄褐色	堅緻	覆土中	
002-1211-6001	405-11	須恵器	甕	口縁部1/5	19.8	5.9+	不明	不明	口縁部片。口縁部は頸部から外反し、端部で幅広の粘土帯を貼り付けた凸帯を作っている。内・外面にはクロコ整形による凹凸が顕著に見られる。	長石粒、小石粒を含むやや雑な胎土	淡茶灰色	堅緻	覆土中	千葉地域産
002-1211-6004	405-12	須恵器	甕	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	口縁部上半部片。外面は目の粗い平行タタキ目で叩く。内面は指によるナデ調整。	黒色粒、長石粒を含む胎土	淡茶灰色	堅緻	覆土中	
002-1212-6004	406-1	土師器	杯	口縁3/10 体部1/2 底部1/1	12.9	4.4		6.2	クロコ整形。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面はクロコ整形による凹凸が見られ、下端を回転ヘラケズリ(クロコ右回転)で整える。底部は回転糸切り(クロコ方向不明)で切り離した後、中央部分をやや痕跡を残す程度に全面にわたり回転ヘラケズリ(クロコ右回転)で整形する。内面はなめらかに内彎し、底部との境目に凹線状の屈曲が見られる。	黒色粒、長石粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	クロコ整形
002-1212-6001・6002	406-2	土師器	杯	口縁3/5 体部1/2 底部1/1	15.6	5.6		7.6	クロコ整形。体部は底部から直線的に外傾して立ち上がる。口唇は厚く丸味を持つ。体部外面はクロコ整形による凹凸が見られる。底部は回転糸切り(クロコ右回転)で切り離しの際の粘土が段状に残る。切り離したまま再調整はなし。内面はクロコ整形による凹凸が見られるものなめらかに内彎し、底部との境目に凹線状の屈曲が見られる。	微砂粒、赤色スコリアを含むざらした胎土	淡明褐色	良好	覆土中	クロコ整形
002-1212-6001	406-3	土師器	杯	口縁1/6 体部1/6	14	3.4+		不明	クロコ整形。体部は底部から外傾し、丸味を持つ口唇に至って終わる。体部外面はクロコ整形による凹凸が見られる。底部は欠失のため整形調整不明。内面はクロコ整形による横ナデ痕が残る、なめらかに内彎する。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	覆土中	クロコ整形
002-1212-6001	406-4	土師器	皿	口縁3/4 体部4/5 底部4/5	14.2	2.5		6	クロコ整形。全体的に器面の摩耗が著しい。体部は底部から緩やかに外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は外側に向け丸味を持つ。体部外面は摩耗が著しいため、不明瞭だが、下位部分に回転ヘラケズリ(クロコ右回転)で整形する。底部は回転ヘラケズリ(クロコ右回転)で整形する。内面はなめらかに内彎する。	赤色スコリア、微砂粒を含むきめ細かい胎土	明褐色	良好	覆土中	クロコ整形
002-1212-6004	406-5	土師器	杯	口縁1/11 体部1/4 底部1/4	12.6	4.9		9.4	クロコ整形。灯明用杯。小振りで器高の深い厚味のある杯。体部は底部から垂直気味に外傾し、口縁端部でわずかに外反して終わる。口唇は丸味があり、内側に傾斜する面を持つ。体部外面はクロコ整形による凹凸、横ナデ痕が見られる。底部は回転ヘラケズリ(クロコ右回転)で整形する。内面は垂直気味に内傾し、下位部分から底部にかけてクロコ整形による凹凸が顕著に見られる。口縁部内面にはほぼ全面、外面には部分的に油煙が付着する。	黒色粒、赤色スコリアを含む胎土	淡暗褐色	堅緻	覆土中	クロコ整形 灯明用杯
002-1212-6003	406-6	土師器	甕	口縁部1/14	18	6.6+	(17.5)	不明	口縁部片。口縁部は頸部から短く外反する。口唇は外側にやや鋭角的に尖る。胴部は肩部でやや張るが底部に向かって内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は摩耗が著しいため不明だが、縦位のヘラケズリか。内面は口縁部付近を横方向のヘラミガキ、胴部をヘラナデを行う。	赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	暗赤褐色	良好	覆土中	
002-1212-6001	406-7	土師器	甕	口縁部1/10	19.8	4.6+	(15.6)	不明	口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外傾する。口唇は丸味を持つ。胴部はほとんど張らずにそのまま内彎する。口縁部横ナデ。胴部外面は縦位(上下)のヘラケズリで整形する。内面はヘラナデの痕跡が見られる。	微砂粒を含む胎土	淡暗褐色	堅緻	覆土中	
002-1208-6003	407-1	須恵器	杯	口縁1/7 体部1/7	12.8	3.1+		不明	体部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。口唇はやや鋭角的に尖る。体部外面および内面にはクロコ整形による横ナデ痕が明瞭に残る。底部は欠失のため整形調整は不明。	白色針状物質、長石粒を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
002-1208-6001	407-2	須恵器	蓋	つまみ部分9/10	不明	1.4+			つまみ部分のみ。つまみ部分は低くやや扁平な宝珠形。外面には斑点状の釉が付着する。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	
002-1208-6002	407-3	土師器	甕	破片のため不明	不明	2.6+	不明	不明	底部片。外面は斜方向のヘラケズリで底部付近を整形する。内面はヘラナデ。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色 明褐色	良好	覆土中	
002-1208-6001	407-4	土師器	甕	破片のため不明	不明	4.5+	不明	不明	胴部下位部分。外面は斜方向(左上右下)のヘラケズリで整形。内面は器面が剥離しているため不明瞭だがヘラナデ。外面にはスガが付着。	きめ細かい胎土	黒褐色 明褐色	良好	覆土中	
506-6001	506-1	須恵器	甕 (大型)	破片のため不明	不明	不明	不明	不明	胴部破片。厚味があり、かなり大型の甕。外面は平行タタキ目で叩く。内面はナデ?	きめ細かい白っぽい胎土	乳灰白色	堅緻	柱穴掘方内	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
506-6001	506-2	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部上半部片。比較的器内の薄い作り。外面は平行タタキ目で叩く。内面はナデおよび指ナデが見られる。	長石粒、石英粒を含むきめ細かい胎土	乳灰色	堅緻	柱穴掘り内	
506-6001	506-3	須恵器	甕	破片のため 不明	不明	不明	不明	不明	胴部片。外面は目の粗い平行タタキ目で叩く。内面はナデおよび指ナデが見られる。	長石粒をわずかに含むきめ細かい胎土	黒茶褐色	堅緻	柱穴掘り内	千葉地域産
508-1001	508-1	土師器	杯	口縁7/10 体部9/10 底部1/1	12.9	4		6.8	ロクロ整形。やや歪みのある杯。体部は底部から直線的に外傾する。体部外面にはロクロ整形による弱い凹凸が見られ、下端をやや幅の広い回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整える。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形。内面はなめらかに内埴し、底部の見込み部分高まる。	微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡暗褐色	堅緻	柱穴掘り内	
229-6001	523-1	須恵器	杯	口縁1/9 体部1/9	11.7	3.7		6.6	体部は底部から内彎気味に立ち上がる。口唇はやや鋭角的で内側に傾斜する。外面にはロクロ整形による凹凸が見られる。	きめ細かい胎土	灰色	堅緻	覆土中	229号 住居出土 523号 掘立柱建物に伴う遺物
229-6001	523-2	須恵器	長頸壺	胴部1/4 底部1/5	不明	3+		8.2 脚 8.8	底部片。胴部は底部からやや内彎気味に立ち上がる。外面には回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)の痕跡が残る。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形した後、低いがいしと踏ん張りを示す脚部を貼り付ける。内面にはロクロ整形による凹凸が見られる。	きめ細かい胎土	淡黒灰色 淡灰色	堅緻	覆土中	229号 住居出土 523号 掘立柱建物に伴う遺物
229-6001	523-3	須恵器	長頸壺	胴部1/8	不明	6.5+	17.2	不明	胴部片。器内の薄い丁寧な作り。胴部外面には横方向のナデが見られ、肩部に袖がわずかに付着する。内面にはロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に残る。	白っぽいきめ細かい良質の胎土	淡灰褐色	堅緻	覆土中	229号 住居出土 523号 掘立柱建物に伴う遺物

第19表 遺構外出土遺物観察表

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	器種	遺存度	計測値(cm)				器形及び整形の特徴	胎 土	色 調 (外・内)	焼成	出土位置 (cm)	備 考
					口径	器高	最大径	底径						
054-	1	弥生土器	壺	口縁部1/5	20.2	3.3+	不明	不明	口縁部片。口縁部は頸部から外反し、二重の折り返し口縁状凸帯を作って終わる。凸帯部分外面は単節RLの縄文を施した後、下端を2方向からの押圧によるキザミを行う。凸帯以外の部分はヘラミガキの後、赤彩する。内面は細かな横方向のハゲ調整が見られるが、ヘラミガキの後、赤彩する。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡赤褐色	良好	表採	
054-6002	2	弥生土器	甕	口縁部1/12	18.2	3.5+	不明	不明	口縁部片。口縁部は大きく外反して立ち上がる。口唇には押圧によるキザミを施す。外面は現状4段の輪痕痕が見られる。内面は横方向のナデを施す。	微砂粒、小石粒を含む胎土	淡褐色	良好	表採	
054-	3	弥生土器	鉢	口縁部1/10 体部1/12	22.1	5.7+	不明	不明	口縁部片。体部は内峙して立ち上がる。口唇は平坦で、内側にやや傾斜気味。口縁部外面は上から単節RL、LR、RLの縄文を交互に施し、沈線をめぐらせ区画する。沈線区画より下はヘラナデ。内面はナデ調整を行い、なめらかに内峙する。	軽石粒、赤色スコリアを含む胎土	淡黄褐色	良好	表採	
054-	4	弥生土器	鉢	口縁部1/14 体部1/8	16.1	5.3+	(16)	不明	体部は底部から内峙して立ち上がり、口縁部で幅広い粘土帯の凸帯を作る。凸帯外面は単節RLの縄文を施し、下位部分に押圧のキザミを施す。体部外面は上から単節RL、LR、RL、LRの縄文を交互に施し、沈線をめぐらせ区画する。底部は欠失のため整形調整は不明。内面は上位部分の帯面の剥離、荒れが著しいが、それ以外は横方向の丁寧なナデを施す。	微砂粒を含む胎土	淡褐色	良好	表採	
坊作6	5	土師器	杯	口縁部4/5 体部1/1 底部1/1	13	3.7		7.2	ロクロ整形。歪みのある杯。体部は底部から直線的に外傾し、口縁部でわずかに外反して終わる。口唇はやや鋭角的に尖る。体部外面はロクロ整形による横ナデ痕が残り、底部から体部中位に向かって回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で螺旋状に磨る。底部は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。中央より線書きによる「×」の模刻が見られる。内面はロクロ整形による横ナデ痕が明瞭に見られ、なめらかに内峙する。底部見込み部分やや高まる。	微砂粒、黒色粒を含む胎土	淡褐色	良好	表採	ロクロ整形 線刻土器 「×」
054-6003	6	土師器	杯	口縁部1/6 体部1/8	14	4.1+		不明	ロクロ整形。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口唇は丸味を持つ。体部外面はロクロ整形による横ナデ痕が見られる。内面はなめらかに内峙する。	赤色スコリア、黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色 淡褐色	良好	表採	ロクロ整形
054-6003	7	土師器	杯	口縁部1/8 体部1/8	12.8	3.9+		不明	ロクロ整形。体部は底部から内峙気味に立ち上がり、口縁部でやや外反して終わる。口唇は鋭角的に尖る。体部外面はロクロ整形による横ナデ痕が見られ、下位を手持ちヘラケズリで整形する。底部は欠失のため整形調整不明。内面は横ナデ痕が残る。	黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡褐色	良好	表採	ロクロ整形
054-6003	8	土師器	甕	口縁部1/10	19.2	4.8+	不明	不明	口縁部片。口縁部は頸部から「く」の字状に外傾し、口縁部で凹線状の屈曲を作り、外側に丸味を持つ口唇に至って終わる。口縁部横ナデ。胴部外面は嵌位(上下)のヘラケズリで整形する。内面は横方向のヘラナデで整形する。	長石粒を多く含むややざらした胎土	暗褐色	堅緻	表採	
054-6003	9	土師器	甕	口縁部1/10	24.6	4.5+	不明	不明	口縁部片。口縁部は頸部から浅く外反し、口縁部で垂直な面を持つ口唇に至って終わる。口唇には凹線がめぐる。口縁部横ナデ。胴部外面は斜方向(左上右下)のヘラケズリで整形する。内面ナデ調整。	微砂粒、黒色粒を含む胎土	淡茶褐色 褐色	堅緻	表採	
054-6002	10	灰釉陶器	碗	口縁部1/7 体部1/10	13.6	3.6+		不明	体部は底部から内峙しながら立ち上がり、口縁部で外側に外反する口唇に至って終わる。口唇は鋭角的に尖る。体部外面はロクロ整形による横ナデ痕、弱い凹凸が見られる。内面はなめらかに内峙し、全面にわたり淡緑灰色の釉が付着する。	黒色粒を含むきめ細かい良質の胎土	灰色 淡緑灰色	堅緻	表採	
054-6002	11	灰釉陶器	長頸壺	底部1/20	不明	3.2+	不明	8.8 高台 9.3	底部片。胴部は底部から内峙気味に立ち上がる。外面は回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。底部は回転糸切り(ロクロ方向不明)で切り離した後、扁平な断面三角形の低い高台を貼り付け、ナデ調整を行う。内面はロクロ整形による凹凸、横ナデ痕が顕著に見られる。底部見込み部分渦巻き状にへこむ。中央部分に淡青緑色の釉が付着。	黒色粒をわずかに含むきめ細かい良質の胎土	灰白色	堅緻	表採	
054-6002	12	灰釉陶器	長頸壺	胴部2/5 底部1/2	不明	16.4+	16.3	8.1 高台9	胴部～底部片。胴部は頸部から丸味を持って傾やかに内峙し、肩部で屈曲、底部に向かって内峙する。外面は頸部から肩部にかけて、深緑色、淡褐色の釉がたれるように厚く付着する。中位から下位にかけてロクロ整形による凹凸、下位部分に回転ヘラケズリ(ロクロ右回転)で整形する。底部は回転糸切り(ロクロ方向不明)で切り離した後、低いがりとした高台を貼り付け、ナデ調整を行う。内面はロクロ整形による凹凸が胴部中位～底部まで顕著に見られる。底部見込み部分、出ほぞ状に高まり、焼成時に口縁部から入った灰による不純物を含む深緑色の釉が付着する。	黒色粒、長石粒を含むきめ細かい良質の胎土	こげ茶灰色 暗青灰色	堅緻	表採	

第20表 丸瓦・平瓦・軒瓦等観察表

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴			胎 土	色 調 (凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面					
001-9021	1-11	平瓦	破片	一枚作り。布目。布の周囲にかがり縫い目あり。右側縁はナデ調整。	縄目圧痕。部分的に細長く溝状に布目が残る。左側端縁は幅10mm程度の狭端から広端へのヘラズリで面取り整形。	右側面は狭端から広端へのヘラズリを行い、なめらかな面を作る。	微砂粒、長石粒を含む胎土	青灰色	堅緻	カマド構築材 (燃焼部)	
001古-9020	1-12	平瓦	1/3	一枚作り。布目。布の周囲にかがり縫い目がはっきり残る。布目部分は、部分的にヘラナデ、指ナデによるすり消しを行っている。右側縁は幅広く取り、側縁を幅7mm程度のヘラズリ(狭端→広端)整形する。左側縁は幅4mm程度で2段にわたり、ヘラズリ(狭端→広端)を施す。広端縁は幅広く取り、右角部分のみヘラズリを行うほか、未調整で、成形時の粘土でこぼれが残る。	縄目圧痕。部分的に横の圧痕が残る。その部分に布目が見られる。左側端縁はわずかに幅の狭いヘラズリ(狭端→広端)を行う。広端縁部分にはわずかに左から右へのヘラズリを行っている。	両側面はヘラズリ(方向不明)。	砂粒、長石粒を多く含む胎土	淡青灰色	堅緻	カマド構築材 (燃焼部)	
002-9021	2-6	丸瓦 (無段)	破片	布目。布の周囲にかがり縫い目あり。たたらによる粘土板の糸切り痕残る。右側縁は幅7～8mmの幅広く角度の浅いヘラズリ(狭端→広端へのヘラズリ)。	縦方向の丁寧なヘラナデを行い、縦方向にヘラミガキ状に器面が平滑になる。	側面は狭端から広端へのヘラズリ。端面は欠失のため不明。	微砂粒、長石粒を含む胎土	灰色	良好	カマド構築材 (右袖部分)	
002-9001	2-7	平瓦	破片	一枚作り。布目残る。	縄目圧痕。	破片部分のため不明。	微砂粒、長石粒を含む胎土	淡灰褐色	良好	南東壁際床面 (+3)	
002-9023	2-8	丸瓦 (有段)	破片	布目重。左側縁は幅8～10mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形する。	縦方向のヘラナデを行う。玉縁はヘラナデか。	側面は狭端から広端へのヘラズリ。玉縁の狭端面はナデ調整を行う。両部狭端面横ナデ調整。	微砂粒、長石粒を含む胎土	灰色	堅緻	カマド構築材 燃焼部分	
003-9002	3-13	丸瓦 (無段)	7/10	たたらによる粘土板の糸切り痕が残る。布目。布の周囲にかがり縫い目が見られる。右側縁は3mm程度のヘラズリで端部を整形。左側縁は、2.3度(広端→狭端)でそぎ落として面取り整形する。広端縁は未調整のまま。	凸面全体に縦、斜方向のヘラナデを行い、器面を平滑にする。広端縁は幅5～9mm程度のヘラズリ(左→右)整形する。	両側面はヘラズリ(狭端→広端)。広端面ヘラズリ(左→右)で整形。	微砂粒、長石粒を含む胎土	淡明褐色	良好	中央床面 (+14)	写真
003-9001	3-14	丸瓦 (無段)	破片	側縁まで布目が見られる。	ヘラナデを行う。	側面は広端から狭端へのヘラズリで整形する。	砂粒、赤色スコリア、小石粒を含む胎土	淡黄褐色	良好	北西隅床面 (+28)	
003-9003	3-15	平瓦	破片	一枚作り。側面まで布目か被り、広端縁付近まで布のかがり縫い目が見られ、広端縁は狭く、わずかにヘラズリで整形する。	縦方向の縄目圧痕で、縄目部分に横方向に布目痕、手の圧着痕がみられる。左側端縁にヘラズリ(狭端→広端)で面取りを行う。	側面ヘラズリ(方向不明)。広端ヘラズリ(右→左)で整形。	砂粒、長石粒を含む胎土	青灰色	堅緻	中央床面 (+19)	
003-9004	3-16	平瓦	2/5	一枚作り。布目。布の周囲にかがり縫い目がはっきり残る。右側縁は、幅10mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で整形し、面取りする。左側縁はナデ調整を行い、側面側を面取りするように幅広くヘラズリ(狭端→広端)を行う。広端縁は10mm程度に角をカットするようにヘラズリ(右→左)で面取りする。	縦方向の縄目圧痕で、調整する。	両側面は狭端から広端へのヘラズリで整形。広端面はヘラズリ(右→左)で整形する。	砂粒、長石粒を含む胎土	青灰色	堅緻	中央床面 (+15)	
003-9004	3-17	平瓦	9/10	一枚作り。布目。布の周囲に太いひも状のかがり縫い目がはっきり残る。中央部よりやや広端寄りにはヘラ描きによる「田」の文。右側縁は、側面側を15mm程度の幅広いヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形する。左側縁はナデ調整を行い、側面側を幅7mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で整形する。広端縁はややきくれており、未調整。狭端縁は幅3mm程度のヘラズリ整形する。	目の粗い縄目タタキを斜方向に叩く。広端縁部分は粘土がまぐれ気味に厚味があり、整形調整はなし。	左側面はヘラズリ(狭端→広端)で整形する。右側面は凸部に粘土のはみ出たバリが見られ、面をヘラナデ調整する。狭端面は調整なし。広端面はヘラズリで整形する。	砂粒、長石粒を含む胎土	灰色	堅緻	中央床面 (+15)	重量 3.7kg 写真 凹面に 「田」 のヘラ描 き
004-9001	4-10	丸瓦	破片	丁寧な作り。布目。両部側縁はわずかにヘラズリで整形。玉縁部分の側縁は10mm程度の幅広いヘラズリ(狭端→広端)でそぎ落として面取りする。	横方向のヘラナデを行った後、側端縁部分をわずかにヘラズリで(広端→狭端)整形する。	横方向のヘラナデを行った後、端縁部分をわずかにヘラズリで(広端→狭端)整形する。	微砂粒、長石粒を含む胎土	こげ茶灰色	堅緻	貝層内	
004-9001	4-11	平瓦	破片	布目。端縁はナデ調整。	目の粗い縄目タタキ。左側端縁は5～10mm程度の角度の浅いヘラズリ(広端→狭端)で整形。	側面ヘラズリ(狭端→広端)。	微砂粒、長石粒を含む胎土	淡灰色	良好	貝層内	
004-9001	4-12	平瓦	破片	一枚作り。目の細かい布目。左端縁から狭端縁にかけて布目縦じ合わせ目が見られる。	整っており、丁寧な仕上げ。目の細かい縄目タタキ。右側端縁は幅6mm程度の角度の浅いヘラズリ(広端→狭端)で整形。	側面ヘラズリ(狭端→広端)。	微砂粒、長石粒を含む胎土	淡灰褐色	堅緻	貝層内	
005-9011	5-17	丸瓦 (無段)	破片	布目。右側縁は幅6mm程度の浅いヘラズリ(狭端→広端)で整形。狭端縁は5～10mm程度の浅いヘラズリ(方向不明)整形。	横方向のヘラナデ調整。	成形時のまま、調整なし。	微砂粒、黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	カマド袖部分	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 (調・色)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
005-9006	5-18	軒丸瓦	破片	不明。	不明。	不明。	側面はヘラズリ(狭端→瓦当面)。裏面は欠失のため不明。	砂粒、長石粒を含む胎土	淡茶灰色	堅緻	カマド燃焼部内	
005-9010	5-19	丸瓦 (有段)	破片	布目。側縁は5mm程度のヘラズリ(狭端→広端)整形。狭端縁は5mm程度のヘラズリ(右→左)で整形。	筒部は横方向のヘラナデ。玉縁部分についても横方向のヘラナデ調整する。	側面は狭端から広端へのヘラズリ。筒部狭端面横ナデ調整。玉縁部分は狭端面ナデ。		微砂粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡灰色	堅緻	カマド煙突部(直立した状態)	
005-9005	5-20	丸瓦 (有段)	9/10	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。中央部分是指によりすり消す。筒部、玉縁部の両側縁は幅5mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で整形する。狭・広端縁は成型時のまま未調整。	筒部の側縁は5mm程度のヘラズリで整形する。狭・広端縁は成型時のまま未調整。	側面の割罫が著しい。縦方向(広端→狭端)の丁寧なヘラナデ。玉縁部分は横方向のヘラナデ。筒部の側端縁は5mm程度のヘラズリで整形する。狭・広端縁は成型時のまま未調整。	両側面は狭端から広端へのヘラズリ。狭・広端縁はヘラズリ整形。	砂粒、小石粒、黒色粒を含む胎土	灰色	堅緻	カマド燃焼部内	重量 2.6kg 写真
005-9007	5-21	平瓦	完形	一枚作り。布目。布の周囲に太いひも状のかかり縋い目がはっきりと残る。両側縁は10→20mmの幅広く角度の浅いヘラズリ(広端→狭端)で面取り整形する。広端縁はナデ調整、狭端は幅10mm程度の浅いヘラズリ(右→左)整形。	正格子目タタキ(10mm×10mm)で全面叩く。狭端縁はわずかにヘラズリで整形する。	両側面はヘラズリ(広端→狭端)で整形する。狭端縁、広端縁はヘラズリ(右→左)整形。		砂粒、赤色スコリア、長石粒を含む胎土	明褐色	良好	カマド煙道の天井部蓋	重量 4.8kg 写真 格子目
005-9006	5-22	平瓦	1/5	一枚作り。布目。布の周囲にひも状のかかり縋い目あり。中央部付近は布目をすり消している。側縁はわずかにヘラズリ(方向不明)整形。広端縁はヘラズリ整形を行う。	目の粗い縄目タタキ。部分的に布目圧痕が付く。広端縁わずかにヘラズリ整形。	側面は狭端から広端へのヘラズリ。広端縁ヘラズリ(左→右)整形を行う。		砂粒、赤色スコリア、長石粒、小石粒、黒色粒を含む胎土	淡明灰褐色 明灰褐色	良好	カマド燃焼部内	
005-9008	5-23	平瓦	9/10	一枚作り。布目。布の周囲にかかり縋い目あり。布は目の細かい生地で摩耗により部分的にすり消されている。右側縁はナデ調整を施す。左側縁はナデ調整。狭・広の両端縁は幅が狭く整形調整なし。	目の粗いやや複雑な縄目タタキで叩く。所々に布目が付着。	両側面は整形調整なく、凸面を縄目タタキで叩いた際に粘土が外側に押し出されたバリが残る。狭・広端縁は成形時のままで整形調整はない。		砂粒、長石粒小石粒を含む胎土	淡灰色 淡茶灰色	堅緻	カマド煙道の天井部蓋	重量 3.8kg 写真
005-9009	5-24	平瓦	4/5	丁寧な作り。一枚作り。部堅の厚い重量のある瓦。布目。布の周囲にかかり縋い目があり、広端部分には糸のほつれが見られる。布目痕は摩耗により、大方すり消されている。側縁はわずかにヘラズリ整形。広端縁は成形時のまま未調整。	目の粗い縄目タタキ。部分的に布目圧痕が付く。側端縁は幅5mm程度のヘラズリで整形する。広端縁は成形時のまま未調整。	側面ヘラズリ整形。広端縁はヘラズリ(左→右)整形。		砂粒、赤色スコリア、長石粒、小石粒、黒色粒を含む胎土	淡明灰褐色	良好	カマド煙道の天井部蓋	
005-9010	5-25	平瓦	3/4	一枚作り。たたらによる粘土板の糸切り痕が残る。布目。狭端部分にかかり縋い目が見られる。布は目の細かい生地で摩耗により大方すり消されている。両側縁は幅5mm程度のヘラズリで面取りを行う。狭・広の両端縁は幅が狭く整形調整なし。	目の細かい縄目タタキを縦・斜方向に規則的に叩く。中央よりやや狭端付近に指の押圧痕が残る。両側端縁はわずかにヘラズリ整形(広端→狭端)を行う。狭・広の両端縁は縄目のまま整形なし。	両側面は広端から狭端へのヘラズリ整形。狭端縁は成形時のままで整形調整はない。広端縁はヘラズリ(左→右)整形。		砂粒、長石粒、赤色スコリア、雲母粒を含む胎土	淡茶灰色 淡灰色	堅緻	カマド煙突部(直立した状態)	写真
005-9002・ 9005・9006	5-26	平瓦	19/20	丁寧な作り。一枚作り。たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。布の周囲にかかり縋い目がはっきりと残る。右側縁は幅10mm程度の角度の浅いヘラズリ(広端→狭端)で整形する。広端縁は布目とじ合わせ目が残っているため右側が広い。端縁を7mm程度の角度の浅いヘラズリ(右→左)で整形する。狭端縁は7mm程度のヘラズリ(右→左)で整形する。	目の細かい縄目タタキを縦・斜方向に叩いた後、中央・側端縁部分に所々、指によるすり消しを行う。部分的に布目圧痕、指による押圧痕が残る。左側端縁は5mm程度の角度のきついヘラズリ(方向不明)で整形する。広端縁はヘラズリで面取りする。狭端縁は幅5mm程度のヘラズリで面取り整形。	両側面は広端から狭端へのヘラズリで整形する。広端縁は整形なし。狭端縁は凸部に粘土のはみ出たバリが残る。		砂粒、赤色スコリア、長石粒、小石粒を含む胎土	淡明褐色	堅緻	カマド燃焼部内	重量 4kg 写真
006-9001	6-5	丸瓦 (無段)	3/5	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。側縁は幅10mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形。広・狭端縁はわずかにヘラズリ。広端縁は5→10mm程度のヘラズリ整形。	筒部は横方向のヘラナデ。側端縁は7mm程度のヘラズリで面取り整形。	側面はヘラズリ整形。広・狭端縁ヘラズリ整形。		砂粒、赤色スコリア、長石粒を含むややざらした胎土	淡黄灰褐色	甘い	カマド左袖 カマド正面の床面(+15cm)	写真
006-9001	6-6	丸瓦	破片	布目。	横方向のヘラナデ。	広端縁ヘラズリ整形。		微砂粒を含む胎土	淡明灰褐色	堅緻	カマド袖構築材	
006-9003	6-7	軒平瓦	3/5	布目。布の周囲にかかり縋い目あり。瓦当面から7mm程度の幅で横方向のヘラズリ(右→左)により布目をざっくり削り、整形する。両側縁は中位から瓦当面方向にかけて最大幅16mm程度のヘラズリで面取り整形する。側縁の中位から狭端面方向にかけて側面をきざりとすようにヘラズリ(広端→狭端)整形する。	目の粗い縦方向の縄目タタキで叩く。頭は35mm程度の幅広い縄ヘラズリ(狭端→瓦当面)で縄目をざっくり削り、曲線型に仕上げる。側端縁は整形調整なし。	両側面は瓦当部から狭端方向に向かってヘラズリで整形する。	顎先端は瓦当面に対して鋭角に幅10mm程度の横ヘラズリで面取り整形を行う。曲線型と間には幅3mm程度のわずかな面取り整形部分が見られる。	微砂粒、長石粒、小石を含む胎土	淡青灰色	堅緻	カマド燃焼部内瓦当面を下に向け直立し、カマド煙道として使用	重量 5.05kg 曲線頭 1 写真

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 (調 (凹・凸))	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
006-9006	6-8	平瓦	1/2	一枚作り。布目。布の周囲にかかり縫い目あり。布は目の細かい生地ですり消されている。左右の側縁は幅5～5mm程度のヘラズリ整形。狭端縁はきわまでとじ合わせ目で7mm程度のヘラズリで整形し、面をカットする。乳白色の粉状物質付着。	目の粗い縄目タタキを縦方向に規則的に叩いている。両側端縁は幅10mm程度のヘラズリ(広端→狭端)で面取り整形。	両側面は広端から狭端へのヘラズリで整形。狭端面ヘラズリ。		砂粒、赤色スコリア、石英粒を含むややざらした胎土	淡黄灰褐色	良好	カマド右袖	
006-9002	6-9	平瓦	4/5	一枚作り。布目。布の周囲にかかり縫い目あり。布は目の細かい布地で、ヘラにより部分的にすり消されている。右側縁はナデ調整。狭端縁はきわまでとじ合わせ目で幅5mm程度のヘラズリで整形。広端縁は側縁からとじ合わせ目が広くとられており、整形調整はない。	目の粗い縄目タタキを縦方向に叩く。側端縁は幅5mm程度のヘラズリ(広端→狭端)で面取りする。狭端縁はわずかにヘラズリ整形。広端縁は成形時のまま未調整。	側面はヘラズリ。狭・広端の両端面ヘラズリ。		砂粒、赤色スコリア、石英粒を含むややざらした胎土	淡黄灰褐色	やや甘い	カマド左袖	重量 3.7kg 写真
006-9005	6-10	平瓦	完形	一枚作り。布目。布の周囲にかかり縫い目あり。布は目の細かい布地で、ヘラにより部分的に縦方向にすり消されている。両側縁は、幅5～7mm程度のヘラズリで面取り整形する。狭端縁はナデ調整。広端縁は中央付近10mm程度のヘラズリ(右→左)で面取り整形。	目の粗い縄目で強く、粗雑に叩く。叩き残した部分が帯状に見られる。両端縁、広端縁ともわずかにヘラズリ整形。	両側面、狭端はヘラズリ整形。		砂粒、長石粒を多く含む胎土	淡青灰色 淡茶灰色	堅緻	カマド右袖	重量 4.15kg 写真
007-9002	7-7	熨斗瓦 (平瓦)	破片	摩耗のため不明。	摩耗のため不明。	摩耗のため不明。		砂粒、黒色粒を含むややざらした胎土	淡灰褐色	良好	覆土中	熨斗瓦 写真
007-9002	7-8	丸瓦 (有段)	破片	布目。	横方向のヘラナデ。玉縁部分横方向のヘラナデ。	筒部狭端面横ナデ。		砂粒、黒色粒を含む胎土	淡黄褐色	良好	覆土中	
007-9001	7-9	平瓦	1/5	布目。布の周囲にかかり縫い目が見られ、大方摩耗によりすり消されている。側縁はかかり縫い目がほとんど見られない。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁はヘラズリ整形。	側面ヘラズリ。		砂粒、赤色スコリア、長石粒を含むややざらした胎土	淡赤褐色	やや甘い	カマド右脇床面(+6)	
008-9002	8-18	軒丸瓦	破片	布目。	凸面全体に横方向のヘラナデ調整を行う。	不明。	重圓部分残存。	微砂粒、黒色粒を含む胎土	淡明褐色	堅緻	カマド内	
008-9002	8-19	丸瓦 (無段)	1/6	布目。側縁は幅10mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形。広端縁は部分的に指による圧痕がみられる。	凸面部分は横方向のヘラナデを行い、器面を平滑にする。右側端縁は5mm程度のヘラズリ整形。	側面は狭端から広端へのヘラズリ整形。広端面ナデ調整。		微砂粒、黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡茶灰色	堅緻	カマド煙道内	
008-9003	8-20	丸瓦	破片	布目。右側縁部分は幅6mm程度のヘラズリ(広端→狭端)整形。	凸面全体に縦方向のヘラナデを行い、器面を平滑にする。	側面は広端から狭端へのヘラズリ整形。		砂粒、黒色粒を含む胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
008-9001	8-21	平瓦	1/5	一枚作り。布目。布の周囲にかかり縫い目あり。左側縁・狭端縁はわずかにヘラズリ整形。	目の細かい縄目タタキで叩く。側端縁は5mm程度の浅いヘラズリ(広端→狭端)で整形。	側面ヘラズリ。狭端面ナデ調整か。		微砂粒、長石粒を含むきめ細かい胎土	淡灰色	堅緻	カマド煙道内	
008-9002	8-22	平瓦	破片	一枚作り。布目。布の周囲にかかり縫い目あり。左側縁・狭端縁は幅5mm程度のヘラズリで面取りして整形する。	目の粗い縄目タタキで丁寧に叩く。	側面は、凸面側に叩いた際に粘土がはみ出たバリエーションが残るが、ヘラズリで整形する。狭端面ヘラズリで整形。		微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡茶灰色	堅緻	カマド煙道内	
008-9002	8-23	平瓦	破片	一枚作り。布目。布の周囲にかかり縫い目あり。側縁・狭端縁はナデ調整。	目の細かい縄目タタキで叩く。部分的に指の圧痕が残る。	側面は広端から狭端へのヘラズリ。狭端面はヘラズリ整形。		砂粒、黒色粒赤色スコリアを含む胎土	淡灰色	堅緻	カマド煙道の天井部蓋	
008-9001	8-24	平瓦	4/5	一枚作り。布目。布の周囲に太い縫い目状のかかり縫い目がはっきりと残る。布目はヘラ状工具で、不定方向にきれいにナデ消されている。左側縁は幅10mm程度のヘラズリ(狭→広)で面取り整形。右側縁はない。広端縁はナデ調整。狭端縁は幅狭くヘラズリ整形を行う。	縄目タタキを縦・斜方向に規則的に叩く。部分的に布目痕がみられる。	両側面は狭端から広端へのヘラズリ。狭・広の両端面はヘラズリ(右→左)で整形。		微砂粒、黒色粒、赤色スコリア粒を含む胎土	淡黄灰褐色	堅緻	カマド煙道の天井蓋(焚き口側)	重量 3.2kg 写真
008-9002	8-25	平瓦	5/6	一枚作り。布目。布の周囲にかかり縫い目あり。布目の下半部分は指によるなでた痕跡が見られる。両側縁はナデ調整を行い部分的に粘土が布目に被っている。左右側縁は幅6mm程度のヘラズリで面取り整形する。狭端縁は幅が狭いがヘラズリ(左→右)整形を行う。広端縁はわずかに見られるが成形時のまま調整なし。	器面はでこぼこしている。目の粗い縄目タタキで叩く。部分的に布目痕が見られる。両側端縁を幅6mm程度のヘラズリ(広端→狭端)で面取りする。広・狭端縁は成形時のまま未調整。下半部に楕円形の大きな黒斑が見られる。	両側面はナデ調整。両端面ナデ調整。		砂粒、黒色粒、小石を含む胎土	淡明灰褐色	堅緻	カマド煙道の天井部蓋	重量 3.6kg
009-9002	9-14	丸瓦 (有段)	1/6	たたらによる粘土板の欠切り痕が残る。布目。玉縁部分の側縁・端縁にわずかにヘラズリ整形を行う。	横方向の丁寧なヘラナデ調整を行う。玉縁部分横方向のナデ調整。側端縁部分をわずかにヘラズリ整形する。	側面は狭端から広端へのヘラズリ整形。玉縁部分横方向の狭端は成形時のまま調整なし。筒部の狭端面は横ナデ調整。		赤色スコリア、黒色粒を多く含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	カマド正面床面(床直)	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 調 (凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
009-9002	9-15	丸瓦	1/5	たたねによる粘土板の糸切り痕が残る。布目。布の周囲にかかり縫い目が見られる。側端付近布目をナデ消す。側縁は幅7mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で面取り整形。狭端縁部分わずかにヘラケズリ。	凸面は縦・斜方向のヘラナデで器面を平滑にする。側端縁は幅5mm程度のヘラケズリで整形。	側面ヘラケズリ。狭端面は成形時のまま。		微砂粒、長石粒を多く含む胎土	青灰色	堅緻	カマド正面床面(床直)	
009-9002	9-16	平瓦	1/6	周囲の糸がほつれ、左側端部分がかき裂き状に見られる細かい布目。側縁はナデ調整後の、幅8mm程度の角度の浅いヘラケズリ(広端→狭端)で整形。広端縁は糸のほつれ部分が多く見られ、端部を7mm程度のヘラケズリで整形する。	目が深く粗い縄目タタキを縦状に叩く。広端縁は縄目がつぶれて丸味を持つ。	側面は広端から狭端へのヘラケズリ。広端面は右から左へのヘラケズリ整形を行う。		微砂粒を含むむきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	北東隅の床面(床直)	
009-9001	9-17	平瓦	1/5	一枚作り。布目。布の周囲にかかり縫い目あり。布目部分は摩耗のため一部分のみ残る。左側縁は整形時のまま未調整。狭端縁は幅狭く、わずかにヘラケズリ整形を行う。	目の細かい縄目タタキで斜方向に叩く。狭端縁部分わずかにヘラケズリ整形。	側面は凸部に叩いた際の粘土のはみ出たバリが残る。狭端面ナデ調整。		砂粒、赤色スコリア、長石粒を多く含む胎土	淡明褐色	やや甘い	カマド燃焼部の天井部分	
010-9001	10-6	丸瓦	破片	布目。側縁部分は4mm程度のヘラケズリで整形。	横方向のヘラナデにより器面を平滑にする。側端縁は3mm程度のヘラケズリ整形。	側面ヘラケズリ(狭端→広端)		微砂粒、黒色スコリアを含む胎土	淡茶灰色	堅緻	カマド左袖焚き口部分に使用	
010-9008	10-7	平瓦	1/4	布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。右側縁は幅5mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で面取りする。狭端縁は5mm程度のヘラケズリ整形を行う。	目のやや粗い縄目タタキを斜方向に叩く。側端縁は縄目を8mm程度ヘラケズリ(広端→狭端)でそき落す。狭端縁は4mm程度のヘラケズリ整形を行う。	側面は粘土のはみ出たバリをそき落としヘラケズリ(広端→狭端)整形する。狭端面は成形時のまま、調整なし。		長石粒を含むむきめ細かい胎土	青灰色	堅緻	直立した状態でカマドの煙突として使用	
010-9006	10-8	隅切り瓦(平瓦)	1/2	焼成前に右側面から広端方向に向かってやや凸部方向に傾斜させ、大きくカットして隅切り瓦として製作。一枚作り。たたねによる粘土板の糸切り痕が残る。布目。部分的にすり消す。隅切り部分の側縁は4mm程度のヘラケズリ整形する。右側縁は部分的にヘラケズリ整形。狭端縁は整形調整なし。	目のやや粗い縄目タタキを縦・斜方向に叩く。左側端縁は5mm程度のヘラケズリで面取り整形する。狭端縁は整形調整なし。隅切り部分の側端縁は整形調整なし。	右側面は粘土のはみ出たバリをそき落としヘラケズリ(狭端→広端)整形する。狭端面は成形時のまま、調整なし。隅切り部分はヘラケズリ(右→左)整形。		微砂粒、長石粒を含む胎土	淡青灰色	堅緻	カマド右袖焚き口部分に使用	隅切り瓦写真
010-9003・9005・9007	10-9	平瓦	9/10	一枚作り。布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。布目は細かい。右側縁はナデ調整。左側縁は摩耗のため不明瞭だが、5mm程度のヘラケズリ整形を行っている。狭端縁は未調整。広端縁は幅7mm程度のヘラケズリ(右→左)整形する。	目の粗く深い縄目タタキで縦方向に強く叩く。部分的に布目の付いた指のアテ、布目痕が残る。両側端縁は部分的にヘラケズリ整形を行っている。狭・広端縁は成形時のまま未調整。	右側面は凸部に粘土のはみ出たバリが残る。左側面はヘラケズリ整形(広端→狭端)。狭・広端面はヘラケズリ整形。		微砂粒、黒色粒、赤色粒、長石粒を含む胎土	淡青灰色	堅緻	カマド焚き口を瓦で組む	重量 3.95kg 写真
010-9002	10-10	平瓦	9/10	一枚作り。布目。布の周囲にかかり縫い目あり。右側面部分布目残る。右側縁は幅5mm程度のヘラケズリによる面取りを行う。狭・広端縁部分ナデ調整。	目の粗い縄目タタキを縦方向に叩く。部分的に縄目をすり消す。両側端縁はわずかにヘラケズリ整形。狭・広端縁はわずかにヘラケズリ整形。	両側面は狭端から広端へのヘラケズリ。狭・広の両端面は成形時のまま、調整なし。		微砂粒、赤色スコリアを含むむきめ細かい胎土	淡黄褐色	堅緻	カマド左袖焚き口部分に使用	重量 3.7kg 写真
011-9001	11-21	丸瓦(無段)	破片	布目。側縁は未調整。狭端縁はわずかにヘラケズリで整形。	横方向のヘラナデ整形。側端縁部分3mm程度のヘラケズリで整形する。	側面ヘラケズリ。狭端面ヘラケズリ。		微砂粒、長石粒、赤色スコリアを含む胎土	淡明褐色	堅緻	カマド右正面床面(+3)	
011-9001	11-22	平瓦	1/4	布目。布の周囲にかかり縫い目あり。側縁、広端縁は成形時のまま未調整。	目の粗い縄目タタキで叩く。側縁部はナデ調整。	側面はナデ調整。広端面ナデ調整。		砂粒、赤色スコリア、小石粒を含む胎土	淡明褐色 淡茶灰色	堅緻	カマド右正面床面(+3)	
015-9002	15-10	丸瓦(有段)	破片	布目。	横方向のヘラナデ。筒部狭端縁はナデ調整。	玉縁部分の狭端面はナデ調整。筒部狭端面横ナデ調整。		微砂粒、赤色スコリア、黒色粒を含む胎土	淡明褐色	堅緻	覆土中	
015-9002	15-11	丸瓦(有段)	1/8	布目。側縁は7mm程度のヘラケズリ(広端→玉縁)で整形。	ヘラナデ。側端縁は6mm程度のヘラケズリ(広端→玉縁)。	側面ヘラケズリ(広端→玉縁)。玉縁部分の狭端面ナデ調整。筒部狭端面横ナデ。		砂粒を多く含む胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
015-9001	15-12	丸瓦(有段)	1/4	たたねによる粘土板の糸切り痕が残る。布目。側縁は4mm程度のヘラケズリ(玉縁→広端)で整形。広端縁は成形時のまま調整なし。	ヘラナデによる横方向になでた筋が見られる。側端縁部分わずかにヘラケズリ。広端縁は整形調整なし。	側面ヘラケズリ(玉縁→広端)。広端面は成形時のまま調整なし。		微砂粒、赤色スコリア、黒色粒を含む胎土	淡灰褐色	堅緻	北西隅床面(+17)	
016-9011	16-19	丸瓦(無段)	1/5	たたねによる粘土板の糸切り痕が残る。布目。側縁は6mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で整形。	縦方向のヘラナデ。側端縁は幅6mm程度のヘラケズリ整形。	側面は凹・凸部の両面から面取りされ、面が見られない。		微砂粒、長石粒を含む胎土	明褐色	良好	カマド燃焼部内	
016-9012	16-20	平瓦	破片	焼成時の熱によりかなり歪む。布目。布の周囲にかかり縫い目あり。側縁は幅5mm程度のヘラケズリを2段にわたり整形。狭端縁ナデ調整。	正格子目タタキ(6mm×6mm)で斜方向に叩く。側端縁、狭端縁はヘラナデ調整。	側面ヘラケズリ(狭端→広端)。狭端面ナデ調整。		長石粒を含むむきめ細かい胎土	青灰色	堅緻	カマド左袖の燃焼部内	格子目
017-9020	17-2	平瓦	破片	布目。側縁ヘラナデ。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁は未調整。	側面は凸部を叩いた際の粘土のはみ出たバリが残る。		長石粒、雲母粒を含むむきめ細かい胎土	青灰色	堅緻	カマド燃焼部内	
019-9001	19-6	丸瓦(有段)	破片	玉縁部分、布目。	横方向のナデ調整。	不明。		赤色スコリア、黒色粒を多く含むむきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 調 (凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
025-9001・ 9011	25-7	丸瓦 (無段)	6/7	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。右 側縁部分には粘土板の 継ぎ目の痕跡が見られ る。両側縁は幅10mm程 度のヘラズリ(狭端→ 広端)で面取り整形す る。狭端縁ナデ調整。広 端縁は成型時のまま調 整なし。	縦方向のヘラナデを施 した後、横方向のヘラ ナデで器面を平滑にする。 両側端縁、狭・広端縁は 未調整。	側面、広・狭端面ヘラ ズリ整形。		微砂粒、黒色 粒、雲母 粒を含む胎 土	淡黄褐色	良好	カマド燃 焼部内	重量 2.4kg 写真
030-9011	30-27	丸瓦 (無段)	1/5	粘土板の継ぎ目が見 えに残る。布目。側縁は幅 7mm程度のヘラズリ (広端→狭端)。狭端縁 は幅8mm程度のヘラズ リ。	横方向のヘラナデ。狭端 縁、側端縁はわずかにヘ ラズリ整形。	側面、狭端面ヘラナデ調 整。		砂粒を多く 含む胎土	明褐色	やや甘い	カマド燃 焼部内 (支脚)	
030-9004	30-28	丸瓦 (有段)	1/6	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。 側縁はわずかにヘラ ズリ整形。	横方向の丁寧なナデ調 整。側端縁をわずかにヘ ラズリ整形。	側面ヘラナデ調整。		長石粒を含 むきめ細か い胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
030-9001	30-29	平瓦	破片	布目。	目の粗く深い縄目タタ キで叩く。	不明。		長石粒を含 む胎土	淡明灰褐色	堅緻	カマド左 側壁際周 溝内	
030-9004	30-30	平瓦	1/6	布目。布の周囲にかが り縫い目あり。側縁はわ ずかにヘラズリ整形。	目の細かく深い縄目タ タキで丁寧に叩く。側端 縁わずかにヘラズリ。	側面ヘラズリ(広端→ 狭端)。		長石粒、微 砂粒を含む 胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
030-9002	30-31	平瓦	破片	布目。側縁は18mm程 度の大きくヘラズリ整 形で面取り。	目のやや粗い縄目タタ キで叩く。側端縁は幅7 mm程度のヘラズリで 面取り整形。	側面ヘラズリ。		微砂粒、赤 色スコリア を含む胎土	淡明褐色	良好	南西壁際 床面 (+5)	
031-9011	31-13	丸瓦 (無段)	1/2	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。目の細か い布目。側縁は幅7mm程 度のヘラズリで面取 り整形。広端縁ナデ調 整。	縦・斜方向のヘラナデ調 整。側端縁は幅7mm程 度のヘラズリ整形。	側面ヘラナデ。広端面ヘ ラナデ。		微砂粒、長 石粒を含む きめ細かい 胎土	淡青灰色	堅緻	カマド燃 焼部内 (支脚)	カマド支 脚
033-9001	33-4	平瓦	1/5	布目。布の周囲にかが り縫い目あり。布目は部 分的にナデ消す。側縁は5 mm程度のヘラズリ(広 端→狭端)整形。	目のやや粗い縄目タタ キで叩く。側端縁は10mm 程度のヘラズリ(広端 →狭端)で面取り整形。	側面ヘラズリ(広端→ 狭端)整形。		微砂粒、長 石粒を含む 胎土	淡黄褐色	良好	北東壁際 の床面 (+6.5)	
034-9010	34-7	丸瓦 (有段)	1/5	布目。広端縁は10mm程 度のヘラズリ整形。側 縁はわずかにヘラズ リ整形。	縦方向のヘラナデ。	側面、狭端面ヘラナデ。		微砂粒、赤 色スコリア を含むきめ 細かい胎土	淡明褐色	堅緻	カマド内	
034-9010	34-8	丸瓦 (有段)	1/4	布目。側縁は幅5mm程 度のヘラズリで整形。玉 縁部分の狭端縁は5mm 程度のヘラズリ整形。	横・縦方向のヘラナデ。 玉縁部分横方向のヘラ ナデ。	側面ヘラナデ。玉縁部分 の狭端面ナデ調整。筒 部狭端面横ナデ。		微砂粒、黒 色粒を含む きめ細かい 胎土	淡明褐色	良好	カマド左 袖の焚き 口 (補強材)	
034-9010	34-9	丸瓦 (有段)	1/4	布目。側縁わずかにヘ ラナデ。玉縁部分の狭 端縁は未調整。	横方向のヘラナデ。玉 縁部分は横方向のヘラ ナデ。側端縁は5mm程 度のヘラズリ整形。	側面ナデ調整。筒部狭 端面ナデ調整。玉縁部分 の狭端面ナデ調整。		微砂粒、赤 色スコリア を含むきめ 細かい胎土	淡明褐色	良好	カマド燃 焼部内 (支脚)	
034-9005	34-10	丸瓦 (無段)	1/5	布目。側縁は10mm程 度のヘラズリ整形。狭 端縁は10mm程度のヘラ ズリ整形。	縦方向のヘラナデ。狭 端縁は4mm程度のヘラ ズリ整形。	側面ヘラズリ。狭端面 ヘラナデ。		赤色スコリ ア、微砂粒 を含むきめ 細かい胎土	淡明褐色	堅緻	中央東側 床面	
034-9004	34-11	丸瓦 (有段)	1/5	粘土板の継ぎ目が見 えに。布目。側縁の調整 なし。広端縁は7mm程 度のヘラズリ整形。	ナデ調整。側端縁はわ ずかにヘラズリ整形。	側面、広端面はヘラズ リ整形。		長石粒を含 むきめ細か い胎土	灰色	堅緻	中央床面 (床直)	
034-9012	34-12	平瓦	3/7	布目。布の周囲にかが り縫い目あり。側縁ヘ ラナデ。広端縁未調整。	目の粗い縄目タタキで 叩く。側端縁ナデ。	側面、広端面ヘラナデ調 整。		微砂粒、長 石粒を含む 胎土	淡暗褐色 淡茶褐色	堅緻	カマド煙 道の左側 壁	
034-9012	34-13	平瓦	4/5	布目。布の周囲にひも 状のかがり縫い目あり。ひ も部分のほつれが明瞭 に見られる。狭端部分 のつじ合わせ目との間 が広く、広端部分とは つじ合わせ目がほとんど なし。側縁は幅7mm程 度のヘラズリで面取り 整形。狭端縁は8mm程 度の角程度の浅いヘ ラズリ整形。広端縁は 未調整。	狭・広の両側端縁部分 を。目の粗く深い縄目 タタキで叩く。左側端 縁は10mm程度のヘラ ズリで面取り整形。右 側端縁は5mm程度のヘ ラズリ整形。狭・広端 縁は未調整。	狭・広両端面ヘラナデ。 側面ヘラナデ。		長石粒を含 むきめ細か い胎土	青灰色	堅緻	カマド煙 道の天井 蓋に使用	重量 2.7kg 写真
034-9012	34-14	平瓦	1/2	布目。布の周囲にかが り縫い目あり。広端部分 のかがり縫い目との間 が広い。側縁5mm程 度のヘラナデ。広端縁 ヘラナデ。	目の粗い縄目タタキで 叩く。側端縁はわずかに ヘラズリ整形。広端縁 は5mm程度のヘラズ リ。	側面、狭・広端面ヘラ ナデ調整。		砂粒、長石 粒を多く含 む胎土	灰色	堅緻	カマド煙 道の左側 壁	
034-9012	34-15	平瓦	1/5	布目。布の周囲にひも 状のかがり縫い目あり。縫 い目のひものほつれが 見られる。側縁、広端 縁未調整。	目の粗く深い縄目タタ キで叩く。側端縁、狭・ 広端縁は未調整。	側面ヘラズリ。広端面 ヘラズリ。		微砂粒、黒 色粒を含む きめ細かい 胎土	淡灰色	堅緻	カマド煙 道の左側 壁	
034-9012	34-16	平瓦	破片	布目。布の周囲にかが り縫い目あり。摩擦のため 布目はすり消されている。 広端縁ナデ調整。	目の細かい縄目タタキ で叩く。広端縁は未調 整。	広端面ヘラナデ調整。		微砂粒、赤 色スコリア を含むきめ 細かい胎土	淡茶灰色	堅緻	カマド煙 道に使用	
034-9010・ 9012	34-17	平瓦	1/2	布目。布の周囲にかが り縫い目あり。左側縁は9 mm程度のヘラズリで 面取り整形。右側縁は6 mm程度のヘラズリ整 形で面取り。広端縁は成 形時のまま未調整。	目の粗く深い縄目タタ キで叩く。部分的に指の 圧痕、布目痕付着。左側 端縁は8mm程度のヘラ ズリ整形で面取り。	側面ヘラナデ。広端面は 成形時のままでこぼし ている。		微砂粒を含 むきめ細か い胎土	淡灰褐色	堅緻	カマド煙 道の天井 蓋に使用	
034-9012	34-18	平瓦	1/3	布の周囲にひも状のか がり縫い目あり。側縁ヘ ラナデ。狭端縁未調整。	目の粗く深い縄目タタ キで叩く。	側面は凸部を叩いた際 の粘土のはみ出たバリ が見られ、ヘラナデ調 整を行う。狭端面ヘラ ナデ。		微砂粒を多 く含む胎土	淡黄灰色 淡茶灰色	堅緻	カマド煙 道の右側 壁	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 調 (凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
034-9001	34-19	隅切り瓦 (平瓦)	1/4	焼成前に左側の側面から広端方向にかけて斜めにカットし、さらに広端部分を浅く、斜めに切り込んで隅切り瓦として製作。布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。布目はヘラにより部分的にナデ消されている。広端縁は部分的に大きくヘラケズリ整形。右側縁は13mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)整形で大きく面取り整形する。隅切り部分の端縁は未調整。	目の粗く深い縄目タタキで叩く。部分的に布目が付着する。側端縁、広端縁は10mm程度の直角で面取り整形する。隅切り部分の側端縁は整形調整なし。	側面は凹・凸の両側縁から面取りされ、ほとんど側面は調整ない。隅切り面には布目痕残り、ヘラナデ調整を行う。広端面には指の圧痕状の布目残る。		微砂粒、長石粒を含む胎土	淡灰色 淡茶灰色	堅緻	中央床面(+2)	写真
034-9003	34-20	平瓦	1/3	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。広端部分のかがり縫い目と目の間が広い。布目は目が細かい。側縁は部分的に8mm程度のヘラケズリ整形。広端縁ヘラナデ。	目の粗い縄目タタキで叩く。部分的に布目が付着する。側端縁、広端縁はわずかにヘラケズリ整形。	側面は成形時のまま調整なし。広端面ヘラナデ。		長石粒を含むきめ細かい胎土	青灰色	堅緻	カマド正面床面(床直)	
035-9001	35-18	丸瓦 (有段)	1/2	粘土板の継ぎ目あり。布目。左側縁は幅13mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)整形で面取り整形。広端縁は未調整。	横・縦方向のヘラナデ。	側面ヘラケズリ(狭端→広端)。広端面ヘラナデ。		微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	覆土中	
035-9001	35-19	平瓦	1/8	布目。布の周囲にかがり縫い目あり。縫い目部分、糸のほつれが見られる。	目の粗く深い縄目叩きで強く叩く。	広端面ヘラナデ。		長石粒を含むきめ細かい胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
035-9010	35-20	平瓦	破片	布目。布の周囲にかがり縫い目あり。縫い目部分の糸のほつれが見られる。側縁は5mm程度のヘラケズリ整形。広端縁は10mm程度のヘラケズリ整形。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁は5mm程度のヘラケズリで面取り整形。	側面、広端面ヘラナデ。		微砂粒、長石粒を含むきめ細かい胎土	淡灰色	堅緻	カマド内	
035-9001	35-21	平瓦	破片	布の周囲にかがり縫い目あり。側縁は5mm程度のヘラケズリで面取り整形する。	整った縄目タタキによる丁寧な叩き。側端縁は8mm程度のヘラケズリで面取り整形。	側面ヘラナデ調整。		微砂粒、赤色スコーリアを含むきめ細かい胎土	淡明褐色	良好	覆土中	
035-9001	35-22	平瓦	破片	布目。布の周囲にかがり縫い目あり。側縁ヘラナデ。	縄目タタキで叩く。	側面、広端面ヘラナデ。		微砂粒を含むきめ細かい胎土	褐色	堅緻	覆土中	
036-9001	36-14	軒平瓦	1/2	布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。狭端縁部分まで布目が広がる。瓦当面から広端方向のヘラケズリ(左→右)により、布目をざっくり削り、整形する。右側縁は5～12mm程度の幅で、瓦当面から狭端面にかけてヘラケズリ整形で面取りする。狭端縁は成形時のまま未調整。	目の粗く深い縄目タタキで叩く。平瓦部1/2から瓦当部にかけて明瞭な縦ヘラケズリ(瓦当部→狭端方向)で縄目をざっくり削り、曲線型に仕上げる。側端面ヘラナデ調整。	側面ヘラケズリ(瓦当面→狭端面)。狭端面は成形時のまま未調整。	額先端は瓦当面に対して鈍角に幅20mm程度の横ヘラケズリで面取り整形を行う。曲線型の間には幅5mm程度のわずかな面取り整形部分が見られる。	長石粒を含むきめ細かい胎土	淡灰色 灰色	堅緻	中央床面(床直)	均整唐草文軒平瓦 重量 3.2kg 写真 曲線頭 1
036-9002	36-15	平瓦	2/5	布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。ひもが太く明瞭に見られる。右側縁の幅は広く15mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で面取り整形。左側縁は7mm程度のヘラケズリ(右→左)で面取り整形。	目の粗い縄目タタキで叩く。所々に布目が付着する。両側端縁は8mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で面取り整形。	両側面ヘラナデ調整。所々に布目が付着する。広端面は成形時のまま調整なし。		長石粒、雲母粒を多く含むきめ細かい胎土	黒灰色	堅緻	中央床面(床直)	写真
036-9003	36-16	平瓦	1/4	布の周囲にかがり縫い目あり。側縁は8mm程度のヘラケズリで整形。狭端縁は6mm程度のヘラケズリ(右→左)整形。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁は6mm程度のヘラケズリ整形。	側面、狭端面ヘラナデ。		長石粒を多く含む胎土	黒灰色	堅緻	カマド正面の床面(+2)	
036-9003	36-17	平瓦	破片	布目。広端縁は8mm程度の角の浅いヘラケズリ整形。	格子目(8mm×5mm)タタキで叩く。	広端面ヘラケズリ(右→左)整形。		長石粒を含むきめ細かい胎土	青灰色	堅緻	カマド正面の床面(+2)	格子目タタキ
036-9003	36-18	平瓦	破片	目の細かい布目。	目の粗い雑な縄目タタキで叩く。	不明。		微砂粒を多く含む胎土	青灰色	堅緻	カマド正面の床面(+2)	
039-9001	39-7	平瓦	破片	布目。	目の粗い縄目タタキで叩く。	不明。		微砂粒を多く含む胎土	灰色	堅緻	覆土中	
041-9010	41-10	平瓦	1/5	布目。布の周囲にかがり縫い目あり。狭端部分の縫い目部分の糸のほつれが見られる。側縁は8mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)整形。狭端縁はわずかにヘラケズリ整形。	目の粗く深い縄目タタキで叩く。側端縁は部分的にヘラナデ調整。	側面ヘラケズリ(広端→狭端)。狭端面ナデ調整。		微砂粒、黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	カマド燃焼部内(支脚)	
042-9001	42-8	平瓦	破片	布目。布の周囲にかがり縫い目あり。側縁は5mm程度のヘラケズリで面取り整形。狭端縁は4mm程度のヘラケズリ整形。	目の粗い縄目タタキで叩く。右側端縁は5mm程度のヘラケズリで面取り整形。	側面丁寧なヘラナデ。狭端面ヘラケズリ。		微砂粒、黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡明灰褐色	堅緻	覆土中	
042-9001	42-9	平瓦	破片	布目。布の周囲のかがり縫い目がかろうじて見られる。布目はほとんど消されている。左側縁は7mm程度のヘラケズリで面取り整形。	目の細かい縄目タタキで叩く。側端縁周辺をヘラナデで縄目を消す。側端縁わずかにヘラナデ。	側面ヘラナデ。		黒色粒、微砂粒を多く含む胎土	淡黄灰色	堅緻	覆土中	
042-9011	42-10	平瓦	破片	布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。側縁ナデ調整。	目の粗く深い縄目タタキで叩く。側端縁は10mm程度のヘラケズリ整形で面取り。	側面、狭端面ヘラナデ。		微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色	堅緻	カマド燃焼部内	
042-9001	42-11	平瓦	1/6	布目。布の周囲にかがり縫い目あり。側縁ナデ調整。広端縁は成形時のまま未調整。	目の粗い縄目タタキで叩く。所々に布目が付着する。	側面は成形時のまま調整なし。広端面ヘラケズリ。		微砂粒を含む胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 調 (凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
043-9021	43-9	丸瓦	破片	布目。	横方向のヘラナデ。	側面ナデ。		長石粒を含む胎土	黒灰色	堅緻	カマド燃焼部内	
043-9021	43-10	平瓦	1/7	布目。布の周囲にひも状のかかり縫い目あり。側縁は6mm程度のヘラケズリ整形し、面取り。	目の粗い細目タタキで叩く。側端縁ヘラナデ調整。	側面は凸部を叩いた際の粘土のはみ出たバリが残り、部分的にヘラケズリ整形する。狭端面ヘラナデ。		微砂粒、長石粒を多く含む胎土	明褐色	堅緻	カマド燃焼部内	
043-9011	43-11	平瓦	1/2	布目。布の周囲にかかり縫い目あり。狭端縁とじ合わせひもの間が広い。側縁ナデ調整。狭端縁ナデ調整。	目の粗い細目タタキで縦方向に叩く。狭端部周辺ナデ消されている。	側面、狭・広端面ナデ調整。		長石粒、微砂粒を含む胎土	くすんだ淡黒灰色	堅緻	カマド燃焼部内	
044-9011	44-15	平瓦	1/6	布目。布の周囲にかかり縫い目あり。側縁は成形時のまま未調整。	目の細かい細目タタキで叩く。側端縁は5mm程度のヘラケズリで面取り整形する。	側面ヘラナデ調整。		微砂粒、長石粒を含む胎土	黒灰色	堅緻	カマド燃焼部内	
045-9001	45-13	丸瓦 (無段)	1/6	布目。広端部分にヘラによる切り目が見られる。側縁は5mm程度のヘラナデで整形。	横方向のヘラナデ調整。	側面、広端面ヘラナデ調整。		長石粒を含むきめ細かい胎土	黒灰色	堅緻	カマド左正面床面(+13)	
045-9011	45-14	平瓦	ほぼ完形	布目。布の周囲にひも状のかかり縫い目あり。布目は部分的にナデ消されている。両側縁ナデ調整。広端縁わずかにヘラケズリ。狭端縁は成形時のまま未調整。	指の爪痕やナデが見られ、器面がでこぼこしている。細目タタキでやや乱雑に叩く。所々に布目が面的に付着する。左側端縁は6mm程度のヘラケズリで面取り整形。	側面、狭・広端面ヘラナデ調整。		長石粒、赤色スコリア、微砂粒を含む胎土	灰色(部分的に淡明褐色)	堅緻	カマド煙道の天井部分蓋	重量 4.2kg 写真
047-9001	47-16	丸瓦	破片	細かい布目。側縁10mm程度のヘラケズリ整形。狭端縁10mm程度のヘラケズリ整形。	横方向のヘラナデ。狭端縁は6mm程度のヘラナデで面取り整形。	側面ヘラケズリ。狭端面は成形時のまま未調整。		長石粒、微砂粒を含む胎土	淡黄灰色 淡黒灰色	堅緻	覆土中	
047-9001	47-17	丸瓦 (無段)	破片	布目。側縁は8mm程度のヘラケズリ整形。狭端縁は8mm程度のヘラケズリ整形。	横方向のヘラナデ。側端縁は6mm程度のヘラナデで面取り整形。	側面、狭端面は成形時のまま未調整。		黒色粒、長石粒を含む胎土	灰色	堅緻	覆土中	
047-9001	47-18	平瓦	破片	器面の荒れが著しい。布目。	目の粗い細目タタキで叩く。所々に布目が付着する。	不明。		黒色粒、赤色スコリアを含む胎土	褐色	堅緻	覆土中	
048-9001	48-13	丸瓦 (有段)	破片	布目。側縁ヘラケズリ。玉縁部分の側縁は9mm程度のヘラケズリ整形。	横方向のヘラナデ。玉縁部分は横方向のヘラナデ。	側面ヘラナデ。玉縁部分の狭端面ナデ。筒部狭端面は横ナデ。		黒色粒を含むきめ細かい胎土	淡黄灰色	堅緻	覆土中	
050-9001	50-4	丸瓦	破片	布目。	横方向のヘラナデ。	不明。		微砂粒、長石粒を含む胎土	淡明褐色	堅緻	中央床面(床直)	
053-9001	53-9	丸瓦	破片	布目。布とじ合わせ目あり。	縦方向のヘラナデ。	不明。		微砂粒、長石粒を含む胎土	灰色	堅緻	覆土中	
056-9001	56-3	平瓦	1/6	布目。布の周囲にかかり縫い目あり。側縁ナデ調整。広端縁わずかにヘラケズリ整形。	目の粗い細目タタキで叩く。側端縁、広端縁はわずかにヘラナデ。	側面ナデ調整。広端面ヘラケズリ整形。		砂粒、長石粒を含む胎土	淡茶灰色	堅緻	北東床面(+3)	
058-9002	58-17	丸瓦	破片	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目がわずかに見える。側縁はわずかにヘラケズリ整形。	縦方向のヘラナデ調整。側端縁は4mm程度のヘラケズリによる面取り整形。	側面ヘラケズリ。		赤色スコリア、黒色粒を多く含むきめ細かい胎土	淡灰褐色	堅緻	覆土中	
058-9001	58-18	平瓦	1/4	布目。布の周囲にかかり縫い目あり。糸のはつれが目立つ。布目は狭端周辺ナデ消されている。側縁は6mm程度のヘラケズリにより面取り整形。狭端縁ナデ調整。	目の粗い細目タタキで縦方向に叩く。	側面、狭端面ヘラナデ調整。		赤色スコリア、微砂粒を含む胎土	淡明灰褐色	堅緻	カマド右側隅床面(+2)	
059-9004	59-12	軒平瓦	1/4	布目。瓦当面から7cm程度まで、横方向のヘラケズリ(左→右)で6段にわたり布目をさつくり削り、整形する。左側端は狭端から瓦当部分方向に向かって8～15mm程度の幅のヘラケズリで布目を削る。側縁は10mm程度のヘラケズリ(狭端→瓦当面)整形で面取りする。	平瓦部から瓦当部にかけて明瞭な縦ヘラケズリ(狭端→瓦当部)でさつくり削り、曲線顎に仕上げる。	側面ヘラケズリ(狭端→瓦当部)。	顎先端は瓦当面に対して鈍角に幅13mm程度の横ヘラケズリで面取り整形を行う。曲線顎とは鋭角的に尖る。	赤色スコリアを多く含む胎土	淡灰褐色	堅緻	覆土中	均整唐草文軒平瓦 写真 曲線顎 I
059-9004	59-13	丸瓦 (有段)	1/6	布目。玉縁部分の側縁は成形時のまま未調整。	横方向のヘラナデ。玉縁部分横方向のヘラナデ。	側面ヘラナデ。筒部狭端面はナデ調整。玉縁部分狭端面ナデ調整。		黒色粒、赤色スコリアを含む胎土	淡灰色 淡黄灰褐色	堅緻	覆土中	
059-9001	59-14	丸瓦 (無段)	1/5	布目。右側縁は10mm程度のヘラケズリで面取り整形する。	縦方向の後、横方向のヘラナデ調整。側端縁は6mm程度のヘラケズリ整形で面取り。	側面ヘラケズリ整形(広端→狭端)。		長石粒、赤色スコリア、砂粒を含む胎土	褐色 淡褐灰色	堅緻	中央西側床面(床直)	
059-9003	59-15	丸瓦 (無段)	1/4	布目。右側縁は5mm程度のヘラケズリによる面取り。左側縁わずかにヘラナデ。狭端縁は成形時のまま未調整。	横方向のヘラナデ。	右側面は成形時のまま調整なし。左側面ヘラケズリ(広端→狭端)。狭端面は成形時のまま調整なし。		微砂粒、長石粒、赤色スコリアを含む胎土	淡灰色	堅緻	南西床面(+2)	
059-9002	59-16	熨斗瓦 (平瓦)	1/4	一枚の瓦を半乾燥時に縦半分に割って截断し、熨斗瓦とする。布目。布の周囲にひも状のかかり縫い目あり。布目およびかかり縫い目は部分的にナデ消されている。側縁ナデ。広端縁は5mm程度のヘラケズリ整形。	細目タタキで叩く。右側端縁ヘラナデ。左側端部は横から押されて盛り上がっている。広端縁ヘラナデ調整。	右側面ヘラナデ。左側面は不明瞭だがヘラナデ。広端面ヘラナデ。		長石粒、黒色粒を含む胎土	淡灰色 淡黒灰色	堅緻	南西隅床面(床直)	切り熨斗瓦 写真
059-9004	59-17	平瓦	1/6	布目。布の周囲にひも状のかかり縫い目あり。布目は部分的にヘラナデによりナデ消されている。側縁は5mm程度のヘラナデ整形。広端縁は部分的にヘラケズリ整形。	目の粗い細目タタキで叩く。広端縁は5mm程度のヘラケズリ整形。	側面ヘラナデ。広端面ヘラケズリ。		赤色スコリア、黒色粒を含む胎土	淡茶灰褐色 淡黄褐色	堅緻	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 (調 (凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
067-9001	67-15	丸瓦 (無段)	1/5	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目が見 られるが、へうでなで消 している。	横方向の筋状のヘラナ デによる調整。側端縁ヘ ラクスリ(広端→狭端)。	側面ヘラクスリ(狭端→ 広端)。狭端面は成形時 のまま調整なし。		長石粒、微 砂粒を含む きめ細かい 胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
067-9001	67-16	平瓦	破片	布目。側縁ヘラクスリ。	縄目タタキを斜方向に 交差するように叩く。	側面ヘラクスリ。		長石粒を含 むきめ細か い胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
068-9011	68-12	平瓦	破片	布目。摩耗している。	目の粗い縄目タタキで 叩く。	不明。		きめ細かい 胎土	淡灰色	堅緻	カマド内	
078-9001	78-9	丸瓦 (無段)	破片	布目。右側縁は5mm程度 のヘラクスリ整形。	横方向のヘラナデ調整。	側面は分割した際に割 ったままで整形調整な し。狭端面ヘラクスリ。		赤色スコリ ア、微砂粒 を含む胎土	淡灰色	堅緻	北東隅床 面(床直)	
078-9002	78-10	丸瓦 (無段)	1/3	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。左 側縁は15mm程度の幅広 いヘラクスリ(広端→狭 端)でそぎ落とす。右側 縁わずかにヘラクスリ 整形。	横方向のヘラナデ調整。 右側端縁はわずかにヘ ラクスリ整形。	側面ヘラクスリ(狭端→ 広端)。狭端面は成形時 のままで未調整。		小石粒、微 砂粒を含む 胎土	淡黒灰褐色 淡黄灰色	堅緻	北東隅床 面(床直)	
086-9001	86-8	平瓦	1/6	細かい布目。布の周囲に ひも状のかがり跡い目 あり。側縁は5mm程度の ヘラクスリ。	目の粗くはっきりとし た縄目で叩く。側端縁 付近ヘラナデにより縄 目をすり消し、側端縁を 5mm程度のヘラクスリで 整形する。	側面ヘラクスリ(広端→ 狭端)。狭端面ナデ調 整。広端面ナデ調整。		きめ細かい 胎土	淡明灰褐色	堅緻	覆土中	
087-9011	87-14	丸瓦	破片	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。側 縁は4mm程度のヘラクス リ整形。	ナデ調整。側端縁は5mm 程度のヘラクスリ整形。 狭端縁ヘラクスリ。	側面ナデ調整。狭端面 ヘラクスリ。		微砂粒、長 石粒を含む 胎土	淡茶灰色 淡灰色	堅緻	カマド内	
087-9001	87-15	丸瓦 (有段)	4/5	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。側 縁は7mm程度のヘラクス リ整形。広端縁は10mm 程度のヘラクスリ整形。 狭端縁8mm程度のヘラ クスリ整形。	横方向のヘラナデ調整。 玉縁部分はヘラナデ調 整。両側端縁は4mm程度 のヘラクスリ整形。	側面ヘラクスリ整形。広 端面ヘラクスリ整形。筒 部狭端面ヘラナデ調整。 玉縁部分の狭端面ヘラ クスリ整形。		長石粒、微 砂粒を含む きめ細かい 胎土	淡黒茶灰 色 淡黄褐色	堅緻	北東隅床 面(床直)	写真
088-9012	88-20	丸瓦 (無段)	破片	粘土板の継ぎ合わせ目 あり。布目。側縁わずか にヘラクスリ整形。	ナデ調整。	側面ヘラクスリ。狭端面 は成形時のままで未調 整。		微砂粒を多 く含む胎土	褐色	堅緻	カマド燃 焼部内	
088-9015	88-21	丸瓦 (無段)	3/5	布目。右側縁は10～13 mm程度の幅広くヘラケ ズリ(広端→狭端)整形 して面取りする。狭端縁 は成形時のまま未調整。	器面の剥離が著しい。縦 方向(広端→狭端)の丁 寧なヘラナデ。側端縁は 3～5mm程度のヘラクス リ整形。	側面ヘラクスリ(狭端→ 広端)。狭・広端面ヘラ クスリ。		長石粒、微 砂粒を多く 含む胎土	淡茶灰褐色	堅緻	カマド左 袖の燃焼 部側壁 (構築材)	写真
088-9015	88-22	平瓦 (隅落とし)	1/5	焼成前に右側広端部分 をカットして隅落とし する。布目。広端部分の 布の周囲にひも状のか がり跡い目あり。側縁は 15mm程度の幅広いヘラ クスリ(広端→狭端)で 面取り整形する。広端 縁、隅切り部分の側縁 は12mm程度の幅広いヘ ラクスリ整形。	縄目タタキで叩く。器面 やや荒れている。側端縁 は側面に沿うように角 度をつけてヘラクスリ 整形する。広端縁は整形 調整なし。隅切り部分の 側端縁はわずかにヘラ クスリ整形。	側面ヘラクスリ(広端→ 狭端)。広端面ヘラクス リ整形。隅切り面は成 形時のまま未調整。		砂粒、赤色 スコリアを 含む胎土	灰褐色	堅緻	カマド内	写真
088-9013	88-23	平瓦	1/5	布目。布の周りにかがり 跡い目あり。右側縁は幅 8mm程度のヘラクスリ 整形で面取り。	目の細かい縄目タタキ で縦・斜方向に叩く。布 目付着。左側端縁は幅8 mm程度のヘラクスリ(狭 端→広端)で整形し、面 取りする。	側面、狭端面ヘラクスリ 調整。		長石粒、小 石粒を含む きめ細かい 胎土	淡黒灰色	硬質	カマド燃 焼部内	
088-9011	88-24	平瓦	1/2	布目。布の周りにかがり 跡い目あり。右側縁は幅 6mm程度のヘラクスリで 面取りする。狭端縁わず かにヘラクスリ。	器面はでこぼこしてい る。目の粗いやや乱雑な 縄目で叩く。所々に布目 が付着する。	側面は凸面部に、粘土 がはみ出たバリが見ら れ、ヘラナデ調整する。 狭端面は成形時のま ま未調整。		きめ細かい 胎土	淡黒灰色	硬質	カマド焚 き口部分	
090-9003	90-55	平瓦	破片	焼成時の熱で歪む。布目 側縁部分幅7mm程度の ヘラクスリ整形。	竅状の筋がはっきりし た縄目タタキで叩く。側 端縁ヘラクスリ。	側面ヘラクスリ整形。		長石粒を含 む胎土	淡黒灰色	硬質	覆土中	
090-9001	90-56	平瓦	4/5	布目。布の周囲にひも状 のかがり跡い目あり。布 目は細かく、部分的にす り消されている。左側縁 は幅10mm程度の横斜の 細いヘラクスリ(狭端→ 広端)で整形。右側縁、 狭・広端縁は成形時の まま未調整。	目の粗い縄目タタキを 縦・斜方向に叩くが弱 く、所々に見られる。右 側端付近に布目痕が付 着。右側端縁は7～10mm 程度の幅広いヘラクス リ(広端→狭端)で整形 する。左側端縁、狭・広 端縁は成形時のまま未 調整。	側面、隅切り面、狭端面 ヘラクスリの後、ナデ調 整。		赤色スコリ ア、微砂粒、 長石粒を含 む胎土	淡灰褐色 明褐色	堅緻	南側壁際 土坑内	重量 3.4kg 写真
090-9002	90-57	平瓦 (隅落とし)	1/3	焼成前に広端角隅を右 側面から広端方向に向 かって斜めに隅落とし している。布目。布の周 りにかがり跡い目あり。布 目部分は大方すり消さ れている。左側縁は幅8 mm程度のヘラクスリ(広 端→狭端)で整形し、面 取りする。隅切り部分の 側縁は4mm程度の幅のヘ ラクスリ整形。広・狭端 縁ナデ。	目の粗く深い縄目タタ キで斜方向に叩く。側端 縁周辺などで消されてい る。側端縁は5mm程度の 幅のヘラクスリ(広端→ 狭端)で整形し、面取り する。	側面、隅切り面、広端面 ヘラクスリの後、ナデ調 整。		微砂粒、赤 色スコリア 長石粒を含 む胎土	淡灰褐色	良好	覆土中	写真 隅落し 平瓦
090-9004	90-58	平瓦	破片	布目。布の周りにかがり 跡い目あり。側縁ヘラケ ズリ(広端→狭端)。狭 端縁わずかにヘラケズ リ。	目の粗い縄目タタキで 斜方向に叩く。側端縁 部分5mm程度のヘラケ ズリ整形。	側面は布目が残るがヘ ラクスリ(広端→狭端) で整形。狭端面ヘラケ ズリ。		赤色スコリ ア、微砂粒 を含む胎土	明褐色	やや甘い	覆土中	
090-9011	90-59	熨斗瓦 (平瓦)	6/7	一枚の瓦を製作時に縦 半分を完全に截断して 熨斗瓦とする(平瓦の左 側部分)。布目。布の周 りにひも状のかがり跡 い目あり。広端部分のか がり跡い目に糸のほつ れが見られる。布目は中 央から狭端にかけてな で消されている。左側縁 は幅7～9mm程度のヘラ クスリ整形による面取 り。右側縁は截断したま ま未調整。広端縁にわず かにヘラクスリ。	縄目タタキでやや右斜 方向に叩く。器面には布 目が付着した指の圧痕、 ナデ痕がみられる。右側 端縁ヘラクスリ(広端→ 狭端)。左側の半截面の 側縁は成形時のまま未 調整。広端縁わずかにヘ ラクスリ整形。	左側面ヘラクスリ(広端 →狭端)。右側面は半分 に截断した後、ヘラナデ 調整し、部分的にその上 に布目の付着した指の 圧痕が残る。狭・広端面 ヘラクスリ後、ナデ調 整。		小石粒、赤 色スコリア、 長石粒を含 む胎土	淡明灰褐 色	堅緻	Aカマド 燃焼部内 で直立し た状態	切り熨 斗瓦 重量 2.35kg 写真

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 (調 (凹・凸))	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
091-9001	91-19	丸瓦 (無段)	1/8	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。右 側縁は幅8mm程度のヘラ ケズリで整形。狭端縁ヘ ラケズリ。	縦方向のヘラナデ調整。 側端縁、狭端縁は成形 時のまま未調整。	側面ヘラケズリ。狭端面 は成形時のまま未調整。		長石粒、赤 色スコリア を含む胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
091-9001	91-20	丸瓦	破片	布目。側縁わずかにヘラ ケズリ。	横方向のヘラナデ。	側面ヘラケズリ。		長石粒を含 む胎土	灰色	堅緻	覆土中	
091-9001	91-21	平瓦	破片	布目。	目の粗く深い縄目タタ キで叩く。	不明。		微砂粒を含 む胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
091-9001	91-22	平瓦	破片	布目。右側縁は幅5mm程 度のヘラケズリで整形 する。隅切り部分の側縁 は割れたまま未調整。	目の粗い縄目タタキで 叩く。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)。		黒色粒、微 砂粒を含む 胎土	淡黒灰色	堅緻	覆土中	
092-9001	92-9	平瓦	1/6	布目。布の周囲にかがり 縫い目あり。左側縁は10 mm程度の幅広いヘラケ ズリ(狭端→広端)で整 形し面取りする。	縄目タタキで叩く。右側 端縁6mm程度のヘラケ ズリ(広端→狭端)で整形 し面取り。狭端縁は成 形時のまま未調整。	側面ヘラケズリ。狭端面 ヘラケズリ(左→右)。		きめ細かい 良質の胎土	淡茶褐色	堅緻	覆土中	
093-9001	93-21	丸瓦 (無段)	破片	布目。側縁ヘラケズリ か。	横方向のヘラナデ。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)。		赤色スコリ アを含む胎 土	褐色	堅緻	覆土中	
094-9011	94-16	丸瓦	破片	たたらによる粘土板の 糸切り痕が残る。布目。	横方向のヘラナデ。	側面ヘラケズリ。		長石粒、黒 色粒を含む 胎土	淡茶灰色	堅緻	カマド燃 焼部 (支脚)	
094-9001	94-17	平瓦	破片	布目。側縁は幅7mm程度 のヘラケズリで整形。	縄目タタキで叩く。側端 縁は幅6mm程度のヘラ ケズリで整形。	側面ヘラケズリ。		赤色スコリ ア、微砂粒 を含む胎土	淡明褐色	堅緻	カマド燃 焼部	
094-9001	94-18	平瓦	1/6	たたらによる粘土板の 糸切り痕が残る。布目。 布の周囲にひも状のか がり縫い目が見られる。 側縁は13mm程度の幅広 いヘラケズリ(狭端→広 端)整形で面取り。狭端 面についても20mm程の 幅広く斜めにヘラケズ リ(左→右)して面をカ ットする。	目の粗い縄目タタキで 叩く。側端縁、7mm程度 のヘラケズリ(狭端→広 端)整形。狭端縁わずか にヘラケズリ。	側面、狭端面ヘラケズリ 整形。		微砂粒、長 石粒を多く 含む胎土	淡灰色	堅緻	カマド燃 焼部	
094-9011	94-19	平瓦	1/6	熱により歪んでいる。布 目。布の周囲にかがり縫 い目あり。側縁わずかに ヘラナデ。狭端縁は未調 整。	表面に離れ砂が見られ る。目の粗い縄目タタ キで斜方向に叩く。側端 縁、狭端縁は未調整。	側面は凸面側に粘土の バリが残る。整形調整は なし。狭端面未調整。		長石粒を含 むきめ細か い胎土	黒灰色 淡黒灰色	硬質	カマド燃 焼部 (支脚)	
095-9002	95-14	丸瓦 (有段)	1/6	布目。玉縁部分の側縁 は幅広くヘラケズリ整形 (狭端→広端)。	縦方向のヘラナデ。玉縁 部分横方向のヘラナデ。 側端縁は幅7mm程度の ヘラケズリ(広端→狭 端)で整形。	側面ヘラケズリ(狭端→ 広端)。狭端面ナデ調 整。		赤色スコリ ア、微砂粒 を含むきめ 細かい胎土	淡明灰褐 色	堅緻	覆土中	
095-9001	95-15	平瓦	1/5	布目。側縁9mm程度のヘ ラケズリ整形し面取り。 狭端縁は幅10mm程度の ヘラケズリ(左→右)整 形。	目の粗い縄目タタキで 叩く。狭端縁周辺ナデ消 す。	側面、狭端面ヘラケズ リ。		微砂粒、赤 色スコリア を含む胎土	淡褐色	堅緻	西側床面 (床直)	
098-9001	98-20	丸瓦 (無段)	1/8	粘土板の継ぎ合わせ目 残る。布目。側縁は狭端 付近に15mm程の幅広く 叩るヘラケズリ(狭端→ 広端)で整形する。	縦方向のヘラナデ。側端 縁部分は幅6mm程度の ヘラケズリで整形する。	側面ヘラケズリ(狭端→ 広端)。		長石粒、砂 粒を多く含 む胎土	淡こげ茶 褐色	堅緻	カマド右 正面床面 (床直)	
098-9001	98-21	平瓦	1/7	布目。狭端にひも状の かがり縫い目が見られる。	目の粗い縄目タタキで 叩く。指によるナデ消し た部分が見られる。	狭端面ヘラケズリ。		長石粒、微 砂粒を含む 胎土	淡灰色	堅緻	カマド右 正面床面 (床直)	
099-9010	99-11	丸瓦 (有段)	1/4	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。側 縁は幅10mm程度の広く 叩るヘラケズリ(広端→ 狭端)で面取り。狭端縁 幅5mm程度のヘラケズ リで整形。	縦方向のヘラナデ。側端 縁部分は横方向の明 瞭なヘラナデが施され、 筒部との接合による段 が基部付近に見られる。 側端縁わずかにヘラケ ズリで整形。	側面ヘラケズリ(狭端→ 広端)。玉縁部分の狭端 面ヘラケズリ調整。		微砂粒を含 むきめ細か い胎土	淡灰褐色	堅緻	カマド燃 焼部内	
100-9001	100-26	丸瓦 (有段)	破片	布目。側端縁わずかにヘ ラケズリ。	横方向のヘラナデ。側端 縁わずかにヘラケズリ し面取りする。	側面ヘラケズリ。有段部 横方向のナデ調整。		微砂粒、赤 色スコリア を含む胎土	淡黒灰色	堅緻	覆土中	
100-9001	100-27	平瓦	1/8	布目。布の周囲にひも状 のかがり縫い目が見ら れる。側縁はヘラケズリ 整形により幅12mmの面 取り。	縄目タタキで斜・縦方向 に叩く。側端縁はヘラケ ズリ整形により幅5mmの 面取り。	側面ヘラケズリ。		長石粒を含 む胎土	黒灰色	堅緻	覆土中	
100-9001	100-28	平瓦	1/6	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布の周囲 にひも状のかがり縫い 目が見られる。	縄目タタキで叩く。	狭端面ヘラケズリ。		微砂粒を含 む胎土	灰色	堅緻	覆土中	
100-9001	100-29	平瓦	1/6	布目。布の周囲にかがり 縫い目が見られる。左側 縁から広端にかけて布 目が見られない部分が 幅広く取られている。左 側縁わずかにヘラケズ リ整形。広端縁わずかに ヘラケズリ整形して面 取り。	縄目タタキで叩き、縦方 向のヘラナデにより、縄 目をすり消す。	側面ヘラケズリ(狭端→ 広端)。広端面ヘラケズ リ(右→左)。		微砂粒、小 石粒を含む 胎土	明褐色	堅緻	覆土中	
109-9001	109-6	丸瓦 (無段)	1/5	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。側 縁は幅8mm程度のヘラケ ズリ整形で面取り。	横方向のヘラナデ。	側面ヘラケズリ(狭端→ 広端)。		長石粒、微 砂粒を含む 胎土	淡黒灰色	堅緻	北西隅床 面(床直)	
121-9001	121-15	丸瓦 (無段)	1/6	布目。側縁は幅18mm程 度の幅広のヘラケズリ (狭端→広端) 整形。	横方向のヘラナデ。	側面は2方向からヘラケ ズリ(狭端→広端)を行 い、鋭角的な面を作る。		微砂粒、長 石粒を含む 胎土	灰色	堅緻	カマド正 面床面 (+4)	
122-9010	122-32	平瓦	1/4	布目。布の周囲にかがり 縫い目が見られる。側縁 わずかにヘラケズリ。広 端縁わずかにヘラケズ リ整形。	縄目タタキで叩く。側端 縁はわずかにヘラケズ リ整形する。	側面ヘラケズリ(狭端→ 広端)。広端面ヘラケズ リ(左→右)整形。		砂粒を多く 含む胎土	明褐色	堅緻	カマド内	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 (H・P)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
132-9002	132-39	丸瓦	1/6	たたらによる粘土板の 糸切り痕が残る。布目。右 側縁は5mm程度のヘラケ ズリで整形する。広端縁 は成形時のまま未調整。	55mm程度の痕跡が残る 幅広いヘラナデで横方 向にナデる。側端縁はわ ずかにヘラナデ整形す る。広端縁は未調整。	側面はヘラケズリ(狭端 →広端)整形。広端面ヘ ラケズリ(右→左)整形。		微砂粒、赤 色スコリア を含む胎土	淡茶灰褐色	堅緻	覆土中	
132-9002	132-40	丸瓦 (無段)	1/2	布目。右側縁は幅8mm程 度のヘラケズリ(広端→ 狭端)で整形し面取り。 左側縁は側面に沿って 幅5mm程度のわずかなヘ ラケズリ(広端→狭端) で整形する。広端縁7mm 程度のヘラケズリ整形。 狭端縁は成形時のまま 未調整。	横方向のヘラケズリ。側 端縁は5mm程度のヘラケ ズリ(広端→狭端)整 形。広端縁10mm程度の ヘラケズリ整形。狭端縁 は成形時のまま未調整。	両側面ヘラケズリ(広端 →狭端)整形。狭端面は 成形時のまま未調整。広 端面ヘラケズリ(左→ 右)整形。		微砂粒、黒 色粒、赤色 スコリアを 含む胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	
132-9001	132-41	丸瓦	1/5	たたらによる粘土板の 糸切り痕が残る。目の細 かい布目でヘラにより、 大方ナデ消す。右側縁は 幅13mm程度の浅いヘラ ケズリ(広端→狭端)整 形で角をさ取る。	横・縦方向のヘラナデ調 整。側端縁は5mm程度の ヘラケズリで整形。	側面はヘラケズリ(狭端 →広端)整形。		微砂粒、長 石粒を多く 含む胎土	淡茶灰褐色	堅緻	中央床面 (+3)	
132-9001	132-42	丸瓦 (無段)	1/5	たたらによる粘土板の 糸切り痕が残る。目の細 かい布目。右側縁は幅6 mm程度のヘラケズリ(広 端→狭端)整形で面取 りする。狭端縁は成形時 のまま未調整。	横方向のヘラナデ。側端 縁、狭端縁は未調整。	側面はヘラケズリ(狭端 →広端)整形。狭端面ヘ ラケズリ整形。		微砂粒、赤 色スコリア を含むむき 細かい胎土	淡赤褐色	堅緻	中央床面 (+3)	
132-9017	132-43	丸瓦 (無段)	1/4	布目。左側縁は13mm程 度の幅広いヘラケズリ (広端→狭端)で面取り する。狭端縁は成形時の まま未調整。	器面が荒れているため 不明瞭だが、ナデかヘラ ナデ調整。狭端縁は成 形時のまま未調整。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)整形。		砂粒、赤色 スコリアを 含む胎土	淡赤褐色	堅緻	カマド煙 道部内	
132-9018	132-44	丸瓦 (無段)	2/5	粘土板の滲き目が残る。 布目。布の周囲にひも状 のかがり縫い目が見ら れる。右側縁は幅9mm程 度のヘラケズリ(狭端→ 広端)整形。広端縁は幅 20mm程度のヘラケズリ 整形。	器面が荒れているため 不明瞭だが、ナデかヘラ ナデ調整。	側面ヘラケズリ整形(狭 端→広端)。		砂粒、赤色 スコリアを 含む胎土	淡褐色	堅緻	カマド煙 道部内	
132-9013	132-45	平瓦	ほぼ完形	布目。布の周囲にひも状 のかがり縫い目が見ら れる。狭端周辺は布目を 部分的になで消す。左側 縁は幅10mm程度のヘラ ケズリ(広端→狭端)で 整形して面取りする。右 側縁はわずかにヘラケ ズリ整形し、面取り。広 端縁わずかにヘラケズ リ整形。狭端縁は部分 的にヘラケズリ整形す る。	縄目タタキで、縦・斜方 向とやや推に叩く。所々 に布目が付着。縄目は 部分的にヘラでナデ消 されている。左側端縁は 幅6mm程度のヘラケズリ 整形する。右側端縁わず かにヘラケズリ。広・狭 端縁は成形時のまま未 調整。	両側面ヘラケズリ(広端 →狭端)。広端・狭端面 ヘラケズリ。		微砂粒、長 石粒を含む 胎土	淡茶灰色	堅緻	カマド煙 道基部の 天井部蓋	重量4.75 kg 写真
132-9018	132-46	平瓦	9/11	目の細かい布目。布の周 囲にひも状のかがり縫 い目が見られる。両側縁 は10mm程度の幅広いヘ ラケズリ整形で面取り する。狭端縁は幅6mm程 度のヘラケズリで整形 し面取り。広端縁10mm 程度の幅広いヘラケズ リ整形で面取り。	縄目タタキで密に叩く。両側端縁は 傾斜の深いヘラケズリ で整形する。狭端縁は幅 5mm程度のヘラケズリ整 形。広端縁は幅7mm程度 のヘラケズリ整形で面 取りする。	側面ヘラケズリ整形。 広・狭端面ヘラケズリ整 形。		微砂粒、赤 色スコリア 、大粒の小石 粒を多く含 む胎土	灰色 淡茶灰色	堅緻	カマド煙 道内	重量 3.4kg 写真
132-9012	132-47	平瓦	9/10	目の細かい布目。布の周 囲にひも状のかがり縫 い目が見られる。布目は 中央部周辺ヘラにより ナデ消されている。側縁 は幅5mm程度のヘラケズ リ整形で面取りする。 広・狭端縁は成形時の まま未調整。	縄目タタキで密・斜方 向にやや乱雑に叩く。所 々に布目が付着。縄目は 摩耗のためかすり消 されている。左側端縁わ ずかにヘラケズリ整形。右 側端縁は幅6mm程度 のヘラケズリ整形で面 取りする。広・狭端縁は 成形時のまま未調整。	両側面はヘラケズリ(広 端→狭端)整形。広端・ 狭端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤 色スコリア を含むむき 細かい胎土	淡灰色	堅緻	カマド煙 道先端の 天井部蓋	重量 4.1kg 写真
132-9018	132-48	平瓦	1/4	布目は痕跡程度で大方 すり消されている。布の 周囲にかがり縫い目か 見られる。側縁はわずか にヘラケズリ整形する。 狭端縁は成形時のまま 未調整。	目の粗く深い縄目タタ キで強く叩く。所々に布 目が付着。側縁はわずか に部分的にヘラケズリ 整形。狭端縁は成形時 のままで未調整。	側面は凸面部分に粘土 がはみ出たバリが残る もののヘラナデ調整し 器面を平滑にする。狭端 面ヘラナデ調整。		微砂粒を含 むむき細か い胎土	淡灰褐色 淡灰色	堅緻	カマド煙 道先端の 天井部蓋	
132-9011	132-49	平瓦	1/2	布目。布の周囲にひも状 のかがり縫い目が見ら れる。右側縁は14mm程 度の幅広いヘラケズリ (狭端→広端)整形で面 取り。左側縁は9mm程度 のヘラケズリ整形で面 取り。広端縁は幅6～8 mmのヘラケズリ整形す る。	縄目タタキで斜・縦方向に丁寧 に叩く。側端縁は傾斜のあ るヘラケズリで整形す る。広端縁は8mm程度の 幅広いヘラケズリで整形 して面取りする。	側面ヘラケズリ整形。広 端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、長 石粒を多く 含む胎土	淡茶灰色 淡灰色	堅緻	カマド煙 道先端の 天井部蓋	重量 2.4kg
134-9011	134-14	丸瓦 (有段)	1/4	たたらによる粘土板の 糸切り痕が残る。布目。側 縁はわずかにヘラケズ リ。	横方向のヘラナデ。側端 縁は5mm程度のヘラケズ リで整形する。筒部狭端 縁は未調整。	側面ヘラケズリ(狭端→ 広端)整形。筒部狭端面 は横方向のヘラナデ。		微砂粒を含 むむき細か い胎土	淡褐色	堅緻	カマド燃 焼部内	
134-9013	134-15	丸瓦 (有段)	1/3	布目。側縁部分は玉縁部 分まで7mm程度のヘラケ ズリ(狭端→広端)で面 取りする。玉縁部分の狭 端縁は5mm程度のヘラケ ズリ整形。	横方向のヘラナデ調整。 玉縁部分横方向のヘラ ナデ調整。狭端縁は未 調整。	側面ヘラケズリ。		微砂粒、赤 色スコリア を含むむき 細かい胎土	淡褐色	堅緻	カマド燃 焼部の煙 道部分 (直立)	
136-9011	136-16	丸瓦 (無段)	1/5	布目。側縁部分はヘラナ デ調整。狭端縁は成形 時のまま未調整。	横方向のヘラナデ。側端 縁は4mm程度のヘラケズ リ整形。狭端縁は成形 時のまま未調整。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)整形。狭端面ナデ 調整。		長石粒を含 むむき細か い胎土	淡灰色	堅緻	カマド内	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 調 (凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
142-9001	142-5	丸瓦 (無段)	3/6	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。ひ も状の布のかがり縫い 目が斜方向に見られる。 側縁は幅4mm程度のヘ ラケズリ整形。広端縁 はナデ調整。	横方向のヘラナデ調整。 側端縁は幅7mm程度 のヘラケズリ整形。広端 縁は成形時のまま未調 整。	側面はヘラケズリ(広端 →狭端)整形。広端面ヘ ラケズリ整形。		微砂粒を多 く含む胎土	淡褐色 淡黄褐色	堅緻	北東隅床 面(床直)	
142-9001	142-6	丸瓦 (無段)	3/5	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。粘土板 の継ぎ目が見られる。布 目。ひも状の布のかがり 縫い目が縦方向に見ら れる。側縁は幅4mm程 度のヘラケズリ整形。広 端縁は幅5mm程度のヘ ラケズリ整形。	横方向のヘラナデ調整。 側端縁は幅6mm程度 のヘラケズリ整形。狭端 縁は成形時のまま未調 整。	側面はヘラケズリ(広端 →狭端)整形。狭端面ヘ ラナデ調整。		微砂粒、長 石粒を多く 含む胎土	淡黒茶灰 色 淡黒灰色	堅緻	北東隅床 面(床直)	
142-9001	142-7	丸瓦 (有段)	1/2	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。側 縁は幅5mm程度のヘラ ケズリで整形。狭端縁は 幅8mm程度のヘラケズ リで整形。広端縁は成形 時のまま未調整。	横方向のヘラナデ調整。 玉縁部分は基部付近に 幅5mm程度の凹縁状の ナデが見られ、全体を明 瞭なヘラナデ調整。側端 縁は5mm程度のヘラケ ズリ整形。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)整形。玉縁部分の 狭端面ヘラケズリ整形。 筒部狭端面横ナデ。		きめ細かい 良質の胎土	淡橙色	堅緻	北東隅床 面(床直)	写真
142-9001	142-8	丸瓦 (有段)	1/2	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。両 側縁は幅7mm程度のヘ ラケズリ(広端→狭端)で 玉縁部分までヘラケズ リ(広端→狭端)で面取 り整形する。玉縁部分の 狭端縁は4mm程度のヘ ラケズリ(右→左)で整形 する。	横方向のヘラナデ。玉縁 部分横方向の明瞭な横 ナデ調整。両側端縁7mm 程度のヘラケズリで面 取り整形する。筒部、玉 縁部分の狭端縁は整形 調整なし。	両側面ヘラケズリ(広端 →狭端)整形。玉縁部分 狭端面はヘラケズリ整 形。筒部狭端面は横ナ デ調整。		長石粒を含 むきめ細か い胎土	淡明褐色 淡橙色	堅緻	北東隅床 面(床直)	
142-9003	142-9	平瓦	破片	布目。布の周囲にかがり 縫い目が見られる。側縁 は4mm程度のヘラナデ 整形で面取り。狭端縁は 未調整。	目の粗い縄目タタキで 叩く。側端縁は幅5mm 程度のヘラケズリで面取 り整形する。狭端縁は成 形時のまま未調整。	側面は粘土のはみ出た バリが見られるものの ヘラナデ調整により平 滑。狭端面ヘラケズリ整 形。		微砂粒、長 石粒を含む 胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
142-9003	142-10	平瓦	破片	布目。布の周囲にひも状 のかがり縫い目が見ら れる。側縁はヘラナデ調 整。狭端縁はわずかにヘ ラケズリ整形。	目の深い縄目タタキで 叩く。側端縁は幅8mm 程度のヘラケズリで面取 り整形する。狭端縁は成 形時のまま未調整。	側面は粘土のはみ出た バリが見られるものの ヘラナデ調整により平 滑。狭端面ヘラケズリ整 形。		微砂粒を含 む胎土	淡黒灰色 淡茶灰色	堅緻	覆土中	
143-9016	143-14	丸瓦 (無段)	1/2	粘土板の継ぎ目が残る。 布目。側縁は幅10mm程 度のヘラケズリで面取 り整形。狭端縁は成形 時のまま未調整。	縦方向のヘラナデ調整。 側端縁は7mm程度のヘ ラケズリ(広端→狭端)で 整形。狭端縁はナデ調 整。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)整形。狭端面ナデ 調整。		微砂粒、黒 色粒を含む きめ細かい 胎土	淡明褐色	堅緻	カマド右 袖内側部 分 (補強材)	
143-9015	143-15	丸瓦 (無段)	1/2	布目。粘土板の継ぎ目 が残る。側縁は布目を浅 く削り取るように幅12 mm程度のヘラケズリで 整形する。広端縁につい ても布目を浅く削り取 るように幅8mm程度の ヘラケズリ(左→右)で 整形。狭端縁は成形時 のまま未調整。	縦方向のヘラナデ調整。 側端縁は5mm程度のヘ ラケズリ(広端→狭端)整 形。狭・広端縁は未調 整。	側面ヘラケズリ(狭端→ 広端)。狭・広端面ヘラ ケズリ整形。		微砂粒、長 石粒を多く 含む胎土	淡褐色 淡黒灰色	堅緻	カマド煙 道部の基 部 (横方向)	
143-9011	143-16	丸瓦 (無段)	2/3	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。目の細か い布目。両側縁は布目 を浅く削り取るように 10mm程度の幅広いヘ ラケズリ(狭端→広端)で 整形する。広端縁はわ ずかにヘラケズリ整形。	器面の摩耗が著しいが 縦方向のヘラナデ調整。 側端縁は3mm程度のヘ ラケズリ整形。広端縁は 未調整。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)。広端面ヘラケ ズリ整形。		砂粒、長石 粒を多く含 む胎土。	淡明褐色 淡灰褐色	堅緻	カマド煙 道右側上 部	写真
143-9017	143-17	丸瓦 (無段)	1/2	布目。側縁は8mm程度 のヘラケズリ(広端→狭 端)で面取り整形。狭端 縁は12mm程度の幅広い ヘラケズリで削り取る ように整形する。	横方向のヘラナデ調整。 側端縁は未調整。狭端 縁はナデ調整。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)整形。狭端面ヘラ ケズリ整形。		微砂粒を多 く含む胎土	淡明灰褐 色	良好	カマド燃 焼部内で 直立 右側支脚	
143-9014	143-18	丸瓦 (無段)	1/2	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。側 縁は布目を浅く削り取 るように幅10mm程度 のヘラケズリ(広端→狭 端)で整形する。広端縁 は幅5mm程度のヘラケ ズリで整形。	横方向のヘラナデ調整。 側端縁は未調整。広端 縁は未調整。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)整形。広端面ヘラ ケズリ整形。		きめ細かい 胎土	淡褐色 淡灰褐色	堅緻	カマド燃 焼部内で 直立 左側支脚	
143-9013	143-19	平瓦	1/2	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。側 縁は縦にしわがよる。側 縁は5mm程度のヘラケ ズリで整形。広端縁は6 mm程度のヘラケズリで 整形。	目の細かい縄目タタキ で密に叩く。側端縁は5 mm程度のヘラケズリで 整形する。広端縁は未調 整。	側面ヘラナデ。広端面ヘ ラケズリ。		微砂粒、長 石粒を含む 胎土	淡灰褐色 明褐色	堅緻	カマド左 袖内側部 分 (補強材)	
143-9013	143-20	平瓦	1/3	布目。布の周囲にひも状 のかがり縫い目あり。側 縁は摩耗のため不明瞭。	目の粗い縄目タタキで 叩く。側端縁は8mm程 度のヘラケズリで面取 り整形。	側面ヘラケズリ。		微砂粒、長 石粒を含む 胎土	淡明褐色	堅緻	カマド煙 道部分	
145-9001	145-10	平瓦	1/7	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。布 の周囲にかがり縫い目 が見られる。中央部分の 布目はすり消されている。 狭端縁は未調整。	目の粗く深い縄目タタ キを縦方向に叩く。狭端 縁は未調整。	狭端面は凸部に粘土の はみ出たバリが残り、未 調整。		微砂粒、長 石粒を含む 胎土	淡黄灰色	堅緻	覆土中	
145-9001	145-11	丸瓦	1/7	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。細かい生 地の布目。側縁は浅くヘ ラナデ調整。広端縁は未 調整。	横方向のヘラナデ。側端 縁は5mm程度のヘラケ ズリ(広端→狭端)整形。 広端縁はほとんど未調 整。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)整形。広端面ヘラ ケズリ整形。		微砂粒、小 石粒を含む きめ細かい 胎土	淡明褐色	堅緻	覆土中	
148-9011	148-14	丸瓦	破片	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。側 縁は幅6mm程度のヘラ ケズリ(狭端→広端)整 形。広端縁はわずかにヘ ラケズリ整形。	明瞭な横方向のヘラナ デ調整。側端縁、広端縁 は未調整。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)整形。広端面ヘラ ケズリ整形。		きめ細かい 胎土	淡明灰褐 色	堅緻	カマド燃 焼部内	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 調 (凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
151-9001	151-18	平瓦	1/5	布目。布の周囲にひも状のかかり痕が残る。布目。側縁は幅6mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で整形。広端縁はヘラケズリで整形。	縄目タタキを縦方向に丁寧に叩く。側縁側は縄目をヘラナデですり消し、側縁を幅4mm程度でヘラケズリ(広端→狭端)で整形。広端縁は未調整。	側面ヘラケズリ(広端→狭端)整形。広端面ヘラケズリ(左→右)整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	明褐色	堅緻	カマド右正面床面(+2)	
151-9002	151-19	平瓦	1/4	たたらによる粘土板の余切り痕が残る。布目。布の周囲にかかり縫い目あり。側縁はわずかにヘラケズリ整形。広端縁は幅5mm程度のヘラケズリで面取り。	目の粗い縄目タタキで叩く。側縁は未調整。広端縁は幅5mm程度のヘラケズリで部分的に整形する。	側面は凸部に粘土のはみ出たバリが残る。成形時のまま未調整。広端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	くすんだ茶褐色 淡黄褐色	堅緻	カマド正面床面(+4)	
153-9001	153-39	軒平瓦	1/6	布目。瓦当部分から幅30mm程度まで横方向のヘラケズリ(左→右)整形で布目をざっくり削り、面取り整形する。側縁は幅6mm程度のヘラケズリで面取り整形する。	縄目タタキで叩く。平瓦部分から瓦当部分方向にかけて縦ヘラケズリ(瓦当→狭端面)で整形し、屈曲の強い曲線部を上げる。側端縁は整形調整なし。	側面ヘラケズリ(瓦当→狭端面)整形。	顎先端は瓦当面に対して直角に近い角度で幅17mm程度の横ヘラケズリ(右→左)で面取り整形を行う。曲線部とは幅2mm程度の面取り整形が見られる。	小石粒を含む胎土	淡茶灰色 灰色	堅緻	東側隅床面(+2)	均整唐草文・曲線頸IIに近い
153-9001	153-40	軒平瓦	破片	布目。瓦当部分から幅30mm程度まで横方向のヘラケズリ(左→右)整形で布目をざっくり削り、面取り整形する。側縁は幅10mm程度のヘラケズリで面取り整形する。	平瓦部分から瓦当部分方向にかけて縦ヘラケズリ(瓦当→狭端面)で整形し、屈曲の強い曲線部を作る。側端縁は整形調整なし。	側面ヘラケズリ(瓦当→狭端面)整形。	顎先端は瓦当面に対して鈍角に幅17mm程度の横ヘラケズリ(右→左)で面取り整形を行う。曲線部とは4～7mm程度の幅の面取り整形が見られる。	小石粒を含む胎土	灰色 淡茶灰色	堅緻	南壁際床面(+5)	写真 均整唐草文・曲線頸I
153-9002	153-41	丸瓦 (無段)	1/3	布目。側縁は幅6mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で面取り整形する。狭端縁は成形時のまま未調整。	縦方向のヘラナデ調整。側端縁は幅8mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で面取り整形する。狭端縁は未調整。	側面ヘラケズリ(狭端→広端)整形。狭端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、長石粒を含む胎土	淡褐色	堅緻	中央床面(床直)	
153-9003	153-42	平瓦	完形	たたらによる粘土板の余切り痕が残る。布目。布の周囲にはひも状のかかり縫い目あり。側縁は部分的に幅10mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で面取り整形。広端縁は幅6mm程度のヘラケズリで整形。狭端縁は成形時のまま未調整。	全体的に雑な作り。器面がでこぼこしている。目の粗い雑な縄目タタキで叩く。所々縄目がつぶれている。右側端縁は幅7mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で整形。左側端縁は部分的に幅10mm程度のヘラケズリで整形。広端縁は幅15mm前後のヘラケズリで整形。面取りする。狭端縁は成形時のまま未調整。	側面ヘラケズリ(狭端→広端)整形。広端面ヘラケズリ整形。狭端面は瓦を乾燥させる際に、支えにしたと考えられる直径5mm程度の棒の痕跡が残る。		微砂粒、黒色粒を含む胎土	淡黄灰色	堅緻	カマド左側の左側壁(床直)	重量 3.8kg 乾燥時の 支えの棒 の痕跡 写真
153-9015	153-43	平瓦	完形	たたらによる粘土板の余切り痕が残る。布目。布の周囲にはかかり縫い目、布のはつれが見られる。右側縁は幅10mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で面取り整形。左側縁は幅5mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で整形する。広端縁は部分的に幅5mm程度のヘラケズリで整形。狭端縁は成形時のまま未調整。	目の細かい縄目タタキを斜方向に叩く。側端縁は幅8mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で面取り整形する。広端縁は幅8mm程度のヘラケズリで面取りする。狭端縁はほとんど整形なし。	側面ヘラケズリ(広端→狭端)整形。狭・広端面ヘラケズリ整形。		砂粒、赤色スコリアを含む胎土	赤褐色	堅緻	カマド煙道部内	重量 3.2kg 写真
153-9011	153-44	平瓦	1/2	布目。布の周囲にはかかり縫い目、布のはつれが見られる。側縁は幅6mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で面取り整形。広端縁は幅7mm程度のヘラケズリで整形。狭端縁は成形時のまま未調整。部分的にスス付着。	縄目タタキで斜方向に叩く。タタキ板は長方形50mm×95mm。側端縁は幅5mm程度のヘラケズリで整形する。広端縁は幅10mm前後のヘラケズリで面取り整形する。狭端縁は未調整。	側面は凸部に粘土のはみ出たバリが見られるがヘラナデ整形し面を平滑にする。狭・広端面はヘラケズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡明褐色 明褐色	堅緻	カマド煙道の左側壁	タタキ板 の大きさ 明瞭
153-9012	153-45	平瓦	1/5	たたらによる粘土板の余切り痕が残る。布目。布の周囲にかかり縫い目あり。布目と広端の間が広く、広端縁は成形時のまま未調整で、沈線状の屈曲が見られる。	目の粗い縄目タタキを斜方向に叩く。広端縁は15mmの幅広いヘラケズリ(右→左)で面取り整形する。	広端面は成形時のまま未調整。		微砂粒を含む胎土	淡明褐色	堅緻	カマド煙道の右側壁	
153-9004	153-46	平瓦	1/5	布目。布の周囲に太いひも状のかかり縫い目あり。側縁側はヘラナデ調整をし、側縁を幅7mm程度のヘラケズリで整形し、面取り。	縄目タタキで弱く叩く。側端縁は未調整。	側面ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡黄灰色	堅緻	覆土中	
155-9001	155-20	丸瓦	1/5	たたらによる粘土板の余切り痕が残る。布目。側縁は幅7mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で面取り。広端縁は幅4mm程度のヘラケズリ整形。	横方向のヘラナデ調整。側端縁は幅7mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で面取り。広端縁は未調整。	側面ヘラケズリ(狭端→広端)整形。広端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡黄灰色	堅緻	南西壁際の周溝内	
155-9002	155-21	平瓦	1/5	たたらによる粘土板の余切り痕が残る。布目。布の周囲にひも状のかかり縫い目が見られる。布日は部分的にすり消されている。側縁は未調整。	正格子(6mm×6mm)タタキで叩く。側端縁は未調整。	側面ヘラケズリ(狭端→広端)整形。		微砂粒、黒色粒を含む胎土	灰色 淡茶灰色	堅緻	カマド右正面の床面(床直)	写真 格子目タタキ
158-9001	158-8	丸瓦 (有段)	1/3	粘土板の継ぎ目あり。布目。筒部側縁は幅3mm程度のヘラケズリ整形。玉縁部の側縁は部分的に幅7mm程度のヘラケズリ整形。スス付着。	横方向のヘラナデ。玉縁部分横方向のヘラナデ。側端縁は剥離のため不明。筒部狭端縁はわずかにヘラケズリ整形。玉縁部分はスス付着。	側面ヘラケズリ(広端→玉縁)筒部狭端面ヘラナデ。玉縁部分ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	くすんだ淡褐色 淡黄褐色	堅緻	カマド左脇床面(床直)	
158-9002	158-9	平瓦	1/4	布目。布の周囲には糸のはつれが見られる。側縁、狭端縁は未調整。全体的にスス付着。	目の粗いタタキ目で叩く。側端、狭端縁未調整。全体的にスス付着。	側面は凸部の粘土のはみ出たバリが残る。未調整。狭端縁未調整。		赤色スコリアを含む胎土	淡明褐色	堅緻	カマド正面床面(床直)	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 (調・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
158-9013	158-10	丸瓦 (無段)	1/2	壁型の厚い重量のある丸瓦。たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。部分的に布のかがり縫い目が見られる。側縁は乾燥前に分割するために入れた切り込みによる粘土のはみ出しが残る。広端縁は広端面からの粘土のまくれが見られ、部分的にヘラケズリ整形する。	筋状のヘラナデ痕跡が横方向に残る。側端縁は未調整。広端縁は未調整。	側面は乾燥面に分割を容易にするためにあらかじめ内側に切り込みを入れ、割って成形。広端面はヘラケズリ整形。		微砂粒、黒色粒を含む胎土	淡明褐色 淡黄褐色	堅緻	カマド煙道の天井蓋	成形状況が分かる
158-9010	158-11	平瓦	4/5	布目。布の周囲にひも状のかかり縫い目、糸のはつれが見られる。中央部分は器面が剥離、荒れている。側縁はわずかにヘラケズリ整形。広端縁はナデ調整。狭端縁は成形時のまま未調整。	目の粗い縄目タタキを斜方向に叩く。所々に指の圧痕が残る。側端縁はわずかにヘラケズリ整形。広端縁、狭端縁は成形時のまま未調整。	側面は凸部に粘土のはみ出たバリが見られるもののヘラナデ調整する。狭・広端面はヘラケズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡黒褐色 淡黄褐色	堅緻	カマド煙道の天井蓋	重量 4.0kg 写真
158-9011	158-12	平瓦	1/2	布目。布の周囲にかがり縫い目が見られる。側縁は幅5mm程度のヘラケズリで面取り整形。広端縁は幅8mm程度のヘラケズリ整形。	目の細かい縄目タタキで縦方向に丁寧に叩く。側端縁はヘラナデ調整。広端縁は未調整。	側面は凸部に粘土のはみ出たバリが見られるものの、ヘラケズリ(広端→狭端)で整形。広端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、黒色粒、赤色スコリアを含む胎土	淡明褐色	堅緻	カマド煙道の天井蓋	写真
158-9011	158-13	平瓦	3/5	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目、糸のはつれが見られる。側縁は幅10mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で面取り整形する。広端縁は幅4mm程度のヘラケズリで整形。狭端縁は5mm程度のヘラケズリ整形。部分的にスス付着。	縄目タタキを強く叩く。側端縁は縄目部分を幅10mm程度のヘラケズリで整形する。広端縁は幅5mm程度のヘラケズリ整形。狭端縁は幅8mm程度のヘラケズリ整形。	側面ヘラケズリ(広端→狭端)整形。狭・広端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡黄褐色	堅緻	カマド煙道の天井蓋	重量 2.5kg 写真
158-9015	158-14	平瓦	1/2	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。側縁は未調整。広端縁は幅10mm程度のヘラケズリで整形する。狭端縁は成形時のまま未調整。	目の粗い縄目タタキを弓なり縦方向に叩く。縄目が指のナデや押圧でつぶれ、所々に布目が残る。側端縁は幅8mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で面取り整形。狭・広端縁は成形時のまま未調整。	側面ヘラケズリ(狭端→広端)。狭端面は凸部に粘土のはみ出たバリが見られるものの、ヘラナデ整形。広端面は成形時のまま未調整。		微砂粒、黒色粒を含む胎土	淡黄褐色 淡黄灰褐色	堅緻	カマドの煙突(直立)	
158-9012	158-15	平瓦	1/2	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。布の周囲にはひも状のかがり縫い目あり。側縁、広端縁は未調整。狭端縁はわずかにヘラケズリ整形。スス付着。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁は幅10mm程度のヘラケズリ整形。広端縁はナデ調整。狭端縁は成形時のまま未調整。	広端面、狭端面はヘラケズリ整形。		微砂粒、長石粒を含む胎土	淡黄褐色	堅緻	カマド煙道の天井蓋	
158-9015	158-16	平瓦	1/4	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。側縁、広端縁はわずかにヘラケズリ整形。	目の粗く深い縄目タタキで叩く。側端縁は幅12mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で面取り整形。広端縁は成形時のまま未調整。	側面ヘラケズリ(広端→狭端)整形。広端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡褐色	堅緻	カマドの煙突(直立)	
158-9011	158-17	平瓦	3/5	布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。中央から広端部分は剥離し、布目が見られない。右側縁は幅10mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で整形。狭端縁は幅6mm程度のヘラケズリ整形。広端縁は部分的にわずかにヘラケズリ。	縄目タタキを縦方向、弓なり状に叩く。タタキ目の単位は、5cm×7cm。所々に布目が付着。側端縁は幅7mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で面取り整形。狭端縁は2mm程度のわずかなヘラケズリ整形。広端縁は未調整。	側面ヘラケズリ(狭端→広端)整形。狭端面ヘラケズリ整形。広端面ヘラケズリ(右→左)整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡灰褐色 淡灰色	堅緻	カマド煙道の天井蓋	タタキ目の単位がわかる 写真
158-9014	158-18	平瓦	3/5	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。布の周囲に太いひも状のかがり縫い目あり。側縁は幅6mm程度の角度の浅いヘラケズリ(狭端→広端)整形。狭端縁は4mm程度のヘラケズリで整形。広端縁は幅7mm程度の面取り角度の急なヘラケズリ整形。	縄目タタキを縦方向、弓なり状に叩く。所々に布目付着。側端部分へナデにより縄目がすり消されている。側端縁は幅6mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)整形。狭・広端縁は未調整。	側面ヘラケズリ(広端→狭端)整形。狭端面ヘラケズリ(左→右)整形。広端面ヘラケズリ(右→左)整形。		微砂粒、小石粒を含む胎土	淡黒灰褐色 淡黒灰色	堅緻	カマド煙道の天井蓋	写真
158-9011	158-19	熨斗瓦 (平瓦)	破片	当初から熨斗瓦として製作。一枚の瓦を製作時に縦半分を完全に截断して熨斗瓦とする布目が残るが大方すり消されている。側縁はわずかにヘラケズリ整形。広端縁未調整。	ヘラナデ調整。側端縁、広端縁未調整。	側面ヘラケズリ整形。広端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、長石粒を含む胎土	くすんだ茶灰色 淡黄灰色	堅緻	カマド煙道内	切り熨斗瓦 写真
158-9011	158-20	丸瓦	1/5	厚味があり重い。布目。側縁は幅10mm程度の角度の浅いヘラケズリ(狭端→広端)整形。広端縁は幅13mm程度のヘラケズリでえぐり取るようにヘラケズリ整形する。	横方向の筋状のヘラナデの痕跡が明瞭に見られる。側端縁は幅8mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で面取り整形。広端縁は幅16mm程度の幅広いヘラケズリ(左→右)で大きく面取り整形する。	側面はヘラケズリ(狭端→広端)整形。広端面ヘラケズリ(右→左)整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む細かい胎土	淡明灰褐色	堅緻	カマド煙道内	写真 凸部の横方向のヘラナデ痕がよくわかる
159-9009	159-19	軒平瓦	破片	凸面側に弓なりに反っている。布目。側縁は幅3mm程度のヘラケズリ整形。	縄目タタキで縦方向に叩く。平瓦から瓦当部分方向にかけてケズリ幅の広いヘラケズリ(瓦当→狭端)整形を行い縄目を削り取る。側端縁は瓦当面方向に幅15mm程度のヘラケズリ(瓦当→狭端)で大きく削り取る。	側面ヘラケズリ整形。	欠矢のため不明。	きめ細かい胎土	くすんだ青灰褐色	硬質	覆土中	
159-9005	159-20	丸瓦 (無段)	破片	たたらによる粘土板糸切り痕残る。布目。側縁はわずかにヘラケズリ整形。広端縁は成形時のまま未調整。凹面全体にスス付着。	横方向のヘラナデ調整。側端縁はわずかにヘラケズリ整形。広端縁は幅3mm程度の表面をヘラケズリ整形。	側面ヘラケズリ整形。広端面ヘラケズリ整形。		微砂粒を含む胎土	橙色	堅緻	カマド右脇隅床面(+5)	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 調 (凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
159-9013	159-21	丸瓦 (無段)	2/3	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。中 央部分に布の歪みが見 られる。ヘラにより部 分的にナデ消している。 左側縁は幅4mm程度 のヘラケズリ(広端→狭 端)整形で面取り。狭端 縁は部分的にヘラケズ リ整形。広端縁は整形 なし。	横方向のヘラナデ調整。 側端縁は幅9mm程度の 角度のあるヘラケズリ (広端→狭端)で面取り 整形。狭端縁は幅5mm 程度のヘラケズリ整形。 広端縁は整形なし。	側面ヘラケズリ(狭端→ 広端)整形。広、狭端面 ヘラナデ整形。		微砂粒、黒 色粒を含む 胎土	灰色	堅緻	カマド煙 突部分 (直立)	写真
159-9010	159-22	丸瓦 (無段)	1/2	粘土板の継ぎ目が明瞭 に見られる。やや目の粗 い布目。側縁は幅4mm程 度のヘラケズリ整形。広 端縁は整形なし。	横方向のヘラナデ調整。 側端縁はわずかにヘラ ケズリ整形。広端縁は部 分的にわずかにヘラケ ズリ整形。	側面ヘラケズリ(狭端→ 広端)整形。広端面ヘラ ケズリ整形。		微砂粒、赤 色スコリア を含む胎土	淡褐色	堅緻	カマド内	
159-9001	159-23	平瓦	19/20	布目。布の周囲にかが り縫い目、布のほつれが見 られる。右側縁は幅8mm 程度のヘラケズリ(狭端 →広端)で面取り整形 する。左側縁は整形な し。狭端縁は部分的に 幅5mmほどヘラケズリ整 形。広端縁は整形なし。	縦目タタキを縦方向、や や弓なりに叩く。所々に 布目・指によるなで消し 部分が見られる。左側端 縁は4mm程度のヘラケズ リ(狭端→広端)整形で わずかに面取り。狭・広 端縁は整形なし。	側面は凸面部の粘土の バリをそぎ落とし、平滑 にする。狭端面、広端面 はヘラケズリ整形。		微砂粒を含 む胎土	淡茶灰色 淡灰色	堅緻	住居南壁 際床面 (床直) 凸面部が 上	重量 4.0kg 住居入り 口の踏み 石 写真
159-9008	159-24	平瓦	4/5	布目。狭端にひも状のか がり縫い目が見られる。 布目は中央から広端に かけてすり消されている。 狭端縁は未調整。広 端縁はわずかにヘラケ ズリ整形。両側縁欠失。	縦目タタキで叩く。部分 的に指の圧痕・すり消し が見られる。広端縁未調 整。狭端縁未調整。	側面欠失のため不明。狭 端・広端面ヘラケズリ整 形。		砂粒、赤色 スコリアを 多く含む胎 土	くすんだ 茶灰褐色 淡灰褐色	堅緻	覆土中	重量 3.1kg 写真
159-9003・ 9006	159-25	平瓦	2/3	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。布 の周囲にひも状のかが り縫い目あり。布目は部 分的にすり消されている。 側縁は7mm程度の幅 広いヘラケズリ(広端→ 狭端)で面取り整形す る。狭端縁は7mm程度 のヘラケズリで面取り整 形。中央付近の広範囲 にかけてスス付着。	目の粗くはっきりとし た縦目を斜方向、弓なり 状に叩く。所々に布目、 指によるすり消し痕が 見られる。右側端縁を6 mm程度のヘラケズリ(広 端→狭端)で整形する。 左側端縁は端部を鋭角 的にそぎ落とす。広端縁 は整形なし。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)整形。広端面ヘラ ケズリ整形。		きめ細かい 胎土	淡灰褐色 淡茶灰褐 色	硬質	カマド右 正面床面 (床直) カマド左 脇周溝内	
159-9010	159-26	平瓦	1/2	布目。布の周囲にかが り縫い目、布のほつれが見 られる。布目は大方すり 消されている。側縁は8 mm程度のヘラケズリ(広 端→狭端)で面取り整 形。狭端縁、広端縁は整 形なし。	縦目タタキで叩く。側端 部分、ヘラで縦目をナデ 消す。狭端縁は整形な し。広端縁はヘラによる ナデ消し。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)整形。狭端面、広 端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤 色スコリア を含む胎土	淡灰褐色 淡茶灰褐 色	堅緻	カマド煙 道の天井 蓋	
159-9011	159-27	平瓦	3/5	器面が割壊、荒れてい る。布目。側縁はわずか にヘラケズリ整形。狭端 縁は部分的にヘラケズ リ整形。	器面がでこぼこしてい る。目の粗い縦目タタキ で叩いた後、指で乱雑に ナデ消す。所々に布目が 付着。側端縁はわずかに ヘラケズリ整形。狭端縁 は整形なし。	側面は凸部の粘土のは み出たバリが残るが、ヘ ラケズリでそぎ落とす。 狭端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤 色スコリア を含む胎土	褐色 くすんだ 茶灰色	堅緻	カマド煙 突部分 (直立)	
159-9010	159-28	平瓦	2/3	目の細かい布目。布の周 囲にひも状のかがり縫 い目、布のほつれが見 られる。側縁は端部を幅7 mm程度のヘラナデで整 形する。広端縁は幅5mm 程度のヘラケズリ整形。 狭端縁は整形なし。	目の細かい縦目タタキ を縦方向に叩く。側端 縁は幅7mm程度のヘラケ ズリ(広端→狭端)で面 取り整形。狭端・広端面 は整形なし。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)整形。狭端、広端 面はヘラケズリ整形。		微砂粒、長 石粒を含む きめ細かい 胎土	くすんだ 茶灰色	硬質	カマド煙 道の天井 蓋	
159-9015	159-29	平瓦	1/2	たたらによる粘土板の 糸切り痕が明瞭に残る。 布目。布の周囲にひも状 のかがり縫い目あり。両 側縁は幅6mm程度のヘラ ケズリ(狭端→広端)で 面取り整形。狭端縁は未 調整。	目の細かい縦目タタキ で交互、斜方向に叩く。 所々に布目が付着。側 端縁は5mm程度のヘラケ ズリ(広端→狭端)で面 取り整形。狭端縁は未 調整。	側面・狭端面ヘラケズリ 整形。		微砂粒を含 む胎土	淡明褐色 淡黄褐色	堅緻	カマド煙 突部分 (直立)	
159-9010	159-30	平瓦	1/2	丁寧な作り。全体に凸面 側に反っている。布目。 布の周囲には太いひも 状のかがり縫い目あり。 布目は部分的にナデ消 されている。側縁は幅6 mm程度のヘラケズリ(広 端→狭端)で面取り整 形。広端縁は幅10mm程 度のヘラケズリ(右→ 左)で大きくカットす る。狭端はわずかにヘラ ケズリ整形。	縦目タタキで右上がり の斜方向に叩く。狭端 部には叩き残り部分あ り。側端はヘラで縦目を ナデ消す。側端縁は整形 なし。狭端・広端縁は整 形なし。	側面ヘラケズリ(狭端→ 広端)整形。狭端・広端 面ヘラケズリ整形。		微砂粒を含 むきめ細か い胎土	淡茶灰色 淡灰色	堅緻	カマド煙 道基部の 天井蓋	写真
159-9004	159-31	平瓦	1/2	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。布 目は部分的にすり消さ れている。側縁は10mm程 度の幅広いヘラケズリ (狭端→広端)で面取り 整形する。狭端縁は幅 mm程度のヘラケズリ(左 →右)整形で面取り。広 端縁は9mm程度のヘラケ ズリ整形。	目の粗い縦目タタキで 縦方向、弓なり状に叩 く。側端縁は部分的に5 mm程度のヘラケズリで 面取り整形。狭端縁は8 mm程度のヘラケズリ整 形。広端縁は側端部分 的に幅6mm程度のヘラケ ズリ整形。	側面ヘラケズリ(狭端→ 広端)整形。狭端、広端 面はヘラケズリ整形。		砂粒、赤色 スコリアを 含む胎土	淡茶灰褐 色	堅緻	南東隅床 面(+13)	
159-9009	159-32	平瓦	1/2	布目。布の周囲にかが り縫い目あり。側縁は7mm 程度のヘラケズリ(狭端 →広端)整形。狭・広端 縁は未調整。	縦目タタキで叩く。縦目 は摩耗のためすり消さ れている。側端縁は7mm 程度のヘラケズリ(狭端 →広端)整形。狭・広端 縁は未調整。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)整形。狭・広端面 ヘラケズリ整形。広端面 ヘラケズリ。		砂粒、赤色 スコリアを 含む胎土	淡明褐色 淡黄褐色	堅緻	覆土中	
159-9003	159-33	平瓦	1/4	布目。布の周囲にかが り縫い目あり。側縁は8mm 程度のヘラケズリ(広端 →狭端)整形。狭端縁は 未調整。	目の粗い縦目タタキで 叩く。所々に布目付着。 側端縁は4mm程度のヘラ ケズリ整形。狭端縁は整 形なし。	側面ヘラケズリ(広端→ 狭端)整形。狭端面ヘラ ケズリ整形。		微砂粒を含 むきめ細か い胎土	こげ茶灰 色	堅緻	カマド左 脇周溝内	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 調 (凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				門 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
159-9014	159-34	平瓦	1/4	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目、布目は部分的にすり消されている。広端縁は整形なし。	縄目タタキで叩く。縄目は痕跡程度にすり消されている。広端縁は整形なし。	広端面ヘラズリ整形		微砂粒、長石粒を多く含むざらざらした胎土	茶褐色淡黒茶灰色	堅緻	カマド煙道部分の煙突(直立)	
159-9012	159-35	平瓦	1/2	丁寧な作り。布目。布の周囲にはひも状のかがり縫い目あり。布目は大方ヘラによりナゲ消されている。側縁は幅6mm程度のヘラズリ(広端→狭端)で面取り整形。広端縁は幅10mm程度の角の浅いヘラズリ(右→左)で整形。狭端はヘラナデ調整し、狭端縁は整形なし。	目の細かい縄目タタキで縦方向に叩く。部分的にヘラで縦方向になで消されている。側端縁は幅9mm程度のヘラズリ(広端→狭端)で面取り整形する。狭端・広端縁は整形なし。	側面ヘラナデ整形。狭端面、広端面ヘラナデ整形。		微砂粒、長石粒を含むきめ細かい胎土	青灰色淡青灰色	硬質	カマド煙突部分(直立)	写真
159-9010	159-36	平瓦	1/4	全体にやや摩耗気味。布目。布の周囲にかがり縫い目あり。側縁はわずかにヘラズリ整形。広端縁は部分的にヘラズリする。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁、広端縁はわずかにヘラズリ整形。	側面ヘラズリ整形。広端面ヘラズリ整形。		微砂粒を多く含む胎土	淡茶灰色	堅緻	カマド内	
159-9007	159-37	平瓦	1/5	布目。側縁は4mm程度のヘラズリ(広端→狭端)で面取り整形。狭端縁は幅3mm程度のヘラズリで整形する。	目の粗い縄目タタキで斜方向に叩く。側端縁部分5mm程度のヘラズリ整形。狭端縁は整形なし。	側面ヘラズリ(狭端→広端)整形。狭端面ヘラズリ整形。		砂粒を含む胎土	淡褐色橙色	堅緻	東側壁際周溝内	
159-9008	159-38	平瓦	1/3	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。布目は摩耗か、すり消されている。側縁は幅10mm程度の角の浅いヘラズリ(広端→狭端)で整形。広端縁は6mm程度のヘラズリで整形。	縄目タタキで縦方向に叩く。側端縁は部分的に幅8mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で整形。広端縁は部分的に5mm程度のヘラズリで整形する。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。広端面ヘラズリ整形。		微砂粒、長石粒を多く含む胎土	淡明灰褐色淡灰褐色	堅緻	覆土中	
159-9010	159-39	平瓦	1/8	布目。布の周囲にかがり縫い目、布のほつれが見られる。右側縁は幅8mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形する。左側縁は整形なし。狭端縁は部分的に幅5mmほどヘラズリ整形。広端縁は整形なし。布のほつれが見られる。側縁は幅4mm程度のヘラズリ整形。広端はヘラナデを施し、端縁は整形なし。	縄目タタキで叩く。縄目部分にヘラにより軽くなで消す。側端はヘラナデ調整。広端縁は整形なし。	側面は凸部に粘土のはみ出たバリが残る。面全体をヘラナデ調整する。広端面ヘラズリ整形。		微砂粒、長石粒を多く含む胎土	黄褐色淡黒黄褐色	堅緻	カマド内	
159-9002	159-40	熨斗瓦(平瓦)	1/3	平瓦を製作時に縦の中心にそって内側に分割線・微断線を入れた後、半乾線後に割って分割する(平瓦の右側部分)。布目。布の周囲にかがり縫い目あり。側縁は整形なし。狭端縁はわずかにヘラズリ整形。	目の細かい縄目タタキで叩く。側端縁は幅7mm程度のヘラズリで整形する。狭端縁は整形なし。	右側面の微断線は狭端から広端方向に切り込みを入れ、成形時のまま調整なし。左側面はヘラナデ調整。狭端面は成形時のまま未調整。		微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡黄褐色	堅緻	南西床面(+2)	切り熨斗瓦写真
161-9010	161-24	丸瓦(無段)	1/4	器内が厚く重い。たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。側縁は整形がなく、粘土板を製作により切り込み部分の粘土が凹面に鋭角的にはみ出ている。	横・斜方向の筋状の明瞭なヘラナデの痕跡が残る。側端縁は整形なし。	乾燥段階で、内側に切り込み(広端→狭端)を入れ、割って成形したまま。		きめ細かい胎土	淡茶灰色灰色	堅緻	カマド燃焼部内(支脚)	成形方法がよくわかる
161-9001	161-25	平瓦	1/4	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。目の細かい布目。布目はヘラですり消され、痕跡程度に残る。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。側縁、狭端縁は整形なし。	目の粗く深い縄目タタキで叩く。所々に布目、指のナゲが見られる。側端縁は幅10mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形。狭端縁は整形なし。	側面ヘラズリ(狭端→広端)整形。狭端面ヘラズリ整形。		微砂粒、小石粒、長石粒を含む胎土	淡青灰色	堅緻	カマド正面床面(+8)	
161-9001	161-26	平瓦	1/4	器面が荒れている。目の細かい布目。布目はヘラですり消され、痕跡程度に残る。側縁は幅10mm程度で雑にざっくり削る(広端→狭端)。狭端縁は8mm程度のヘラズリ整形。	目の細かい縄目を斜方向に叩く。側端縁は幅4mm程度のヘラズリ(広端→狭端)で面取り整形。狭端縁は整形なし。	側面ヘラズリ整形。狭端面ヘラズリ整形。		微砂粒、長石粒を含む胎土	淡黄黒灰色淡黒灰色	堅緻	カマド正面床面(+8)	
162-9011	162-13	丸瓦(無段)	1/4	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。布目は大方すり消されている。側縁は幅9mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形。広端縁は整形なし。	横方向の筋状のヘラナデの痕跡が明瞭に見られる。側端縁、広端縁は整形なし。	側面ヘラズリ(広端→狭端)で整形。広端面ヘラズリ整形。		微砂粒、黒色粒を含む胎土	灰色淡茶灰色	堅緻	カマド燃焼部内の左袖	
162-9011	162-14	丸瓦(有段)	1/2	大型の丸瓦。丁寧な作り。たたらによる粘土板の糸切り痕がよく残る。目の細かい布目。布目のとし合わせ目が見られる。両側縁は幅5mm程度のヘラズリ(広端→狭端)でわずかに面取り整形。広端縁は6mm程度のヘラズリ整形。	横方向のヘラナデ調整。両側端縁は幅4mm程度のヘラズリ整形。広端縁は整形なし。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。広端面ヘラナデ整形。		赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡明褐色淡明灰褐色	堅緻	カマド燃焼部内で直立(支脚)	写真
162-9010	162-15	熨斗瓦(平瓦)	完形	平瓦を製作時に縦の中心にそって、内側に分割線・微断線を入れた後、半乾線後に割って分割する(平瓦の右側部分)。目の細かい布目。布の周囲にはひも状のかがり縫い目あり。右側縁は幅5mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で整形。広端縁は幅5mm程度のヘラズリ(右→左)で整形。狭端縁は整形なし。	器面がでこぼこしている。目の粗く深い縄目タタキで縦方向、弓なり状に叩く。指の指紋、押圧、指ナデ、ヘラナデが見られる。左側端縁部分は整形せず、側面のヘラナデにより粘土が押し出され、めくれている。右側端縁は成形時に割ったまま、未調整。狭端縁はわずかにヘラズリ整形。広端縁は幅8mm程度のヘラズリで面取り整形。	右側面はヘラナデ整形。左側面は成形時に切り込みを入れ、割ったまま整形調整はない。狭端面は、凸部に粘土のはみ出たバリが見られ、整形調整なし。広端面はヘラズリ整形。		きめ細かい胎土	淡茶灰色明灰褐色	硬質	カマド燃焼部内で直立(支脚)	切り熨斗瓦。凸部に指の指紋あり写真

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 調 (凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
167-9012	167-19	丸瓦	1/4	布目。側縁は幅6mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で面取り整形する。広端縁は成形時のまま未調整。広端部にわたりズレ付着。	器面の剥離。荒れが著しい。横方向のヘラナデ調整。側端縁は幅7mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)整形。広端縁は整形なし。	側面ヘラナデ整形。狭端面、広端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを多く含む胎土	淡黄褐色	堅緻	カマド内	
167-9011	167-20	丸瓦 (無段)	1/4	布目。布には横糸のほつれが見られ、布目が波打つような文様となっている。右側縁は幅6mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)整形で面取り。左側縁は整形なし。狭端縁は整形なし。	横・斜方向の明瞭な痕跡の残るヘラナデ調整。両側端縁は幅7mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で面取り整形。狭端縁は整形なし。	側面はヘラケズリ(広端→狭端)整形。狭端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、長石粒、雲母粒を含む胎土	こげ茶褐色	堅緻	カマド左袖の構築材	
167-9012・9013	167-21	平瓦	1/8	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目はほとんどすり消され、痕跡は見られない。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。側縁は幅10mm程度のヘラケズリで面取り整形。狭端縁はほとんど整形なし。	目の細かい縄目を斜方向に叩く。側端縁は幅4mm程度のヘラケズリで側面部を削る。狭端縁は15～20mmの幅広いヘラケズリで大きく削る。	側面ヘラケズリ(広端→狭端)整形。狭端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、長石粒、赤色スコリアを含む胎土	淡黄褐色	堅緻	カマド内	
169-9001	169-14	丸瓦 (有段)	9/10	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。粘土板の継ぎ目が明瞭に残る。布目。両側縁は幅5～9mm程度のヘラケズリ整形(広端→狭端)。玉縁部分の側縁は幅10mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で面取り整形する。広端縁は部分的にヘラケズリ整形。狭端縁は幅5～10mm程度のヘラケズリ整形する。	横方向のヘラナデ調整で器面を平滑にする。玉縁部分は横方向の明瞭なヘラナデ調整。側端縁はわずかにヘラナデ整形する。筒部狭端縁、広端縁は整形調整なし。玉縁部分の狭端縁は幅3～5mm程度のヘラケズリで大きく面取り整形する。	両側面ヘラケズリ(広端→狭端)整形。狭端面、広端面はヘラケズリ整形。		微砂粒、長石粒を含む胎土	青灰色	硬質	カマド正面床面(+15)	重量3.05kg 写真
169-9002	169-15	丸瓦 (有段)	11/12	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。粘土板の継ぎ目が明瞭に残る。布目。両側縁は幅4mm程度のヘラケズリ整形(狭端→広端)。玉縁部分の側縁は幅6mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で面取り整形する。広端縁はわずかに幅5mm程度のヘラケズリ整形。狭端縁は整形なし。	横方向のヘラナデ調整で器面を平滑にする。玉縁部分は横方向のヘラナデ調整。側端縁はわずかにヘラナデ整形する。玉縁部分の狭端縁、筒部狭端縁、広端縁は整形調整なし。	両側面ヘラケズリ(広端→狭端)整形。玉縁部分狭端面、広端面ヘラケズリ整形。筒部狭端面は横ナデ調整。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡灰褐色 淡明褐色	堅緻	カマド本体上部	重量2.8kg 写真
169-9004・9010	169-16	丸瓦 (有段)	9/10	左側の器内に厚味があり、重量のある丸瓦。丁寧な作り。目の細かい布目。広端には太いひも状のかがり縫い目が見られる。右側縁は8～15mm程度の幅のヘラケズリ(狭端→広端)整形。左側縁は欠損があるものの、わずかにヘラケズリ整形。玉縁部分側縁は9～15mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)整形。玉縁部分狭端縁、広端縁は整形調整なし。	横方向のヘラナデ調整で器面を平滑にする。玉縁部分は横方向のヘラナデ調整。側端縁は5mm程度のヘラケズリ整形する。玉縁部分狭端縁、筒部狭端縁、広端縁は整形調整なし。	両側面ヘラケズリ(広端→狭端)整形。玉縁部分狭端面、広端面ヘラケズリ整形。筒部狭端面は横ナデ調整。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡灰褐色 淡褐色	堅緻	カマド本体上部	重量3.5kg 写真
169-9003	169-17	丸瓦 (無段)	9/10	帯壁の厚い丸瓦。丁寧な作り。たたらによる粘土板の糸切り痕残る。粘土板の継ぎ目が明瞭に残る。目の細かい布目。右側縁は幅4mm程度のヘラケズリ整形(広端→狭端)。左側縁は幅8mm程度のヘラケズリ整形(広端→狭端)。広端縁は18mm程度の幅広く、角度の浅いヘラケズリ(右→左)で面取り整形する。狭端縁はえぐりように幅8mm程度のヘラケズリ整形する。	横方向のヘラナデ調整で器面を平滑にする。玉縁側端縁は整形調整なし。狭端縁は幅7mm程度のヘラケズリ整形。広端縁は整形調整なし。	両側面ヘラケズリ(広端→狭端)整形。狭端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを多く含む胎土	淡褐色	堅緻	カマド本体上部	重量2.8kg 写真
176A-9001	175-4	平瓦	1/4	布目。布の周囲にかがり縫い目、布のほつれが見られる。布目は部分的にすり消されている。側縁はわずかにヘラケズリ整形。広端縁は整形なし。	目の細かい縄目タタキで斜方向、格子状に叩く。縄目は部分的にナデ消されている。側端縁はわずかにヘラケズリで整形。広端縁は整形調整なし。	側面はヘラケズリ(狭端→広端)整形。広端面ヘラケズリ整形。		砂粒、長石粒を含む胎土	淡茶灰色 淡灰色	堅緻	カマド左袖部分	
176A-9001	175-5	平瓦	1/3	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。布の周囲にかがり縫い目、布のほつれが見られる。布目は部分的にすり消されている。側縁はヘラナデ調整。広端縁は整形なし。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁は幅8mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で面取り整形。	側面ヘラケズリ(狭端→広端)整形。広端面は成形時のまま未調整。		微砂粒を含む胎土	淡茶灰色 淡灰色	堅緻	カマド右袖部分	
179-9004	179-37	丸瓦 (有段)	破片	玉縁部分、布目。狭端縁は幅8mm程度のヘラケズリで整形する。	横方向のヘラナデ調整。玉縁部分についてもヘラナデ調整。筒部狭端縁、玉縁部分の狭端縁は整形調整なし。	側面は欠失のため不明。玉縁部分の狭端面はヘラケズリ整形。筒部狭端面横ナデ調整。		赤色スコリア、微砂粒を含む胎土	淡褐色	堅緻	中央西側の床面(床直)	
179-9005・9008	179-38	丸瓦	破片	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。目のきめ細かい布目。布目は部分的にヘラナデによりナデ消されている。	横方向のヘラナデ調整。	欠失のため不明。		微砂粒、長石粒を含む胎土	灰色	堅緻	中央西側床面(+20)	
179-9007・9008	179-39	丸瓦	1/2	目のきめ細かい布目。丁寧な作り。側縁はわずかにヘラナデ整形。広端縁は部分的にヘラケズリ整形。	明瞭な筋状の横方向のヘラナデ調整が見られる。側端縁、広端縁は未調整。	側面ヘラケズリ(狭端→広端)で整形する。広端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤色スコリア、黒色粒を含む胎土	淡褐色 淡明褐色	堅緻	カマド右側の柱穴付近床面(床直)	
179-9001・9003・9008	179-40	丸瓦 (無段)	3/5	布目。側縁は12mm程度の幅広く角度の浅いヘラケズリ(狭端→広端)で面取り整形する。広端縁は整形調整なし。狭端縁は幅8mm程度のヘラケズリで整形する。	器面が摩耗しているが、横方向のヘラナデ整形。側端縁はわずかにヘラケズリ整形。狭端縁、広端縁は整形調整なし。	側面はヘラケズリ(狭端→広端)整形。狭端面、広端面ヘラケズリ整形。		砂粒、小石粒を多く含む胎土	淡黄灰色 淡明灰色	やや甘い	カマド左側の柱穴(床直)	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴			胎 土	色 調 (凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面					
179-9002・9008	179-41	丸瓦 (有段)	1/5	布目。側縁は幅3mm程度のヘラズリ(広端→狭端)整形。玉縁部分の側縁は幅5mm程度のヘラズリ(広端→狭端)整形。	横方向のヘラナデ調整。側端縁は整形調整なし。	側面はヘラズリ(広端→狭端)整形。筒部狭端面は横ナデ調整。	微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡明褐色	堅緻	カマド左脇周溝内	
179-9010	179-42	平瓦	破片	布目。側縁部はヘラナデで断面を平滑にする。	格子目(7mm×7mm)タタキで叩く。格子目部分は摩耗している。側端縁は整形調整なし。	摩耗しているため、側面の整形調整は不明。	微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡黄灰色	やや甘い	カマド内	格子目タタキ写真
179-9002	179-43	平瓦	1/2	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。布目は部分的にすり消されている。左側縁は幅5mm程度の浅いヘラズリ整形。右側縁は3mm程度のヘラズリ整形。広端縁は整形なし。	目の細かい縄目で叩く。部分的にナデ消す。側端縁は4mm程度のヘラズリ整形。広端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。	微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡明茶灰色	堅緻	カマド左脇周溝内	
180-9004	180-18	丸瓦 (有段)	1/6	布目。側縁はわずかにヘラズリ整形。玉縁部分の側縁は5～14mm程度の幅広いヘラズリ(広端→狭端)でそぐように面取り整形する。玉縁部分狭端縁は成形時のまま未調整。	横方向のヘラナデ調整。玉縁部分は横方向のヘラナデ調整。側端縁は整形調整なし。筒部、玉縁部分の狭端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。玉縁部分狭端ヘラズリ整形。筒部狭端面は横ナデ調整。	微砂粒を含む胎土	明褐色くすんだ灰色	堅緻	覆土中	
180-9002	180-19	平瓦	破片	布目。布の周囲にかがり縫い目。布のほつれが見られる。布目がかかる部分と広端縁との間が広い。広端縁は成形時のまま未調整なし。	器面がひび割れ、荒れている。紐目タタキで叩く。広端縁は幅5mm程度のヘラズリで面取り整形する。	広端面ヘラズリ(右→左)整形。	微砂粒、長石粒を含む胎土	灰色	堅緻	カマド正面床面(+5)	
180-9004	180-20	平瓦	1/5	全体に摩耗している。布目。布目はほとんどすり消されている。周囲にひも状のかがり縫い目あり。側縁はわずかにヘラズリ整形。	目の粗い縄目タタキで強く叩く。側端縁はヘラナデ整形。	側面はヘラズリ(広端→狭端)整形。広端面ヘラズリ整形。	赤色スコリア、微砂粒を含む胎土	淡明褐色	堅緻	覆土中	
180-9001	180-21	平瓦	1/6	布目。布目はほとんどすり消され、痕跡のみ。かがり縫い目あり。側縁はわずかにヘラズリ整形。	縄目タタキで叩く。側端縁はわずかにヘラズリ整形。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。	微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡灰褐色	堅緻	北西隅床面(+10)	
182-9002	182-10	丸瓦	破片	布目。粘土板の継ぎ目が残る。側縁は布目を浅く削り取るように幅10mm程度のヘラズリで整形する。広端縁は成形時のまま未調整。	横方向のヘラナデ調整。側端縁はわずかにヘラズリ整形。広端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ(狭端→広端)整形。広端面ヘラズリ整形。	微砂粒を含む胎土	淡茶灰色	堅緻	覆土中	
182-9001	182-11	平瓦	ほぼ完形	布目。布目は側端を除き狭端、広端にかかる。側端部には布の周囲にひも状のかがり縫い目が見られる。側縁は幅5mm程度のヘラズリ(広端→狭端)整形。広端縁は幅6mm程度のヘラズリ(左→右)で面取り整形する。狭端縁は整形調整なし。狭端縁は整形調整なし。	目の粗い縄目タタキで、縦・斜方向に交互に叩く。部分的に指によりナデ消す。右側端縁は幅6mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形する。左側端縁は整形調整なし。狭端縁はわずかにヘラズリ整形。広端縁は整形調整なし。	側面は凸部に粘土のはみ出たバリが見られ、部分的にヘラズリ(狭端→広端)でバリをそぎ落として整形する。広端面はヘラズリ整形。狭端面は成形時のまま未調整。	微砂粒、長石粒を含む胎土	灰色 淡茶灰色	堅緻	南側壁際床面(床直)	重量 4.35kg 写真
183-9001	183-30	平瓦	破片	布目。側縁は10mm程度の幅広いヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形する。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ(狭端→広端)整形。	微砂粒を多く含む胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
183-9010	183-31	丸瓦 (無段)	1/7	布目。側縁は幅5mm程度のヘラズリで浅くそぎ落とす。狭端縁は7mm程度のヘラズリで浅くえぐるように整形。	横方向のヘラナデ調整。側端縁、狭端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ整形。狭端面は成形時のまま未調整。	微砂粒、長石粒を多く含む胎土	褐色くすんだ褐色	堅緻	カマド内	
202-9012	202-7	熨斗瓦 (平瓦)	破片	布目。布目は痕跡程度ではほとんどすり消されている。周囲にかがり縫い目が残る。側縁は幅7mm程度のヘラズリで面取り整形。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁は幅5mm程度のヘラズリで面取り整形。	側面ヘラズリ整形。	微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡橙色 淡茶灰色	堅緻	カマド内	熨斗瓦写真
202-9001	202-8	平瓦	1/6	布目。布の周囲にかがり縫い目あり。側縁は5mm程度のヘラズリで面取り整形。狭端縁は4mm程度のヘラズリ整形。幅7～10mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形する。狭端縁は成形時のまま未調整。	目の細かい縄目タタキで叩く。側端縁、狭端縁は整形調整なし。	側面はヘラズリ(広端→狭端)整形。狭端面ヘラズリ整形。	微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡茶灰色 淡黄褐色	堅緻	東側壁際周溝内	
202-9002・9011・9014	202-9	平瓦	1/2	器面の荒れが著しい。布目。布目は部分的にナデ消されている。側縁は幅4～10mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形する。狭端縁はわずかにヘラズリ整形。	目の粗い縄目タタキでやや雑に叩く。側端縁、狭端縁は整形調整なし。	側面ヘラナデ調整。狭端面ヘラナデ調整。	微砂粒、黒色粒を含む胎土	褐色 淡褐色	堅緻	カマド構築材(右袖内側に直立)	
202-9002・9010	202-10	平瓦	2/3	器面がやや荒れている。布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。布目は大方ナデ消されている。側縁は摩耗のため整形調整不明。広端縁は幅4mm程度のヘラズリ整形。狭端縁は整形調整なし。	目の粗い縄目タタキで強く叩く。側端縁は摩耗のため整形調整は不明。狭端縁、広端縁は整形調整なし。	側面は成形時のまま未調整で布目が付着する。狭端面、広端面は整形調整なし。	微砂粒、長石粒を多く含む胎土	淡灰色 淡茶灰色	堅緻	カマド構築材(左袖内側に直立)	
203-9002	203-27	平瓦	1/5	布目。布の周囲には太いひも状のかがり縫い目が見られる。側縁は幅5mm程度のヘラズリ整形で面取り。狭端縁は整形調整なし。	縄目タタキで叩く。所々に布目痕がみられる。側端縁はわずかにヘラズリ整形。狭端縁は欠失のため不明。	側面ヘラズリ(狭端→広端)整形。狭端面は未調整で、凸部に粘土のはみ出たバリが残る。	微砂粒、長石粒を含む胎土	くすんだ灰色	堅緻	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 (凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
220-9002	220-47	平瓦	破片	布目。部分的に布目はナデ消されている。側縁は幅7mm程度のヘラズリ(広端→狭端)で面取り整形。	縄目タタキで叩く。部分的にナデ消されている。側端縁はわずかにヘラズリ整形。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	灰褐色明褐色	堅緻	覆土中	
220-9010	220-48	熨斗瓦(平瓦)	1/4	割り熨斗瓦で、焼成後に縦方向、直縁状に半分割って熨斗瓦として成形。布目。側面には布のほつれが見られる。左側縁は整形調整なし。右側の割れ口部分の側縁はわずかに面取りされている。狭端縁は幅3mm程度のヘラズリで整形。	目の粗い縄目タタキで叩く。側縁、狭端縁は整形調整なし。	側面、狭端面は凸部に粘土のはみ出たバリが残り、整形調整なし。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	褐色	堅緻	カマドA期煙突の構築材(凸部を上にして伏せる)	割り熨斗瓦写真
220-9001	220-49	隅切り瓦(平瓦)	1/8	広端部分の左側面にかけて焼成前にやや角度をつけて斜めに切断して隅切り瓦とする。布目。部分的に布目はナデ消されている。側縁は幅7mm程度のヘラズリ(広端→狭端)で面取り整形。隅切り部分の側縁は整形調整なし。	目の粗いやや雑な縄目タタキで叩く。所々に布目が付着。押圧により部分的に縄目がつぶれる。側端縁はわずかにヘラズリ整形。隅切り部分の側端縁はわずかにヘラナデ調整する。	側面は凸部に粘土のはみ出たバリが見られ、ヘラズリ(広端→狭端)で整形して器面を平滑にする。隅切り部分の側面はヘラズリ(右側面→狭端面)整形し、平滑にする。		きめ細かい胎土	淡茶褐色 淡灰色	堅緻	覆土中	隅切り瓦写真
220-9010	220-50	平瓦	1/4	全体に器面の摩耗が著しい。布目。布の周囲に、太いひも状のかがり縫い目あり。布目はほとんどすり消され、痕跡程度。狭端縁は摩耗のため、整形調整不明。	目の粗い縄目タタキを縦方向、弓なりに叩く。狭端縁は部分的にわずかにヘラズリ整形。	狭端面ヘラズリ整形。		微砂粒、黒色スコリアを含む胎土	淡褐色	堅緻	カマドA期煙突の構築材(直立)	
220-9002	220-51	平瓦	破片	凹面は欠失のため整形調整は不明。	破片のため全体は不明だが、変形斜格子状タタキで叩く。狭端縁は整形調整なし。	狭端面ヘラズリ整形。		微砂粒を含む胎土	淡灰褐色	堅緻	覆土中	格子目タタキ
220-9002	220-52	隅切り瓦(平瓦)	破片	破片のため不明だが、広端部分の左側面に焼成前に浅く切り込みを入れ、隅切り瓦とする。布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。側縁は12mm程度の幅広いヘラズリ(広端→狭端)で面取り整形。隅切り部分の側縁は整形調整なし。	縄目タタキで叩く。側端縁は幅5mm程度のヘラズリ(広端→狭端)で面取り整形。隅切り部分の側端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。隅切り面は成形時のまま未調整。		微砂粒を含む胎土	淡黒灰色	堅緻	覆土中	隅切り瓦
220-9010	220-53	隅切り瓦(平瓦)	2/3	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。隅切り部分は焼成前に右側面から広端方向にかけて、約35°程度の角度で大きく切り込んで成形する。布目。部分的に布目はすり消されている。布の周囲にはかがり縫い目が見られる。右側縁は幅2～8mm程度の角度の浅いヘラズリで整形する。隅切り部分の側縁は整形調整なし。広端縁、狭端縁は整形調整なし。	目の粗い縄目タタキで斜・縦方向に叩く。側端縁は幅4mm程度のヘラズリで整形。隅切り部分の側端縁は整形調整なし。狭端縁は整形調整なし。広端縁は縁のため整形調整は不明。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。隅切り部分の側面は成形時のまま未調整。狭端面は凸部に粘土のはみ出たバリが残り、整形調整なし。広端面ヘラズリ整形。		微砂粒、長石粒を含む胎土	くすんだ茶灰色 淡茶灰色	堅緻	カマドB期の煙道の天井蓋	隅切り瓦写真
227-9001、 228-9001	227-33	丸瓦	1/3	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。側縁は幅5～10mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形。広端縁は幅4mm程度のヘラズリ(左→右)整形。	横方向のヘラナデ調整。側端縁、広端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ(狭端→広端)整形。広端面ヘラズリ整形。		微砂粒、黒色粒を含む胎土	淡黄灰色	堅緻	カマド正面床面(+23)	228号 住居の瓦と接合
227-9003	227-34	丸瓦(無段)	破片	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。側縁は幅4～6mm程度のヘラズリ(広端→狭端)整形で面取り。狭端縁は整形調整なし。	横方向のヘラナデ調整。側端縁は部分的に2mm程度のヘラナデ整形。狭端縁はわずかに幅3mm程度のヘラズリ整形で整える。	側縁は焼成前に凹面側にヘラで切り込みを入れ、割って成形。割り面は整形調整せず、割れたまま未調整。		微砂粒、黒色粒を含む胎土	淡灰褐色	堅緻	南東隅床面(+4)	割り成形
227-9010	227-35	平瓦	1/6	布目。側縁は部分的にヘラズリで整形する。狭端縁部分には指紋が付着し、整形調整なし。	目の粗い縄目タタキで叩く。所々に布目付着。側端縁、狭端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。狭端面は成形時のまま未調整。		きめ細かい胎土	淡灰色	堅緻	カマド内	縄目タタキに特徴
227-9002	227-36	平瓦	1/8	布目。布の周囲に太いひも状のかがり縫い目あり。側縁は幅8mm程度のヘラズリ(広端→狭端)で面取り整形。狭端縁は10mm程度の幅広く角度の浅いヘラズリ(右→左)で面取り整形。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁は幅5mm程度のヘラズリで面取り整形。狭端縁は整形調整なし。	側面、狭端面ヘラズリ整形。		砂粒、長石粒を多く含む胎土	淡茶灰色	堅緻	カマド北東隅床面(+5)	
228-9001	228-26	平瓦	破片	布目。布の周囲に太いひも状のかがり縫い目あり。側縁は幅7mm程度のヘラズリ(広端→狭端)整形。狭端縁は整形調整なし。	目のはっきりとした細目タタキで叩く。側端縁はヘラナデ調整。狭端部分器面が盛り上がり、整形調整なし。所々に布目付着。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。狭端面ヘラズリ整形。		微砂粒、長石粒を含む胎土	灰色 淡灰色	堅緻	覆土中	
228-9002	228-27	平瓦	1/4	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。ヘラにより布目は大部分すり消されている。左側縁は幅15mm程度のヘラズリ(狭端→広端)でぎっくりと面取り整形する。広端縁は12mm程度の幅広く角度のあるヘラズリ(右→左)で大きく面取り整形する。	目の粗い縄目タタキで、斜・縦方向に叩く。所々に布目が見られ、縄目がすり消されている。側端縁は幅9mm程度のヘラズリで大きくぎっくり面取りする。広端縁は整形調整なし。	側面は凸面の側端縁、凹面の側縁から大きく面取りされ、幅8mm程度の面のみ残る。広端面ヘラズリ(右→左)整形。		微砂粒、長石粒を含む胎土	淡褐色 (淡黒灰色)	堅緻	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 調 (明・暗)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
231-9010	231-21	平瓦	1/4	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。側 縁は幅5～8mm程度の ヘラケズリで面取り 整形。広端縁は幅6mm程 度のヘラケズリ(右→ 左)整形。	目の粗い縄目タタキで 縦方向、弓なり状に叩 く。側端縁、広端縁は整 形調整なし。	側面ヘラケズリ(広端 →狭端)整形。広端面ヘ ラケズリ(右→左)整 形。		微砂粒を含 むきめ細か い胎土	淡灰褐色	堅緻	カマド燃 焼部内 (支脚)	写真
231-9001	231-22	丸瓦 (熨斗瓦)	1/2	焼成前に中央・縦方向 にヘラで浅く切り込み を入れ、半分に割って いる広端部分は切り込 み線からはずれて割れ ている。たたらによる 粘土板の糸切り痕残 る。目の細かい布目。布 のと同じ目が見られる。 側端縁は幅4mm程度の ヘラナデ整形。狭端縁 は幅8mm程度のヘラケ ズリ(右→左)でえぐる ように整形。広端縁は ほとんど整形なし。	明瞭な横方向の筋が残 るヘラナデ調整。左側 端縁は幅3mm程度のヘ ラケズリ整形。狭端縁 は4mm程度のヘラケズ リ整形。広端縁は整形 調整なし。	側面ヘラケズリ(広端 →狭端)整形。広端面ヘ ラケズリ(右→左)整 形。狭端面は成形時の まま未調整。		微砂粒、長 石粒、黒色 粒を含むき め細かい胎 土	淡明褐色	堅緻	カマド正 面床面 (床直)	熨斗瓦? 写真
231-9010	231-23	隅切り瓦 (平瓦)	1/6	焼成前に広端部分の左 隅を切り込み、隅切り 瓦とする。たたらによ る粘土板の糸切り痕残 る。布目。布目部分は部 分的にすり消す。側縁 は整形調整なし。隅切 り部分の側縁はわずか にヘラケズリ整形。	目の粗い縄目タタキで 縦方向、弓なり状に叩 く。側端縁、隅切り部分 の側端縁は整形調整な し。	側面ヘラケズリ(狭端 →広端)整形。隅切り部 分の側面ヘラケズリ (左→右)整形。		微砂粒、長 石粒を含む 胎土	淡灰色	堅緻	カマド燃 焼部内	隅切り瓦
233-9002	233-34	丸瓦 (有段)	破片	玉縁部分。布目。狭端 縁は幅8mm程度のヘラ ズリで整形する。	横方向のヘラナデ調 整。玉縁部分狭端縁は 整形調整なし。	狭端縁ヘラケズリ整 形。		微砂粒、赤 色スコリア を含むきめ 細かい胎土	淡黄灰色	堅緻	覆土中	
233-9010	233-35	丸瓦 (無段)	1/6	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。側 縁は幅8mm程度の角度 の浅いヘラケズリ(狭 端→広端)で整形する。 狭端縁は整形調整な し。	横方向のヘラナデ調 整。側端縁は幅7mm程 度の角度の深いヘラケ ズリ(狭端→広端)で面 取り整形する。	側面ヘラケズリ(広端 →狭端)整形。狭端面は 成形時のまま未調整。		微砂粒を含 むきめ細か い胎土	淡明褐色 淡褐色	堅緻	カマド燃 焼部内 (支脚?)	
233-9002	233-36	丸瓦 (無段)	1/6	厚くしっぺした作り。 たたらによる粘土 板の糸切り痕残る。布 目。側縁は幅7mm程 度の角度の浅いヘラケ ズリ(狭端→広端)で整 形する。左側縁は整形 調整なし。狭端縁は中 央部分にヘラケズリ (右→左)でえぐるよう に整形。	横方向のヘラナデ調 整。側端縁は幅3mm程 度のヘラケズリ(狭端 →広端)でわずかに面 取り整形。狭端縁は整 形調整なし。	側面ヘラケズリ(狭端 →広端)整形。狭端面ヘ ラケズリ整形。		微砂粒、長 石粒を含む 胎土	淡黄灰色	堅緻	覆土中	
233-9011	233-37	平瓦 (隅落と し?)	1/2	焼成前に右側面から広 端方向にかけて長さ10 cm程度、浅い角度で切 り込み、隅落としてい る。器壁が厚く(4cm程 度)、重量のある平瓦。 布目。布目はほとんど すり消され、痕跡程度 に残る。布の周囲にひ も状のかかり認めら れ、側縁は摩耗のため 整形調整は不明。広端 縁は幅5mm程度のヘラ ケズリで整形する。	縄目タタキで叩く。指 の押圧等により縄目が すり消されている。布 目、指頭圧痕が所々に 残る。左側端縁は狭端 から広端にかけて 8～20mmの幅で大きく ヘラケズリ(広端→狭 端)で面取り整形する。 隅切り部分の側端縁は 幅19mm程度の角度の あるヘラケズリ(広端 →狭端)で大きく面取 り整形する。広端縁、狭 端縁は整形調整なし。	側面ヘラケズリ(狭端 →広端)整形。隅切り部 分の側面ヘラケズリ整 形。広端面ヘラケズリ (右→左)整形。狭端面 ヘラケズリ整形。		微砂粒、長 石粒を含む 胎土	灰色	堅緻	カマド煙 道の天井 部蓋	隅切り瓦 写真
233-9001	233-38	平瓦	3/10	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。布目。布 の周囲にはひも状のか かり認められ、側縁 は幅8mm程度のヘラ ケズリ(狭端→広端) で整形。狭端縁は成形 時のまま未調整。	目の粗い縄目タタキで 縦・斜方向とやや乱雑 に叩く。部分的に縄目 はヘラナデ消されてい る。側縁は幅6mm程 度のヘラケズリ(狭端 →広端)で面取り整形。 狭端縁は整形調整なし。	側面ヘラケズリ(狭端 →広端)整形。狭端面ヘ ラケズリ(左→右)整 形。		小石粒を含 むきめ細か い胎土	くすんだ 淡灰色	堅緻	カマド右 正面床面 (+13)	
233-9002	233-39	平瓦	破片	布目。	目の粗く深い縄目タ タキで叩く。	矢欠のため整形調整 は不明。		微砂粒を含 むきめ細か い胎土	淡灰褐色	堅緻	覆土中	
234-9001	234-6	丸瓦	破片	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。側縁は 幅14mm程度の角度の 浅いヘラケズリ(狭端 →広端)で整形。狭端 縁は幅8mm程度のヘ ラケズリで整形。広端 縁は整形調整なし。	横方向のヘラナデ調 整。側端縁は幅3mm程 度のヘラケズリ(広端 →狭端)でわずかに面 取り整形する。	側面ヘラケズリ(広端 →狭端)整形。広端面ヘ ラケズリ整形。		微砂粒、長 石粒を含む 胎土	明褐色	堅緻		
400-9001	400-15	丸瓦 (有段)	破片	筒部片。布目。側縁は 整形調整なし。	横方向のヘラナデ調 整。側端縁は整形調整 なし。	側面ヘラケズリ(広端 →玉縁)整形。筒部狭 端面は横ナデ調整。		微砂粒、長 石粒を含む 胎土	明褐色 くすんだ 明褐色	堅緻	遺構が特 定できな いため出 土位置不 明	
400-9001	400-16	平瓦	1/6	布目。布の周囲に太い ひも状のかかり認め られ、側縁は摩耗が著 しいため整形調整は不 明。	目の細かい縄目叩きで 丁寧に叩く。側端はヘ ラナデ調整。	側面ヘラケズリ整形。		微砂粒を含 むきめ細か い胎土	淡明灰褐 色	堅緻	遺構が特 定できな いため出 土位置不 明	
400-9001	400-17	平瓦	破片	目の細かい布目。側縁 は幅8mm程度の角度の 浅いヘラケズリ(狭端 →広端)で整形。狭端 縁は部分的に幅4mm程 度のヘラケズリで整形。 全体的に摩耗している ため不明瞭。布目。ひも 状のかかり認められ 、側縁は幅3～5mm程 度のヘラケズリで面取 り整形。	目の整った縄目タタキ で丁寧に叩く。側端縁 は幅5mm程度のヘラケ ズリ整形。狭端縁はわ ずかにヘラケズリで整 形。	側面ヘラケズリ(狭端 →広端)整形。狭端面ヘ ラケズリ整形。		赤色スコリ アを含むき め細かい胎 土	淡灰色 淡茶灰色	堅緻	遺構が特 定できな いため出 土位置不 明	
400-9001	400-18	平瓦	破片	全体的に摩耗している ため不明瞭。布目。ひも 状のかかり認められ 、側縁は幅3～5mm程 度のヘラケズリで面取 り整形。	縄目タタキで斜方向に 叩く。側端縁は幅8mm 程度のヘラケズリで整 形。	側面は中央がくぼみ、 両端をヘラケズリ整 形。		赤色スコリ アを含むき め細かい胎 土	明灰褐色	やや甘い	遺構が特 定できな いため出 土位置不 明	
400-9001	400-19	平瓦	1/5	たたらによる粘土板の 糸切り痕残る。側縁は 幅7mm程度のヘラケ ズリで面取り整形。広 端縁は幅6mm程度のヘ ラケズリ(右→左)で面 取り整形。	目の粗い縄目タタキ で、縦方向、弓なり状 に叩く。ヘラナデによ り縄目は部分的にすり 消される。側端縁は幅 8mm程度のヘラケズリ (広端→狭端)で面取 り整形する。布目付着。 広端縁は整形調整なし。	側面はヘラケズリ(広 端→狭端)整形後、布目 が付着。広端面ヘラケ ズリ(左→右)整形。		長石粒を含 むきめ細か い胎土	淡茶灰色	堅緻	遺構が特 定できな いため出 土位置不 明	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 (調・調 凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
401-9001	401-10	丸瓦	破片	布目。	ヘラナデ。	広端面ヘラズリ。		微砂粒、長石粒を含む胎土	淡茶灰褐色	堅緻	覆土中	
002-1206-9001	402-8	平瓦	破片	布目。側縁は整形調整なし。	目の粗い、はっきりとした縄目タタキで叩く。側端縁はわずかにヘラズリ整形。	側面ヘラナデ調整。		微砂粒、長石粒を含む胎土	淡褐色	堅緻	覆土中	
002-1206-9001	402-9	丸瓦	破片	布目。側縁、狭・広端縁は欠失のため整形調整不明。	横方向のヘラナデ調整。側端縁、狭・広端縁は欠失のため整形調整不明。	側面、狭・広端面ヘラズリ整形。狭端面は欠失のため整形調整不明。		微砂粒、黒色粒を含む胎土	淡褐色 淡明褐色	堅緻	覆土中	
002-1207-9001	403-10	平瓦	1/5	布目。布の周囲にひも状のかがり縋い目あり。側縁は12mm程度の幅広いヘラズリで大きく面取り整形。狭端縁は幅6mm程度のヘラズリ(右→左)で整形。	縄目タタキで縦方向、弓なり状に叩く。側端縁、狭端縁は整形調整なし。	側面、狭端面ヘラズリ。		微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色 明褐色	堅緻	覆土中	
002-1207-9001	403-11	平瓦	破片	目の細かい布目。側縁、狭・広端縁は欠失のため整形調整は不明。	目の粗く深い縄目タタキで叩く。	側面、狭端面、広端面は欠失のため整形調整不明。		赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡明褐色 淡褐色	堅緻	覆土中	
002-1207-9001	403-12	平瓦	破片	たたらによる粘土板の糸切り痕が明確に残る。布目。側縁は幅7mm程度のヘラズリで面取り整形。	縄目タタキで叩く。側端縁は幅10mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形。	側面ヘラズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡灰色	堅緻	覆土中	
002-1207-9001	403-13	平瓦	破片	布目。側縁は11mm程度の幅広く角度の急なヘラズリで面取り整形。側縁部分に布目付着。広端縁は整形調整なし。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁、広端縁は整形調整なし。	側面は成形時のまま未調整。広端面ヘラズリ整形。		微砂粒、長石粒を含む胎土	淡茶灰色	堅緻	覆土中	
002-1210-9001	404-30	丸瓦	破片	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。側縁は整形調整なし。	横方向のヘラナデ調整。側端縁はヘラナデ調整。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。		赤色スコリアを含むきめ細かい胎土	淡黄褐色	堅緻	覆土中	
002-1210-9001	404-31	平瓦	破片	摩耗が著しいため不明瞭だが布目痕残る。	目の大きい変則な斜格子目タタキで叩く。	欠失のため不明。		微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡黄褐色	堅緻	覆土中	斜格子目 タタキ 写真
002-1210-9001	404-32	平瓦	破片	布目。布の周囲にかがり縋い目あり。側縁は幅4mm程度のヘラズリで面取り整形。	目の細かい縄目タタキで叩く。側端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	明褐色	堅緻	覆土中	
002-1210-9001	404-33	平瓦	破片	摩耗のため不明瞭だが、布目、かがり縋い目の痕跡残る。側縁は幅8mm程度のヘラズリで整形する。広端縁は整形調整不明。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁は幅8mm程度のヘラズリ(広端→狭端)で面取り整形。側端縁は幅7～9mm程度のヘラズリで面取り整形。	側面、広端面ヘラズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡灰褐色	堅緻	覆土中	
002-1211-9001	405-13	平瓦	1/8	目の細かい布目。布目は部分的にナデ消されている。太いひも状のかがり縋い目あり。側縁、広端縁は整形調整なし。	目の粗く深い縄目タタキで叩く。側端縁はわずかにヘラズリ整形。広端縁は幅3mm程度のヘラズリで整形。	側面ヘラズリ(狭端→広端)整形。広端面ヘラズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	くすんだ 茶灰色	堅緻	覆土中	
002-1211-9001	405-14	平瓦	破片	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。側縁、狭・広端縁は欠失のため整形調整は不明。	縄目タタキで叩く。	側面、狭・広端面は欠失のため整形調整は不明。		微砂粒、長石粒、黒色粒を含む胎土	明褐色	堅緻	覆土中	
002-1212-9001	406-8	丸瓦	破片	布目。側縁は8～10mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形。広端縁は整形調整なし。	器面の剥離、荒れが著しい。横方向のヘラナデ調整。側端縁は幅8mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形。	側面、広端面ヘラズリ整形。		微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡明褐色 明褐色	堅緻	覆土中	
002-1212-9001	406-9	丸瓦	破片	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。布の周囲にひも状のかがり縋い目あり。広端縁は整形調整なし。	横方向のヘラナデ調整。側端縁は18mm程度の幅広く角度の浅いヘラズリで整形する。	広端面は成形時のまま未調整。凸部に粘土のはみ出たバリが見られ、整形調整なし。		微砂粒、長石粒を含む胎土	淡黄灰色 淡茶灰色	堅緻	覆土中	
002-1212-9003	406-10	平瓦	1/8	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。広端縁はヘラナデ調整。	縄目タタキで斜方向に叩く。広端縁は幅7mm程度のヘラズリ(右→左)で面取り整形。	広端面ヘラズリ整形。		砂粒、長石粒を多く含む胎土	灰色 淡茶灰色	堅緻	覆土中	
002-1212-9001	406-11	平瓦	破片	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。側縁は幅7mm程度のヘラズリで面取り整形。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ整形。		微砂粒、長石粒を含む胎土	淡灰色 淡茶灰色	堅緻	覆土中	
002-1212-9001	406-12	平瓦	破片	布目。布の周囲にかがり縋い目あり。側縁はヘラナデ調整。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡明褐色 淡明灰褐色	堅緻	覆土中	
504-9002	504-1	丸瓦 (有段)	1/5	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。側縁は整形調整なし。	器面が剥離、荒れているため整形調整は不明。側端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ(狭端→広端)整形。		微砂粒を含む胎土	淡明褐色	堅緻	柱穴内	
506-9002	506-4	丸瓦 (無段)	破片	布目。側縁、狭端縁は成形時のまま未調整。	横方向のヘラナデ調整。側端縁は整形調整なし。狭端縁はわずかにヘラズリ整形。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。狭端縁ヘラズリ整形。		微砂粒、黒色粒を含む胎土	淡黒灰色 淡灰色	堅緻	柱穴内	
506-9002	506-5	丸瓦 (無段)	破片	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。左側縁部分は布目をヘラでナデ消す。側縁は摩耗のため整形調整不明。狭端縁は成形時のまま未調整。	横方向のヘラナデ調整。側端縁は整形時のまま未調整。狭端縁はわずかにヘラズリ整形。	側面ヘラナデ調整。狭端面は整形調整なし。		微砂粒、長石粒を含む胎土	淡茶灰色 淡黒灰色	堅緻	柱穴内	
506-9001	506-6	丸瓦 (無段)	破片	布目。側縁はわずかにヘラズリ整形。狭端縁は2mm程度のヘラズリ整形。	ヘラナデ調整。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。狭端面は成形時のまま未調整。		微砂粒、黒色粒を含む胎土	淡茶灰色 淡灰色	堅緻	柱穴内	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 調 (凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
506-9001	506-7	丸瓦	破片	布目。側縁は幅4mm程度のヘラズリで面取り整形。広端縁は整形調整なし。	横方向のヘラナデ調整。側端縁は幅2mm程度のヘラズリ整形。広端縁は整形調整なし。	側面ヘラナデ調整。広端面は成形時のまま未調整。		きめ細かい胎土	淡黒灰色	堅緻	柱穴内	
506-9001	506-8	平瓦	1/5	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。側縁は幅3～5mm程度のヘラズリ(広端→狭端)で面取り整形。広端縁は幅8mm程度のヘラズリ(右→左)を2段にわたり、きれいに面取り整形。	目の粗い縄目タタキで斜方向に叩く。所々に布目が付着し、縄目をナデ消されている。側端縁は整形調整なし。広端縁は幅6～10mm程度のヘラズリで面取り整形。	側面は中央がくぼみ、両端をヘラズリ(狭端→広端)整形。広端面ヘラズリ(左→右)整形。		きめ細かい胎土	淡灰色 明褐色	堅緻	柱穴内	写真
506-9001	506-9	平瓦	破片	やや目の粗い布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。側縁は10mm程度の幅広く角度の急なヘラズリ(狭端→広端)で大きく面取り整形。	縄目叩き。側端縁は幅8mm程度のヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形。	側面ヘラズリ整形。		きめ細かい胎土	淡黒灰色	堅緻	柱穴内	
506-9001	506-10	平瓦	1/6	布目。布の周囲に太いひも状のかがり縫い目あり。側縁は幅4～6mm程度のヘラナデで浅く整形。狭端縁はヘラナデ調整。	目の細かい縄目タタキで丁寧に叩く。タタキ板の幅23mm程度。側端縁は幅5mm程度のヘラズリ整形。狭端縁は幅3mm程度のヘラズリ整形。	側面ヘラズリ(狭端→広端)整形。狭端面ヘラズリ整形。		きめ細かい胎土	灰色	堅緻	柱穴内	タタキ板の幅が分かる
506-9001	506-11	平瓦	1/8	目の細かい布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。布目はほとんどすり消されている。側縁は幅3mm程度のヘラズリ整形。広端縁は整形調整なし。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁は10～14mmの幅広く角度の急なヘラズリ(広端→狭端)で大きく面取り整形。広端縁は整形調整なし。	側面は凸部から大きく面取り整形され幅が狭く、狭端から広端へのヘラズリ整形。広端面は成形時のまま未調整。		きめ細かい胎土	淡黄灰色	堅緻	柱穴内	
506-9001	506-12	平瓦	破片	布目。	やや目の粗い縄目タタキで縦・斜方向に叩く。部分的にすり消されている。	欠失のため整形調整は不明。		微砂粒を多く含む胎土	淡黄灰色 淡灰色	堅緻	柱穴内	
506-9001	506-13	平瓦	破片	布目。側縁はわずかにヘラズリ整形。狭端縁は幅6mm程度のヘラズリ(右→左)で面取り整形。	目の粗い縄目タタキで叩く。側端縁は整形調整なし。狭端縁は幅3mm程度のヘラズリ整形。	側面、狭端面はヘラナデ調整。		微砂粒を多く含む胎土	淡褐色 淡灰褐色	堅緻	柱穴内	
506-9001	506-14	平瓦	破片	布目は痕跡程度で大方すり消されている。布の周囲にかがり縫い目、布のほつれが見られる。側縁は摩耗のため整形調整は不明。	目のやや粗い縄目タタキで叩く。側端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ整形。		微砂粒、長石粒を含む胎土	淡茶灰色	堅緻	柱穴内	
506-9001	506-15	平瓦	1/8	器面の剥離、荒れが著しい。布目。布目はほとんどすり消されている。側縁は幅7mm程度のヘラズリで面取り整形。	縄目タタキで叩く。側端縁はわずかにヘラズリ整形。	側面ヘラナデ調整。		微砂粒、黒色粒を含む胎土	淡黄褐色 淡黄灰色	堅緻	柱穴内	
506-9001	506-16	平瓦	破片	目の細かい布目。側縁は整形調整なし。狭端縁は幅6mm程度のヘラズリ(左→右)で面取り整形。	目の深い縄目タタキで叩く。側端縁は13mm程度の幅広く角度の急なヘラズリ(広端→狭端)で大きく面取り整形する。狭端縁は整形調整なし。	側面は凸部の面取り整形で1/3程度しか見られない。ヘラズリ(狭端→広端)整形。狭端面ヘラズリ整形。		微砂粒を含む胎土	淡茶灰色	堅緻	柱穴内	
506-9001	506-17	平瓦	1/5	布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目、布のほつれが見られる。側縁は幅6mm程度のヘラズリ(広端→狭端)で面取り整形。	目の粗く深い縄目タタキで叩く。側端縁、広端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。広端面ヘラズリ整形。		微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡黄褐色	堅緻	柱穴内	目の粗い縄目 写真
506-9001	506-18	平瓦	破片	布目。布のほつれが見られる。	目の粗い縄目タタキで叩く。	側面、端面は欠失のため不明。		微砂粒、小石粒を含む胎土	淡黄灰色	堅緻	柱穴内	
506-9001	506-19	平瓦	破片	布目。側縁は整形調整なし。	縄目タタキで叩く。側端縁は幅5mm程度のヘラズリで面取り整形。	側面ヘラズリ整形。		微砂粒、黒色粒を含む胎土	淡灰色 淡黄灰色	堅緻	柱穴内	
506-9001	506-20	平瓦	破片	目の細かい布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目、布のほつれが見られる。側縁は幅7mm程度のヘラズリで面取り整形。広端縁は10mm程度の角度の浅いヘラズリでそぐようにヘラズリ整形。	目の粗く深い縄目タタキで叩く。側端縁はわずかにヘラズリ整形。広端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ整形。広端面ヘラズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡明褐色 淡灰褐色	堅緻	柱穴内	目の粗い縄目
506-9001	506-21	平瓦	破片	目の細かい布目。	格子目(8mm×5mm)タタキでやや乱雑に叩く。	欠失のため整形調整は不明。		微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡黄灰色	堅緻	柱穴内	格子目タタキ 写真
000-9001	遺構外-15	軒丸瓦	破片	横方向のヘラズリ整形。	欠失のため不明。		重圓及び葉部分の一部残る。	微砂粒を含むきめ細かい胎土		堅緻	表探	
000-9001	遺構外-16	軒平瓦	破片	布目。瓦当部分から幅30mm程度の横方向のヘラズリ(左→右)で布目を削り取るように整形。側縁は現状で幅8mm程度のヘラズリ(狭端→瓦当)で面取り整形。	平瓦部分から瓦当部分方向にかけて縦ヘラズリ(瓦当→狭端)で整形し、曲線頸に仕上げる。側端縁は整形調整なし。	側面ヘラズリ(狭端→瓦当)整形。	重圓文。頸先端は瓦当面に対して直角に近い角度で幅17mm程度の横ヘラズリ(右→左)で面取り整形を行う。曲線頸とは鈍角的に突る。	きめ細かい胎土	灰色	硬質	表探	重圓文軒平瓦 写真
000-9001	遺構外-17	丸瓦(無段)	1/3	たたらによる粘土板の糸切り痕が明瞭に残る。目の粗い布目。側縁は8mm程度の幅広いヘラズリ(狭端→広端)で面取り整形。	器面の剥離が著しいが、横方向のヘラナデ調整。側端縁は幅4mm程度のヘラズリ整形。	側面ヘラズリ整形。		きめ細かい胎土	淡明褐色 明褐色	堅緻	表探	
000-9001	遺構外-18	丸瓦	破片	31mm程度の器壁の厚みがある丸瓦。布目。広端部分に太いひも状のかがり縫い目あり。側縁は幅11mm程度のヘラズリ(広端→狭端)で大きく面取り整形。広端部分幅広くヘラズリ整形。	横方向のヘラナデ調整。側端縁は鋭角的で整形調整なし。広端部分欠失のため整形調整は不明。	側面ヘラズリ(広端→狭端)整形。広端面ヘラズリ整形。		微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡黄灰色	堅緻	表探	

遺物注記 番号	遺物番号	種 別	遺存度	各 部 位 の 特 徴				胎 土	色 調 (凹・凸)	焼 成	出土位置 (cm)	備 考
				凹 面	凸 面	側面・端面	瓦当部					
000-9001	遺構外 -19	丸瓦	破片	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。側縁は鋭角的で、整形調整なし。	横方向のヘラナデ調整。側端縁は幅5mm程度のヘラケズリ整形。	側面ヘラケズリ整形。		赤色スコリアを含む細かい胎土	淡黄灰色	堅緻	表採	
000-9001	遺構外 -20	丸瓦 (有段)	1/5	玉縁の箇所。たたらによる粘土板の糸切り痕残る。布目。側縁は整形調整なし。	横方向の明瞭な筋が残るヘラナデ調整。側端縁は幅10mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で面取り整形。箇所狭端縁は整形調整なし。	側面ヘラナデ調整。箇所狭端面ヘラナデ調整。		微砂粒、黒色粒を含む胎土	淡黄灰色	堅緻	表採	
000-9001	遺構外 -21	平瓦	破片	たたらによる粘土板の糸切り痕残る。粘土板の継ぎ目が見られる。布目。布目はほとんどすり消されている。側縁は幅5mm程度の浅いヘラケズリで整形。	目の粗い細目タタキで叩く。細目は所々すり消す。側端縁は整形調整なし。	側面ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡褐色	堅緻	表採	
000-9001	遺構外 -22	平瓦	1/4	布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。側縁、広端縁は整形調整なし。	目の粗い細目タタキで縦方向、弓なり状に叩く。所々に布目付着。側端縁は整形調整なし。広端縁は部分的にヘラケズリ整形。	側面は凸部に粘土のはみ出たバリが見られるが、ヘラケズリでそぎ落としている。広端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡黄褐色	堅緻	表採	
000-9001	遺構外 -23	平瓦	3/5	目の細かい布目。布の周囲にかがり縫い目あり。側縁はわずかにヘラケズリ整形。広端縁は幅5～8mm程度のヘラケズリで面取り整形。	目の細かい細目タタキで叩く。左側端縁は12～15mm程度の幅広く角度のあるヘラケズリ(狭端→広端)で大きく面取り整形。右側端縁は側面側をヘラケズリ整形。広端縁は幅6mm程度のヘラケズリで浅く面取り整形する。	側面ヘラケズリ整形。広端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡黄褐色 淡明褐色	堅緻	表採	写真
000-9001	遺構外 -24	平瓦	1/4	布目。布目は部分的にヘラですり消されている。側縁は欠失のため整形調整不明。広端部分ヘラナデ。広端縁は整形調整なし。	目の粗く深い細目タタキで縦方向、弓なり状に叩く。所々に布目が付着。側端縁は幅8mm程度のヘラケズリで面取り整形。広端縁は整形調整なし。	側面ヘラケズリ整形。広端面はヘラケズリ(左→右)整形。成形時のままで布目が付着。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡褐色	堅緻	表採	
000-9001	遺構外 -25	平瓦	2/5	布目。側縁、広端縁は幅8mm程度で浅くヘラケズリ整形。狭端縁は整形調整不明。	目の細かい細目タタキで叩く。側端縁は整形調整なし。広端縁は幅10mm程度のヘラケズリでぎっくりと面取り整形する。狭端縁は整形調整不明。	側面、広端面ヘラケズリ整形。狭端面は整形調整不明。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡明褐色 淡灰褐色	堅緻	表採	
000-9001	遺構外 -26	平瓦	1/6	器肉の厚い平瓦。布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目。布のぼつれあり。側縁は幅8mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で面取り整形。広端縁は幅6mm程度のヘラケズリ(右→左)で面取り整形。	目の細かい細目タタキで叩く。部分的に布目すり消す。側端縁は角が整うが整形調整なし。広端縁は幅6mm程度のヘラケズリ整形で面取り。	側面はきれいな平滑面でヘラケズリ(狭端→広端)整形する。広端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、黒色粒を含む胎土	くすんだ褐色 淡褐色	堅緻	表採	
000-9001	遺構外 -27	平瓦	1/6	布目。布の周囲にかがり縫い目あり。側縁は幅10mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で面取り整形。	細目タタキで叩く。側端縁は不明瞭ながらヘラケズリ整形で面取り。	側面ヘラケズリ整形。		きめ細かい胎土	淡明褐色 淡黒灰色	堅緻	表採	
000-9001	遺構外 -28	平瓦	1/8	目の細かい布目。布の周囲にひも状のかがり縫い目あり。布目は所々すり消されている。側縁はわずかにヘラケズリ整形。広端縁は部分的にヘラケズリ整形。	目の粗い細目タタキで叩く。側端縁、広端縁は整形調整なし。	側面は凸部に粘土のはみ出たバリが残り、面をヘラナデ調整する。広端面は成形時のまま未調整。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡褐色 淡明褐色	堅緻	表採	
000-9001	遺構外 -29	平瓦	1/7	布目。布の周囲にかがり縫い目あり。布目は部分的にナデ消す。側縁は6mm程度のヘラケズリ(狭端→広端)で浅く面取り整形。狭端縁は整形調整なし。	目の粗く深い細目タタキで縦方向、弓なり状に叩く。側端縁は幅3mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で整形。狭端縁は整形調整なし。	側面ヘラケズリ(広端→狭端)整形。狭端面は成形時のまま未調整。		微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡灰色 淡茶灰色	堅緻	表採	
000-9001	遺構外 -30	平瓦	1/8	布目。布の周囲にかがり縫い目あり。布目が見られない広端部分は6cm程度の幅が見られ、ナデ調整を施す。	目の粗いやや稚な細目タタキで斜方向に叩く。広端縁は15mm程度で幅広く角度のあるヘラケズリ(右→左)で整形。	広端面は成形時のまま未調整。側面は欠失のため整形調整なし。		微砂粒、黒色粒を含む胎土	くすんだ褐色 淡明褐色	堅緻	表採	
000-9001	遺構外 -31	平瓦	1/8	布目。布の周囲にかがり縫い目あり。布目はほとんどナデ消す。狭端縁は成形時のまま未調整。	細目タタキで叩く。側端縁は7mm程度のヘラケズリで浅く整形。	狭端面ヘラケズリ整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	淡褐色	堅緻	表採	
000-9001	遺構外 -32	平瓦	破片	丁寧な作り。布目。側縁は幅9mm程度のヘラケズリ(広端→狭端)で面取り整形。	目の粗い細目タタキで叩く。所々に布目付着。側端縁は11mm程度の角度の浅いヘラケズリ(広端→狭端)で整形。乳白色の自然釉付着。	側面ヘラケズリ(広端→狭端)整形。		きめ細かい胎土	淡黒灰色	硬質	表採	
000-9001	遺構外 -33	平瓦	破片	布目。側縁は幅7mm程度のヘラケズリで面取り整形。	平行四辺形格子目(17mm×15mm)で叩く。側端縁は幅3mm程度のヘラケズリで整形。	側面ヘラケズリ(広端→狭端)整形。		微砂粒、赤色スコリアを含む胎土	明褐色	堅緻	表採	平行四辺形格子目タタキ写真
000-9001	遺構外 -34	平瓦	破片	全体的に摩耗しているため不明瞭だが、布目。側縁は整形調整不明。	格子目(10mm×8mm)タタキで叩く。	側面、狭・広端面欠失のため、整形調整不明。		微砂粒を含むきめ細かい胎土	淡灰色 淡灰褐色	堅緻	表採	格子目タタキ写真

第21表 金属製品観察表

遺物注記 番号	遺物番号	遺構番号	製品種別	遺存度	計測値(mm)			重量 (g)	材質	特 徴	出土位置 (cm)	備 考
					全 長	幅	厚					
001B-3002	1-9	1号住居跡	刀子	2/5	62	刃部12 茎8	刃部3 茎3	5.7	鉄	刀部および茎の残欠。間は棟間。茎部分は刀部から観ると内側に傾く。	南側床面(+5)	
001B-3001	1-10	1号住居跡	用途不明 鉄製品	不明	45	31	1	4.9	鉄	厚さが1mm程度の鉄板状製品。鎌の一部か？	中央東側床面 (+5)	
002-3002	2-9	2号住居跡	鎌	破片	62	39	3	27.1	鉄	鉄鎌の基端部分。基端部は上方に垂直に立ち上って折り返している。	西側壁際の床面 (床直)	
004-3001	4-13	4号住居跡	鎌	3/5	132	36	2	60.4	鉄	比較的大型の鉄鎌。錆が進み、ぼろぼろで芯部分は残っていない。基端部は上方に折り返している。	中央西側の床面 (床直)	
005-3001	5-27	5号住居跡	釘	4/5	75	7	7	18.1	鉄	錆が進み剥離が著しいため、復元実測。	中央東側の床面 (床直)	
005-3001	5-28	5号住居跡	釘	ほぼ完形	79	皿部15 幹部9	皿部18 幹部10	28.1	鉄	断面方形。皿部と幹部は別に造られていると思われる。先端に向かってそり気味。皿部はやや縦長方形状。	中央東側の床面 (床直)	
008-3001	8-17	8号住居跡	釘	4/5	72	皿部11.5 幹部5	皿部3.5 幹部4.5	-	鉄	断面長方形状。折り返して皿部を造っている。先端部欠損。	覆土中	遺物 行方不明
012-3001	12-7	12号住居跡	鎌	破片	32	20	2	4.9	鉄	刃の基部に近い部分。基部が欠失しているため、折り返しがあるか不明。	覆土中	
012-3001	12-8	12号住居跡	刀子	ほぼ完形	13.5	刀部9 茎8	刀部4 茎3	11.3	鉄	刀部は直線的に延びる。間は棟および刃の両側。茎の先端部に木質が残る。	覆土中	
013-3001	13-4	13号住居跡	鎌	破片	104	5	5	9.1	鉄	鉄鎌の茎部分。断面は正形状。先端部は丸みを持つが尖る。	西側壁際の周溝内	
015-3001	15-9	15号住居跡	刀子	3/5	8.7	刃部10 茎8	刃部4 茎3.5	8.7	鉄	棟部分に間。	カマド右脇の床面 (+8)	
016-3001	16-21	16号住居跡	紡錘車	紡輪部 1/2	23	紡輪 径38	3	11.3	鉄	紡輪部分に軸部が残っている。軸部径2mm。	北西隅の床面 (+16)	
035-3002	35-23	35号住居跡	刀子	ほぼ完形	165	刃部15 茎9	刃部3.5 茎3.5	26.5	鉄	大形の刀子。切先部分一部欠損。間は両側。茎部分の先端には木質が残る。	南側床面(床直)	
035-3001	35-24	35号住居跡	鎌	3/5	62	5 刃部7	5 刃部3	4.6	鉄	長頸片刃箭鎌。刃間がなく、そのまま茎に続くタイプ。	北西隅の床面 (床直)	
036-3001	36-19	36号住居跡	紡錘車	紡輪部 3/4	63	紡輪径 51	4	21.1	鉄	紡輪および軸を装着した状態。比較的輪部の厚みがある。軸部は断面やや角張った円形状(径4mm)。	西側床面(床直)	
036-3001	36-20	36号住居跡	紡錘車 (軸)	軸部 ほぼ完形	230	径3	-	13.0	鉄	軸部分。断面は楕円形。先端部やや尖っている。	西側床面(床直)	
039-3003	39-10	39号住居跡	摘鎌	ほぼ完形	93	20	2	11.1	鉄	片方の端部がわずかに欠失するが、ほぼ完形。両端部はやや角張る。先端部分の欠失した釘が、両側に残されている(釘断面は円形、径2mm)。刃部はかなり使用されたと思われる、中央に向かって両側から内彎している。	中央西側の床面 (床直)	
039-3004	39-11	39号住居跡	摘鎌	3/5	58	18	2	6.4	鉄	長さは不明。断面は錆のため中空になっている。中央部分に径2mm程度の小孔が見られる。	中央西側の床面 (床直)	
039-3001	39-12	39号住居跡	鎌	1/5	66	37	4	38.4	鉄	鉄鎌の基端部分。基端部は上方に垂直に立ち上って折り返している。	西側壁際の床面 (床直)	
039-3002	39-13	39号住居跡	釘	破片	現状85	皿部25 幹部12	皿部24 幹部12	53.8	鉄	錆が進み、剥離が著しく、芯の部分の残存。かろうじて全体の形状が残っている。頭はかなり大きい皿状で厚みは4mm程度。幹部は断面方形状で、先端で先細る。	西側壁際の床面 (+2)	
040-3003	40-45	40号住居跡	鎌	鎌身部1/1 筧被1/1 茎部残欠	現状87 鎌身部32 筧被28 茎部27+	鎌身部34 筧被7~9.5 茎部3.5	鎌身部4.1 筧被3~4.9 茎部3.2	15.9	鉄	短頸筧被両丸造り正三角形鎌。現状では錆化が著しく原形をとどめていない。茎部分一部欠。胴袂は直線的で、逆轉はほとんどみられない。	中央西側の床面 (床直)	
040-3002	40-46	40号住居跡	鎌	鎌身部1/1 筧被1/1 茎部残欠	現状69 鎌身部26 筧被26.5 茎部16.5+	鎌身部24 筧被6~9.3 茎部5.5	鎌身部3.4 筧被3.5~4 茎部3.5	11.1	鉄	短頸筧被両丸造り三角形鎌。胴袂は直線的で、逆轉はほとんどみられない。	中央西側の床面 (+9)	
040-3005	40-47	40号住居跡	鎌	鎌身部1/1 筧被1/1 茎部残欠	現状84 鎌身部37 筧被40.5 茎部6.5+	鎌身部25 筧被7.8~10.5 茎部5.5	鎌身部4.0 筧被4~5 茎部4.8	23.1	鉄	長頸筧被両丸造り三角形鎌。胴袂は二段状で、先端部でわずかに逆轉がみられる。	中央西側の床面 (+5)	
040-3006	40-48	40号住居跡	鎌	鎌身部9/10 筧被1/1 茎部残欠	現状109 鎌身部14.5 筧被42.5 茎部52+	鎌身部40.5 筧被7~9 茎部3.5 (木質含む7.9)	鎌身部3.7 筧被3.5~4.3 茎部2.9	15.6	鉄	長頸筧被両丸造り三角形(飛燕式)鎌。現状では剥離が著しく原形をとどめていない。茎部に木質が残る。胴袂は直線的で細く長く延び、逆轉はみられる。	カマド左正面の 床面(+5)	

遺物注記 番号	遺物番号	遺構番号	製品種別	遺存度	計測値(mm)			重量 (g)	材質	特 徴	出土位置 (cm)	備 考
					全 長	幅	厚					
040-3004	40-49	40号住居跡	鏃	鏃身部1/1 鏃被1/1 茎部残欠	現状97 鏃身部20.5 鏃被42 茎部34.5+	鏃身部37 鏃被7.4~8 茎部3.1 (木質含む7.0)	鏃身部3.0 鏃被3~3.5 茎部3.0	15.2	鉄	長類鏃被両丸造り三角形鏃。 茎部に木質が残る。 鰭状は直線的で逆鰭はわずかにみられる。	中央西側の床面 (+23)	
040-3001	40-50	40号住居跡	鏃	不明	68	5	6	4.2	鉄	茎部分か？	中央西側の床面 (+20)	
040-3013	40-51	40号住居跡	鏃？	破片	58	4	5	4.0	鉄	茎部分か？2本以上まとまっていたが、ほかは実測不能。断面は縦長の方形。やや反っている。	東側床面(+16)	
040-3014	40-52	40号住居跡	鏃	2/5	91	21	2	16.2	鉄	基端部は折り返していない。やや彎曲する。	中央東側の床面 (+6)	
040-3007	40-53	40号住居跡	摘鏃	完形	108	19	3	11.9	鉄	両端は丸くおさめられている。先端部の欠失した釘が、両側に残されている(断面は方形、一辺2~3mm)。刃部はかなり使用されたと思われる。中央に向かって両側から内湾している。	南側床面 (+5)	
040-3015	40-54	40号住居跡	刀子	2/5	52	刃部12 茎8	刃部4.5 茎4	6.1	鉄	刀子の茎および刀子の基部。表面の剥離が著しく芯の部分が残っているのみ。棟間。	北東床面のピット内	
040-3010	40-55	40号住居跡	釘	3/5	65	皿部17 幹部9	皿部17 幹部11	15	鉄	錆化が進み、表面の剥離が著しい。頭部は正方形の皿状(厚み4mm)。先端部は欠失のため不明。	東側壁際の床面 (+5)	
040-3011	40-56	40号住居跡	釘	4/5	97	8	10	20.0	鉄	錆化が進み、表面の剥離が著しい。頭部は折頭式である。先端部はややそり気味。	東側壁際の周溝内	
040-3012	40-57	40号住居跡	斧	3/5	72	34	18 (肉厚3)	60.9	鉄	有袋式無肩鉄斧。錆が進み剥離が著しい。刃部の角度は欠失のため不明。	東側壁際の周溝内	
041-3001	41-11	41号住居跡	刀子	3/5	67	刃部10	刃部3	5.4	鉄	刀身の中心から切先方向部分。切先は欠失。棟は直線的。	南側床面 (床直)	
041-3001	41-12	41号住居跡	刀子	2/5	71	刃部14 茎10	刃部4 茎3.5	8.4	鉄	刀身の基部および茎部分。両部分に貴金属を1/2程度残す。(はばきの幅3mm、厚さ1mm)。刃は刃部にあるものと思われる。	南側床面 (床直)	
041-3002	41-13	41号住居跡	紡錘車	紡輪部 先形	径42	-	3	13	鉄	紡錘車の紡輪部分。軸は欠失。軸径4mm。	西側床面(床直)	
043-3002	43-13	43号住居跡	釘	1/3	44	6	4	4.0	鉄	先端部、頭部欠失。断面方形。棟は直線的。刃は刃間。	南側床面(床直)	
043-3001	43-14	43号住居跡	刀子	ほぼ完形	107	刃部8.5 茎7.5	刃部3 茎2	5.3	鉄	棟は直線的。刃は刃間。	中央床面の溝内	
044-3002	44-17	44号住居跡	釘	9/10	118	9	10	44.9	鉄	錆が進み、剥離が著しい。断面方形。	南側床面(+2)	
044-3001	44-18	44号住居跡	門金具	1/2	90	48	7×4	15.2	鉄	コ字で断面形は長方形。先端部は尖っていない。	中央西側の床面 (床直)	
047-3001	47-19	47号住居跡	刀子	ほぼ完形	132	刃部10 茎8	刃部3 茎3	9.9	鉄	茎の先端部が一部欠損しているほかよく残っている。刀身は切先に向かって細身となる。刃は両側。茎部分は上方に反り気味。	中央床面 (+9)	
048-3001	48-15	48号住居跡	釘	1/2	50	6	5	3.9	鉄	中位から先端部にかけての遺存。先端部はやや曲がる。断面は四角形状。	カマド左正面の床面 (+)	
049-3003	49-8	49号住居跡	刀子	3/5	73	刃部10	刃部3	6.7	鉄	刀身部分。刃部はよく研ぎ込まれている。	南西隅の床面 (+10)	
049-3001	49-9	49号住居跡	鏃	2/5	260 (推定)	43	刃部3 基4	66.6	鉄	通有より大形の鉄鏃。基端部に折り返しを有する。	南東隅の壁際床面 (床直)	
051-3001	51-17	51号住居跡	刀子	ほぼ完形	144	刃部8 茎7	刃部3 茎3	7.3	鉄	全体に細身で茎部分が長い。刃がなく茎と刃部との境がはっきりしていない。	南側床面(+3)	
051-3001	51-18	51号住居跡	刀子	1/3	53	12	3	4.9	鉄	切先部分。棟はやや反している。刃部に木質が残っている。	南側床面(+3)	
056-3001	56-4	56号住居跡	釘	破片	62	14	12	50.8	鉄	錆が進み、剥離が著しく芯の部分のみ。	覆土中	
058-3003	58-13	58号住居跡	釘	4/5	96	7	9	50.4	鉄	錆が進み、剥離が著しい。断面方形。棟は直線的。刃は刃間。	南側床面の柱穴内 (P3-2)	
058-3001	58-14	58号住居跡	釘	破片	64	6	6	8.3	鉄	頭部および先端部欠失。断面は正四角形状。	カマド右脇の床面 (床直)	
058-3001	58-15	58号住居跡	釘	破片	46	6.5	6	6.3	鉄	錆が進み剥離が著しいため、全体形状は不明。先端に向かって、反りが著しい。断面はやや横長の方形。棟は直線的。刃は刃間。	カマド右脇の床面 (床直)	
058-3002	58-16	58号住居跡	かすがい	1/2	40	32	7×6	15.5	鉄	爪の先端部が尖っているが、内側に曲がっている。	中央床面(床直)	
068-3001	68-13	68号住居跡	刀子	1/2	112	刀部12 茎6	刀部3.5 茎3	6.8	鉄	茎は完存。刀身に比して細身。刃は両側で刃間の切り込みが深い。	カマド右正面の床面 (床直)	
078-3001	78-12	78号住居跡	摘鏃	破片	40	26	1	3.2	鉄	破片のため形状不明。	南側床面(+2)	
099-3001	99-9	99号住居跡	門金具？	破片	40	9	4	14.6	鉄	錆化してほとんど原型をとどめていない。断面は横長方形。門あるいはかすがいか。	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	遺構番号	製品種別	遺存度	計測値(mm)			重量 (g)	材質	特 徴	出土位置 (cm)	備 考
					全 長	幅	厚					
100-3001	100-24	100号住居跡	門金具	3/5	80	58 (身幅10)	4	14.6	鉄	表面の剥離が著しい。大型で身幅のあるしっかりとした造り。U字形で外側に開く。断面は横長方形形状を呈する。	覆土中	
100-3001	100-25	100号住居跡	紡錘車	軸部破片	64	-	径3	2.7	鉄	軸部分。やや細身で断面は楕円形。	覆土中	
132-3003	132-33	132号住居跡	釘	ほぼ完形	105	8	9	31.3	鉄	少なくとも2本まとまった形で出土したと思われるが、錆が進み、剥離が著しく、もう一本は実測不能。釘の頂部は折り返している。	南側壁際の床面 (+10)	
132-3002	132-34	132号住居跡	釘	破片	45	5	6	5.0	鉄	錆が進み表面の剥離が著しい。先端部分は増曲する。	南側壁際の床面 (+3)	
132-3004	132-35	132号住居跡	紡錘車	破片	66	-	4	3.1	鉄	紡錘車の軸部分。断面はやや角張った円形形状。	南西隅の床面 (+3)	
132-3001	132-36	132号住居跡	鏝	完形	173	刃部29 軸部13	刃部9 軸部10	85.0	鉄	完形品。軸部に半円形状の関が両側に見られる。軸部はやや台形状で、軸部の先端部分は尖る。木質を残している。	南側壁際の床面 (+7)	
132-3006	132-37	132号住居跡	刀子	破片	6	14	刃部5	11.1	鉄	錆化が進み、表面の剥離が著しい。芯の部分が少し残っているのみ。棟の部分に関が見られる。	南東隅の床面 (+3)	
132-3005	132-38	132号住居跡	刀子	2/5	124	刃部9 茎8	刃部4 不明	19.1	鉄	茎および刀基部。茎部分に木質が残る。関は刃部に見られる。	中央西側の床面 (+8)	
136-3001	136-17	136号住居跡	摘鎌	完形	103	10	2	12.9	鉄	両端は丸くおさめられ、片方の端部を5mm程折り返している。両側の釘は端部を折り返している側に残っている(釘断面は方形、一辺2mm)。刃部は中央部が研ぎ込まれてすり減っている。	南側壁際の床面 (床直)	
136-3001	136-18	136号住居跡	刀子	3/5	92	10	3	6.3	鉄	刀身部分。切先に向かって細身になる。よく研ぎ込まれている。	中央西側の床面 (+2)	
148-3001	148-15	148号住居跡	刀子	1/3	68	刃部10	刃部4	7.2	鉄	刀子の中部から切先部分。切先は内側に曲がっている。錆化が著しい。	覆土中	
153-3001	153-47	153号住居跡	鏝	鏝身部1/1 鏝被1/1 茎部残欠	現状76.3 鏝身部13.3 鏝被41 茎部22+	鏝身部38.8 鏝被8.5~9 茎部3.5	鏝身部2.6 鏝被4~5.8 茎部4.8	14.0	鉄	長須尾被両丸造り三角形(飛燕式)鏝。現状では剥離が著しく原型をとどめていない。胴快は直線的で細く長く延び、逆轉はやや弱い。	南側壁際の床面 (+1)	
155-3001	155-17	155号住居跡	刀子	2/5	76	刃部8 茎7	刃部4 茎3	4	鉄	錆が進み、剥離が著しい。関は現状で棟に見られる。	覆土中	
158-3001	158-21	158号住居跡	刀子	破片	69	茎12	茎3	7.3	鉄	刀子の茎部分。側面に刀子の茎の断片が2本程度貼付している。	覆土中	
159-3001	159-41	159号住居跡	鏝?	破片	102	4	5	6.6	鉄	断面やや長方形形状。先端部は尖り気味。鉄鏝の茎部分か。	カマド右脇の床面 (+2)	
159-3002	159-42	159号住居跡	釘?	破片	43	6	4	2.5	鉄	やや平たい四角形状で、先端で先細る。木質が残る。あるいは刀子の茎部分か。	覆土中	
159-3002	159-43	159号住居跡	門金具?	4/5	38	38	4×8	5.7	鉄	全体の形状は不明。門あるいはかすがいの可能性あり。先端部は一方は曲がり、一方は尖っている。	カマド右側の床面 (+2)	
159-3004	159-44	159号住居跡	刀子	破片	40	刃部7	刃部2	1.7	鉄	切先部分。	東側壁際の床面 (床直)	
161-3001	161-27	161号住居跡	斧	9/10	84	34	16 (肉厚5)	123.5	鉄	有袋式無肩鉄斧。錆が進み剥離が著しい。刃角約9°。	西側床面 (+3)	
169-3001	169-18	169号住居跡	釘	2/5	49	6	5	3.9	鉄	断面方形形状。	カマド右脇の床面 (+3.5)	
179-3001	179-45	179号住居跡	斧	9/10	71	38	28 (肉厚4)	77.3	鉄	有袋式無肩鉄斧。錆が進み剥離が著しい。刃部の角度は欠失のため不明。刃角約10°。	中央東側の床面 (床直)	
180-3003	180-23	180号住居	釘	4/5	79	5.5	6.5	11.5	鉄	錆化が著しい。先端部はやや反り気味。	覆土中	
180-3003	180-24	180号住居跡	釘	破片	30	4	5	2.1	鉄	鉄釘の先端部分。	覆土中	
183-3010	183-32	181号住居跡	刀子	4/5	133	刃部10 茎8	刃部4 茎3	11.9	鉄	刀身が長くやや細身。棟は直線。関は棟および刃の両関。	カマド内	
203-3001	203-31	203号住居跡	袴帯金具 (巡方)	完形	24.1	27.5	5.9 (肉厚1.0)		銅	表面には緑青が浮き出すが、全体に保存状態は良好。表金具で形状は方形。四隅の角を1mm程度面取りする。金具には縁から5mm程度内側部分に長さ32mm、幅2.2mmの細長孔を持つ。裏側はすべて折れているが、四隅に脚鉋(4釘)を持つ。	北側壁際の床面 (+7cm)	
211-3001	211-19	211号住居跡	釘	破片	54	9	6	10.1	鉄	錆が進み、剥離が著しいため、原形をとどめていない。断面方形形状。	南西側壁際の床面 (床直)	

遺物注記 番号	遺物番号	遺構番号	製品種別	遺存度	計測値 (mm)			重量 (g)	材質	特 徴	出土位置 (cm)	備 考
					全 長	幅	厚					
211-3002	211-20	211号住居跡	釘	ほぼ完形	85	7.5	9	22.5	鉄	断面方形。錆が進み、剥離が著しく、芯のみ残る。頭部は一部折り返している。	南西側壁際の床面(床直)	
220-3003	220-54	220号住居跡	紡錘車	完形	187	紡輪径49	2	31.6	鉄	紡輪部に軸部が組み合わさったままの状態。軸部径4mm。	西側壁際の周溝内	
220-3002	220-55	220号住居跡	鉈	3/5	148	穂先最大15	5	22.6	鉄	穂先の先端を欠失する。断面三角形。基部は横長の方形(8mm×5mm)。柄の部分に木質が残る。木質断面は横長の楕円形状(16mm×12mm)。	西側壁際の周溝内	
220-3001	220-56	220号住居跡	鉈	穂先 ほぼ完形	97	穂18 茎8	穂4 茎7	14.9	鉄	穂先の先端をわずかに欠く。	東側壁際の周溝内	
220-3004	220-57	220号住居跡	釘	破片	55	8	9	19.0	鉄	錆が進み剥離している。断面はやや縦に長い長方形。	覆土中	
220-3004	220-58	220号住居跡	釘	2/5	53	7	8	5.4	鉄	頭部、先端部欠失。断面方形。	覆土中	
220-3004	220-59	220号住居跡	釘	破片	25	皿部18 幹部5	皿部20 幹部6	5.4	鉄	鉄釘の頭部の皿部分。錆が進み、膨らんでいる。形状はやや縦に長い長方形。幹部は楕円形状。	覆土中	
227-3001	227-37	227号住居跡	釘	2/5	52	8	9	15.6	鉄	断面方形。先端部分欠失。	カマド正面の床面(床直)	
228-3003	228-28	228号住居跡	刀子	9/10	114	刃部10 茎8	刃部3 茎3	8.2	鉄	刀部の切先、茎の尻部分欠損。棟のそりはやや外反気味。刃部はかなり研ぎこまれている。関は棟関。	覆土中	
228-3001	228-29	228号住居跡	刀子?	2/5	64	刃部7 茎5	刃部3 茎3	5.8	鉄	先端および茎の一部欠く。棟関。	中央北側の床面(+6)	
228-3003	228-30	228号住居跡	刀子	1/5	32	刃部9	刃部4.5	3.8	鉄	刀部分破片。	覆土中	
228-3002	228-31	228号住居跡	門金具?	破片	29	現状 31	6	5.2	鉄	錆が進み剥離が著しいため、全体形状は不明。角部分で直角気味に曲がる。断面はほぼ円形状。	北側壁際の周溝内	
228-3003	228-32	228号住居跡	釘	完形	43	皿部15 幹部4	皿部15 幹部5	4.9	鉄	断面方形。皿部と幹部は別に作られていると思われる。先端に向かって反り気味。皿部は正方形。	覆土中	
231-3002	231-24	231号住居跡	刀子	破片	61	刃部16 茎10	刃部5 茎4	69	鉄	比較的大型の刀子。刀部の基部および茎部分。根および刃にしっかりとした関がある。	南西隅の周溝内	
231-3001	231-25	231号住居跡	鎌	破片	40	25	2	8.0	鉄	鉄鎌の基端部分。基端部は上方にやや浅い角度で折り返している。	南西隅の周溝内	
233-3001	233-31	233号住居跡	刀子	ほぼ完形	149	刃部8 茎6	刃部3.5 茎3	8.8	鉄	細身の刀身で切先部分が上方に折れ曲がっている。刀身に比して茎が長い。関は刃関。	カマド右側床面(+7)	
233-3002	233-32	233号住居跡	刀子	3/5	107	刃部9 茎7	刃部3 茎2	7.2	鉄	茎は完存。関は棟関。茎は先端に向かって、やや反り気味。	カマド正面の床面(+24)	
233-3003	233-33	233号住居跡	刀子	破片	77	刃部13 茎8	刃部3 茎4	10.7	鉄	茎および刀基部。関は刃部に見られる。	覆土中	

第22表 砥石観察表

遺物注記 番号	遺物番号	遺構番号	種別	遺存度	計測値 (cm)			重量(g)	材 質	特 徴	色 調	出土位置 (cm)	備 考
					全長	最大幅	最大厚						
11-2001	11-20	11号住居跡	砥石	破片	36	34	30	12.4	軽石	A、Bの2面を使用面とする。両面とも表面が平滑でなめらか。	乳灰褐色	覆土中	
015-2001	15-8	15号住居跡	砥石	3/5	101	88	36	442	凝灰岩	撥形で大型の砥石。A、B、Cの面を使用面とし、特にA、B面については中央部がくぼむ程、使用する。各面とも表面が滑沢を帯びている。	灰白色	カマド左脇床面(+8)	
017-2010	17-1	17号住居跡	砥石	3/5	98	38	48	180	凝灰岩	撥形。A、B、C、Dの各面を使用面とする。特にA、B面は良く研ぎ込まれ、片方に傾斜しながら、弓なり状にすり減る。各面とも表面が滑沢を帯びている。	灰茶白色	カマド左脇の周溝内	
039-2002	39-8	39号住居跡	砥石	3/5	75	43	35	87	凝灰岩	撥形。A、B、C、Dの各面を使用面とする。特にA面は良く研ぎ込まれ、片方に傾斜しながら、弓なり状にすり減り、鋭角となる。各面とも表面が滑沢を帯びている。角部分は熱を帯び、黒くススが付着する。	灰茶白色	南側床面(+1.5)	
039-2002	39-9	39号住居跡	砥石	破片	33	29	21	22	凝灰岩	A、B、C、Dの各面を使用面とする。特にA面は良く研ぎ込まれ、片方に傾斜しながら、弓なり状にすり減り、鋭角となる。各面とも表面が滑沢を帯びる。	灰白色	覆土中	
040-2001	40-44	40号住居跡	砥石	破片	49.7	21.4	31.5	34.4	凝灰岩	A、B、Cの面を使用面とする。石の材質がもろく、剥離が著しい。B、Cの面は片方に傾斜しながら、弓なり状にすり減る。各面とも表面が滑沢を帯びる。	茶灰色	覆土中	
043-2001	43-12	43号住居跡	砥石	3/5	104.1	38.4	36.8	134.5	凝灰岩	撥形。A、B、C、Dの各面を使用面とする。特にA、B面は良く研ぎ込まれ、弓なり状にすり減る。各面とも表面が滑沢を帯びている。	茶灰白色	南側壁際の周溝内	
048-2011	48-14	48号住居跡	砥石	3/5	90	39	50	134	凝灰岩	撥形。A、Bの2面を使用面とする。両面とも良く研ぎ込まれ、弓なり状にすり減っている。両面とも表面が滑沢を帯びる。C、D面は切り込み状の成形痕が残る。	茶灰白色	カマド内	
058-2001	58-12	58号住居跡	砥石	破片	62	29	28	47	凝灰岩	A、Bの2面部分のみ残存。両面ともさほど摩耗していないが、表面が滑沢を帯びる。	茶灰白色	南側床面の柱穴(P3-2)内	
60-2001	60-8	60号住居跡	砥石	完形	84	60	59	98	軽石	緻密で、やや重量あり。A面を使用面とする。面はあまり使用されておらず、丸みを持つ。B、Cの側面部分には保持した際にできたと思われる指のすり減り部分が見られる。	乳灰褐色	覆土中	
68-6002	68-11	68号住居跡	砥石	破片	29	26	17	2.5	軽石	丸みがあり、一方向に使用せず、全体的に使用。	乳灰褐色	覆土中	
090-2001	90-54	90号住居跡	砥石	破片	40	44	21	44.5	凝灰岩	A、B、Cの3面を使用面とし表面が滑沢を帯びる。	茶灰白色	覆土中	
121-2001	121-14	121号住居跡	砥石	完形	100	47	35	156	凝灰岩	撥形。頂部に径6mmのひもを通す穿孔あり。底部には幅8mm程度、深さ3mmの浅いV字状の溝が横方向、直線上に刻まれている。A、Bの2面を使用面とし、両面ともよく研ぎ込まれ、滑沢を帯びている。	灰白色	南側床面(床直)	
122-6002	122-33	122号住居	砥石	破片	31.9	35.3	19.3	24.7	軽石	粒子の粗い組成で軽石状。長四角形に加工され、A、Bの両面を使用面とする。表面はざらざらとし、滑沢ではない。	茶灰色	覆土中	
132-9002	132-32	132号住居跡	砥石	3/5	80	47	47	137	凝灰岩	撥形。A、Bの2面が使用面。両面とも良く研ぎ込まれ、弓なり状にすり減っている。両面とも表面が滑沢を帯びる。	茶灰白色	覆土中	
143-2001	143-12	143号住居跡	砥石	3/5	105.5	94.9	90.3	844	砂岩	粒子が緻密で硬質。A、B、C、Dの各面を使用面とする。各面の角は角張らず、丸い。特にA、Cの面が当たる角は15mm～30mmの幅を持つ面取りがなされ、その面についても、砥石として使用。各面とも、良く研ぎ込まれ、滑らかに弓なりにすり減っている。底部は加工のまま。	淡茶褐色	北西隅壁際(+8)	
159-2001	159-18	159号住居跡	砥石	破片	43	27	22	20.2	凝灰岩	撥形。A、Bの2面が使用面。両面とも良く研ぎ込まれ、弓なりにすり減っている。両面とも表面が滑沢を帯びる。	茶灰色	覆土中	
179-2001	179-44	179号住居跡	砥石	1/3	68	45	31	96.4	凝灰岩	A、Bの2面が使用面。両面とも良く研ぎ込まれ、弓なりにすり減っている。両面とも表面が滑沢を帯びる。	茶灰白色	カマド左正面床面(床直)	
191-2001	191-3	191号住居跡	砥石	破片	57	46	31	109	砂岩	撥形。A、B、C、Dの各面を使用面とする。A、Bの面は均等に使用せず、片側方向から使い込まれている。各面とも、表面がなめらか。	灰褐色	覆土中	

遺物注記 番号	遺物番号	遺構番号	種 別	遺存度	計測値 (cm)			重量(g)	材 質	特 徴	色 調	出土位置 (cm)	備 考
					全長	最大幅	最大厚						
191-2001	191-4	191号住居跡	砥石	1/2	88	34	32	106	凝灰岩	A、Bの2面が使用面。A面は左側より斜めに使い込まれている。B面は左右両側から斜めに使用しすり減っている。	灰茶白色	覆土中	
203-2001	203-30	203号住居跡	砥石	完形	22	14	19	13.7	軽石	A、B、C面を使用面とする。各面とも平滑でなめらか。	乳灰褐色	覆土中	
209-2001	209-10	209号住居跡	砥石	破片	44	25	25	23.6	凝灰岩	A、Bの2面が使用面。両面ともよく研ぎ込まれている。B面は弓なりにすり減っている。	茶灰白色	南東床面 + 5 cm	
209-2001	209-11	209号住居跡	砥石	破片	24	37	21	24.2	凝灰岩	A、Bの2面が使用面。A面はよく研ぎ込まれている。	灰白色	南東床面 + 5 cm	
210-2001	210-15	210号住居跡	砥石	1/2	129	48	53	308	凝灰岩	楕形。A、B、C、Dの各面を使用面とする。特にB面は良く研ぎ込まれ、弓なりにすり減る。C、D面はA、B面と異なり、端面向かってすりこまれ傾斜する。各面とも表面が滑沢を帯びている。	茶灰白色	北西壁際の 周溝内	
217-2001	217-5	217号住居跡	砥石	破片	90.3	55.1	16.8	31	砂岩	粒子が緻密。A、Bの2面が使用面。両面ともよく研ぎ込まれ、くぼんだ部分が見られる。	淡灰褐色	覆土中	
218-2002	218-7	218号住居	砥石	破片	61	60	36	212	粘板岩	硬質。A、Bの2面が使用面。両面ともよく研ぎ込まれ、表面がなめらかとなる。	茶灰褐色	覆土中	
218-2001	218-8	218号住居跡	砥石	完形	98	83	72	67.2	軽石	扁平な大型の軽石。角部分を利用して砥石に利用(A部分)。一方向にすり減る。	乳灰褐色	南東床面の 柱穴内	
218-2002	218-9	218号住居跡	砥石	完形	101	76	37	43.2	軽石	扁平な大型の軽石。A面を使用面とする。面は平滑で、中央部分には直径8mm、深さ9mm程度の孔が正三角形に規則的に穿たれている。	乳灰褐色	覆土中	
228-2001	228-25	228号住居跡	砥石	破片	59	35	15	42.8	凝灰岩	A、Bの2面が使用面。両面ともよく研ぎ込まれ、中央部部分がすり減る。表面は滑沢。	茶灰白色	覆土中	
230-2003	230-9	230号住居跡	砥石	破片	68	53	55	28.6	軽石	A面を使用面とする。よく研ぎ込まれ、平滑でなめらか。A面以外の部分は角張るが丸みを持つ。	乳灰褐色	中央西側の 床面(床直)	
230-2002	230-10	230号住居跡	砥石	完形	71	48	27	11.9	軽石	A面を使用面とする。よく研ぎ込まれ、平滑でなめらか。A面以外の部分は自然のまま。	乳灰褐色	北側壁際の 床面(+2)	
230-2006	230-11	230号住居跡	砥石	完形	37	27	22	14.7	軽石	丸みがあり、一方向に使用せず、全体的に使用。	乳灰褐色	北西隅壁際	
230-2001	230-12	230号住居跡	砥石	完形	103	74	68	78.9	軽石	角張った丸みのある軽石。砥石としては使用面がはっきりしないが、面の各部分を使用面としている。	乳灰褐色	北側壁際の 床面(+2)	
232-2001	232-7	232号住居跡	砥石	破片	62	89	19	120.2	砂岩	砂質で表面がざらざらとし、もろい。A、Bの2面が使用面。両面ともよく研ぎ込まれ、中央部部分がすり減る。表面は滑沢。	淡茶灰色	北側隅床面 (床直)	

第23表 石製品観察表

遺物注記 番号	遺物番号	遺構番号	種別	遺存度	計測値(cm)			重量(g)	材 質	特 徴	色 調	出土位置 (cm)	備 考
					全長	最大幅	最大厚						
030-2001	30-26	30号住居跡	紡錘車	1/2	—	—	18	23.7	滑石	外径上端約37mm、下端40mm、内径約10mm。表面はよく磨かれており、穿孔部分を中心にして線条痕が放射状に広がる。穿孔部分の器面はなめらか。	黒緑灰色	覆土中	
044-2001	44-16	44号住居跡	敲石	完形	136	85	43	760	流紋岩 (デ イ サ イ ト)	扁平な卵形。角は丸みを持つ。スクリーン・トーンの部分はタキキ部分のため、器面がざらつく。	淡緑灰色	中央南側床 面(床直)	
045-2001	45-12	45号住居跡	紡錘車	3/5	—	—	20	43.5	凝灰岩	外径上端約32mm下端48mmを測るやや大型の紡錘車孔は中心部分と中心をはずれた部分の2孔あり。中心部分の内径約7mmもう一方部分の内径6mmを測る。表面は平滑なものの、器面がやや荒れている。	淡灰白色	カマド右脇 床面(+4)	
078-2001	78-11	78号住居跡	敲石	完形	99	64	51	434	デ イ サ イ ト	角張るが器面はなめらか。	淡緑灰色	覆土中	
150-2001	150-8	150号住居跡	打製石斧	完形	128	68	26	315	粘板岩		淡黒灰色	覆土中	
221-2001	221-25	221号住居跡	敲石	完形	142	57	32	400	砂岩	縦長の丸みを持った形状で、側面をタキキ部分として使用。	淡緑灰色	覆土中	
230-2004	230-13	230号住居跡	敲石	完形	95	47	23	163.2	砂岩	側面をタキキ部分として使用。	淡黒灰色	北西壁際の 床面	
234-2001	234-5	234号住居跡	敲石	完形	127	34	39	240	砂岩	扁平な断面三角形。鋭角的に角張った部分をタキキ部分とする。タキキ部分の器面はざらつく。	淡黒灰色	覆土中	
002-1206- 2001	402-10	402号住居跡	温石?	不明			34	169	蛇紋岩	全体形状は不明だが、現状で4面残る。正面53mm×残存長53mm、側面53mm×残存厚34mmを測る。各面の角部分は幅4mm程度の規格性のある面取り整形を行っている。器面は良く磨かれており、平滑。	淡緑灰色	覆土中	
002-1210- 2001	404-29	404号住居跡	敲石	完形	85	68	55	400	チャート	丸みを持った形状で、中央部分をタキキとして使用。やや白っぽく変色する。	淡黒茶灰色	覆土中	
000-2001	遺構外- 13	表採資料	不明 石製品	破片	54	62	59	240	流紋岩	破片のため不明。丸みを持ったよく磨かれている面を持つ。	灰白色	不明(表採)	
000-2001	遺構外- 14	表採資料	不明 石製品	破片	24	21	10	6.4	チャート		淡黒灰色	不明(表採)	

第24表 土製品観察表

遺物注記 番号	遺物番号	遺構番号	種 別	遺存度	計測値(mm)		重量(g)	特 徴	色 調	出土位置 (cm)	備 考
					全長	最大幅					
018-4001	18-4	18号住居跡	カマド支脚	1/3	70	47	113.9	支脚の上半部分。ほぼ正四角錐台形で頂部は18mm×18mmのやや丸みを持った正方形。各面には指による押圧痕が多く見られる。器面の表面はやや白っぽい付着物が見られる。赤色スコリア、小石粒を含むやや雑な胎土。	淡白褐色	カマド内	
058-4011	58-11	58号住居跡	カマド支脚	1/2	94	径67	418	支脚の下半～底部片。やや楕円形で部分的に平坦面を作る。器面には斜方向のナデ、指頭圧痕が見られる。底部はやや上げ底気味。砂粒を含むきめ細かい胎土。	淡赤褐色	カマド煙道 左側	
099-4001	99-10	99号住居跡	羽口	破片	52	厚22	37	鍛冶羽口の先端部片。推定外径70mm、内径29mm。外面は還元状態でガラス質様の発泡した気泡状のてこぼこが見られる。淡緑灰色の附けた付着物あり。長石粒を含むきめ細かい胎土。	淡黒褐色	覆土中	
180-4001	180-22	180号住居跡	カマド支脚	完形	182	86	1,140	重量があり、角が丸いやや楕円形状の四角錐台形状の支脚。頂部は径50mm程度のでこぼこした面を持つ。体部側面は指頭圧痕が多く見られる。底部は平坦。器面の表面はやや白っぽい付着物が見られる。黒色粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土。	淡白褐色	カマド燃焼 部内に直立	
228-9001	228-24	228号住居跡	羽口	破片	84	厚32	178	羽口の上半部片。推定外径70mm、内径25mm。外面は縦・斜方向のナデ、指頭圧痕が多く残る。上部付近は還元によりやや青灰色。微砂粒を含むきめ細かい胎土。	淡褐色	覆土中	
373-4001	373-4	373号鍛冶跡	羽口	1/3	127	厚33	185	筒先、底部が欠損。推定外径75mm、内径24.5mm。外面はヘラによる縦方向のナデを施すことにより、多面形状で、指頭圧痕が残る。上部付近には還元によるやや青灰色部分が見られる。微砂粒、長石粒を含むきめ細かい胎土。	淡青灰色 淡赤褐色	覆土中	
373-4003	373-5	373号鍛冶跡	羽口	1/2	94	74	326	底部、体部下半部分。外径下部74mm、内径下部42mm、内径32mm。外面はヘラによる縦方向のナデを施すことにより、多面形状で、絞り目、指頭圧痕が残る。上部付近には還元によるやや青灰色部分が見られる。砂粒、長石粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土。	淡赤褐色	覆土中	
373-4002	373-6	373号鍛冶跡	羽口	4/5	152	72	775	筒先、底部が欠損。外径下部80mm、上部72mm、内径下部32mm、上部25mm。外面は縦・斜方向のナデ、指頭圧痕が残る。体部側面には部分的に連続ヘラ当て痕が見られる。上部付近は還元によりやや青灰色で筒先部分にはガラス質様の発泡した気泡状のてこぼこが多く見られ、酸化鉄分、淡黄褐色胎土の付着物がべったりと残る。微砂粒、長石粒、赤色スコリアを含むきめ細かい胎土。	淡青灰色 淡赤褐色	覆土中	
373-4001	373-7	373号鍛冶跡	羽口	9/10	160	80	800	底部が一部欠損。外径下部80mm、上部70mm、内径下部50mm、上部25mm。外面は縦・斜方向のナデ、指頭圧痕が残る。上部付近は還元によりやや青灰色で筒先部分にはガラス質様の発泡した気泡状のてこぼこが多く見られ、酸化鉄分、淡黄褐色胎土の付着物がべったりと残る。微砂粒、赤色スコリアを含む胎土。	淡赤褐色	北西隅の柱 穴内	
499-4001	499-3	499号鍛冶跡	羽口	破片	41	厚32	57	筒先部分破片。推定外径90mm前後、内径25mm前後。外面は還元状態でガラス質様の発泡した気泡状のてこぼこが見られる。砂粒、長石粒を多く含むざらざらした胎土。	淡灰褐色	覆土中	
499-4001	499-4	499号鍛冶跡	羽口	破片	49	厚25	65	体部片。外面はヘラによる縦方向のナデを施すことにより、多面形状で、絞り目、指頭圧痕が残る。還元による青灰色部分が見られる。微砂粒、長石粒を含む胎土。	淡褐色	覆土中	
499-4001	499-1	499号鍛冶跡	羽口	破片		厚33	38	筒先部分。推定外径70mm、内径22mm。外面は還元状態でガラス質様の発泡した気泡状のてこぼこ、淡黒灰色胎土の付着物がべったりと残る。微砂粒、長石粒を含む胎土。	淡黒灰色	覆土中	
499-4001	499-2	499号鍛冶跡	羽口	破片		厚34	86	筒先部分。推定外径70mm、内径30mm。外面は還元状態でガラス質様の発泡した気泡状のてこぼこ、酸化鉄分、淡灰褐色胎土の付着物がべったりと残る。砂粒、長石粒を含むざらざらした胎土。	淡灰褐色	覆土中	

第25表 土錘觀察表

遺物注記番号	遺物番号	遺構番号	種 別	遺存度	計測値(mm)			重量(g)	色 調	出土位置 (cm)
					全長	最大径	孔径			
086-4001	86-7	86号住居跡	土錘	完形	48	13	0.4	8	黒褐色	覆土中
087-4011	87-13	87号住居跡	土錘	完形	46	14	0.4	8.6	黒褐色	覆土中
090-4001	90-20	90号住居跡	土錘	完形	47.6	12.8	0.3	6.4	黒褐色	覆土中
090-4001	90-21	90号住居跡	土錘	完形	46	15	0.3	8.3	黒褐色	覆土中
090-4001	90-22	90号住居跡	土錘	完形	47	13	0.4	7.4	淡褐色	覆土中
090-4001	90-23	90号住居跡	土錘	完形	51	13	0.3	7.8	淡黒褐色	覆土中
090-4001	90-24	90号住居跡	土錘	完形	44	15	0.3	7.1	淡褐色	覆土中
090-4001	90-25	90号住居跡	土錘	完形	49	15	0.3	10.2	黒褐色	覆土中
090-4001	90-26	90号住居跡	土錘	完形	48	16	0.5	9.9	黒褐色	覆土中
090-4001	90-27	90号住居跡	土錘	完形	53	16	0.35	11.3	黒褐色	覆土中
090-4001	90-28	90号住居跡	土錘	完形	48	13	0.3	6.7	黒褐色	覆土中
090-4001	90-29	90号住居跡	土錘	完形	42	14	0.35	6.6	黒褐色	覆土中
090-4001	90-30	90号住居跡	土錘	完形	41	15	0.45	8.4	黒褐色	覆土中
090-4001	90-31	90号住居跡	土錘	完形	50	11	0.2	5.2	褐色	覆土中
090-4001	90-32	90号住居跡	土錘	4/5	42	13	0.4	5.9	黒褐色	覆土中
090-4001	90-33	90号住居跡	土錘	4/5	43	15	0.3	8.2	黒褐色	覆土中
090-4001	90-34	90号住居跡	土錘	完形	50	16	0.3	10.8	黒褐色	覆土中
090-4001	90-35	90号住居跡	土錘	1/2	42	16	0.2	7.8	淡褐色	覆土中
090-4001	90-36	90号住居跡	土錘	完形	39	13	0.4	6.8	黒褐色	覆土中
090-4001	90-37	90号住居跡	土錘	完形	37	15	0.3	7.5	黒褐色	覆土中
090-4001	90-38	90号住居跡	土錘	完形	50	14	0.3	9.4	黒褐色	覆土中
090-4001	90-39	90号住居跡	土錘	完形	52	16	0.4	11.2	黒褐色	覆土中
090-4001	90-40	90号住居跡	土錘	完形	49	15	0.3	11.9	黒褐色	覆土中
090-4001	90-41	90号住居跡	土錘	完形	56	15	0.4	9.7	黒褐色	覆土中
090-4001	90-42	90号住居跡	土錘	完形	46	14	0.4	8.7	黒褐色	覆土中
090-4001	90-43	90号住居跡	土錘	完形	47	13	0.4	6.8	黒褐色	覆土中
090-4001	90-44	90号住居跡	土錘	完形	42	13	0.3	7	淡黒褐色	覆土中
090-4001	90-45	90号住居跡	土錘	1/2	31	12	0.3	3.8	黒褐色	覆土中
090-4001	90-46	90号住居跡	土錘	1/2	32	16	0.4	6.8	黒褐色	覆土中
090-4001	90-47	90号住居跡	土錘	1/3	31	14	0.3	3.7	黒褐色	覆土中
090-4001	90-48	90号住居跡	土錘	1/3	27	14	0.4	5.5	黒褐色	覆土中
090-4001	90-49	90号住居跡	土錘	1/3	26	14	0.4	2.7	黒褐色	覆土中
090-4001	90-50	90号住居跡	土錘	1/4	19	13	0.4	2.6	黒褐色	覆土中
090-4001	90-51	90号住居跡	土錘	1/4	27	11	0.4	2.1	黒褐色	覆土中
090-4001	90-52	90号住居跡	土錘	1/4	18	12	0.3	1.3	黒褐色	覆土中
090-4001	90-53	90号住居跡	土錘	1/4	16	15	不明	1.2	黒褐色	覆土中
183-4001	183-23	183号住居跡	土錘	完形	55	15	0.6	10.4	淡褐色	覆土中
183-4001	183-24	183号住居跡	土錘	完形	51	16	0.5	10.6	淡褐色	覆土中
183-4001	183-25	183号住居跡	土錘	完形	50	16	0.5	12.6	淡褐色	覆土中
183-4001	183-26	183号住居跡	土錘	完形	43.6	17.5	0.4	9.7	淡褐色	覆土中
183-4001	183-27	183号住居跡	土錘	完形	41.2	14	0.6	7.7	淡褐色	覆土中
183-4001	183-28	183号住居跡	土錘	完形	44.9	12.2	0.4	6.1	淡褐色	覆土中
183-4001	183-29	183号住居跡	土錘	1/2	30.6	13.9	0.5	4	淡褐色	覆土中

報告書抄録

ふりがな	ぼうさくいせき							
書名	坊作遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	上総国分寺台遺跡調査報告							
シリーズ番	VI							
編著者名	小出紳夫・蜂屋孝之・忍澤成視							
編集機関	財団法人 市原市文化財センター							
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1,489番地 T E L 0436(41)7300							
発行年月日	2002年3月22日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ぼうさく 坊作遺跡	いちほらしこくぶんじだいちゅうおう 千葉県市原市国分寺台中央 5丁目9番地ほか	12219	054	35度 03分 00秒	140度 07分 22秒	19750401 ～ 19770331	24,660㎡	土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
		縄文時代早期		縄文時代早期		縄文土器 土製品		
坊作遺跡	集落	弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		土器 石器 砥石 貝
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
		弥生時代後期		弥生時代後期		弥生時代後期		
坊作遺跡	集落	奈良時代後期		奈良時代後期		奈良時代後期		土師器 須恵器 墨書土器 灰釉陶器 奈良三彩陶器 緑釉陶器 金属製品 瓦 砥石 土製品 石製品 貝
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
		平安時代前期		平安時代前期		平安時代前期		
坊作遺跡	集落	縄文時代早期		縄文時代早期		縄文時代(早・前・中・後・晩期)		上総国分尼寺の造営を契機に集落を形成。国分尼寺の造営および何らかの経営に関わったことが推定でき、尼寺の付属施設の可能性が高い。 また、これに関連して郡や郷などの地名に関する墨書土器や施設に関する墨書土器が出土。
		縄文時代早期</						

上総国分寺台遺跡調査報告Ⅵ

(財団法人 市原市文化財センター調査報告書 第78集)

坊 作 遺 跡

平成14年 3 月15日 印刷

平成14年 3 月22日 発行

編 集 財団法人 市原市文化財センター
〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地

発 行 財団法人 市原市文化財センター
〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地

印 刷 株式会社 弘 文 社
〒272-0033 千葉県市川市市川南 2 丁目 7 番 2 号

本報告書は、市原市教育委員会の承認を得て増刷したものです。